

平成25年度

地震・津波等に関する県民意識調査

平成26年7月

和歌山県

## はじめに

「地震・津波等に関する県民意識調査」は、平成 16 年度から 3 年ごとに実施し、防災意識や地震・津波対策の現状を把握・分析するとともに、県民が行政機関に期待することなどを調査し、その現状と動向を踏まえた総合的な対策を推進するための基礎資料として活用している。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に甚大な被害をもたらした。本県では東日本大震災直後から「防災・減災対策の総点検」を実施し、緊急避難先の安全レベルの設定、避難路・避難場所の整備、耐震診断・耐震改修や家具固定の推進など様々な対策を実施してきたが、今後の防災・減災対策のより一層の充実を図るため、平成 23 年度に「地震・津波等に関する県民意識調査」を緊急に実施し、県民の意識の変化などを調査した。

今回の調査は 3 年ごとの定例実施であり、東日本大震災直後の地震・津波に関する県民の意識が、震災後 3 年近くでどのように変化しているかという観点を含めて調査結果を分析することにより、今後の本県の地震・津波対策に反映し、『安全と安心』の政策推進に繋げていきたい。

平成 26 年 7 月

# 目次

	Page
はじめに	
<b>第1章 調査概要</b>	
1 調査目的	1
2 調査期間	1
3 調査対象	1
4 調査方法	1
5 調査票の回収状況	1
6 集計結果	2
7 結果数値等の取り扱い	2
<b>第2章 調査結果概要</b>	
「平成25年度 地震・津波等に関する県民意識調査」結果概要	3
1 東海・東南海・南海3連動地震等について	4
2 津波への意識と避難について	4
3 避難体制について	5
4 避難情報について	6
5 津波への考え方について	7
6 自主防災組織について	7
7 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について	7
8 備蓄や訓練について	8
9 災害への意識について	9
<b>第3章 調査結果</b>	
1 東海・東南海・南海3連動地震等について	11
1-1 東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震について、どの程度関心を持っているか	11
1-2 東海・東南海・南海3連動地震が起こる可能性について、どのように思うか	12
1-3 南海トラフ巨大地震が起こる可能性について、どのように思うか	13
1-4 地震の発生確率について知っているか	15
1-5 地震や地震災害の情報をどのように入手しているか	16
2 津波への意識と避難について	19
2-1 津波は何分くらいで押し寄せると思うか	19
2-2 どれくらいの高さの津波が押し寄せると思うか	20
2-3 防波堤等で津波をどれくらい防げると思うか	21
2-4 自宅が津波でどの程度浸水すると思うか	22
2-5 巨大地震ごとに、津波浸水想定を2つ公表している事を知っているか	23
2-6 夜間に自宅で大地震に遭遇した場合、避難するか	24
2-7 避難する理由は何か	25
2-8 どの段階で避難するか	27

2-9	どこに避難するか	28
2-10	屋外に避難するのにどれくらいの時間がかかると思うか	29
2-11	どのようにして避難するか	30
2-12	避難するときの妨げになると心配していることは何か	31
2-13	避難しない理由は何か	34
3	避難体制について	36
3-1	災害時要援護者を地域として支援する体制ができているか	36
3-2	地震や津波の時、行政は何をすべきだと思うか	38
3-3	避難先に3段階のレベル分けがされているのを知っているか	41
4	避難情報について	42
4-1	近くに防災無線のスピーカーはあるか。聞こえ具合はどうか	42
4-2	緊急情報をどのように入手するか	44
4-3	どのような情報を得たときに避難をするか	45
4-4	「防災わかやまメール配信サービス」に登録しているか	46
4-5	緊急地震速報を知っているか	48
4-6	自宅で緊急地震速報を受けたときどうするか	50
4-7	避難カードを知っているか	52
4-8	避難カードに記入しているか	53
5	津波への考え方について	54
5-1	「大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く」について どう思うか	54
5-2	「地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ない」 についてどう思うか	56
5-3	「海の水が大きく引いてから避難しても間に合う」について どう思うか	58
5-4	「津波警報が出てから避難しても間に合う」についてどう思うか	60
5-5	「市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いが よくわからない」についてどう思うか	62
6	自主防災組織について	64
6-1	町内会（自治会）に入っているか	64
6-2	自主防災組織に入っているか	66
6-3	自主防災組織に入っていない理由は何か	69
6-4	自主防災組織は活発か	70
6-5	地震後、地域の人と協力してできることは何か	72
6-6	地域防災リーダーとして活動することについてどう思うか	74
7	住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について	77
7-1	自宅の建築年はいつか	77
7-2	自宅の形態は（戸建、集合住宅等）	78
7-3	自宅の構造は（木造、鉄骨造等）何か	79
7-4	専門家による耐震診断を受けたことがあるか	80



7-5	耐震診断の結果はどうか	81
7-6	耐震補強が必要と診断された後、補強等を行ったか	82
7-7	耐震診断をすぐにしない理由は何か	84
7-8	耐震診断を受けない理由は何か	85
7-9	今後、耐震診断を受けたいか	88
7-10	木造住宅の耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか	90
7-11	家具類の固定をしているか	92
7-12	家具類の固定をしていないのはなぜか	93
7-13	家具類の固定を促進するため、行政は何をすべきだと思うか	95
7-14	ブロック塀や石塀、門柱などの安全性を点検し、どのような対応をしたか	97
7-15	点検していないのはなぜか	98
7-16	すぐに対応しない理由は何か	100
7-17	ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか	101
8	備蓄や訓練について	103
8-1	どのような地震防災対策を行っているか	103
8-2	非常持ち出し品として、まとめて置いてあるものは何か	106
8-3	家庭では何日分の水や食料を備蓄しているか	108
8-4	防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか	109
8-5	過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがあるか	111
8-6	地域防災訓練に参加しない理由は何か	114
8-7	どのような訓練に参加したか	115
8-8	どのような訓練が必要であると思うか	117
9	災害への意識について	118
9-1	「防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ」についてどう思うか	118
9-2	「大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ」についてどう思うか	119
9-3	「大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない」についてどう思うか	120
9-4	「災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ」についてどう思うか	121
9-5	「体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない」についてどう思うか	122
9-6	地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思うか	123

## 第4章 アンケート回答者の属性

1	性別	125
2	年齢	125
3	居住年数	126
4	職業	126
5	家族構成	127
6	ご近所とのつきあい	128
7	加入している保険	128
8	居住地	129

## 第5章 参考資料

1	津波危険地区一覧	130
2	単純集計表	133

## 第 1 章 調査概要

### 1 調査目的

本調査は、県民の地震・津波に対する認知度や日頃の防災対策、行政へのニーズ等のデータを収集・分析し、今後の防災・減災対策に反映させる事を目的とするものである。

なお、これまで平成16・19・22・23年度に調査を実施しており、今回が5回目の調査となる。

### 2 調査期間

平成25年10月23日から平成25年11月13日

### 3 調査対象

#### (1) 対象者

①津波危険地区（東海・東南海・南海3連動地震による津波で全域もしくはほとんどが浸水深1m以上と想定される地域（町丁目・大字））に居住する、満20歳以上の住民から2,000人。（以下、「津波危険地区」という）

②津波危険地区を除く地域のうち、満20歳以上の住民から2,000人。（以下、「全県」という）

#### (2) 対象者の抽出方法

各市町村の選挙人名簿から等間隔抽出により抽出した。なお、各市町村の抽出人数は人口比率から決定している。

### 4 調査方法

郵送配布、郵送回収によるアンケート調査

### 5 調査票の回収状況

配布数と有効回収数、及び有効回答率は、以下のとおりである。

配布数と有効回収数及び有効回答率

	配布数	有効回収数	有効回答率
津波危険地区	2,000	1,030	51.5%
全県	2,000	1,103	55.2%
合計	4,000	2,133	53.3%

注) 有効回収数及び有効回答率は、白紙回答を「無効」として算出した数量である。

## 6 集計結果

調査結果の集計は、設問別、年齢別、調査別（津波危険地区、全県）に集計を行っている。

また、過年度調査（平成16・19・22・23年度）において同じ質問を設けている場合は、経年比較を掲示している。

## 7 結果数値等の取り扱い

本報告書では、結果数値等を以下のとおり取り扱っている。

(1) アンケートの回答には、単数回答（1つだけ選択する回答）と複数回答（該当するもの全てを選択する回答）がある。

単数回答の設問において、複数を選択している場合は「無効」とし「無回答」に含めて集計している。

(2) 調査結果の数値は、回答数をもとに、原則、パーセント（%）値で表記している。（%値の母数は、その設問の該当標本数（有効回答数））

(3) %値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。したがって、合計が必ずしも100%とならない場合（99.9%または100.1%など）がある。

同様に、複数の選択肢をあわせた場合や小計などでは、内訳の%値を単純加算した数値とは異なる場合がある。

## 第2章 調査結果概要

## 「平成25年度地震・津波等に関する県民意識調査」結果概要

東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震に対する関心については、「非常に関心がある」、「関心がある」と回答した人の合計が8割を超えており、前回の調査から引き続き、危機意識が高い水準にある。なお、2つの津波浸水想定についての認知度は6割弱であり、さらなる周知が必要である。

津波からの避難については、「夜、大地震に遭遇した場合避難する」との回答が8割を超え、避難方法として「歩いて避難する」との回答も8割を超えており、ともに調査開始以降、最も高くなっている。避難意識の高まりとともに、原則徒歩での避難という意識も高まってきている。

津波に対する認識については、「防潮堤等で津波をあまり防ぐことができない」との回答が増加していること、「津波で自宅は浸水しない」の回答が減少していることから、津波への危機感が高まっている。一方で、津波警報が出てから避難しても間に合うと思うかについて、「そう思う」、「まあそう思う」と回答した人が4割以上もあり、「そう思わない」、「あまりそう思わない」と回答した人が約5割と減少傾向にあることから、揺れたら逃げるという早期避難の意識が十分ではないことがわかった。

家庭での防災対策については、「家具類の固定をしている」や「自宅の耐震診断を受けたことがある」との回答が増加しているほか、「大規模災害のときには自分の命は自分で守らなければならない」と考える人が9割を超えている。さらに、「地震が起きたとき避難する場所を決めている」や「地震時の津波避難に適切な場所を見て回った」との回答が増加していることなどから、県民の「自助」の意識がさらに浸透してきている。なお、避難先の3段階の安全レベル分けについては、認知度は2割弱と低く、避難カードについても認知度は2割強にとどまり、今後、より一層普及・啓発していく必要がある。

地域での防災への取組みについては、「高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う」と回答した人が約7割、自主防災組織が「活発に活動している」、「ある程度活動している」と回答した人が約7割いることから、地域住民間での「共助」についても、意識が高くなっている。

行政に求める防災対策については、「市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達」や「避難所や避難場所の整備」を求める声が高く、また、「大地震対策は個人では難しいため、県や市町村が中心となって進めるべきだ」と考える人が9割を占めるなど、大規模な災害対策には「公助」を求める声が高い。

今回の調査で得られた傾向や意見を踏まえ、今後の防災対策に反映させるとともに、「自助」、「共助」、「公助」の取組みをさらに後押しし、地域の防災力を向上させていくことが必要である。

### 1 東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震等について

- ・東海・東南海・南海3連動地震や、南海トラフ巨大地震への関心度は、「非常に関心がある」と「関心がある」を合わせると、津波危険地区では86.0%、全県では83.4%とともに8割を超えており、津波危険地区と全県で大きな差はみられない。経年変化でみると、前回のH23（東日本大震災の発生後）は85.2%であったが、今回の調査でも84.7%とほぼ同じであり、関心は低下していない。
- ・地震の発生確率等について、両地区とも「マグニチュード8～9クラスの地震が、今後30年以内に発生する確率は60～70%と発表したこと」との回答が7割以上を占め、「東海・東南海・南海3連動地震は、90～150年周期で繰り返し発生していること」が約5割となっている。大地震の発生確率に対して、ある程度関心を持っていることが伺える。
- ・地震災害の情報入手について、「テレビ」と答えた人は全体の92.7%となっている。次いで「新聞」（62.4%）、「県や市町村の広報誌」（30.8%）となっている。この数値は、調査開始以降特に大きな変化は見られない。インターネットが20%を超え、ラジオを抜いて第4位となり、携帯メールを合わせれば33.4%と新しい情報ツールの活用が進んでいる。

---

### 2 津波への意識と避難について

- ・津波が何分くらいで押し寄せてくるかについて、各年と比較しても大きな変化はみられないが、「まったく予想がつかない」（10.2%）が、各年と比較すると最も低くなっており、津波の到来を具体的にイメージしている傾向が出ている。
- ・どれくらいの高さの津波が押し寄せると思うかについて、「まったく予想がつかない」（29.8%）がH23と比較し約9ポイント減少しており、予想がつかないと思う人は減少しているが、「10m以上」（26.6%）がH23の約2倍に増加し、波高の大きな津波の到来を予想する人が増加している。
- ・防波堤等で津波をどれくらい防げると思うかについて、「あまり防げない」（60.1%）がH23と比較し約4ポイント増加しており、東日本大震災以降、人工構造物で津波を防げないとの意識が強くなっているが、さらにその認識が強まっている。
- ・自宅が津波でどの程度浸水するかについて、「全く予想がつかない」が35.0%で最も多い。経年比較で見ると、「自宅は津波で浸水しない」が年々減少傾向にあり、各種啓発事業等による認識の高まりが伺える。



## 第2章 調査結果概要

---

- ・2つの津波浸水想定について、「知っており、ホームページ等で見た」（16.2%）、「知っているが、ホームページ等は見えていない」（41.3%）と認知度は6割弱である。
- ・夜間に自宅で大地震に遭遇した場合について、「避難する」（82.9%）がH23と比較し、約3ポイント増加し、8割を超えた。H16の27.8%と比較すると約3倍であり、避難する意識が飛躍的に高くなっている。
- ・避難する理由は何かについて、「津波に襲われる危険があるから」（87.4%）が圧倒的に多く、津波への危機感が高いことがわかる。次いで「余震で家が倒壊する危険があるから」（37.1%）が多くなっている。
- ・どの段階で避難するかについて、「できるだけ早く」（56.7%）との回答が最も多くなっている一方で、「津波注意報や警報が出たら」（17.4%）、「大津波警報（特別警報）が出たら」（14.1%）を合わせると31.5%の人が防災情報で避難の呼びかけがあるまで避難を開始しないと回答しており、揺れたら逃げるという早期避難の意識が十分ではないことがわかった。
- ・どこに避難するかについて、「近くの高台」（45.4%）がH23と比較し、約8ポイント減少している。反対に「市町村が決めた避難場所や避難所」（37.4%）がH23と比較し、約8ポイント増加している。これは各市町村による避難場所の整備や周知による効果が伺える。
- ・どのように避難するかについて、「歩いて避難する」と答えた人が80.7%と初めて8割を超え、『原則、徒歩避難』の意識が普及していることが伺える。
- ・避難するときの妨げについて、「倒壊した家やブロック塀などがじゃまになり避難に手間取る」が72.7%と最も多いが、「近所の家が倒壊し、避難に手間取る」（48.0%）がH23と比較し、約18ポイント大幅に増加しており、避難経路の確保を危惧していることが伺える。また、「車で避難する人がたくさんいるため、道路が渋滞する」が34.0%あり、車を使う人が多くなることを危惧していることが伺える。

---

### 3 避難体制について

- ・災害時要援護者を地域で支援する体制について、「よく知らない」（64.6%）が最も多く、「できている」（8.5%）、「できていないが検討している」（13.8%）を合わせても2割強となっている。
-

## 第2章 調査結果概要

---

- ・津波や地震の時の避難対策として、行政は何をすべきかについて、「避難所や避難場所の整備」(60.1%)、「市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達」(59.1%)が多い。
  - ・避難先の安全に対する3段階のレベル分けについて、「知っており、ホームページ等で見た」(4.4%)、「知っていたが、ホームページ等は見えていない」(11.7%)と認知度は2割弱と低い。
- 

### 4 避難情報について

- ・防災無線のスピーカーについて、「ふだんから放送の内容がはっきり聞きとれる」との回答は、津波危険地区で22.8%と2割強にとどまり、「よく聞こえるときもあるが、雨や風のぐあいでも聞きとれないことがある」、「ふだんから放送内容があまりよく聞き取れない」、「放送の内容はまったく聞きとれない」、「近くに防災無線のスピーカーが設置されていない」を合わせると、74.4%の人が防災無線による避難情報の収集に支障があるとの回答となった。
  - ・緊急情報をどのように入手するかについて、津波危険地区及び全県ともに「テレビ」が最も多く約7割となっている。次いで、「携帯メール」が約2割あり、この2つで約9割と圧倒的な比率となっている。
  - ・「防災わかやまメール配信サービス」に登録をしているかについて、「していない」が74.4%と最も多く、「登録している」(19.1%)は、前回調査と比較しても、1.3ポイントしか上昇していない。
  - ・緊急地震速報を発表していることを知っているかについて、「よく知っている」(50.4%)が前回と比較すると7.2ポイント増加しており、今回初めて5割を超え、認知が順調に進んでいる。
  - ・自宅で緊急地震速報を受けたときどうするかについて、「家の中の安全なところを探して身を守る」が約5割、「机、テーブル、ベッドの下にもぐる」が約3割と、合わせて約8割の人が安全確保行動につなげている。
  - ・避難カードについて、「知っている」(9.7%)、「何となく知っている」(12.4%)と認知度は2割強にとどまっている。
-

### 5 津波への考え方について

- ・「大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く」という誤った認識について、「そう思う」が61.2%となり、最も多い。津波危険地区と全県で大きな差はなく、また経年変化もほとんどみられない。
- ・「津波警報が出てから避難しても間に合う」についてどう思うかについて、「そう思う」、「まあそう思う」と回答した人が43.4%もあり、「そう思わない」、「あまりそう思わない」と回答した人が50.7%と減少傾向にある。揺れたら逃げるという早期避難の意識が十分ではない。
- ・「市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからない」についてどう思うかについて、「そう思う」（25.0%）と「まあそう思う」（28.4%）の合計は過半数を超え、徐々に減少してはいるものの、その意味や相違点について、理解されているとは言い難い。

---

### 6 自主防災組織について

- ・町内会（自治会）への加入状況は、津波危険地区及び全県ともに8割を超えている一方、自主防災組織への加入状況は、津波危険地区で34.4%、全県で33.5%となっており、特に差は見られない。自主防災組織に入っていない理由は何かとの問にはその回答のほとんどが「自主防災組織があるのかわからない」等と答えた人が最も多く、認識の低さが伺える。
- ・自主防災組織の活動状況について、活動している（「活発に活動している」と「ある程度活動している」の合計）と回答した人は69.1%であり、経年比較すると今回の調査が最も高くなっており、地域での活動が活発に行われてきている傾向が伺える。
- ・地震後、地域の人と協力してできることは何かについて、津波危険地区で62.4%、全県で70.3%が「高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う」と回答し、最も高い。両地区で特に大きな差はみられないが、全県の回答が津波危険地区よりもやや多くなっている。

---

### 7 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

- ・住宅の建築時期について、旧耐震基準である昭和55年以前に建てられたものが津波危険地区で42.1%、全県で40.3%とともに4割を超えている。

## 第2章 調査結果概要

---

- ・専門家による耐震診断を受けたことがある人は、11.7%となり、わずかではあるが、増加傾向にある。
- ・耐震診断を受けた人のうち、44.3%の人が「耐震補強が必要」と判断されている。補強が必要と判断された人のうち、津波危険地区では42.5%、全県では53.3%が補強・建て替え済み又は補強・建て替えを予定している。また、すぐに耐震補強をしない理由については、両地区とも「費用がかかるから」が約8割と最も多く、次いで両地区とも「補強しても大地震からの被害は避けられないと思うから」が約6割となっており、十分認知されていないことが伺える。
- ・耐震診断を受けない理由について、「費用がかかるから」が30.4%と最も多く、次いで「どんなに耐震化しても、大地震にあえば被害は避けられないと思うから」が25.5%となっており、補助制度と効果について十分認知されていないことが伺える。
- ・木造住宅の耐震化の促進について行政に求めることとして、「耐震診断の専門家の無料派遣」を望む声が多く、63.0%を占めており、耐震診断士による無料耐震診断の制度が十分認知されていないことが伺える。
- ・家具類の固定について、「全部または大部分を固定している」と「一部のみ固定している」の合計は、両地区とも約4割となっている一方、「固定はしていない」は約5割となり、最も多くなっている。また、固定していない主な理由としては、「手間がかかるから」、「固定しても被害は出ると思うから」が多くなっており、家具固定の効果が十分に認知されていないことが伺える。
- ・ブロック塀や石塀、門柱などの点検について、両地区とも6割以上の人が点検をしていない。その理由は、津波危険地区（29.8%）及び全県（27.5%）ともに「点検の方法がわからないから」が最も多い。
- ・家具類の固定の促進について行政に望む声として、「家具類の固定方法を詳しく説明したパンフレットの配布」と答えた人が、45.9%と半数近くを占めている。その他、費用の補助、専門家の無料派遣や業者のあっせん等を求める意見がこれに続く。  
また、ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化の促進については、「専門家による塀、門柱などの無料耐震診断の実施」（50.5%）が最も多くなっている。

---

## 8 備蓄や訓練について

- ・どのような防災対策を行っているかについて、津波危険地区では「地震が起きたとき避難する場
-

## 第2章 調査結果概要

---

所を決めている」(66.3%)が最も多くなっており、全県では「懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている」(55.8%)が最も多くなっている。

- ・非常持ち出し品をまとめて置いているものは、「懐中電灯」が津波危険地区(89.0%)、全県(89.4%)ともに最も多く、次いで「携帯ラジオ」が津波危険地区(58.1%)、全県(62.0%)となっている。
- ・家庭で何日分の水や食料を備蓄しているかについて、「1~2日分」が津波危険地区(37.3%)、全県(30.7%)ともに最も多く、次いで「2~3日分」が津波危険地区(23.8%)、全県(22.8%)となっている。  
また、「7日以上」を備蓄している人は、津波危険地区(3.7%)、全県(5.9%)と少ない。
- ・防災に関する活動を行ったり、参加したことがあるかについて、津波危険地区(35.5%)、全県(36.4%)で「地震防災に関するパンフレットを読んだ」がともに最も多く、次いで津波危険地区では「地震時の津波避難に適切な場所を見て回った」(29.7%)が多く、全県の約2倍となっている。
- ・過去1年間に地域や職場の防災訓練に参加したことがあるかについて、「訓練には、全く参加していない」が津波危険地区(47.3%)、全県で(54.6%)と最も多く、訓練に参加しない理由として最も多いのは、津波危険地区では「外せない用事等が入っていたから」(36.3%)、全県では、「地域や職場などで地震防災訓練が実施されていないから」(49.3%)となっている。
- ・どのような訓練が必要と思うかについて、津波危険地区(62.3%)、全県(42.9%)ともに「津波避難訓練」が最も多く、津波危険地区の意識の高さが出ている。

---

### 9 災害への意識について

- ・「防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ」について、「やや賛成」と「賛成」の合計が津波危険地区では42.9%、全県41.1%と、約4割強となっている。
- ・「大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ」について、「賛成」と「やや賛成」の合計は、津波危険地区で91.2%、全県で91.1%と9割を占めるなど、大規模災害には公助を求める意見が多い。
- ・「大地震のときは自分の命は自分で守らなければならない」について、「賛成」と「やや賛成」

## 第2章 調査結果概要

---

の合計は、津波危険地区で92.5%、全県で93.0%と、9割強を占めており、自助の意識も高いことがわかる。

- ・「災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ」について、「やや反対」と「反対」の合計は、津波危険地区で82.8%、全県で82.9%と、8割以上を占めている。
- ・「体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない」について、「賛成」と「やや賛成」の合計は、津波危険地区で87.0%、全県で90.1%と、9割近くを占めており、共助の意識も高いことがわかる。
- ・地域の防災力を高めるために必要なことについて、「地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化」（52.6%）が最も多く、次いで「自主防災組織の育成・強化」（42.1%）となっている。

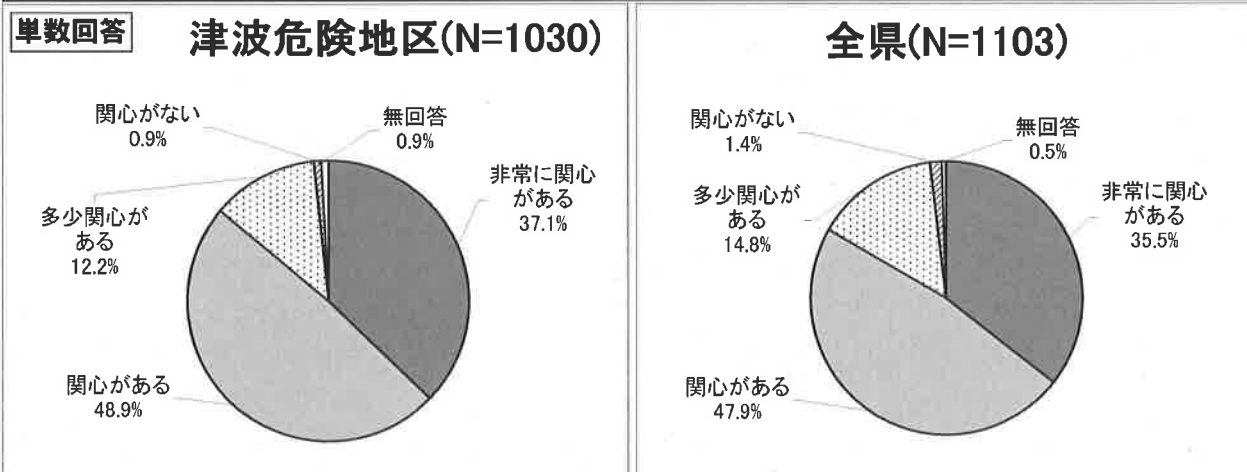
## 第3章 調査結果

# 1. 東海・東南海・南海3連動地震等について

## 1-1 東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震について、どの程度関心を持っているか

**問** あなたは、東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震について、どの程度関心を持っていますか（ひとつだけ○）。

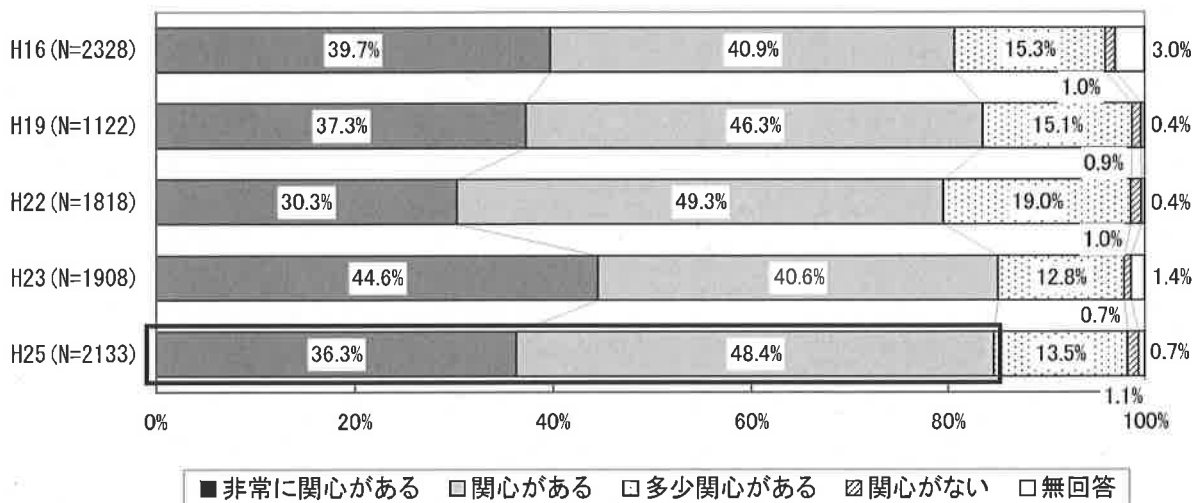
1. 非常に関心がある      2. 関心がある      3. 多少関心がある      4. 関心がない



東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震にどの程度関心を持っているかについて、「非常に関心がある」と「関心がある」を合わせると、津波危険地区では86.0%、全県地区83.4%となっている。

県民の地震に対する関心が高いことがわかる。

**図. 東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震について、どの程度関心を持っているか**  
～経年比較～



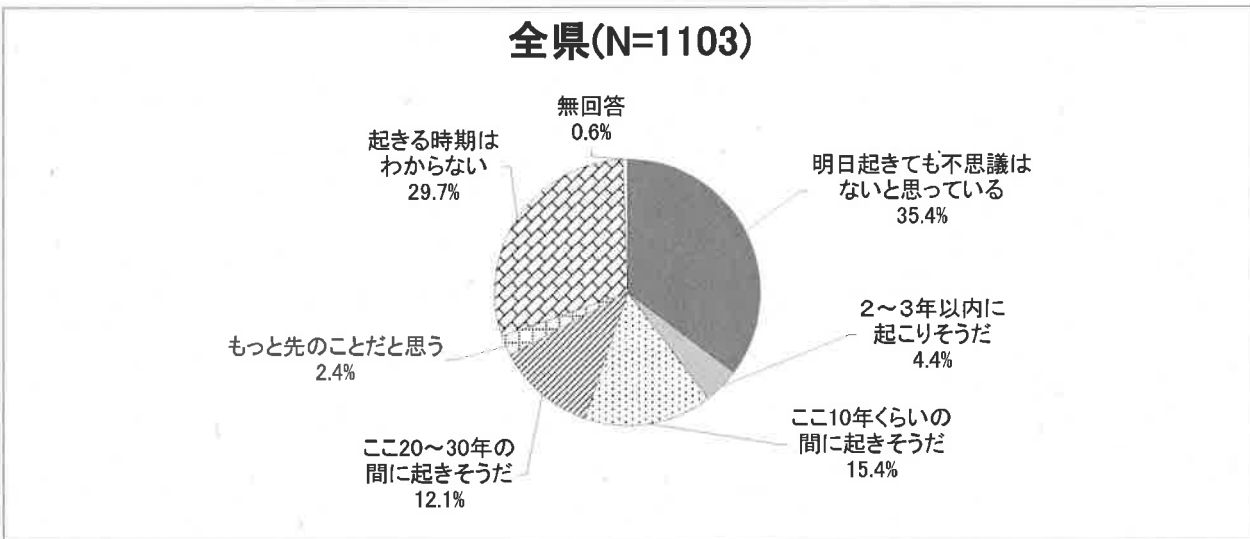
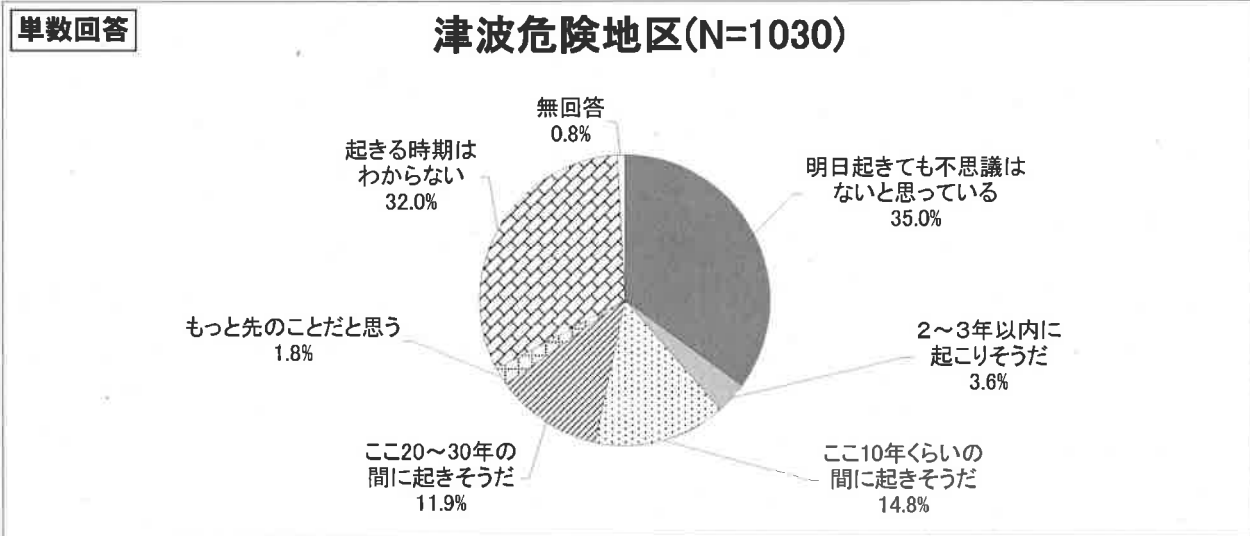
経年比較について、「非常に関心がある」は前回調査（44.6%）と比べると8.3ポイント下回っている。東日本大震災が発生したH23年で最も高くなったが、「非常に関心がある」と「関心がある」を合わせるとH23年（85.2%）と今回（84.7%）では大きな変化は見られない。



# 1. 東海・東南海・南海3連動地震等について

## 1-2 東海・東南海・南海3連動地震が起こる可能性について、どのように思うか

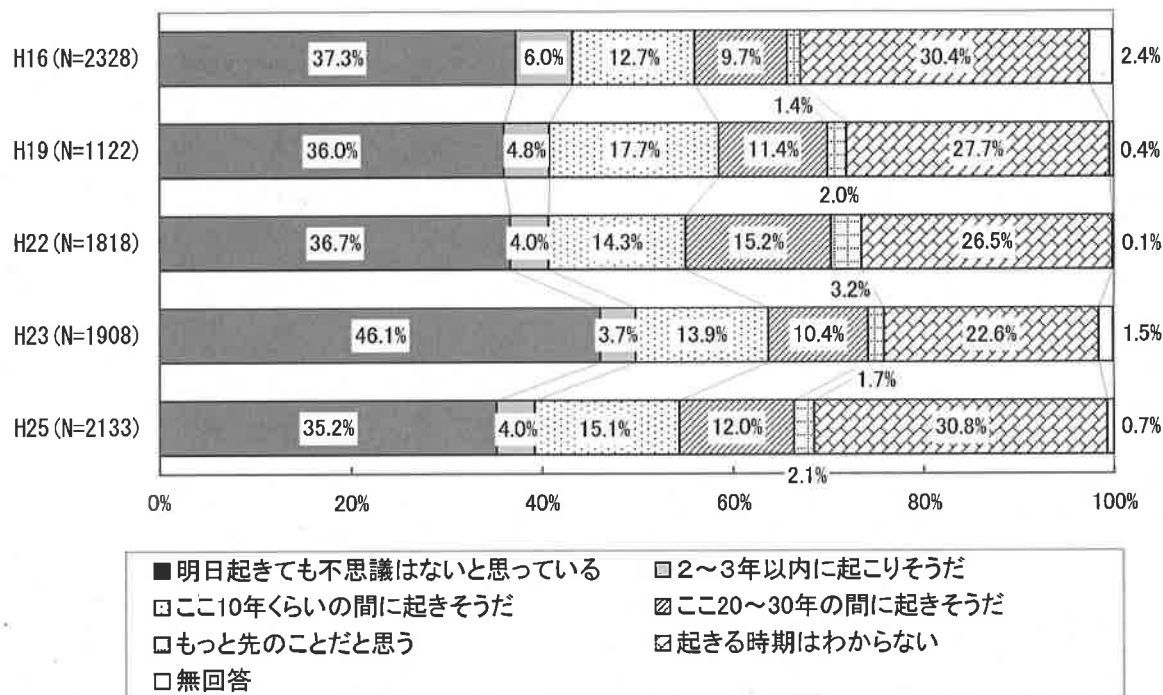
<b>問</b>	あなたは、東海・東南海・南海3連動地震が起こる可能性について、どのように思っていますか（ひとつだけ○）。	
	1. 明日起きても不思議はないと思っている	2. 2～3年以内に起こりそう
	3. ここ10年くらいの間に起きそう	4. ここ20～30年の間に起きそう
	5. もっと先のことだと思う	6. 起きる時期はわからない



東海・東南海・南海3連動地震が起こる可能性について、津波危険地区及び全県ともに「明日起きても不思議はないと思っている」が最も多い。また、今後30年以内に起こる可能性があると考える人は、津波危険地区で65.3%、全県で67.3%となっており、津波危険地区と全県で特に差はみられない。

1. 東海・東南海・南海3連動地震等について

図. 東海・東南海・南海3連動地震が起こる可能性について、どのように思うか  
～経年比較～



経年比較について、「明日起きても不思議はないと思っている」は東日本大震災が発生したH23年調査（46.1%）が最も高かったが、今回調査（35.2%）では10.9ポイント下回る結果となった。

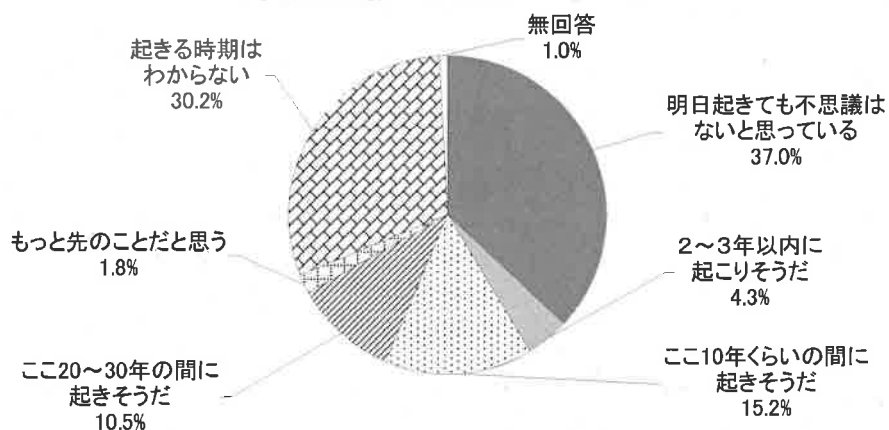
# 1. 東海・東南海・南海3連動地震等について

## 1-3 南海トラフ巨大地震が起こる可能性について、どのように思うか

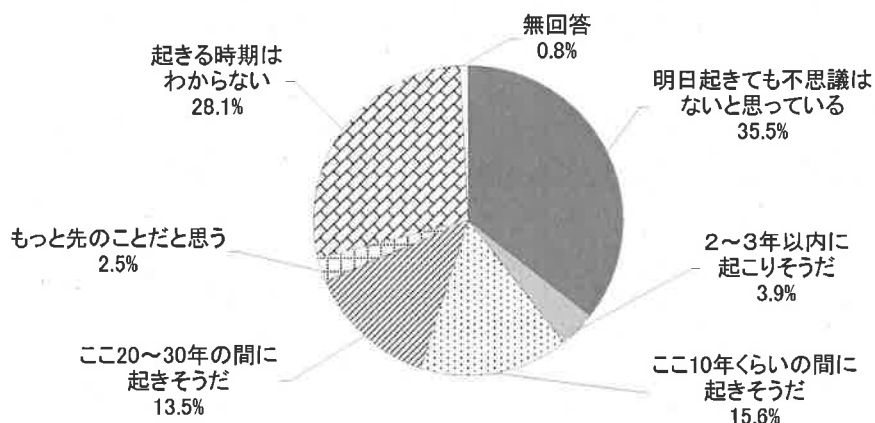
問	あなたは、南海トラフ巨大地震が起こる可能性について、どのように思っていますか（ひとつだけ○）。
1. 明日起きても不思議はないと思っている	2. 2～3年以内に起こりそう
3. ここ10年くらいの間に起きそう	4. ここ20～30年の間に起きそう
5. もっと先のことだと思う	6. 起きる時期はわからない

### 単数回答

#### 津波危険地区(N=1030)



#### 全県(N=1103)



南海トラフ巨大地震が起こる可能性について、「明日起きても不思議はないと思っている」が津波危険地区及び全県ともに最も多く、次いで「起きる時期はわからない」となっている。津波危険地区と全県で特に大きな差はみられない。

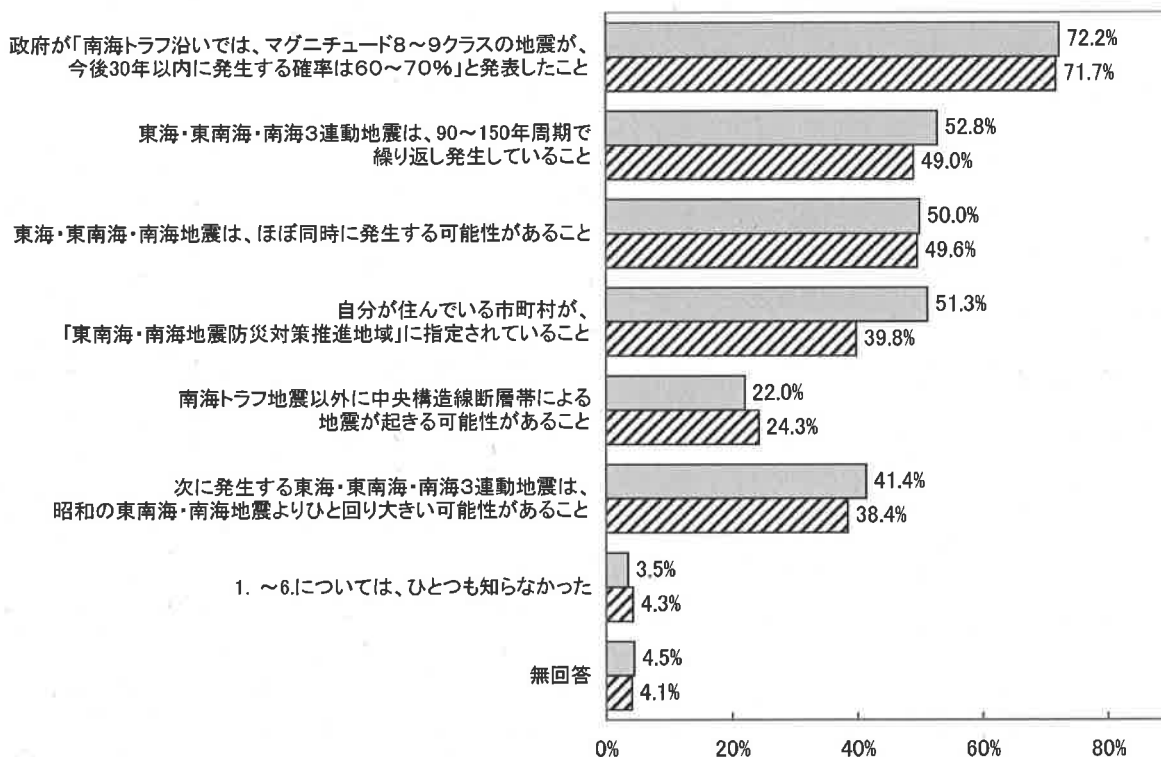
# 1. 東海・東南海・南海3連動地震等について

## 1-4 地震の発生確率等について知っているか

問	次のうちで、あなたがすでにご存じのことに、いくつでも○をつけてください。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 政府が「南海トラフ沿いでは、マグニチュード8～9クラスの地震が、今後30年以内に発生する確率は60～70%」と発表したこと</li> <li>2. 東海・東南海・南海3連動地震は、90～150年周期で繰り返し発生していること</li> <li>3. 東海・東南海・南海地震は、ほぼ同時に発生する可能性があること</li> <li>4. 自分が住んでいる市町村が「東南海・南海地震防災対策推進地域」に指定されていること</li> <li>5. 南海トラフ地震以外に中央構造線断層帯による地震が起きる可能性があること</li> <li>6. 次に発生する東海・東南海・南海3連動地震は、昭和の東南海・南海地震よりひと回り大きい可能性があること</li> <li>7. 1.～6.については、ひとつも知らなかった</li> </ol>	

### 複数回答

図. 地震の発生確率等について知っているか



□ 津波危険地区(N=1030)    ▨ 全県(N=1103)

津波危険地区及び全県ともに「政府が南海トラフ沿いでは、マグニチュード8～9クラスの地震が、今後30年以内に発生する確率は60～70%と発表したこと」が最も多く、次いで津波危険地区では「東海・東南海・南海3連動地震は、90～150年周期で繰り返し発生していること」、全県では「東海・東南海・南海地震は、ほぼ同時に発生する可能性があること」となっている。津波危険地区と全県で特に差はみられない。

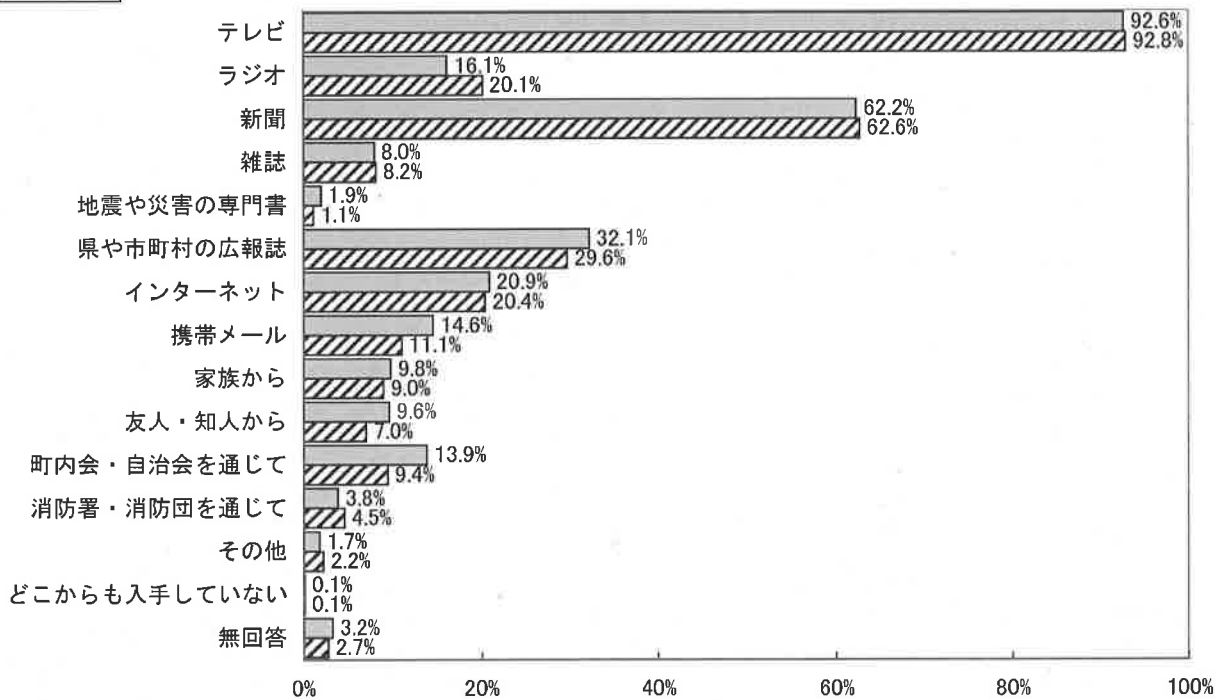
# 1. 東海・東南海・南海3連動地震等について

## 1-5 地震や地震災害の情報をどのように入手しているか

問	あなたはふだん、このような地震や地震災害についての情報を、どこから入手していますか（主なものに、いくつでも○）。		
	1. テレビ	2. ラジオ	3. 新聞
	4. 雑誌	5. 地震や災害の専門書	6. 県や市町村の広報誌
	7. インターネット	8. 携帯メール	9. 家族から
	10. 友人・知人から	11. 町内会・自治会を通じて	12. 消防署・消防団を通じて
	13. その他（ ）		14. どこからも入手していない

### 複数回答

図. 地震や地震災害の情報をどのように入手しているか



□ 津波危険地区(N=1030)    ▨ 全県(N=1103)

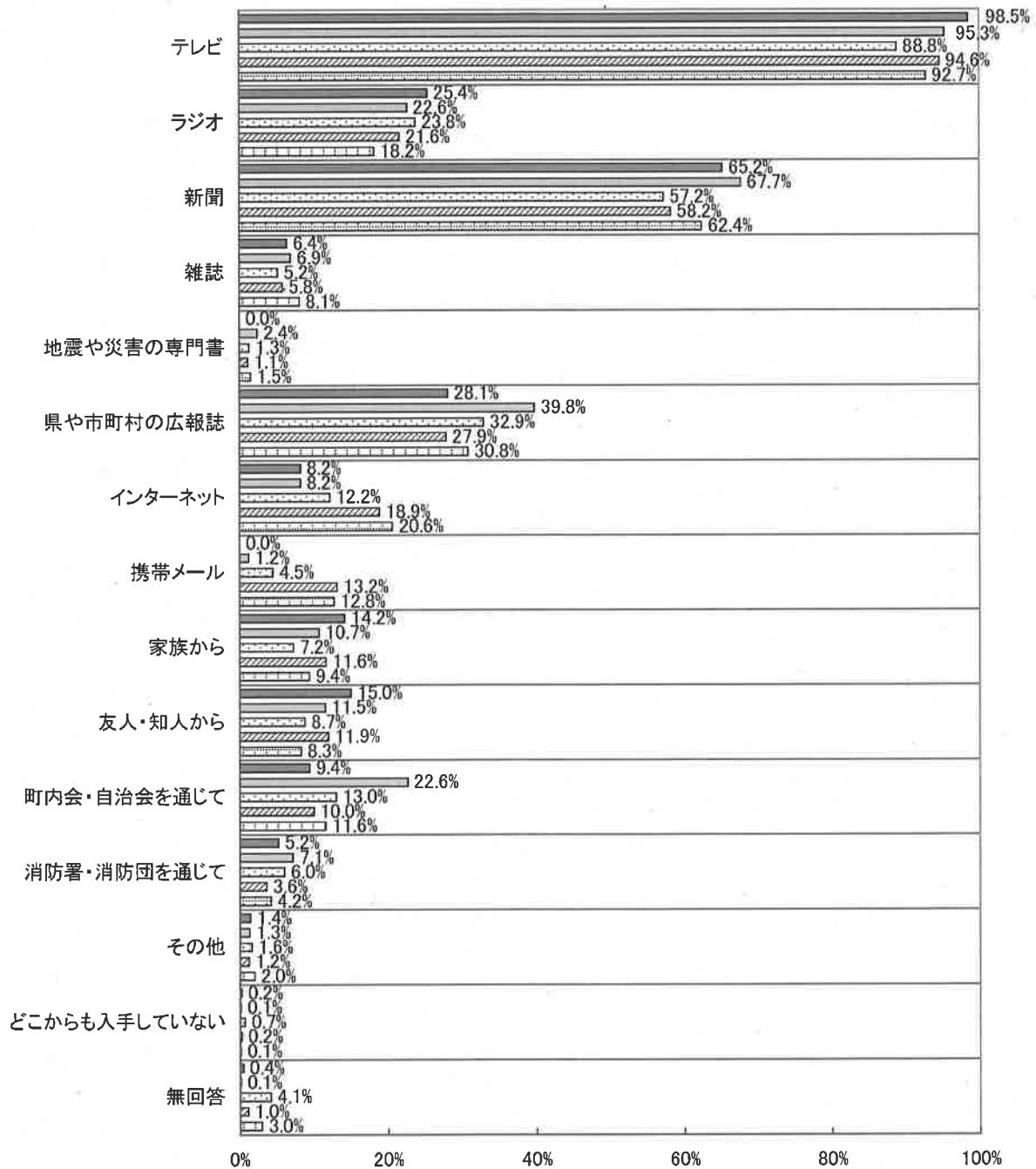
### <その他回答>

- |               |                |
|---------------|----------------|
| ● 津波危険地区      | ● 全県           |
| ・ 自主防災会議に出席して | ・ 市の有線（防災無線）   |
| ・ 防災の講演会など    | ・ 防災研修         |
| ・ 職場、学校関係     | ・ 講演会          |
| ・ 市内放送        | ・ 会社           |
| ・ 緊急地震速報受信端末機 | ・ 和歌山県総合防災課 など |

地震や地震災害の情報の入手については、「テレビ」（92.7%）が最も多く、次いで「新聞」（62.4%）、県や市町村の広報誌（30.8%）、インターネット（20.6%）の順となっている。津波危険地区と全県で、大きな差はみられない。

1. 東海・東南海・南海3連動地震等について

図. 地震や地震災害の情報をどのように入手しているか  
～経年比較～

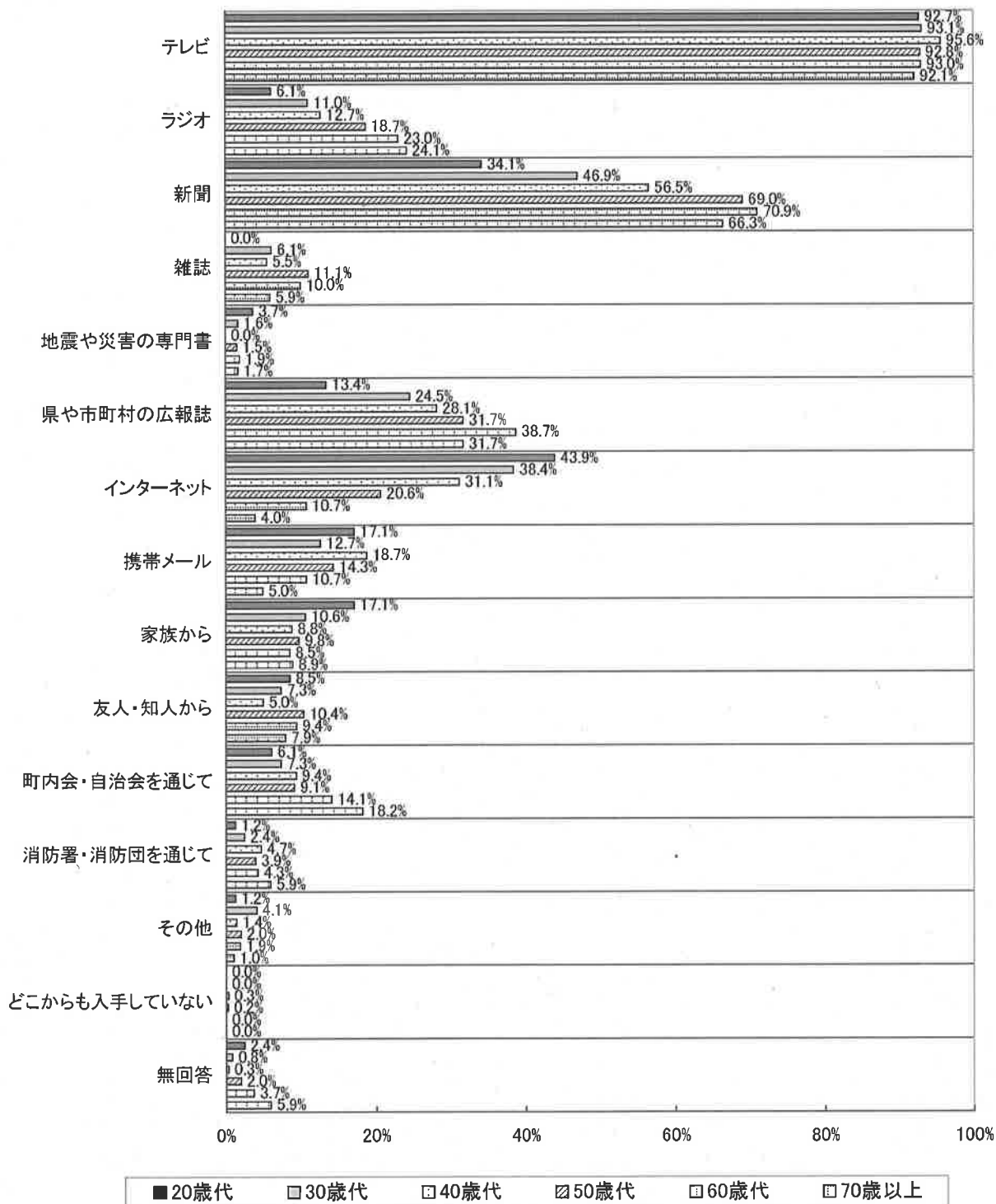


■H16(N=2328) □H19(N=1122) ▨H22(N=1818) ▩H23(N=1908) ▪H25(N=2133)

経年比較について、調査実施年のいずれでも「テレビ」が圧倒的に多くなっている。また、「インターネット」からの情報収集が年々、増加傾向にある。各年と比較しても、特に大きな変化はみられない。

1. 東海・東南海・南海3連動地震等について

図. 地震や地震災害の情報をどのように入手しているか  
～年齢比較～ (N=1994)

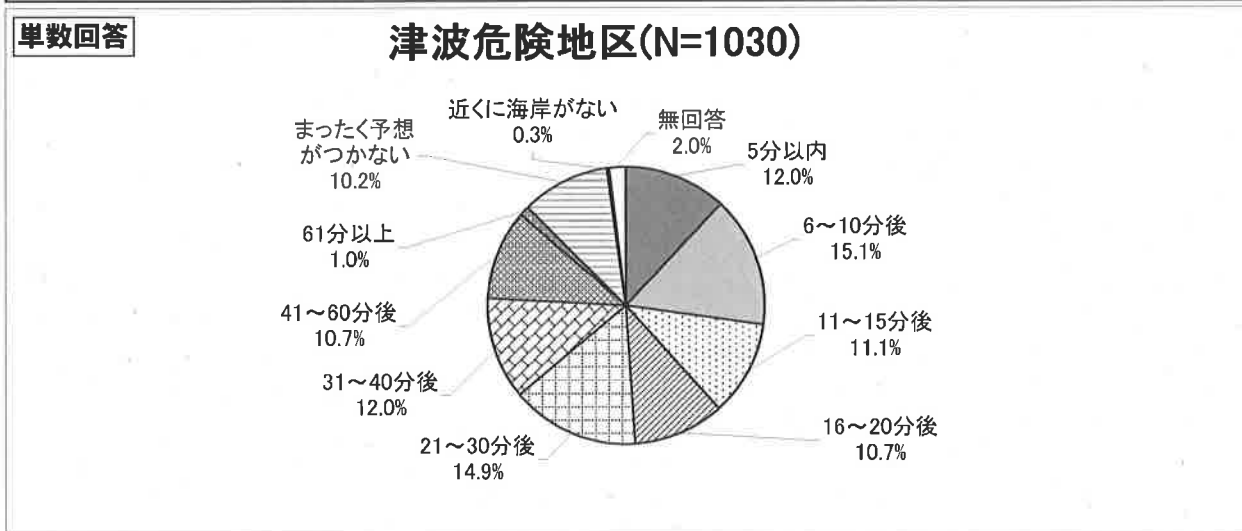


年齢別でみると、各年代とも「テレビ」が多数を占めており、次いで「20歳代」を除く各年代では「新聞」となっているが、「20歳代」では「インターネット」(43.9%)となり、「70歳以上」と比較すると39.9ポイントと大きな差がみられ、年齢による情報入手方法に差が出ている。

## 2. 津波への意識と避難について

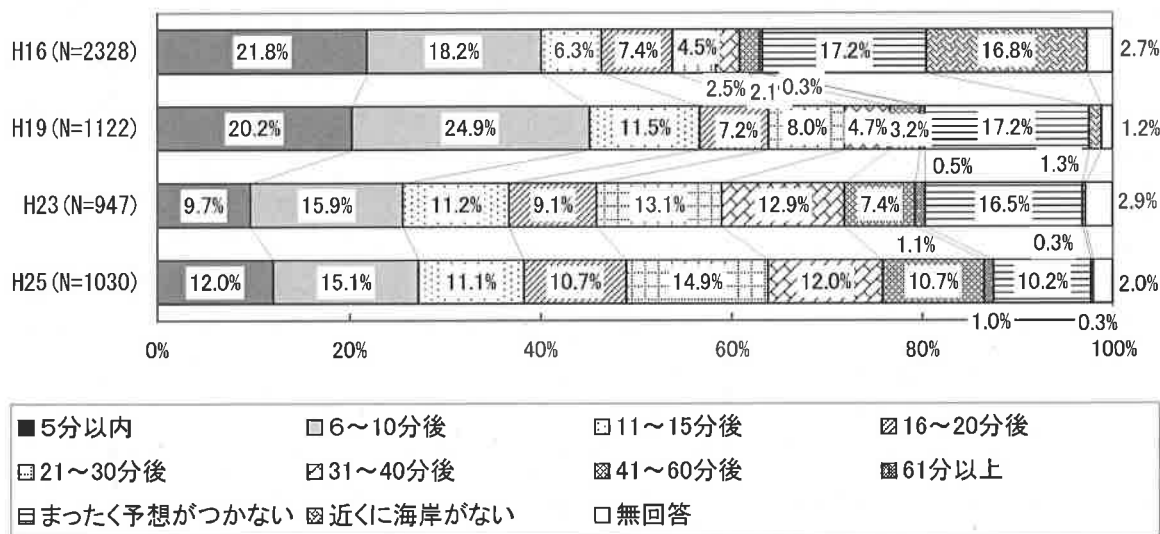
### 2-1 津波は何分くらいで押し寄せると思うか

問	地震の揺れの後、あなたがお住まいの近くの海岸に、津波は何分くらいで押し寄せると思いますか（ひとつだけ○）。									
	1. 5分以内	2. 6～10分後	3. 11～15分後	4. 16～20分後						
	5. 21～30分後	6. 31～40分後	7. 41～60分後	8. 61分以上						
	9. まったく予想がつかない	10. 近くに海岸がない								



津波は何分くらいで押し寄せると思うかについて、「6～10分後」(15.1%)が最も多く、次いで「21～30分後」(14.9%)、「5分以内」(12.0%)「31～40分後」(12.0%)となっている。

図. 津波は何分くらいで押し寄せると思うか  
～経年比較～



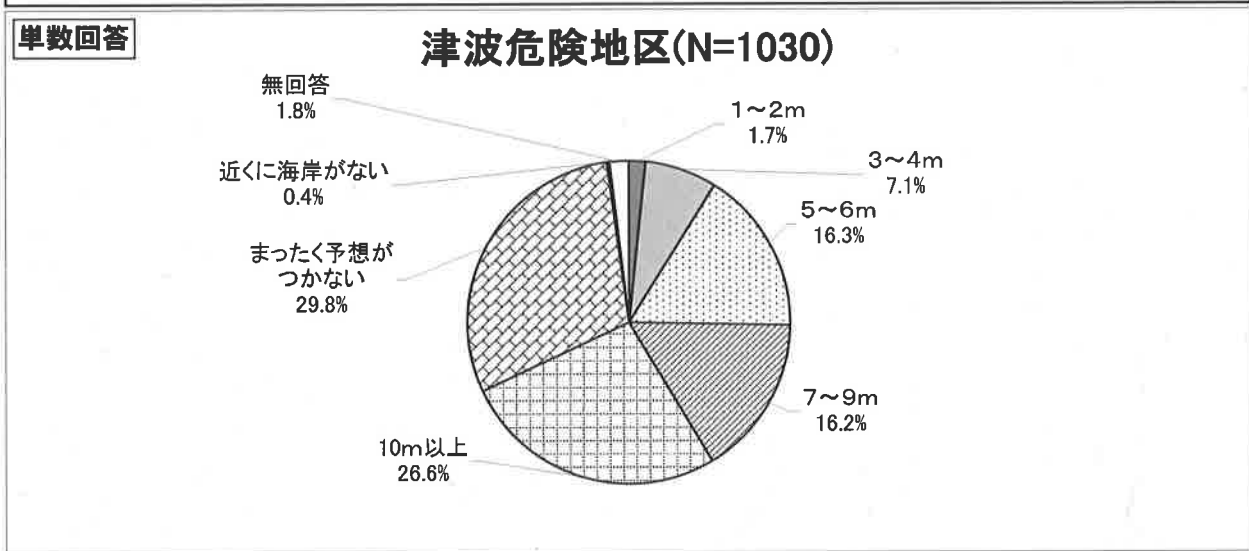
経年比較について、前回調査と大きな変化はないが、「まったく予想がつかない」が減っている。



## 2. 津波への意識と避難について

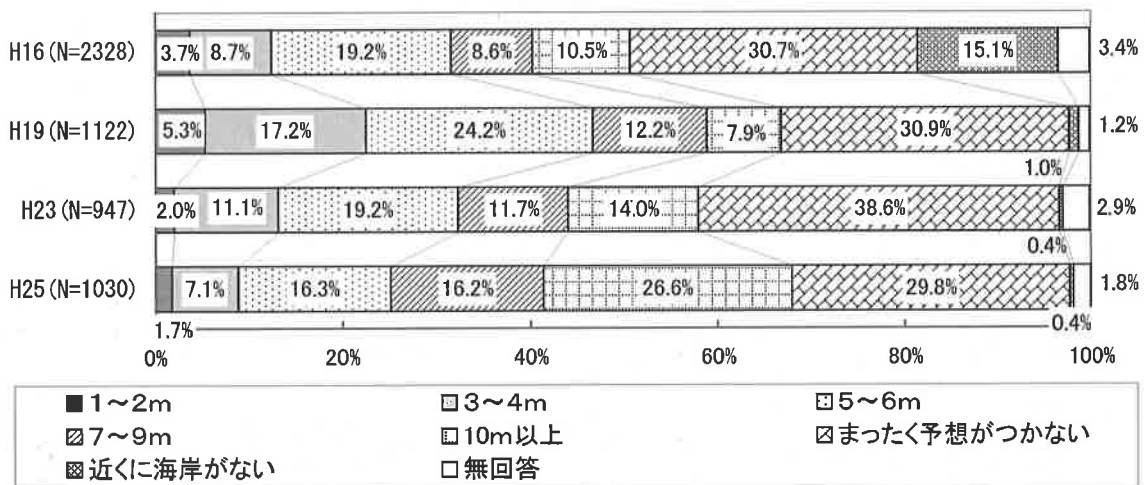
### 2-2 どれくらいの高さの津波が押し寄せると思うか

問	どれくらいの高さの津波が押し寄せるとおもいますか（ひとつだけ○）。								
1.	1～2m	2.	3～4m	3.	5～6m	4.	7～9m	5.	10m以上
6.	まったく予想がつかない		7.	近くに海岸がない					



どれくらいの高さの津波が押し寄せると思うかについて、「まったく予想がつかない」(29.8%)が最も多く、次いで「10m以上」(26.6%)、「5～6m」(16.3%)となっている。

図. どれくらいの高さの津波が押し寄せると思うか  
～経年比較～

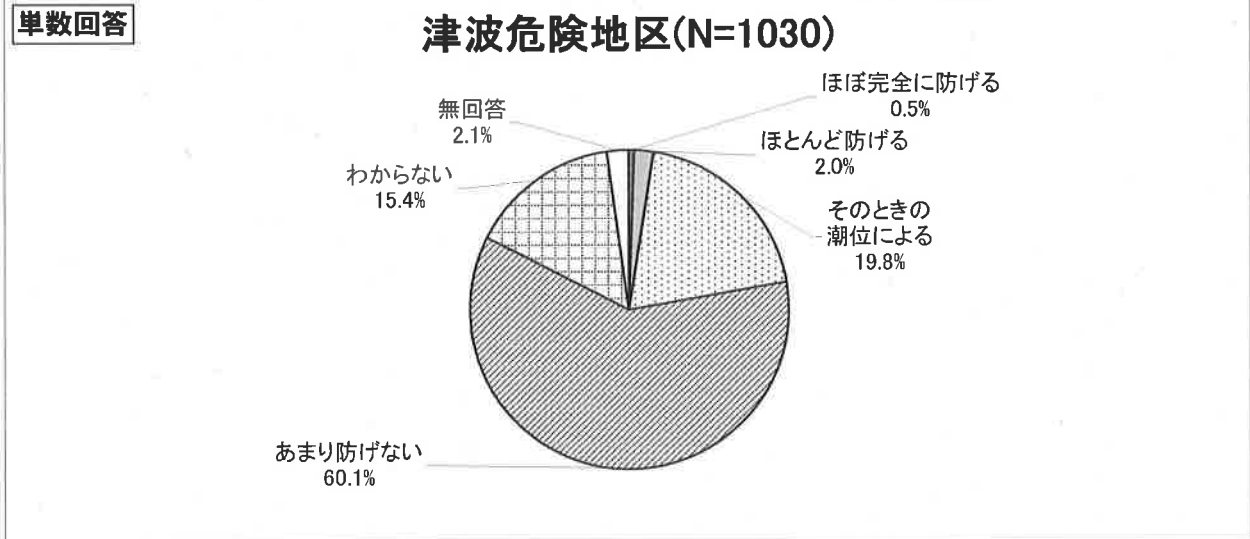


経年比較について、「10m以上」(26.6%)が前回調査から約2倍弱と大幅に増加し、各年で最も高くなっている。次いで「7～9m」(16.2%)となり、調査開始時からほぼ倍増している。

## 2. 津波への意識と避難について

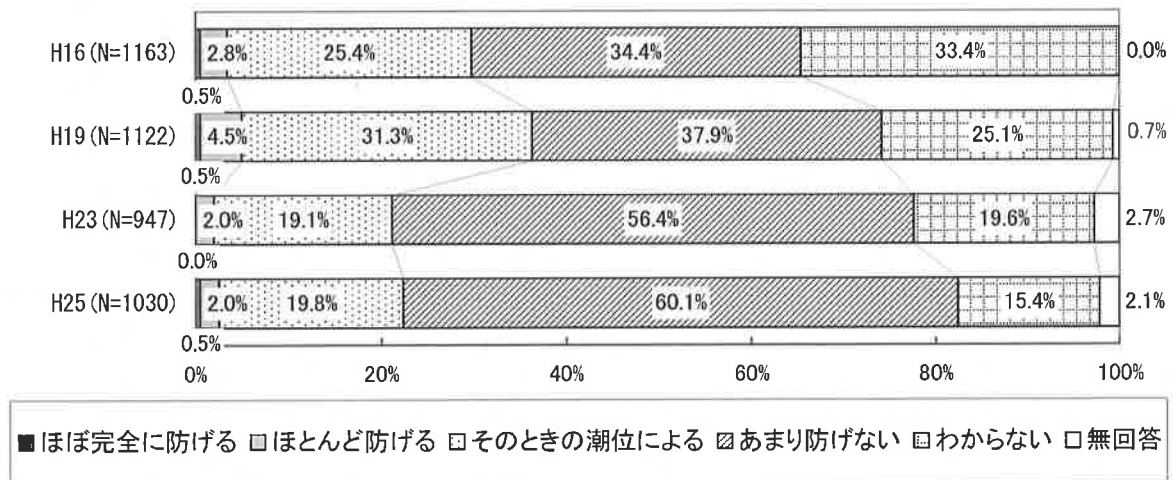
### 2-3 防波堤等で津波をどれくらい防げると思うか

問	お住まいの地域にある防波堤、防潮堤、水門などで、東海・東南海・南海3連動地震が起きたときの津波をどの程度防げると思いますか（ひとつだけ○）。		
	1. ほぼ完全に防げる	2. ほとんど防げる	3. そのときの潮位による
	4. あまり防げない	5. わからない	



防波堤等で津波をどれくらい防げると思うかについて、「あまり防げない」（60.1%）が最も多く、次いで「そのときの潮位による」（19.8%）となっている。  
地域の防潮堤等で津波を「ほぼ完全に防げる」と「ほとんど防げる」の合計は2.5%と少ない。

図. 防波堤等で津波をどれくらい防げると思うか  
～経年比較～

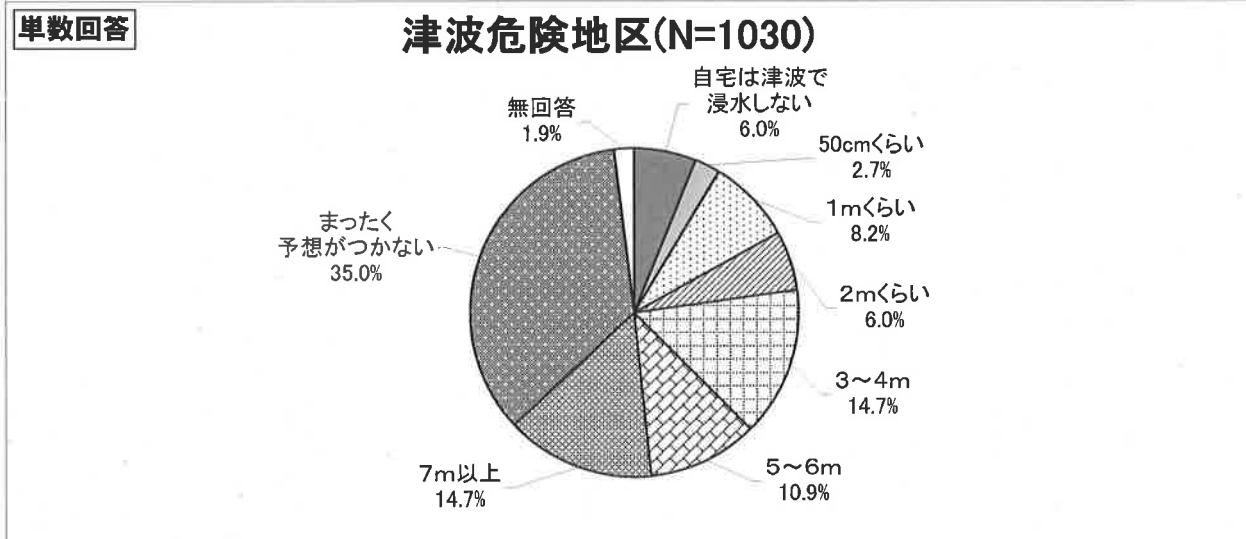


経年比較でみると、「あまり防げない」と考える人が年々増加傾向にある。

## 2. 津波への意識と避難について

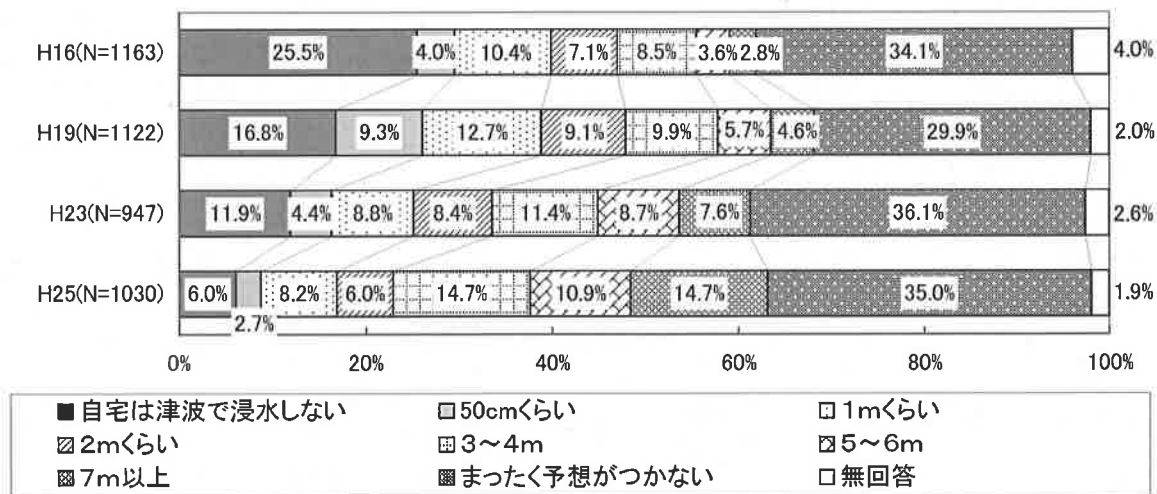
### 2-4 自宅が津波でどの程度浸水すると思うか

<b>問</b>	あなたのご自宅は、東海・東南海・南海3連動地震が起きたときの津波で、どれくらいの高さまで浸水すると思いますか（ひとつだけ○）。							
	1. 自宅は津波で浸水しない	2. 50cmくらい	3. 1mくらい	4. 2mくらい	5. 3～4m	6. 5～6m	7. 7m以上	8. まったく予想がつかない



自宅が津波でどの程度浸水すると思うかについて、「まったく予想がつかない」(35.0%)が最も多く、次いで「3～4m」(14.7%)、「7m以上」(14.7%)となっている。「自宅は津波で浸水しない」は6.0%となった。

図. 自宅が津波でどの程度浸水すると思うか  
～経年比較～



経年比較でみると、「自宅は津波で浸水しない」が年々減少傾向にあり、前回調査より約6ポイント減少している。また、「7m以上」が前回調査からほぼ倍増している。

## 2. 津波への意識と避難について

### 2-5 県では、津波浸水想定を2つ公表している事を知っているか

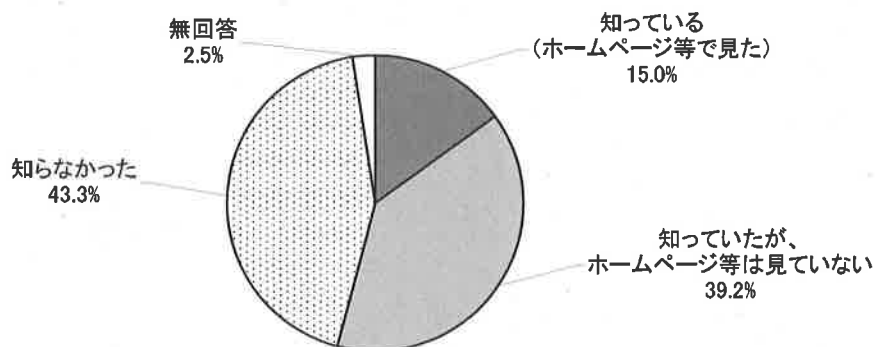
問

県では、東海・東南海・南海3連動地震による津波浸水想定と、南海トラフ巨大地震による津波浸水想定との2つの津波浸水想定を公表しておりますが、知っていますか（ひとつだけ○）。

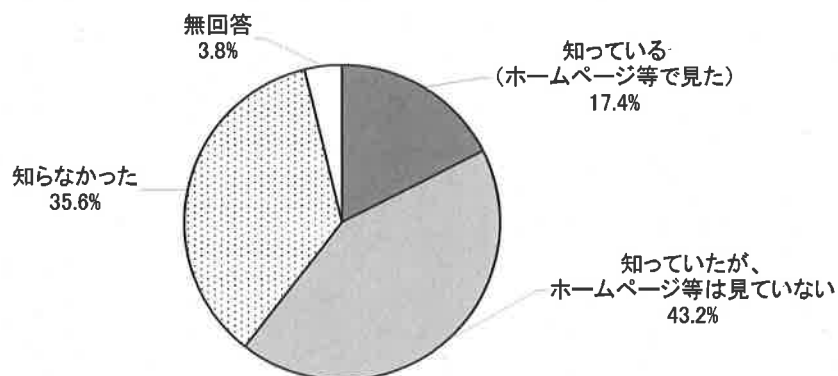
1. 知っている（ホームページ等で見た）
2. 知っていたが、ホームページ等は見えていない
3. 知らなかった

単数回答

#### 津波危険地区(N=1030)



#### 全県(N=1103)



津波浸水想定を公表していることについて、津波危険地区は「知らなかった」（43.3%）が、全県では「知っていたが、ホームページ等は見えていない」（43.2%）が最も多くなっている。

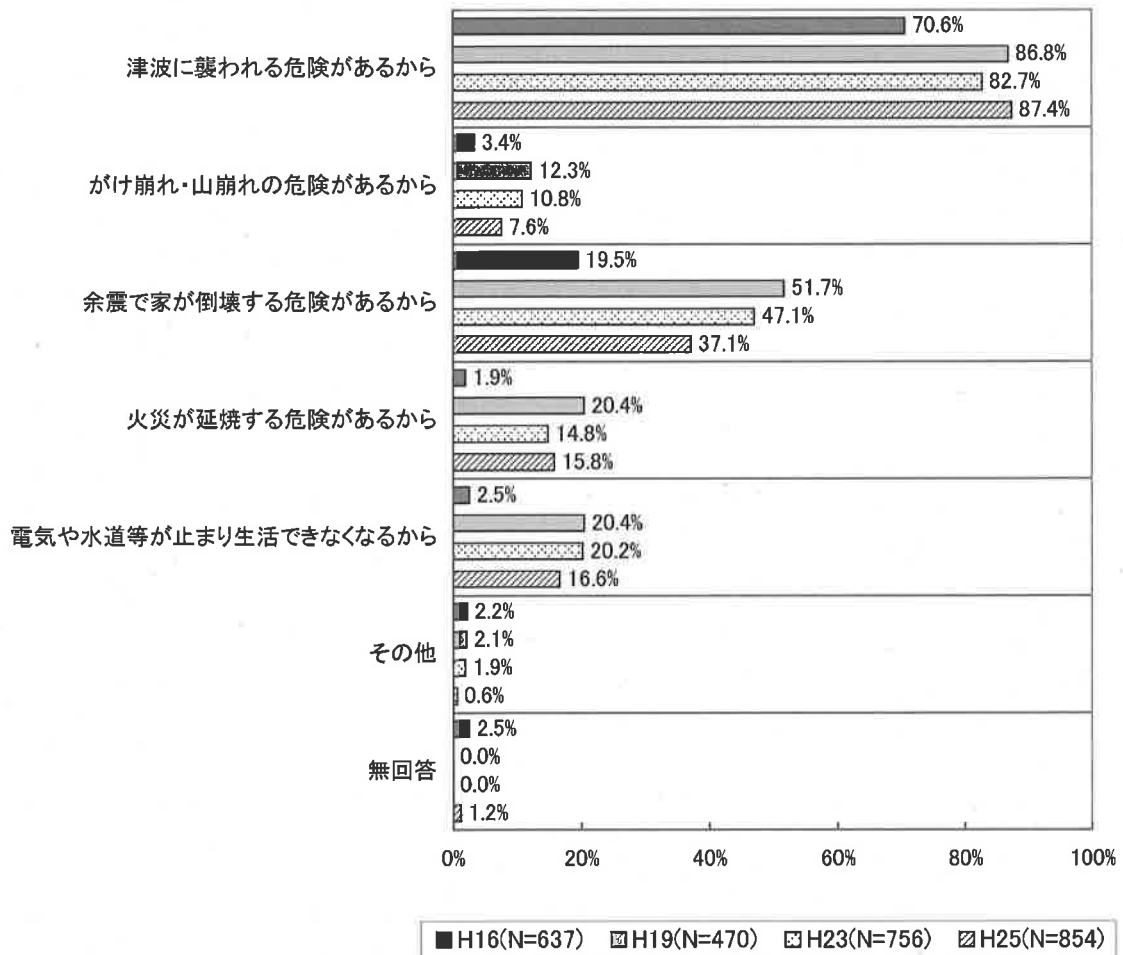
「知っている（ホームページ等で見た）」は、津波危険地区で15.0%、全県で17.4%となっている。





## 2. 津波への意識と避難について

図. 避難する理由は何か  
～経年比較～



経年比較でみると、「津波に襲われる危険があるから」が最も多く、前回調査時より4.7ポイント増えている。また、「余震で家が倒壊する危険があるから」が平成19年調査より年々減少傾向にある。

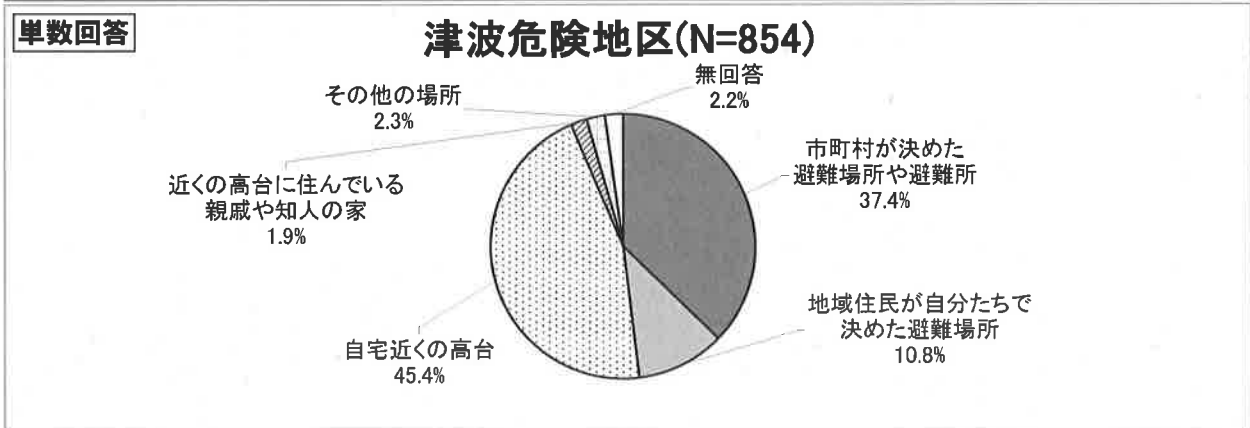




## 2. 津波への意識と避難について

### 2-9 どこに避難するか

問	あなたは、どこに避難しますか（ひとつだけ○）。
1. 市町村が決めた避難場所や避難所	2. 地域住民が自分たちで決めた避難場所
3. 自宅近くの高台	4. 近くの高台に住んでいる親戚や知人の家
5. その他の場所（	）

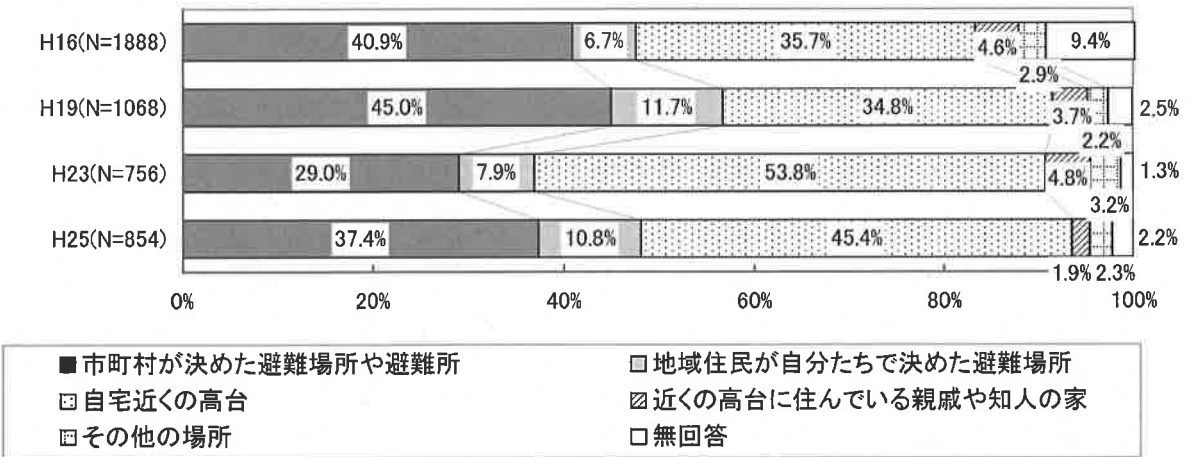


津波に対してどこに避難するかについて、「自宅近くの高台」（45.4%）が最も多く、次いで「市町村が決めた避難場所や避難所」（37.4%）となっている。

#### <その他回答>

- ・ まず近くに逃げ、その後避難場所へ行く
  - ・ 近くの山
  - ・ 近くの高いビル
- など

図. どこに避難するか  
～経年比較～

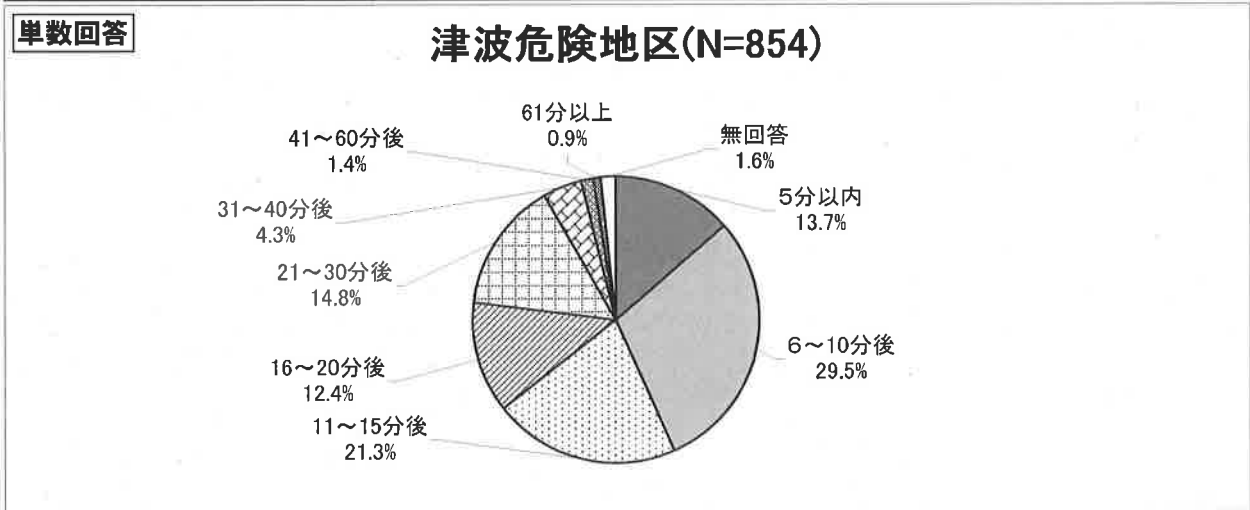


経年比較でみると、「市町村が決めた避難場所や避難所」（37.4%）は前回調査より8.4ポイント、「地域住民が自分たちで決めた避難場所」は前回調査より2.9ポイント増加している。「自宅近くの高台」（45.4%）は前回調査より8.4ポイント減少した。

## 2. 津波への意識と避難について

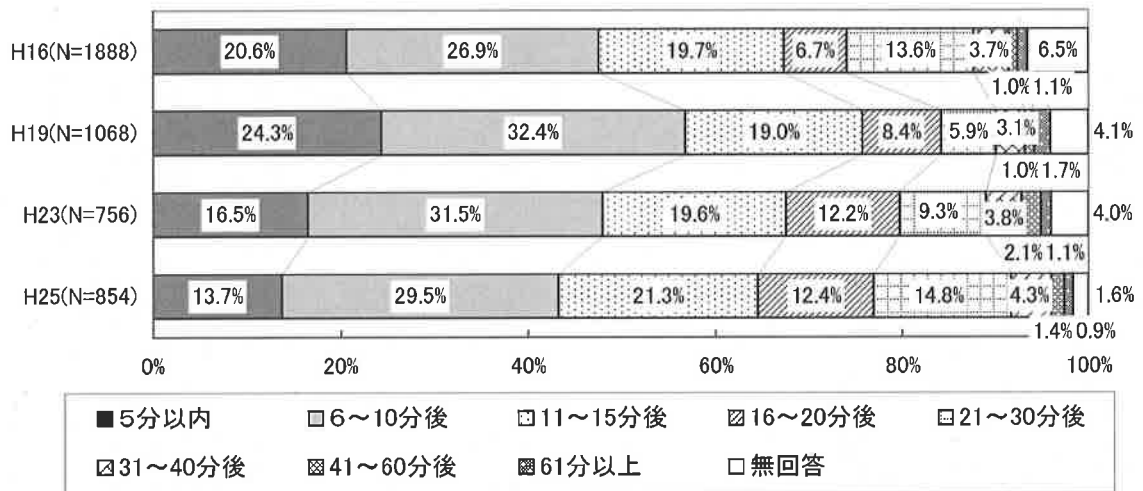
### 2-10 屋外に避難するのにどれくらいの時間がかかると思うか

<b>問</b>	余震（ゆれもどし）が続く中で、あなたが、避難のため家の外に出るのにどれくらいの時間がかかると思いますか。その際、絶対持っていきたいものをそろえる時間も含めてください。地震は夜遅くに起き、停電でまっ暗になっており、しかも揺れでタンスや棚の中のものが部屋中に散乱しているとしてお考えください（ひとつだけ○）。							
	1. 5分以内	2. 6～10分後	3. 11～15分後	4. 16～20分後	5. 21～30分後	6. 31～40分後	7. 41～60分後	8. 61分以上



夜間に自宅で大地震に遭遇した場合に屋外に避難するのにどれくらいの時間がかかると思うかについて、「6～10分後」（29.5%）が最も多く、次いで「11～15分後」（21.3%）となっている。  
10分以内に屋外に避難できると考えている人は43.2%となった。

**図. 屋外に避難するのにどれくらいの時間がかかると思うか  
～経年比較～**

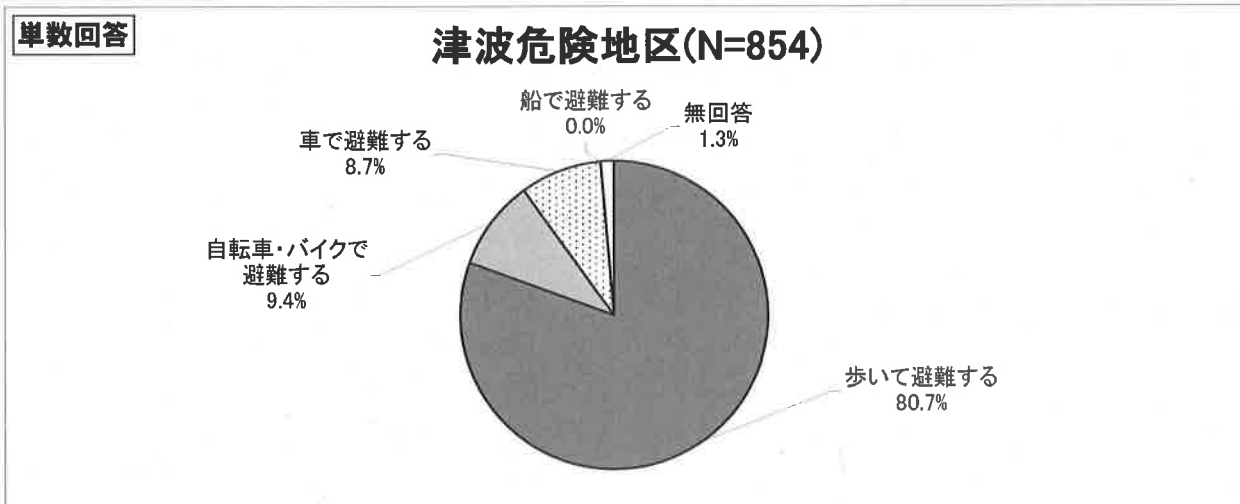


経年比較について、前回と比較すると、「11～15分後」から「31～40分後」までは上回っているがその他は下回っている。特に「5分以内」「10分以内」に避難できると考えている人は、平成19年以降年々減少傾向にある。

## 2. 津波への意識と避難について

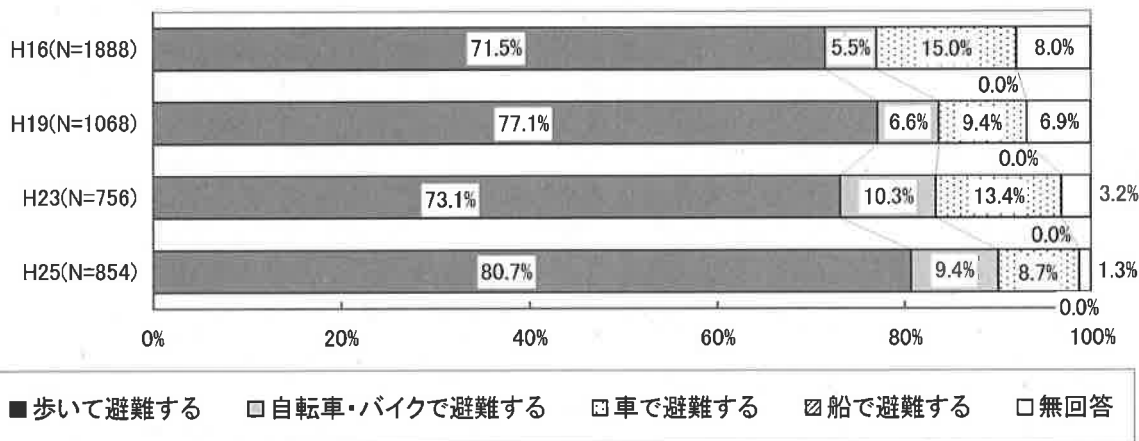
### 2-11 どのようにして避難するか

問	あなたはどのようにして避難しますか(ひとつだけ○)。
1. 歩いて避難する	2. 自転車・バイクで避難する
3. 車で避難する	4. 船で避難する



どのように避難するかについて、「歩いて避難する」(80.7%)が最も多く、次いで「自転車・バイクで避難する」(9.4%)となっている。

図. どのようにして避難するか  
～経年比較～



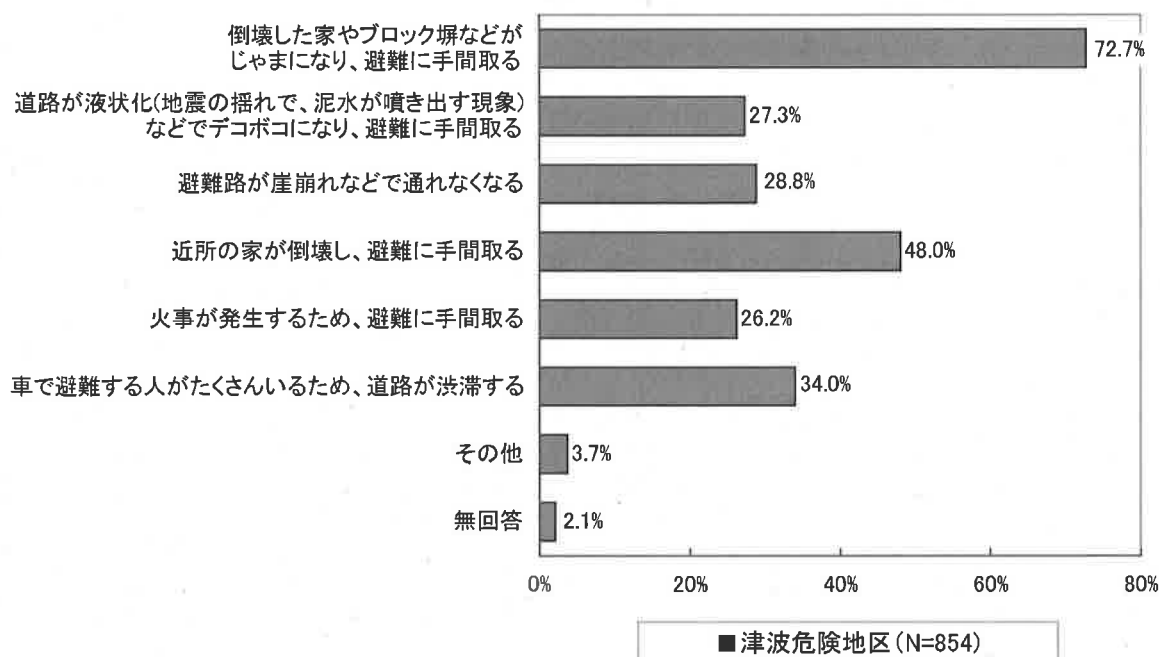
経年比較について、「歩いて避難する」が前回調査より7.6ポイント上回っている。「車で避難する」は4.7ポイント下回っている。  
歩いて避難することがより安全と思う人が増加傾向になっている。

## 2. 津波への意識と避難について

### 2-12 避難するときの妨げになると心配していることは何か

問	下にあげた中で、あなたが、避難するときの妨げになると心配していることについて、いくつでも○をつけてください。
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倒壊した家やブロック塀などがじゃまになり、避難に手間取る</li> <li>2. 道路が液状化(地震の揺れで、泥水が噴き出す現象)などでデコボコになり、避難に手間取る</li> <li>3. 避難路が崖崩れなどで通れなくなる</li> <li>4. 近所の家が倒壊し、避難に手間取る</li> <li>5. 火事が発生するため、避難に手間取る</li> <li>6. 車で避難する人がたくさんいるため、道路が渋滞する</li> <li>7. その他 ( )</li> </ol>

**複数回答** 図. 避難するときの妨げになると心配していることは何か



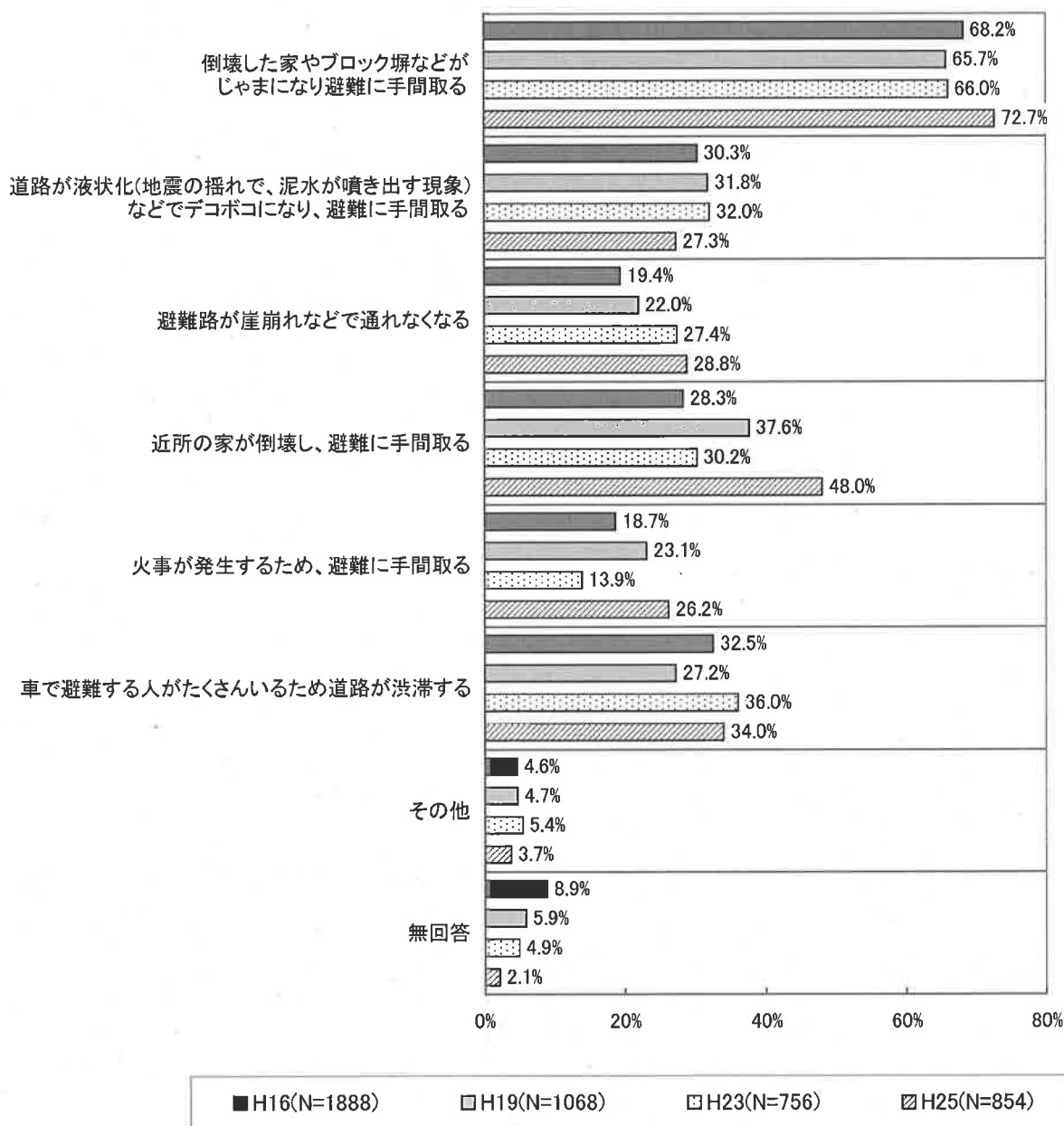
#### <その他回答>

- ・ 橋の崩落
- ・ 電柱、電線
- ・ 車イスを押しながらどこまで避難できるか など

避難するときの妨げになると心配していることについて、「倒壊した家やブロック塀などがじゃまになり、避難に手間取る」(72.7%)が最も多く、次いで「近所の家が倒壊し、避難に手間取る」(48.0%)、「車で避難する人がたくさんいるため、道路が渋滞する」(34.0%)となっている。

## 2. 津波への意識と避難について

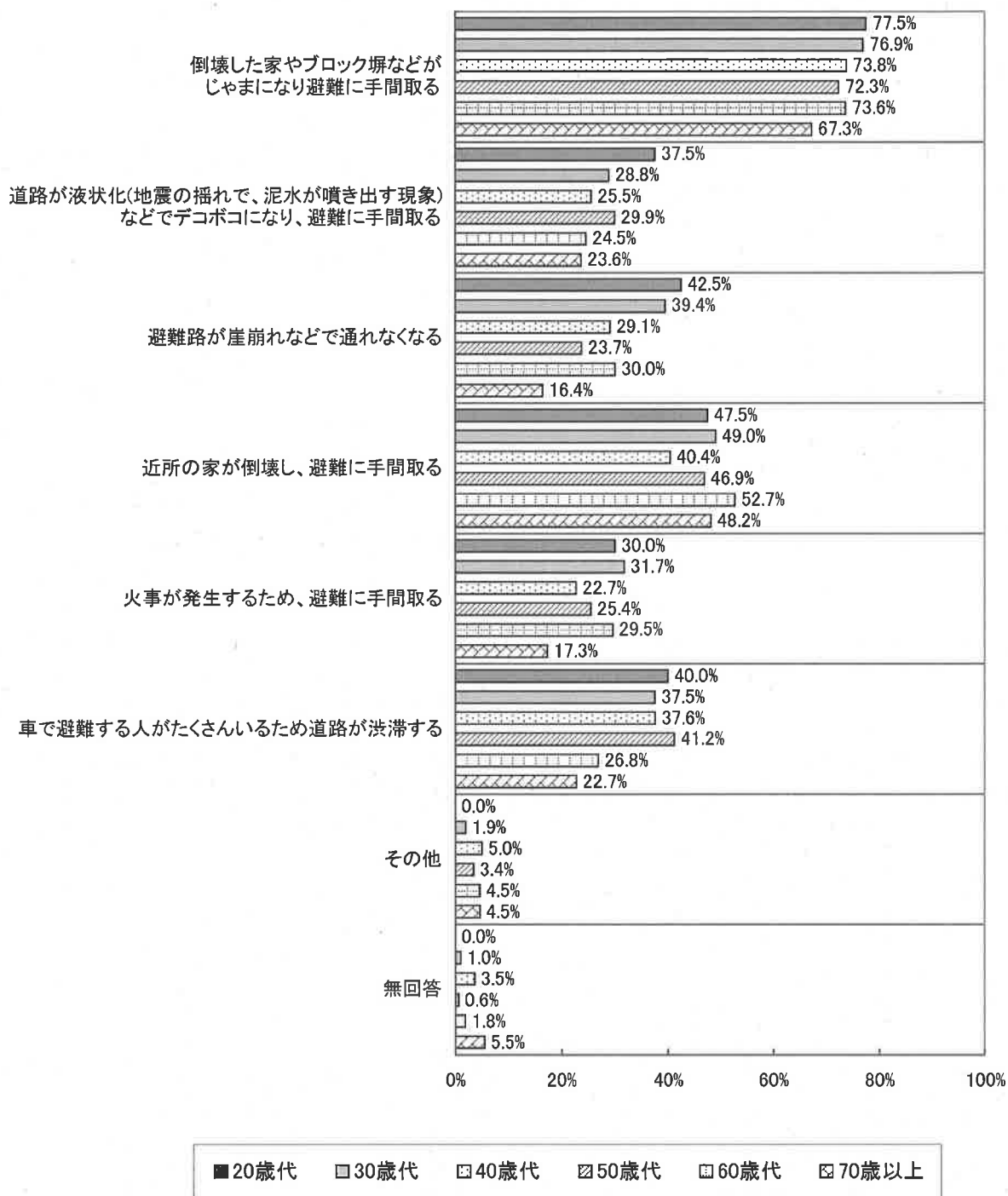
図. 避難するときの妨げになると心配していることは何か  
～経年比較～



経年比較について、「倒壊した家やブロック塀などがじゃまになり、避難に手間取る」(72.7%)が最も多い。また、「近所の家が倒壊し、避難に手間取る」(48.0%)が17.8ポイント、「火事が発生するため、避難に手間取る」(26.2%)は12.3ポイント増加している。

## 2. 津波への意識と避難について

図. 避難するときの妨げになると心配していることは何か  
～年齢比較～津波危険地区(N=792)



年齢比較について、年齢に関わらず「倒壊した家やブロック塀などがじゃまになり、避難に手間取る」が最も多くなっている。また、「避難路が崖崩れなどで通れなくなる」が、「20歳代」と「70歳以上」で26.1ポイントと大きな差が出ている。

## 2. 津波への意識と避難について

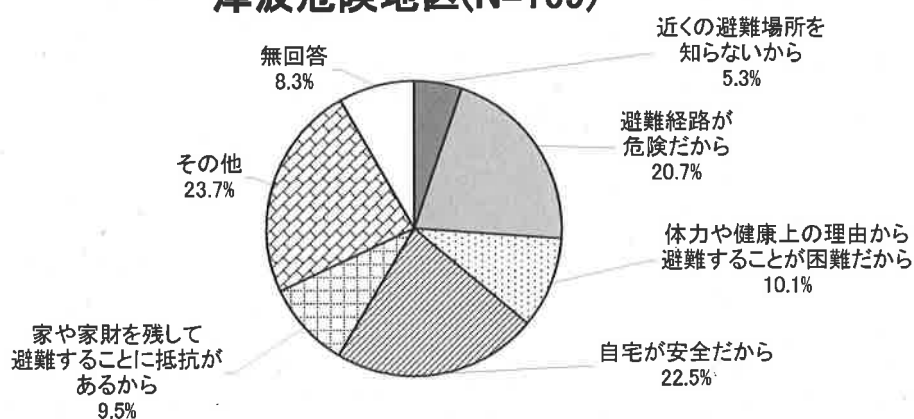
### 2-13 避難しない理由は何か

問 あなたが避難しない主な理由は何ですか（ひとつだけ○）。

1. 近くの避難場所を知らないから
2. 避難経路が危険だから
3. 体力や健康上の理由から避難することが困難だから
4. 自宅が安全だから
5. 家や家財を残して避難することに抵抗があるから
6. その他（ ）

単数回答

### 津波危険地区(N=169)



### <その他回答>

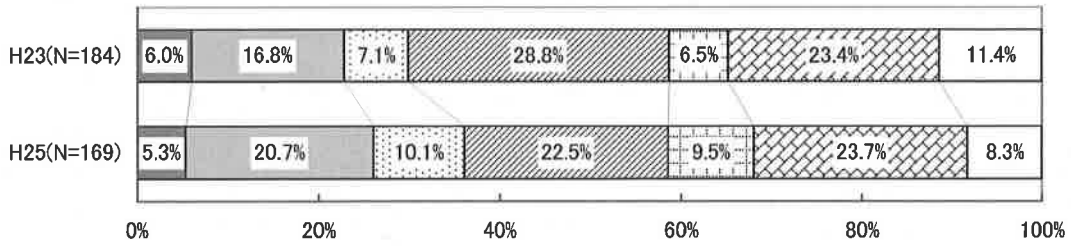
- ・ 避難しないとイケないのかどうかの判断がわかりにくいから
- ・ 家に高齢者がいるから
- ・ 避難可能な高くて強い建物が近くに存在しないから

など

避難しない理由について、その他を除いて「自宅が安全だから」(22.5%)が最も多く、次いで「避難経路が危険だから」(20.7%)、「体力や健康上の理由から避難することが困難だから」(10.1%)となっている。

## 2. 津波への意識と避難について

図. 避難しない理由は何か  
～経年比較～



- |                           |              |
|---------------------------|--------------|
| ■ 近くの避難場所を知らないから          | ☐ 避難経路が危険だから |
| ☐ 体力や健康上の理由から避難することが困難だから | ☑ 自宅が安全だから   |
| ☐ 家や家財を残して避難することに抵抗があるから  | ☐ その他        |
| □ 無回答                     |              |

経年比較でみると、「避難経路が危険だから」が3.9ポイント、「体力や健康上の理由から避難することが困難だから」が3.0ポイント増加しており、「自宅が安全だから」が6.3ポイント減少している。



### 3. 避難体制について

#### 3-1 災害時要援護者を地域として支援する体制ができているか

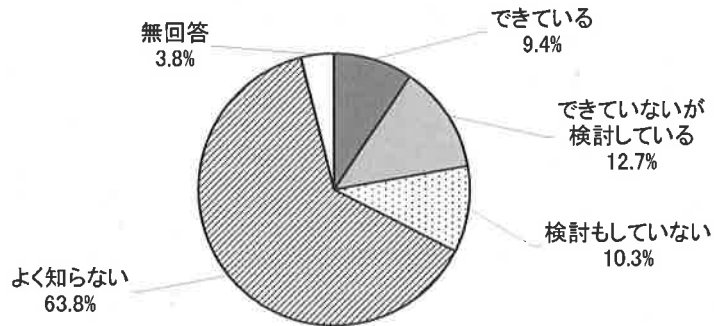
問

あなたがお住まいの地域では、ひとりで避難することが困難な高齢者や要介護者の避難を地域として支援する体制ができていますか（ひとつだけ○）。

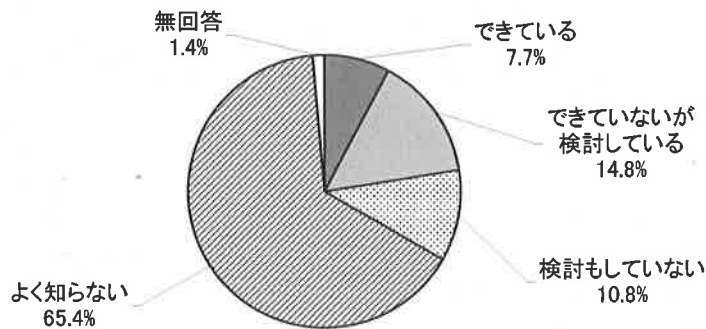
1. できている 2. できていないが検討している 3. 検討もしていない 4. よく知らない

単数回答

#### 津波危険地区(N=1030)



#### 全県(N=1103)

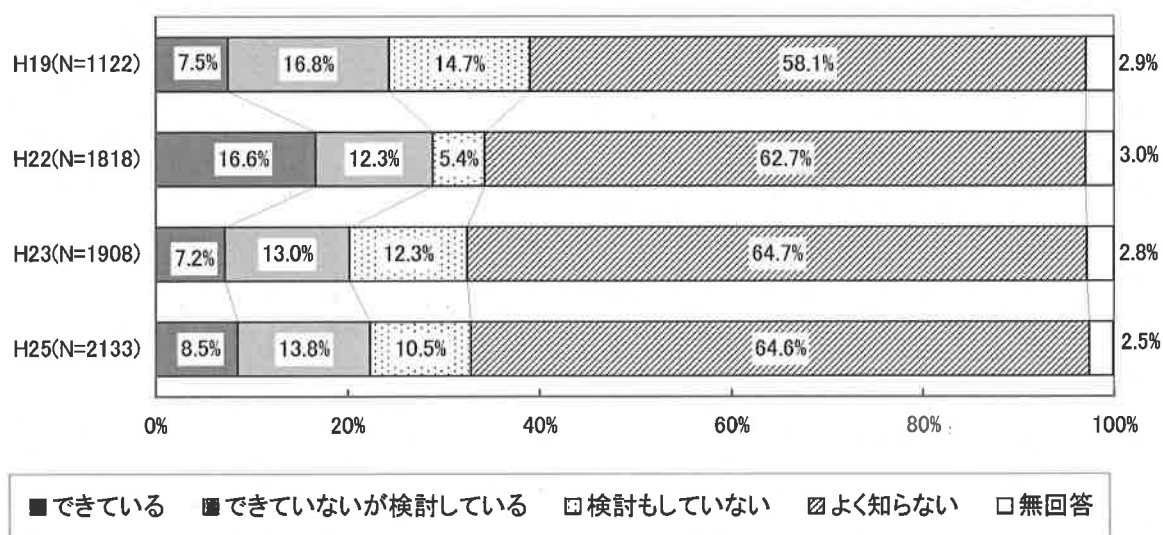


災害時要援護者を地域として支援する体制の有無について、津波危険地区(63.8%)及び全県(65.4%)ともに「よく知らない」が最も多く、次いで「できていないが検討している」となっている。

津波危険地区と全県で特に差はみられない。

### 3. 避難体制について

図. 災害時要援護者を地域として支援する体制ができているか  
～経年比較～



経年比較でみると、特に大きな変化はみられないが、「よく知らない」が依然として高い傾向にある。

### 3. 避難体制について

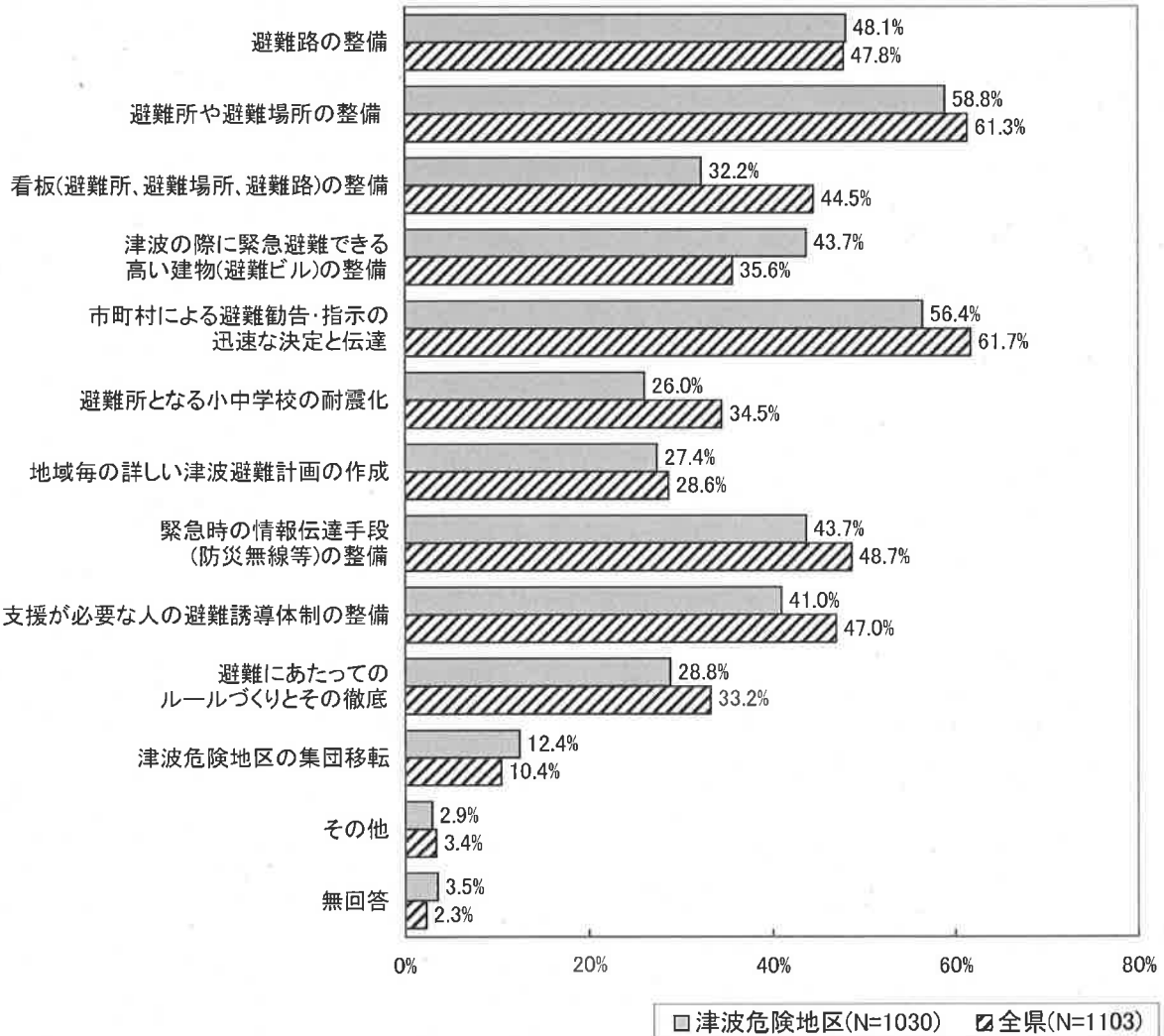
#### 3-2 地震や津波の時、行政は何をすべきだと思うか

問	地震や津波の時の避難対策として、県や市町村は何をすべきだと思いますか（いくつでも○）。
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 避難路の整備</li><li>2. 避難所や避難場所の整備</li><li>3. 看板(避難所、避難場所、避難路)の整備</li><li>4. 津波の際に緊急避難できる高い建物(避難ビル)の整備</li><li>5. 市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達</li><li>6. 避難所となる小中学校の耐震化</li><li>7. 地域毎の詳しい津波避難計画の作成</li><li>8. 緊急時の情報伝達手段(防災無線等)の整備</li><li>9. 支援が必要な人の避難誘導體制の整備</li><li>10. 避難にあたってのルールづくりとその徹底</li><li>11. 津波危険地区の集団移転</li><li>12. その他( )</li></ol>	

### 3. 避難体制について

複数回答

図. 地震や津波の時、行政は何をすべきだと思うか



#### <その他回答>

●津波危険地区

- ・非常食の備蓄倉庫整備
- ・地区での避難訓練の徹底
- ・水門をつくる。橋の強化等
- ・堤防、県、市道の整備

●全県

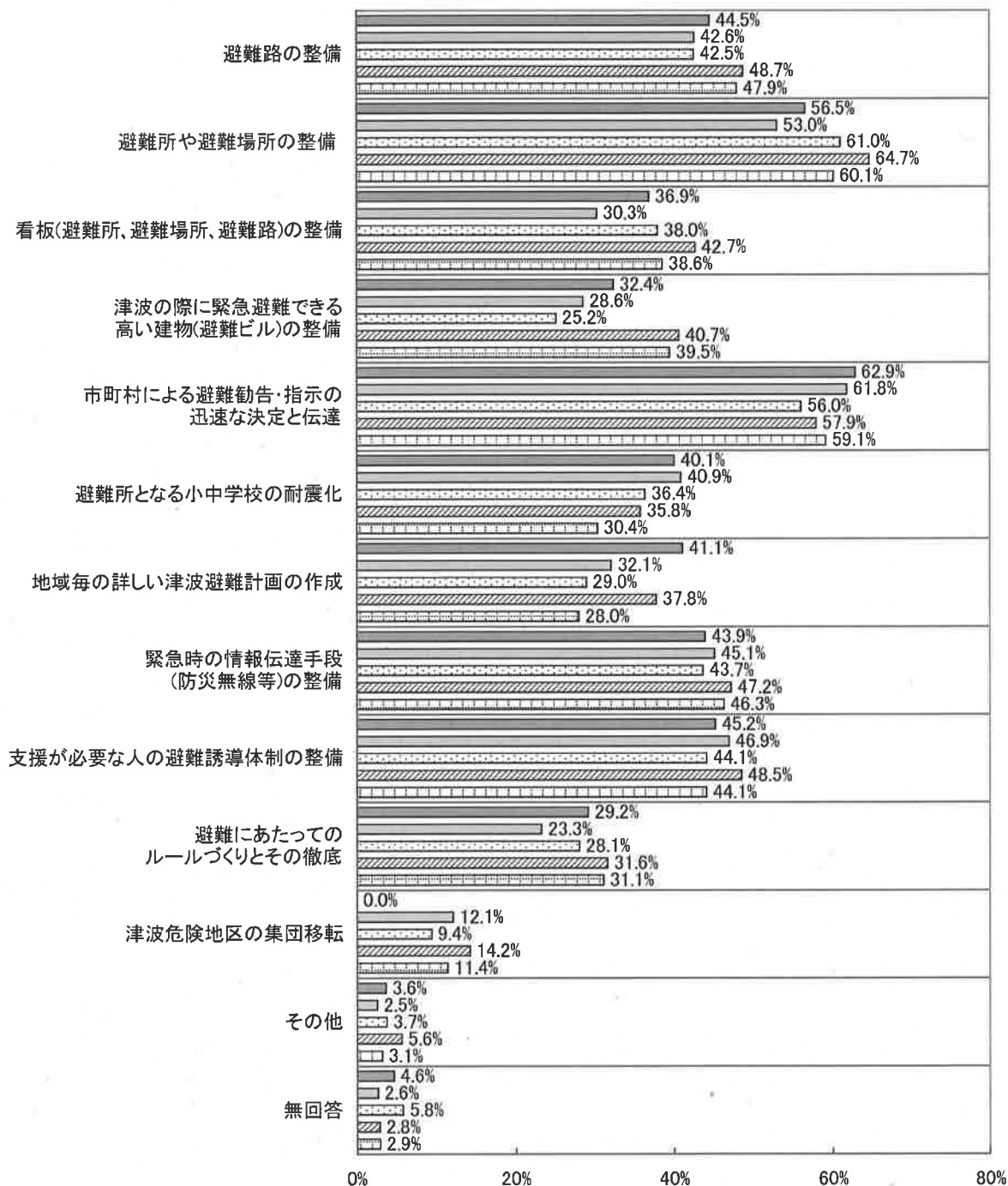
- ・町内放送が聞こえにくいので改善
- ・企業への耐震化への調査指導
- ・避難場所や避難路の選択肢を増やしてほしい
- ・堤防の点検、改修 など

地震や津波のとき、行政は何をすべきかについて、津波危険地区では、「避難所や避難場所の整備」(58.8%)、次いで「市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達」(56.4%)となり、全県では、「市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達」(61.7%)、次いで「避難所や避難場所の整備」(61.3%)となっている。

いずれの地区でも、「避難所や避難場所の整備」「市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達」が回答の上位となっている。

### 3. 避難体制について

図. 地震や津波の時、行政は何をすべきだと思うか  
～経年比較～



■ H16(N=2328) □ H19(N=1122) □ H22(N=1818) ▨ H23(N=1908) ▩ H25(N=2133)

経年比較でみると、特に大きな変化はみられないが、「地域毎の詳しい津波避難計画の作成」が前回調査時と比較して9.8ポイント減少している。

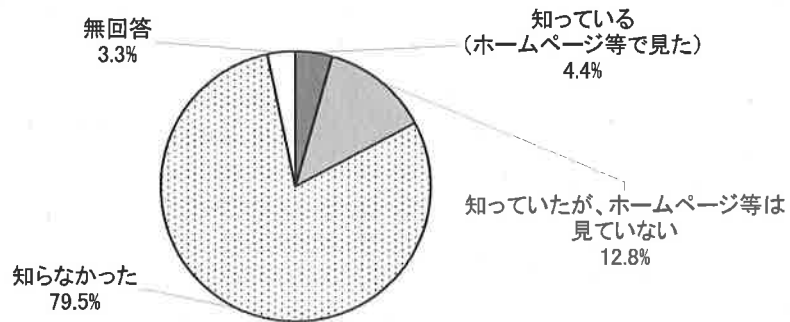
### 3. 避難体制について

#### 3-3 避難先に3段階のレベル分けがされているのを知っているか

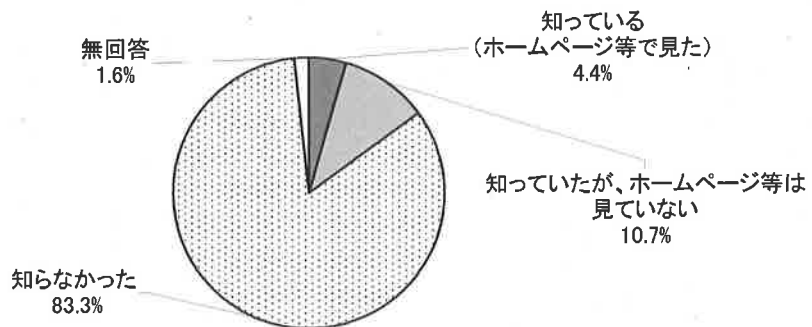
<b>問</b>	あなたは、各地区での避難先に、安全に対する3段階のレベル分けがされているのを知っていますか（ひとつだけ○）。
	1. 知っている（ホームページ等で見た）                      2. 知っていたが、ホームページ等は見えていない 3. 知らなかった

#### 単数回答

#### 津波危険地区(N=1030)



#### 全県(N=1103)



避難先の安全レベルが設定されていることについて、津波危険地区及び全県ともに「知らなかった」（約8割）が最も多く、次いで「知っていたがホームページ等は見えていない」（約1割）となっている。

津波危険地区と全県で特に差はみられない。

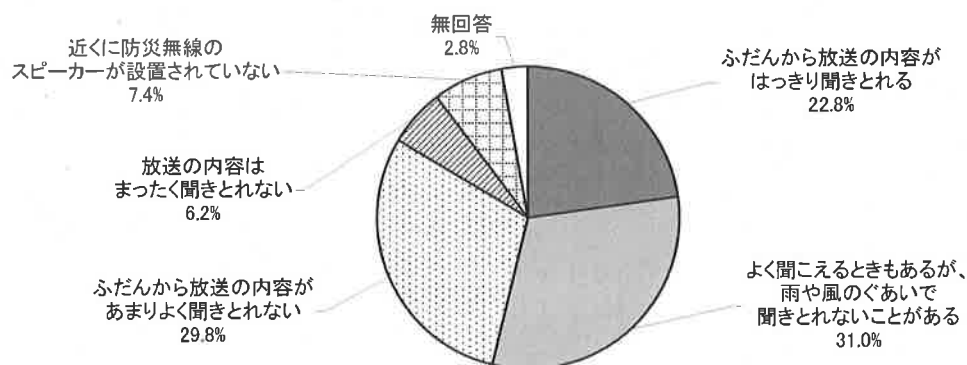
#### 4. 避難情報について

##### 4-1 近くに防災無線のスピーカーはあるか。聞こえ具合はどうか

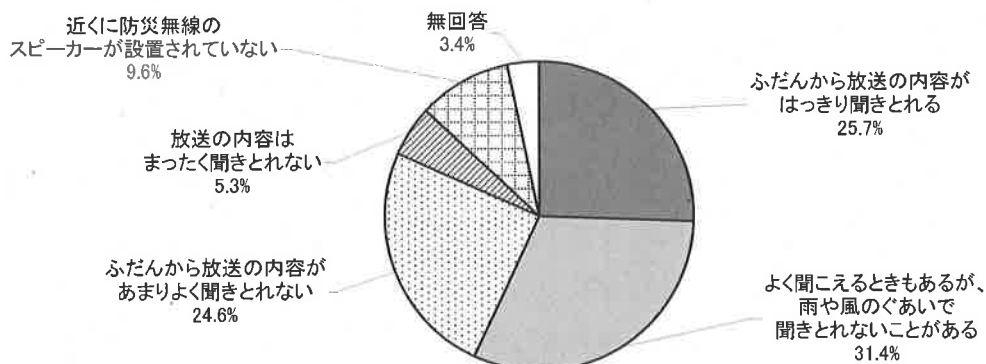
<b>問</b>	市役所や町村役場が、緊急時の連絡などに使う屋外に設置された防災無線のスピーカーはありますか。また、そのスピーカーの聞こえ具合はどうか（ひとつだけ○）。
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ふだんから放送の内容がはっきり聞きとれる</li> <li>2. よく聞こえるときもあるが、雨や風のぐあいで聞きとれないことがある</li> <li>3. ふだんから放送の内容があまりよく聞きとれない</li> <li>4. 放送の内容はまったく聞きとれない</li> <li>5. 近くに防災無線のスピーカーが設置されていない</li> </ol>

##### 単数回答

##### 津波危険地区(N=1030)



##### 全県(N=1103)

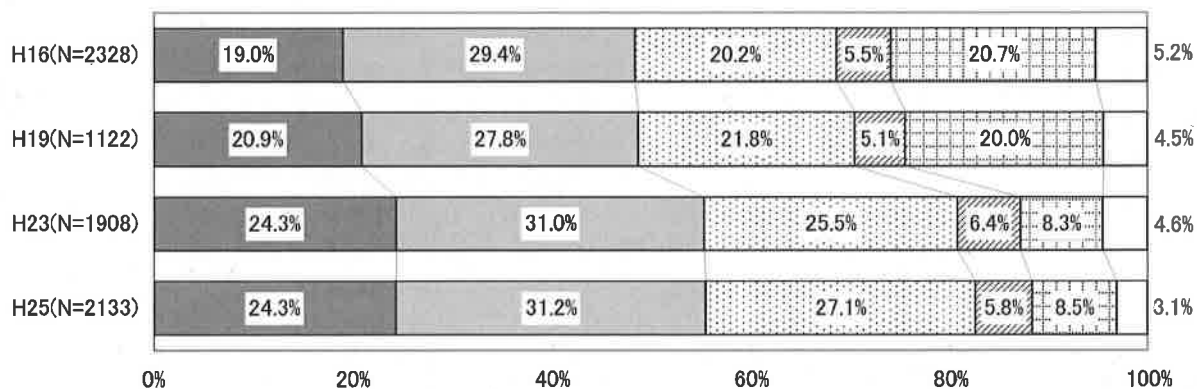


防災無線のスピーカーについて、津波危険地区（31.0%）及び全県（31.4%）ともに「よく聞こえるときもあるが、雨や風のぐあいで聞きとれないことがある」が最も多く、次いで津波危険地区は「ふだんから放送の内容があまりよく聞きとれない」（29.8%）、全県は「ふだんから放送の内容がはっきり聞きとれる」（25.7%）となっている。

津波危険地区と全県では特に差はみられない。

#### 4. 避難情報について

図. 近くに防災無線のスピーカーはあるか。聞こえ具合はどうか  
～ 経年比較～



- ふだんから放送の内容がはっきり聞きとれる
- ふだんから放送の内容があまりよく聞きとれない
- 近くに防災無線のスピーカーが設置されていない
- よく聞こえるときもあるが、雨や風のぐあいで聞きとれないことがある
- ▣ 放送の内容はまったく聞きとれない
- 無回答

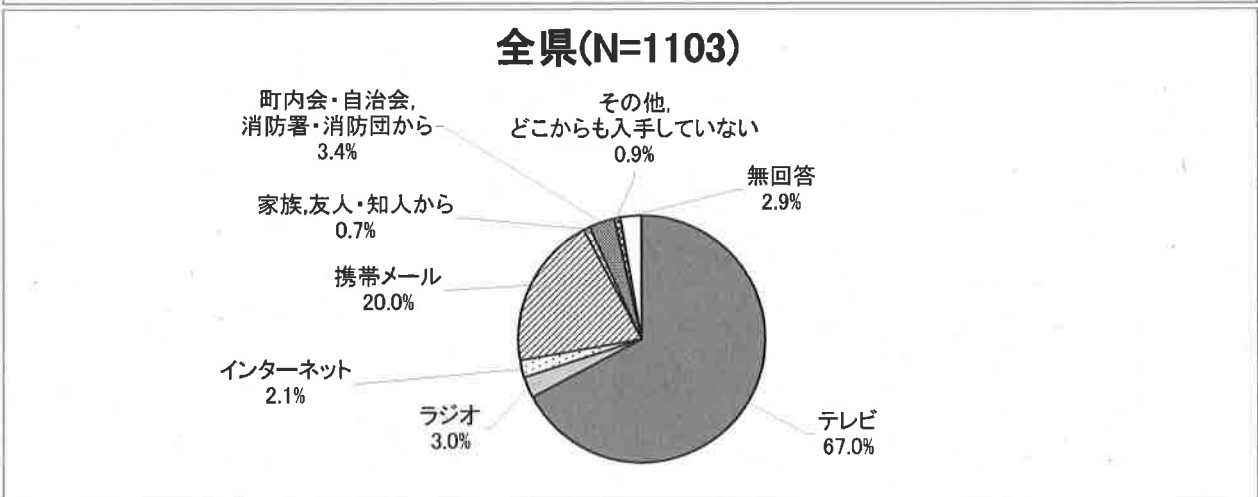
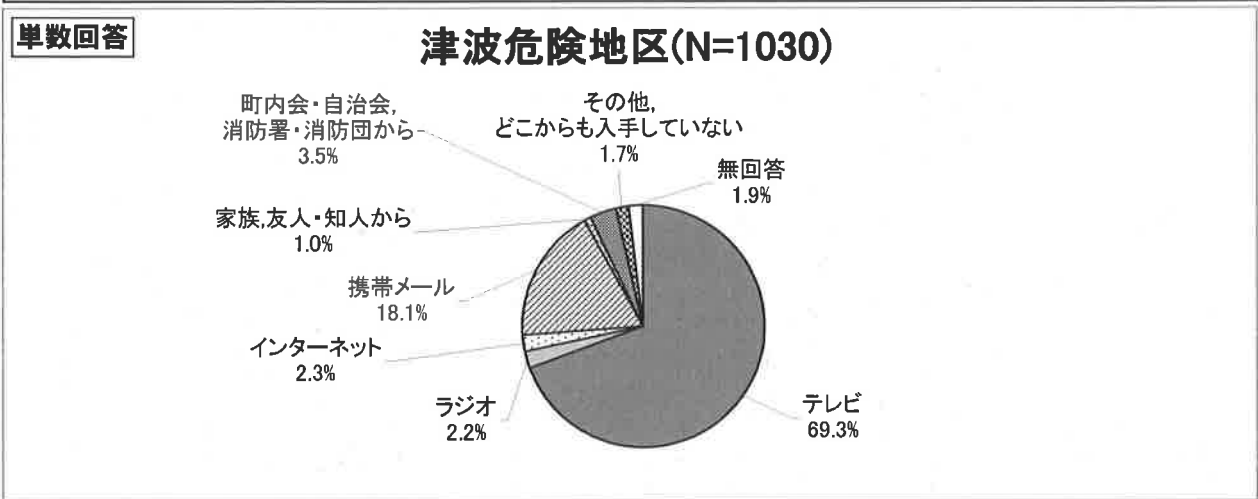
経年変化について、「よく聞こえるときもあるが、雨や風のぐあいで聞きとれないことがある」(31.2%)が最も多く、次いで「ふだんから放送の内容がよく聞きとれない」(27.1%)となっている。



#### 4. 避難情報について

##### 4-2 緊急情報をどのように入手するか

問	あなたは、緊急情報をどのように入手していますか（ひとつだけ○）。			
1. テレビ	2. ラジオ	3. インターネット	4. 携帯メール	
5. 家族から	6. 友人・知人から	7. 町内会・自治会から	8. 消防署・消防団から	
9. その他（	）		10. どこからも入手していない	



**<その他回答>**

- |          |              |
|----------|--------------|
| ●津波危険地区  | ●全県          |
| ・防災放送（町） | ・防災無線ラジオ     |
| ・自主防災会議  | ・勤務先の防災無線 など |

緊急情報をどのように入手するかについて、津波危険地区（69.3%）及び全県（67.0%）とも「テレビ」が最も多く、次いで「携帯メール」となっている。

津波危険地区と全県で大きな差はみられない。

「家族から」「友人・知人から」、「町内会・自治会から」「消防署・消防団から」、「その他」「どこからも入手していない」は1%以下多数の為、一つにまとめて算出した。

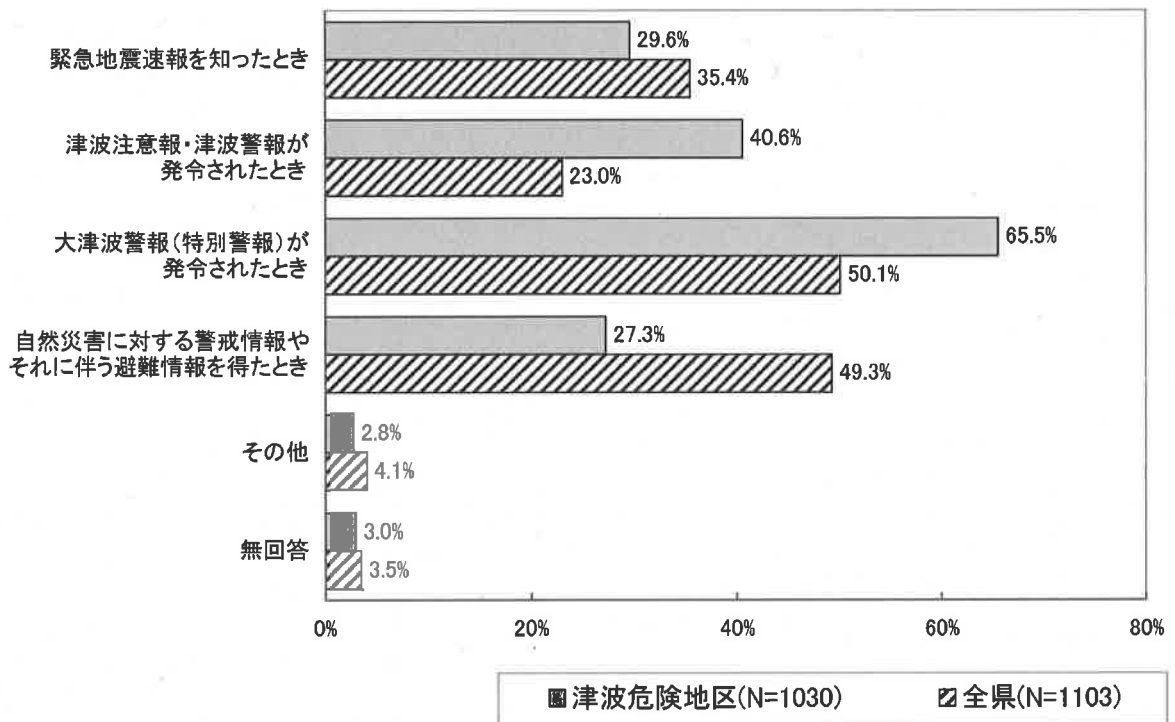
## 4. 避難情報について

### 4-3 どのような情報を得たときに避難をするか

問	あなたは、どのような情報を得たときに避難をしますか（いくつでも○）。
1. 緊急地震速報を知ったとき 2. 津波注意報・津波警報が発令されたとき 3. 大津波警報（特別警報）が発令されたとき 4. 自然災害に対する警戒情報やそれに伴う避難情報を得たとき 5. その他（ ）	

#### 複数回答

図. どのような情報を得たときに避難をするか



#### <その他回答>

##### ●津波危険地区

- ・地震の大きさにより（6以上）避難する
- ・町内会や近所の様子をみてから
- ・警報ではなく指示がでたら

##### ●全県

- ・自分で避難が必要だと判断したとき
- ・市の避難勧告スピーカーより
- ・情報を得た後に判断する など

どのような情報を得たときに避難するかについて、津波危険地区及び全県ともに「大津波警報(特別警報)が発令されたとき」が最も多くなっている。次いで、津波危険地区では「津波注意報・津波警報が発令されたとき」(40.6%)、全県では「自然災害に対する警戒情報やそれに伴う避難情報を得たとき」(49.3%)となっている。

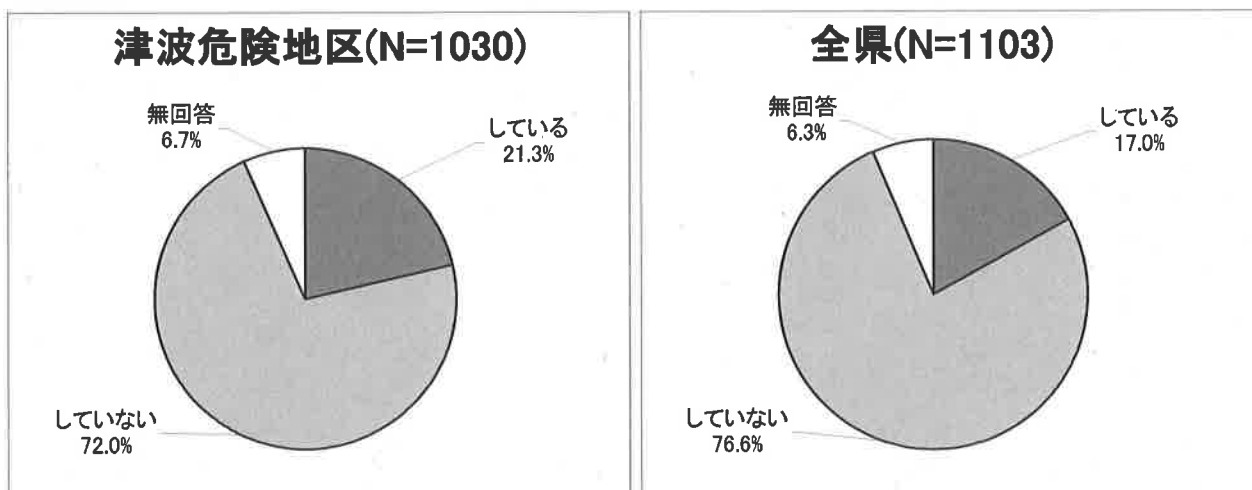
津波危険地区及び全県でどのような情報で避難を開始するかについて、違いがみられる。

#### 4. 避難情報について

##### 4-4 「防災わかやまメール配信サービス」に登録しているか

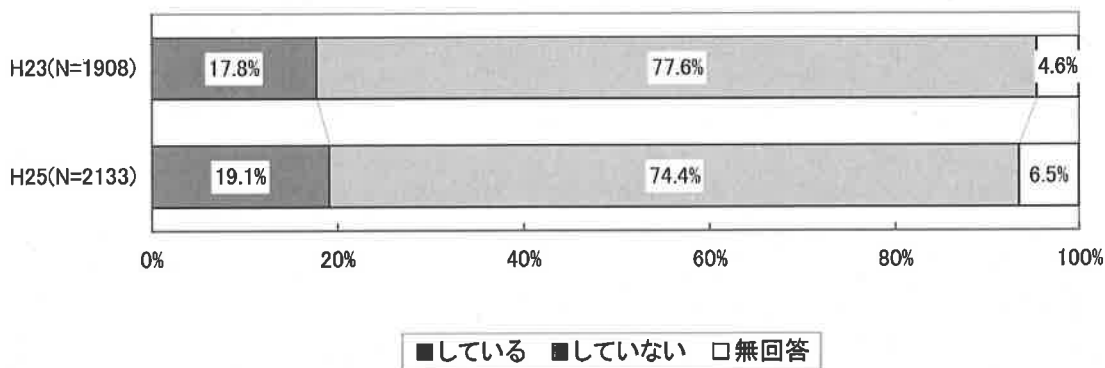
問	県の『防災わかやまメール配信サービス（気象情報や避難勧告などの緊急情報を電子メールで配信するサービス）』に登録していますか。
1. している	2. していない

##### 単数回答



防災わかやまメール配信サービスについて、津波危険地区(72.0%)及び全県(76.6%)とも「していない」が大半を占めている。  
津波危険地区と全県で特に差はみられない。

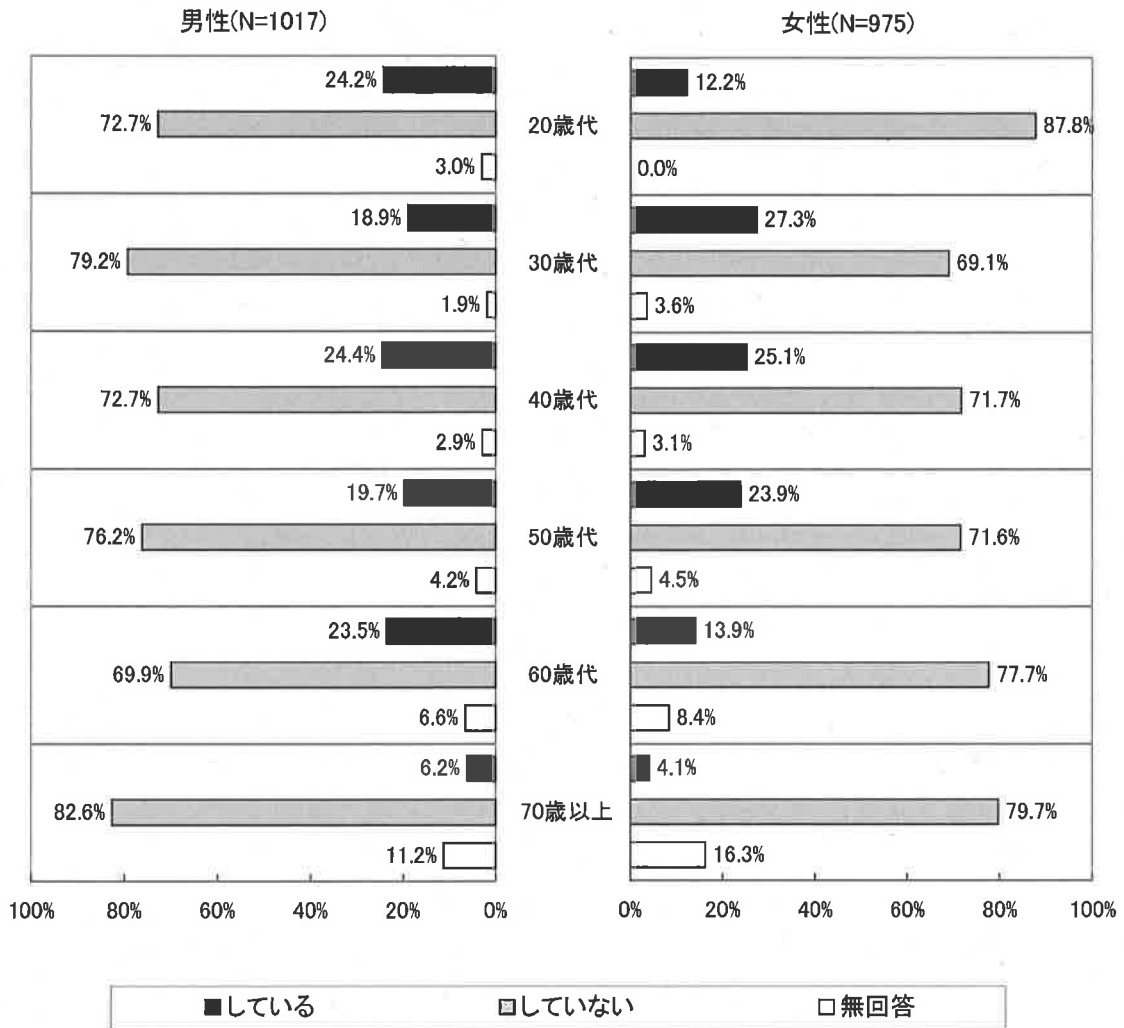
図. 「防災わかやまメール配信サービス」に登録しているか  
～経年比較～



経年比較について、大きな変化はみられない。「していない」が前年度調査時より3.2ポイント減少しているが、7割を超えており、依然として高い。

4. 避難情報について

図. 「防災わかやまメール配信サービス」に登録しているか  
～性・年代比較～



性・年代別について、各年代の男女とも「していない」がほとんどを占めている。「している」は「70歳以上」の男女で最も少なくなっており、性・年代別で差がみられる。

#### 4. 避難情報について

##### 4-5 緊急地震速報を知っているか

問

気象庁では、地震の大きな揺れが来る数秒から数十秒前に、「大きな揺れが来る」ことを知らせる緊急地震速報を発表しています。あなたはこのことをご存じですか。

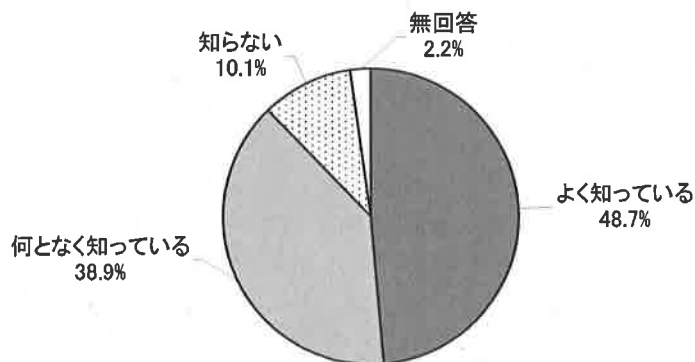
1. よく知っている

2. 何となく知っている

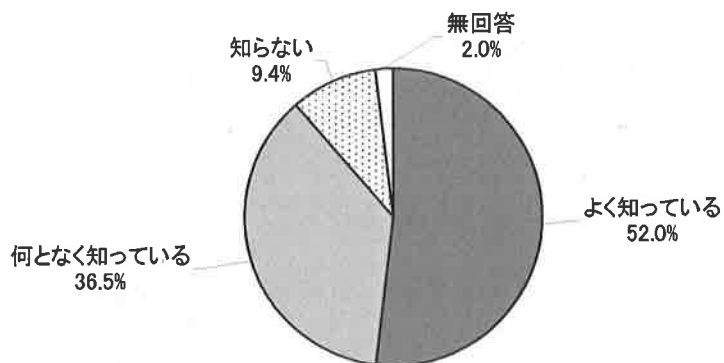
3. 知らない

単数回答

#### 津波危険地区(N=1030)



#### 全県(N=1103)

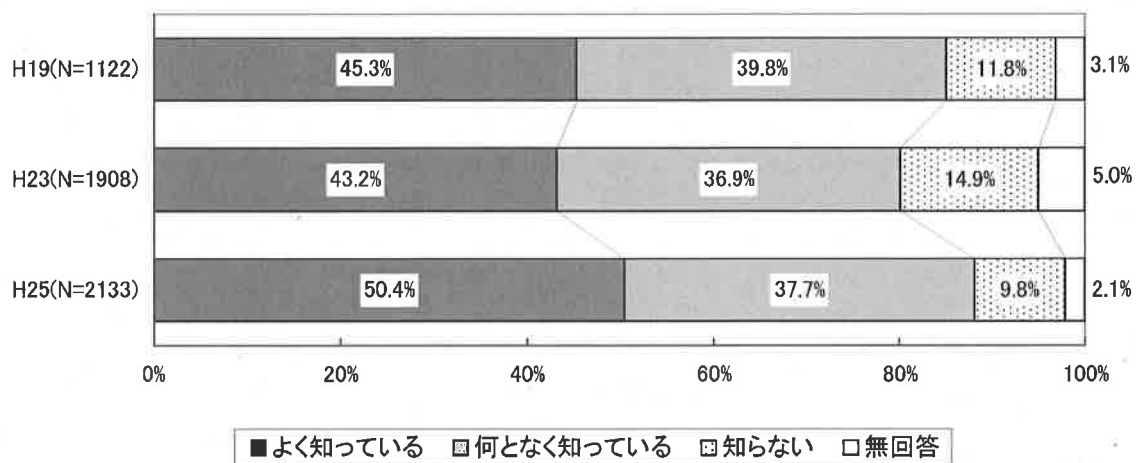


緊急地震速報を知っているかについて、津波危険地区（48.7%）及び全県（52.0%）とも「よく知っている」が最も多く、次いで「何となく知っている」となっている。緊急地震速報の認知度は高い。

津波危険地区と全県で特に差はみられない。

#### 4. 避難情報について

図. 緊急地震速報を知っているか  
～経年比較～

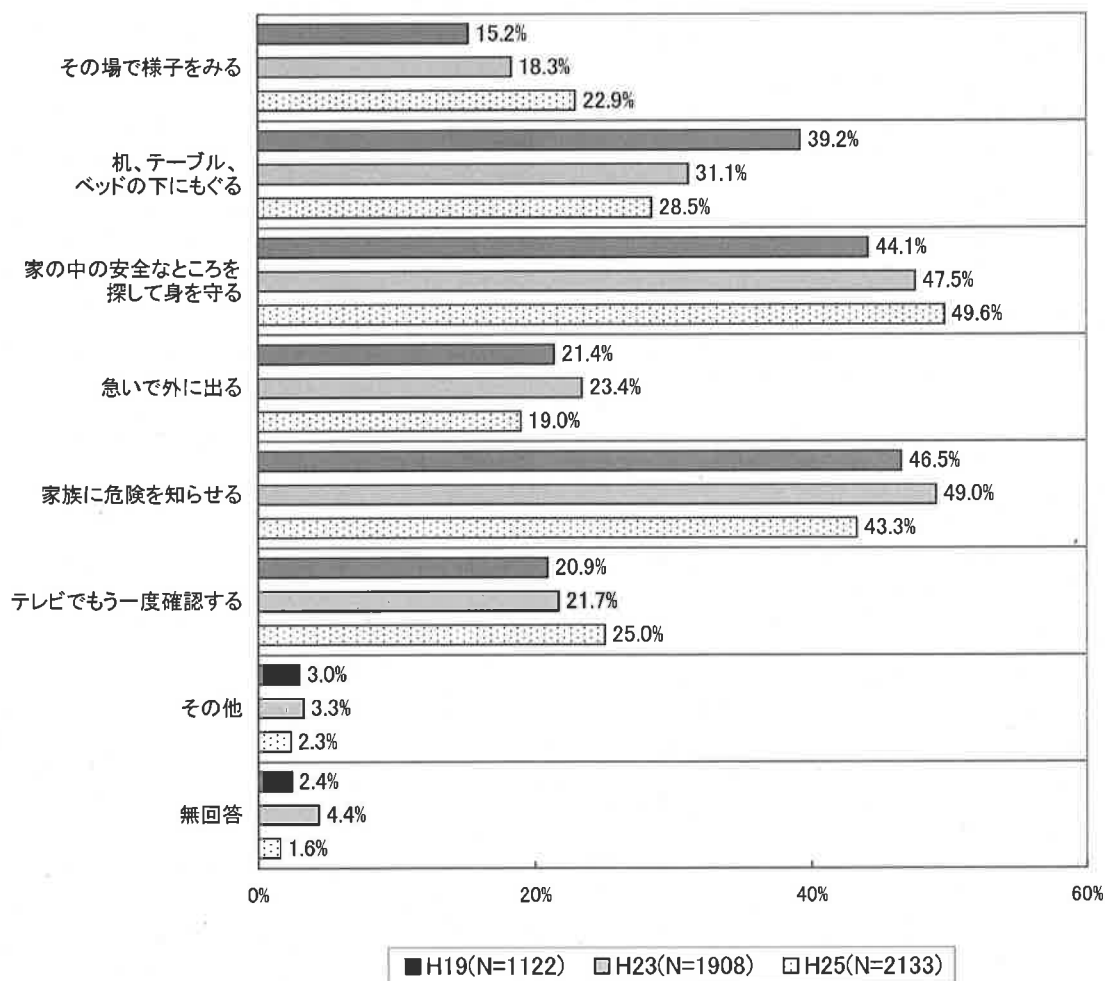


経年比較について、「よく知っている」(50.4%)は前回調査より7.2ポイント、「何となく知っている」(37.7%)は0.8ポイント上回っており、緊急地震速報の認知度は増加傾向にある。



#### 4. 避難情報について

図. 自宅で緊急地震速報を受けたときどうするか  
～経年比較～



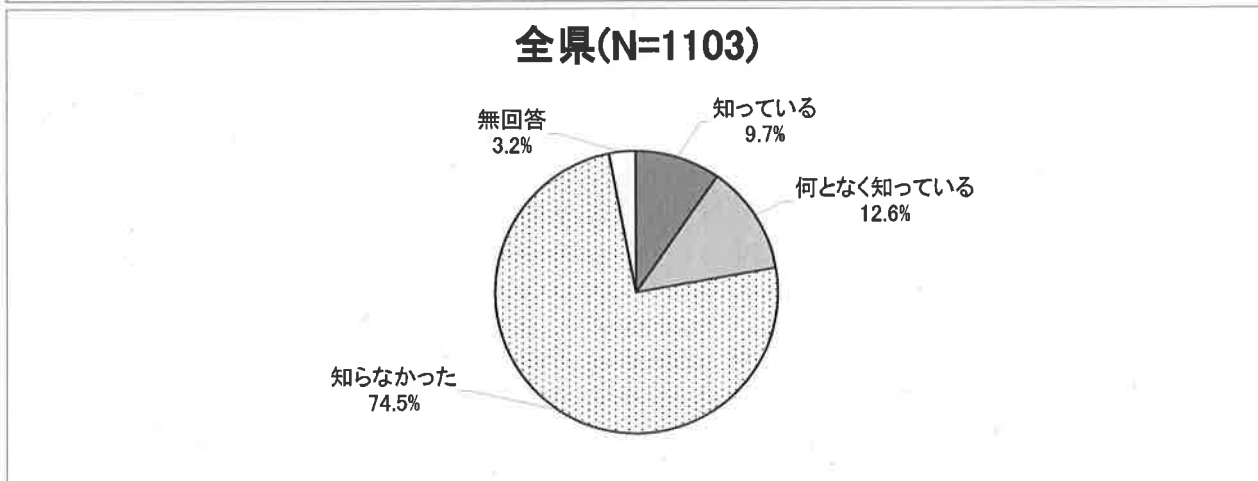
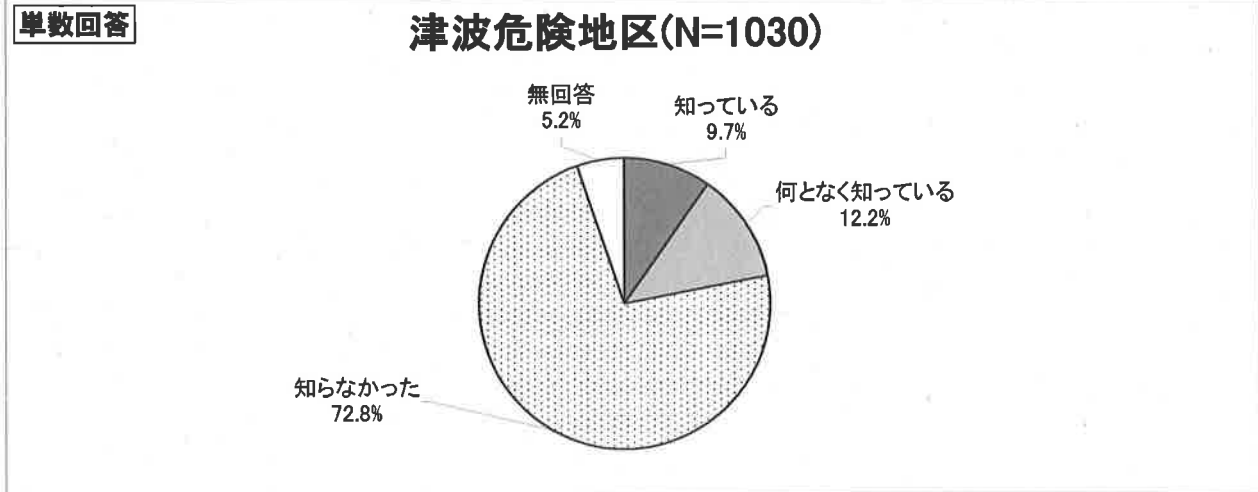
経年比較について、特に大きな変化は見られないが、「家の中の安全なところを探して身を守る」が最も多く、増加傾向にある。また、「その場で様子を見る」「テレビでもう一度確認する」も増加傾向にあるが、「机、テーブル、ベッドの下にもぐる」「急いで外に出る」が前回調査時より減少している。



#### 4. 避難情報について

##### 4-7 避難カードを知っているか

問	あなたは、避難カード（下図参照）を知っていますか（ひとつだけ○）。	
1. 知っている	2. 何となく知っている	3. 知らなかった



避難カードを知っているかについて、津波危険地区(72.8%)及び全県(74.5%)ともに「知らなかった」が最も多くなっている。

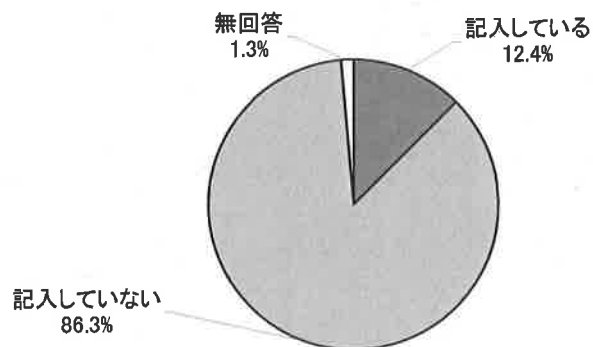
#### 4. 避難情報について

##### 4-8 避難カードに記入しているか

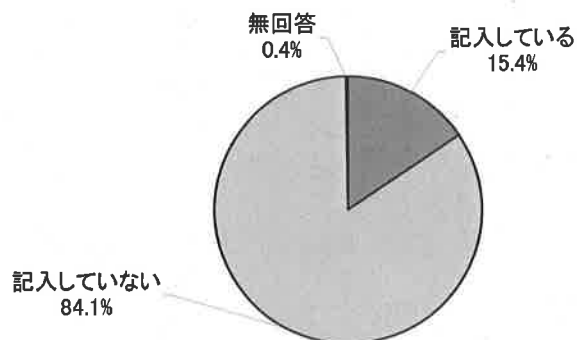
問	あなたは、避難カードに記入していますか（ひとつだけ○）。
1. 記入している	2. 記入していない

##### 単数回答

#### 津波危険地区(N=226)



#### 全県(N=246)



避難カードに記入しているかについて、津波危険地区(86.3%)及び全県(84.1%)ともに「記入していない」が8割以上を占めている。

避難カードの存在を知っていても、記入するまでには至っていないことがわかる。

## 5. 津波の考え方について

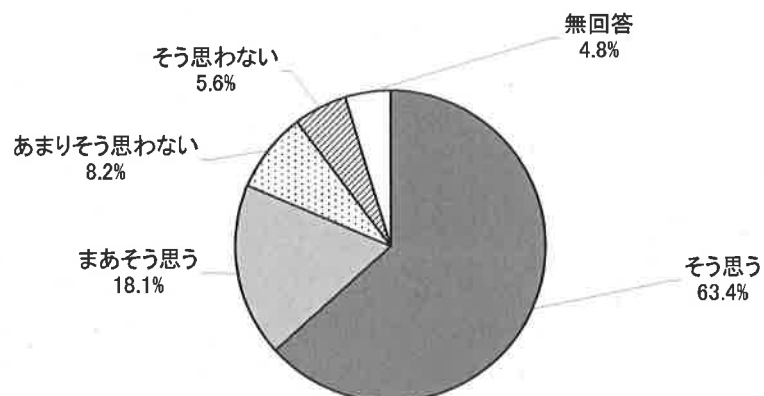
### 5-1 「大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く」についてどう思うか

問 「大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く」についてどう思いますか。

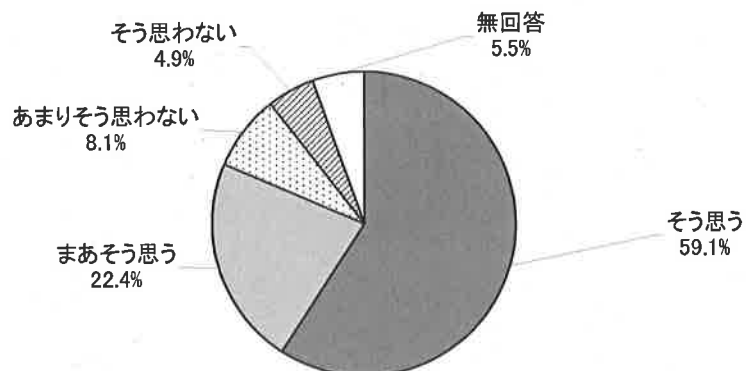
1. そう思う
2. まあそう思う
3. あまりそう思わない
4. そう思わない

単数回答

#### 津波危険地区(N=1030)



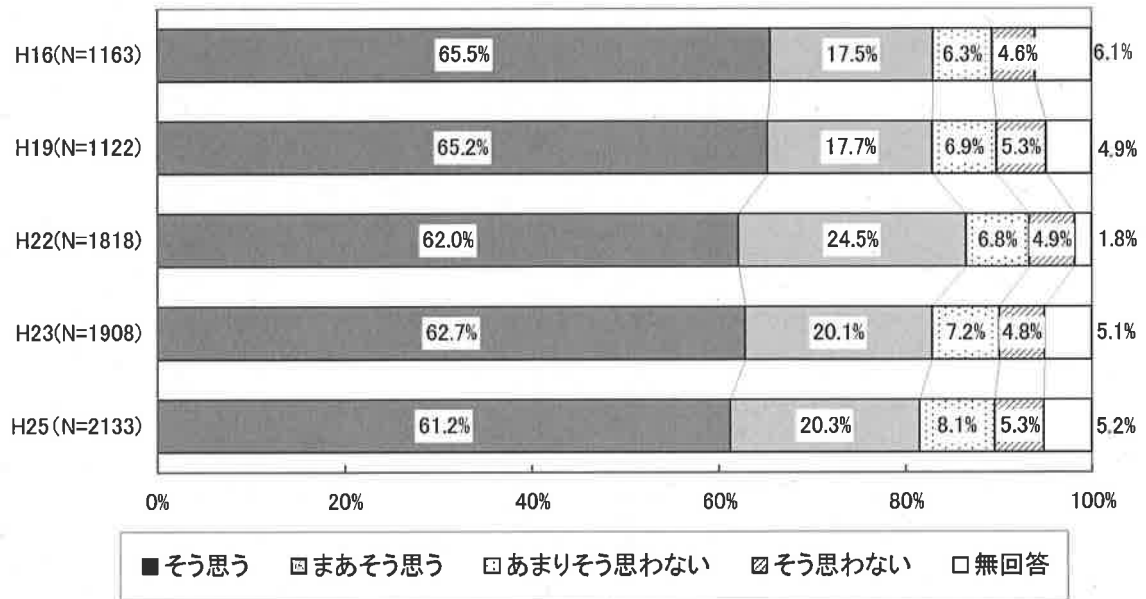
#### 全県(N=1103)



「大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く」と思うかについて、津波危険地区(63.4%)及び全県(59.1%)ともに「そう思う」が最も多く、次いで「まあそう思う」となっている。津波危険地区と全県で、特に大きな差はみられない。

## 5. 津波の考え方について

図. 「大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く」についてどう思うか  
～経年比較～

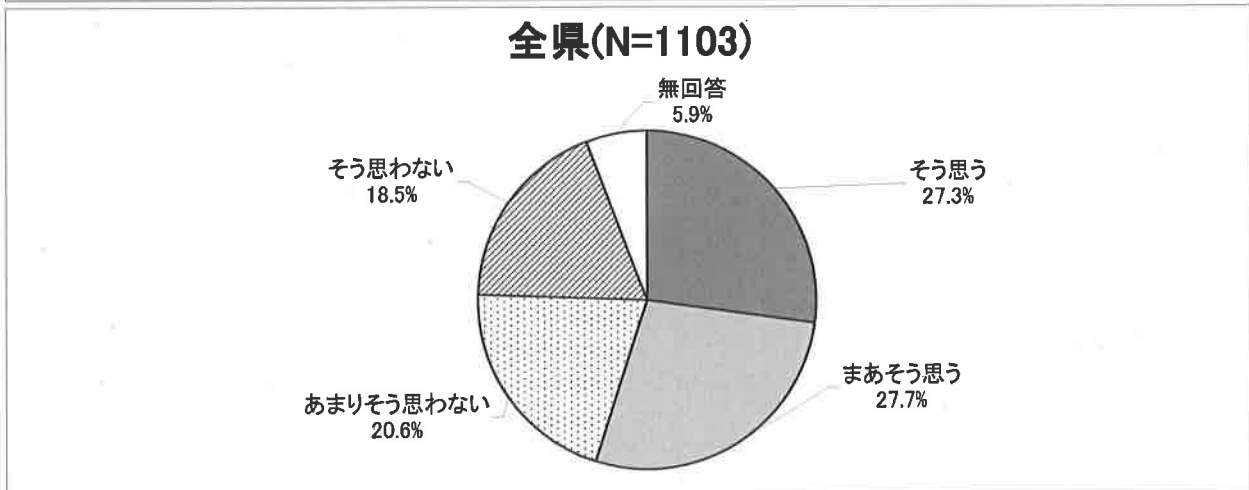
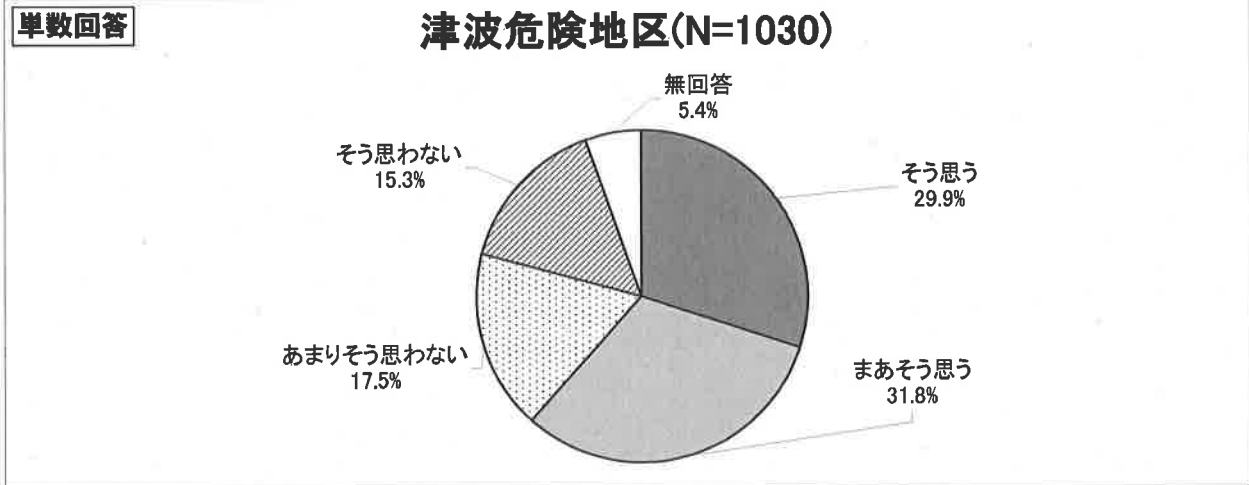


経年比較について、「そう思う」が前回調査より減少傾向にあるが、各年とも6割を超えている。特に大きな変化はみられない。

## 5. 津波の考え方について

### 5-2 「地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ない」についてどう思うか

問	「地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ない」についてどう思いますか。	
	1. そう思う	2. まあそう思う
	3. あまりそう思わない	4. そう思わない

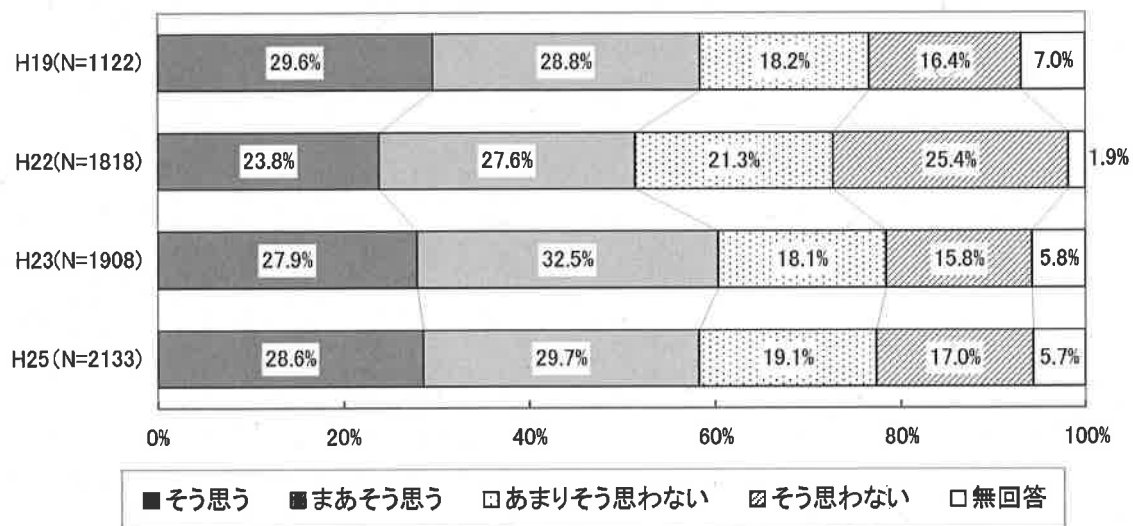


地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ないと思うかについて、「そう思う」「まあそう思う」をあわせると、津波危険地区(61.7%)及び全県(55.0%)ともに5割以上を占めている。

津波危険地区と全県で6.7ポイント差が出ている。

## 5. 津波の考え方について

図. 「地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ない」  
についてどう思うか  
～経年比較～



経年比較について、特に大きな変化はみられない。  
県民の認識の違いにより、回答が分かれているように伺える。

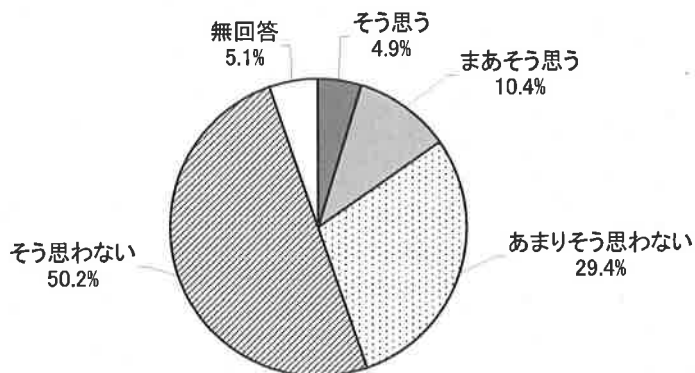
## 5. 津波の考え方について

### 5-3 「海の水が大きく引いてから避難しても間に合う」についてどう思うか

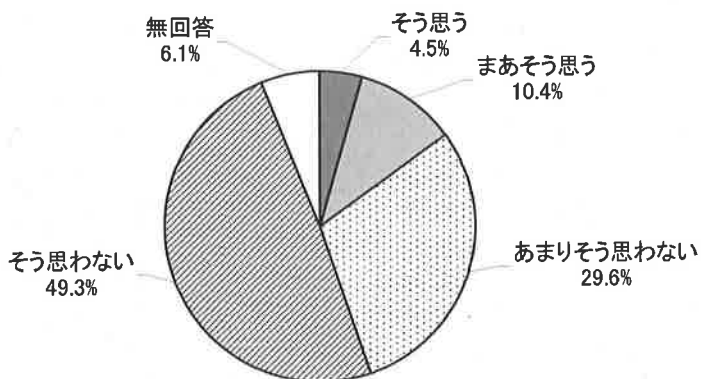
問	「海の水が大きく引いてから避難しても間に合う」についてどう思いますか。
1. そう思う	2. まあそう思う
3. あまりそう思わない	4. そう思わない

#### 単数回答

#### 津波危険地区(N=1030)



#### 全県(N=1103)

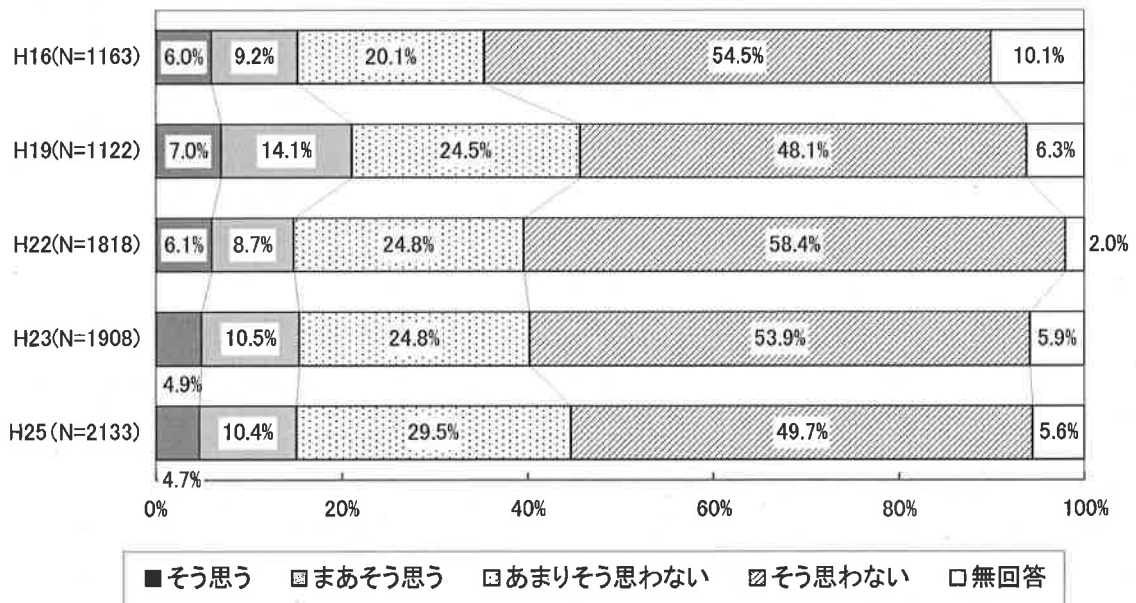


海の水が大きく引いてから避難しても間に合うと思うかについて「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせると、津波危険地区(79.6%)及び、全県(78.9%)ともに約8割を占めている。

津波危険地区と全県とで、特に大きな差はみられない。

## 5. 津波の考え方について

図. 「海の水が大きく引いてから避難しても間に合う」についてどう思うか  
～経年比較～



経年比較について、「あまりそう思わない」が前回調査時より4.7ポイント増加しており、各年と比較すると最も高くなっている。特に大きな変化はみられない。



## 5. 津波の考え方について

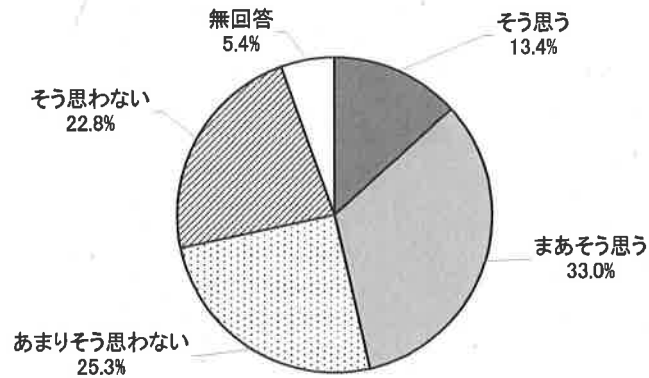
### 5-4 「津波警報が出てから避難しても間に合う」についてどう思うか

問 「津波警報が出てから避難しても間に合う」についてどう思いますか。

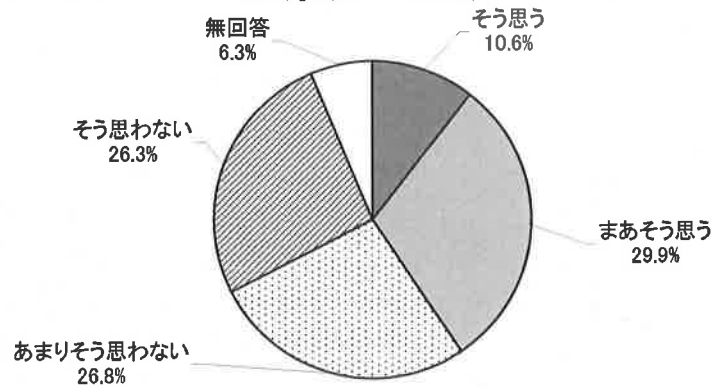
1. そう思う
2. まあそう思う
3. あまりそう思わない
4. そう思わない

単数回答

#### 津波危険地区(N=1030)



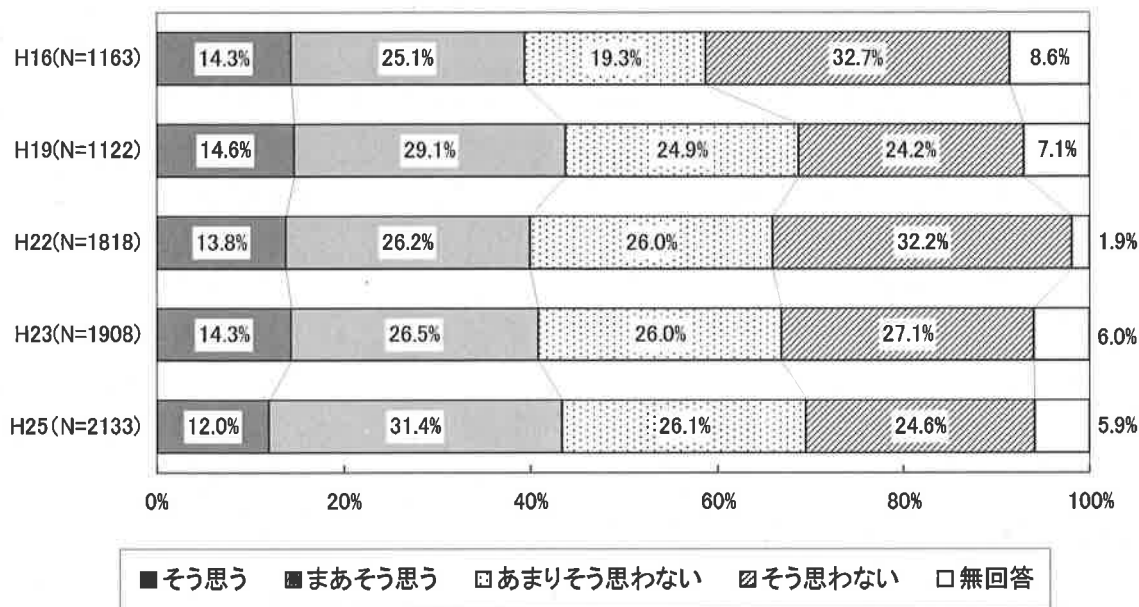
#### 全県(N=1103)



津波警報が出てから避難しても間に合うと思うかについて、津波危険地区(33.0%)及び全県(29.9%)ともに「まあそう思う」が最も多く、次いで「あまりそう思わない」となっている。津波危険地区と全県で、特に差はみられない。

## 5. 津波の考え方について

図. 「津波警報が出てから避難しても間に合う」についてどう思うか  
～経年比較～

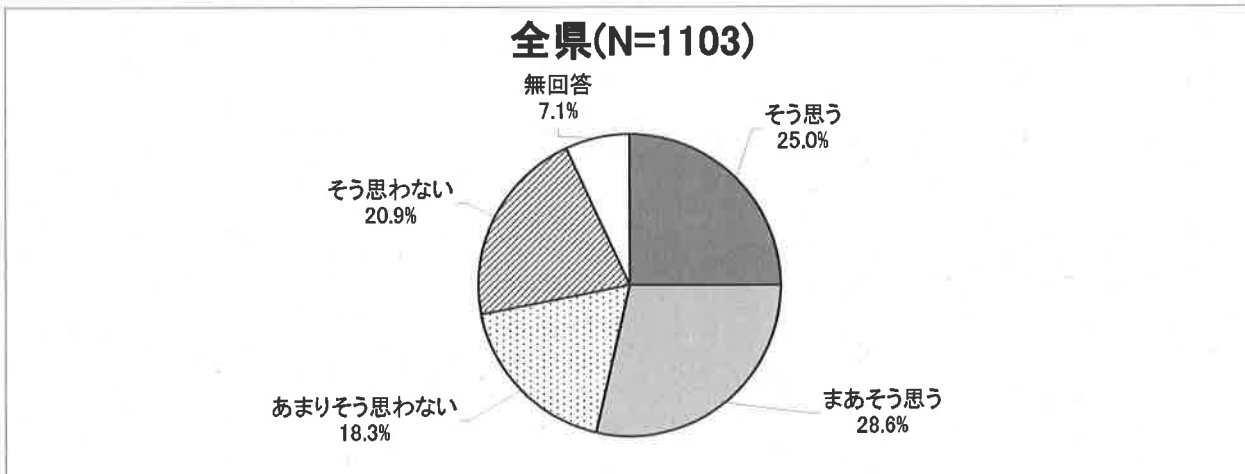
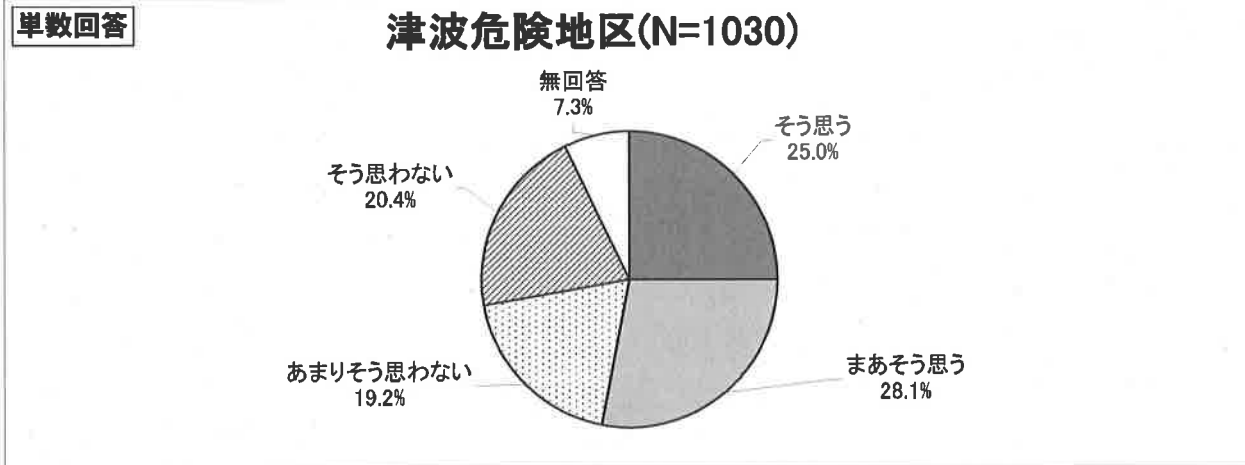


経年比較について、「そう思う」が各年と比較すると最も低くなっているのに対し、「まあそう思う」は最も高くなっている。「あまりそう思わない」と「そう思わない」の合計は、どの年でも5割を超えている。

## 5. 津波の考え方について

5-5 「市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからない」についてどう思うか

問	「市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからない」についてどう思いますか。
1. そう思う	2. まあそう思う
3. あまりそう思わない	4. そう思わない

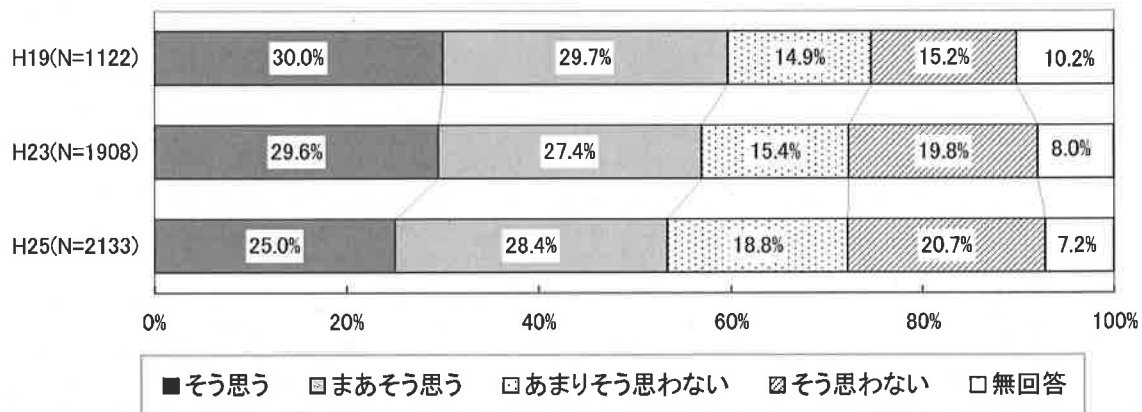


市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからないについて、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせると、津波危険地区(53.1%)及び全県(53.6%)ともに5割以上を占めている。

津波危険地区と全県で、大きな差はみられない。

## 5. 津波の考え方について

図. 「市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからない」  
についてどう思うか  
～経年比較～

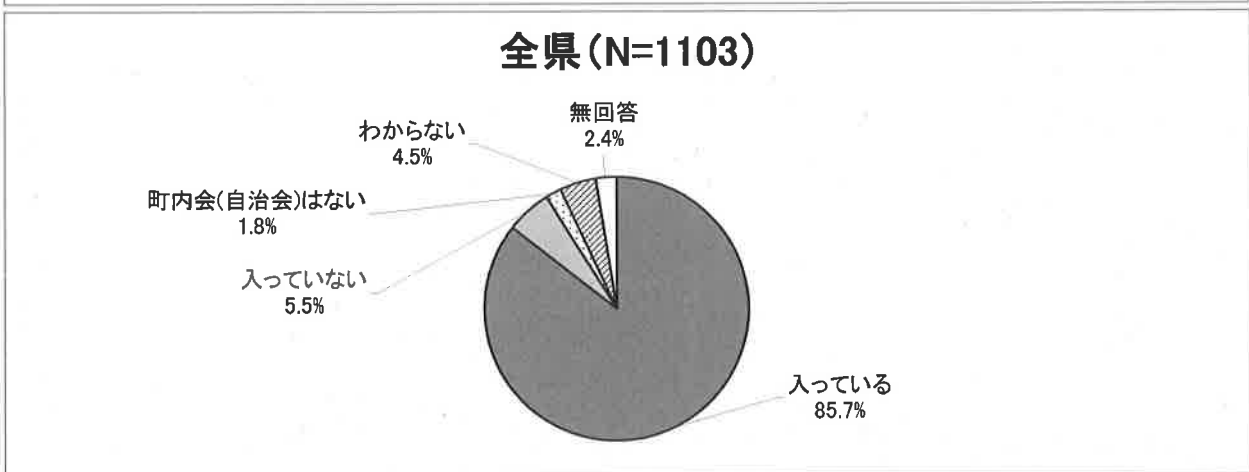
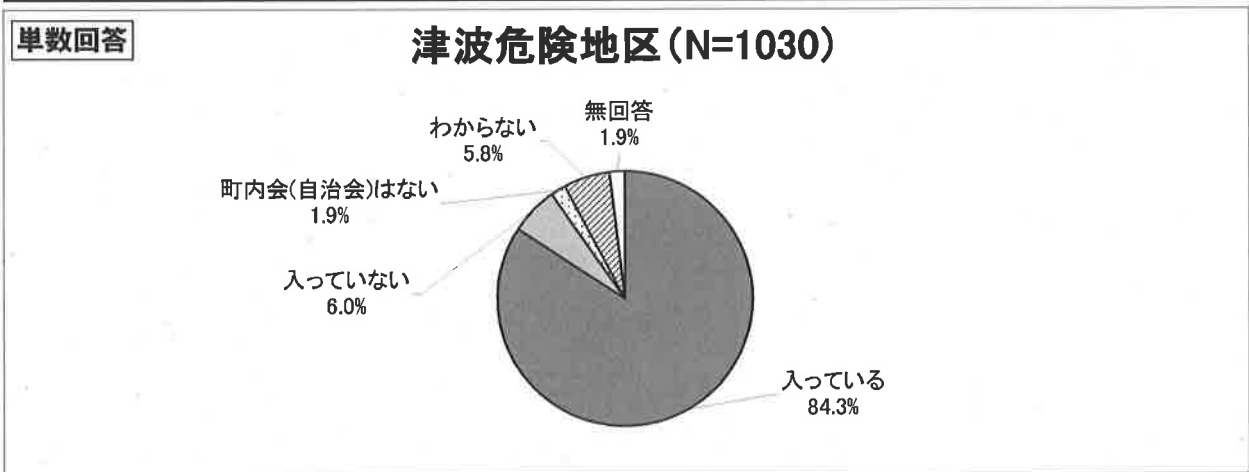


経年比較について、「そう思う」は年々減少傾向にあり、「あまりそう思わない」と「そう思わない」が年々増加傾向にある。避難準備・勧告・指示の理解が徐々に深まっている傾向にある。

## 6. 自主防災組織について

### 6-1 町内会（自治会）に入っているか

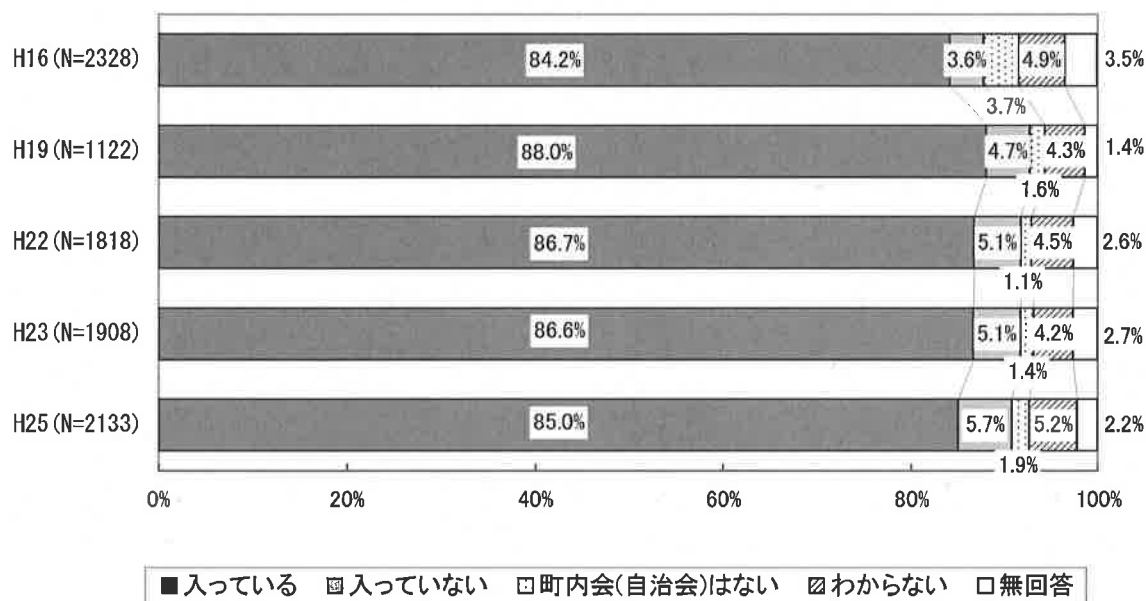
問	あなたのお宅は、町内会（自治会）に入っていますか（ひとつだけ○）。			
	1. 入っている	2. 入っていない	3. 町内会（自治会）はない	4. わからない



町内会（自治会）に入っているかについて、津波危険地区（84.3%）及び全県（85.7%）ともに「入っている」が最も多くなっている。  
津波危険地区と全県で差はみられない。

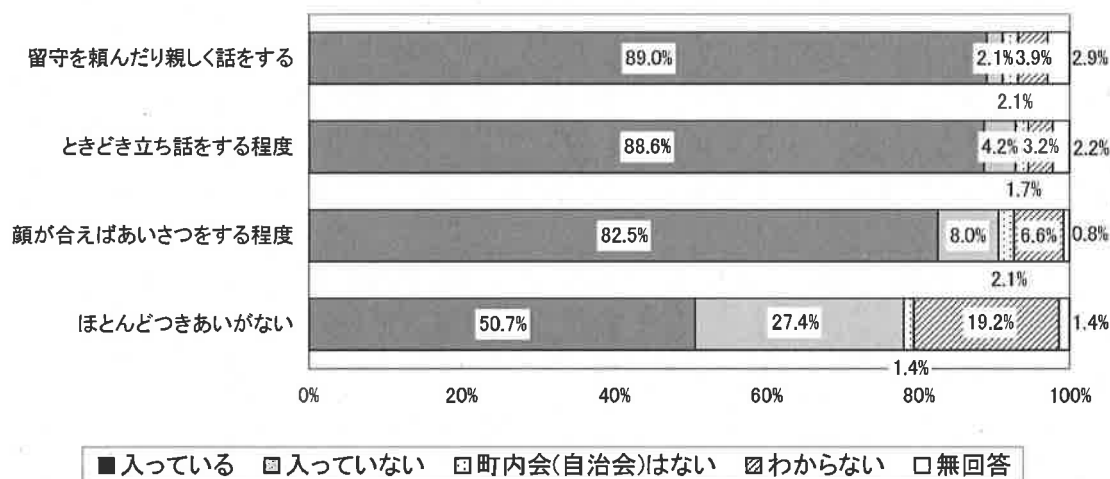
## 6. 自主防災組織について

図. 町内会（自治会）に入っているか  
～経年比較～



経年比較について、各年で特に大きな変化はみられない。どの年でも8割以上が町内会（自治会）に加入している。

図. 町内会（自治会）に入っているか  
～近所付き合い比較～ (N=1989)



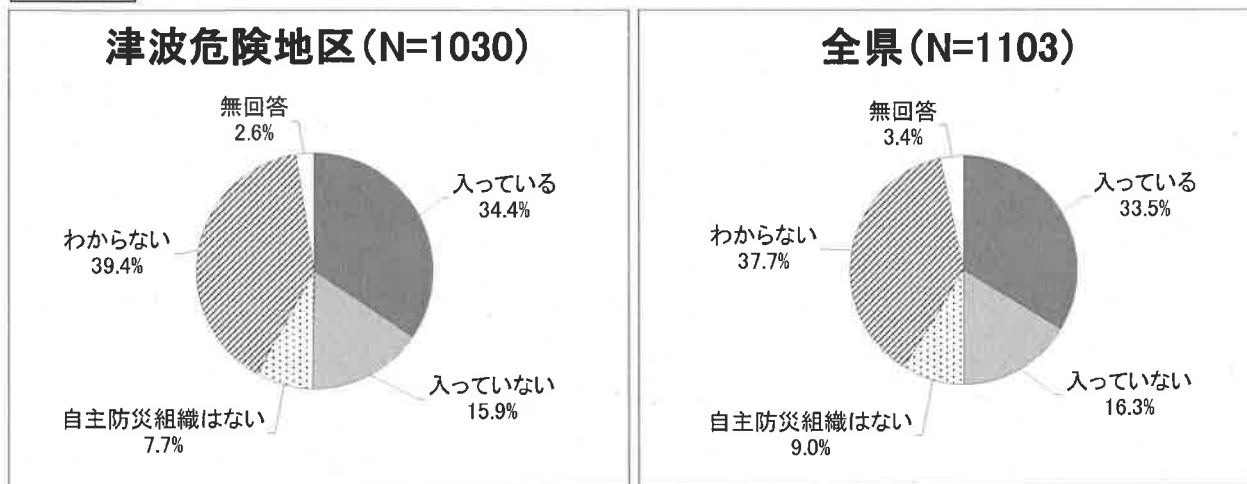
近所付き合い別について「留守を頼んだり親しく話をする」は89.0%と最も多く「ほとんどつきあいがいい」は50.7%と38.3ポイントの差があり、近所付き合いが親密なほど町内会（自治会）への加入率が高くなっている。

## 6. 自主防災組織について

### 6-2 自主防災組織に入っているか

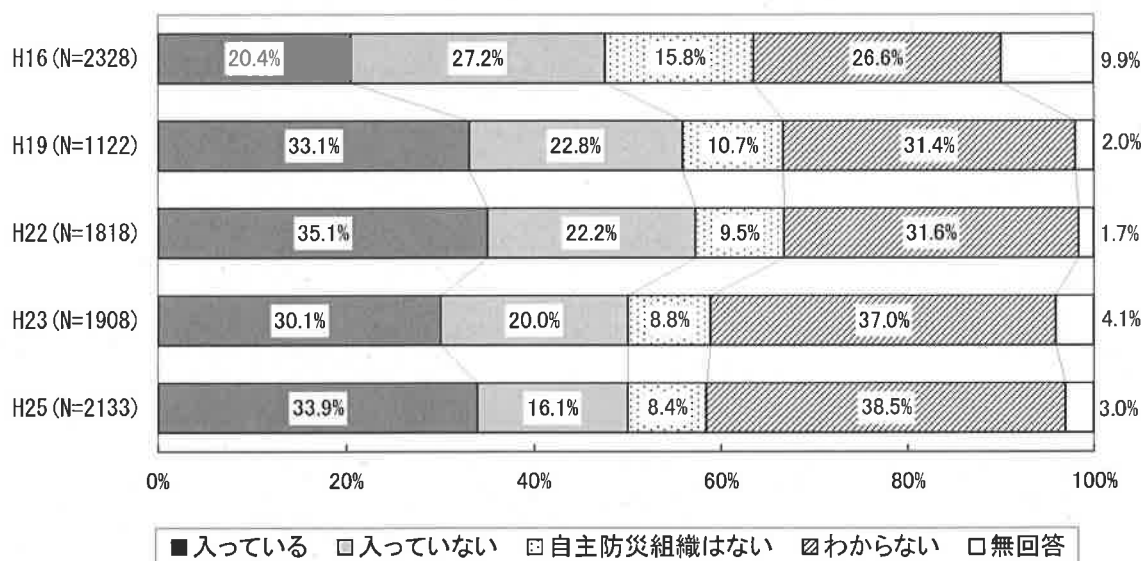
<b>問</b>	あなたのお宅は、地域の自主防災組織（町内会・自治会などを母体に、地域の住民が防災活動をするための組織）に入っていますか（ひとつだけ○）。			
	1. 入っている	2. 入っていない	3. 自主防災組織はない	4. わからない

#### 単数回答



自主防災組織に入っているかについて、津波危険地区及び全県ともに3割を超える程である。加入しているか「わからない」との回答が最も多い。津波危険地区と全県で、特に大きな差はみられない。

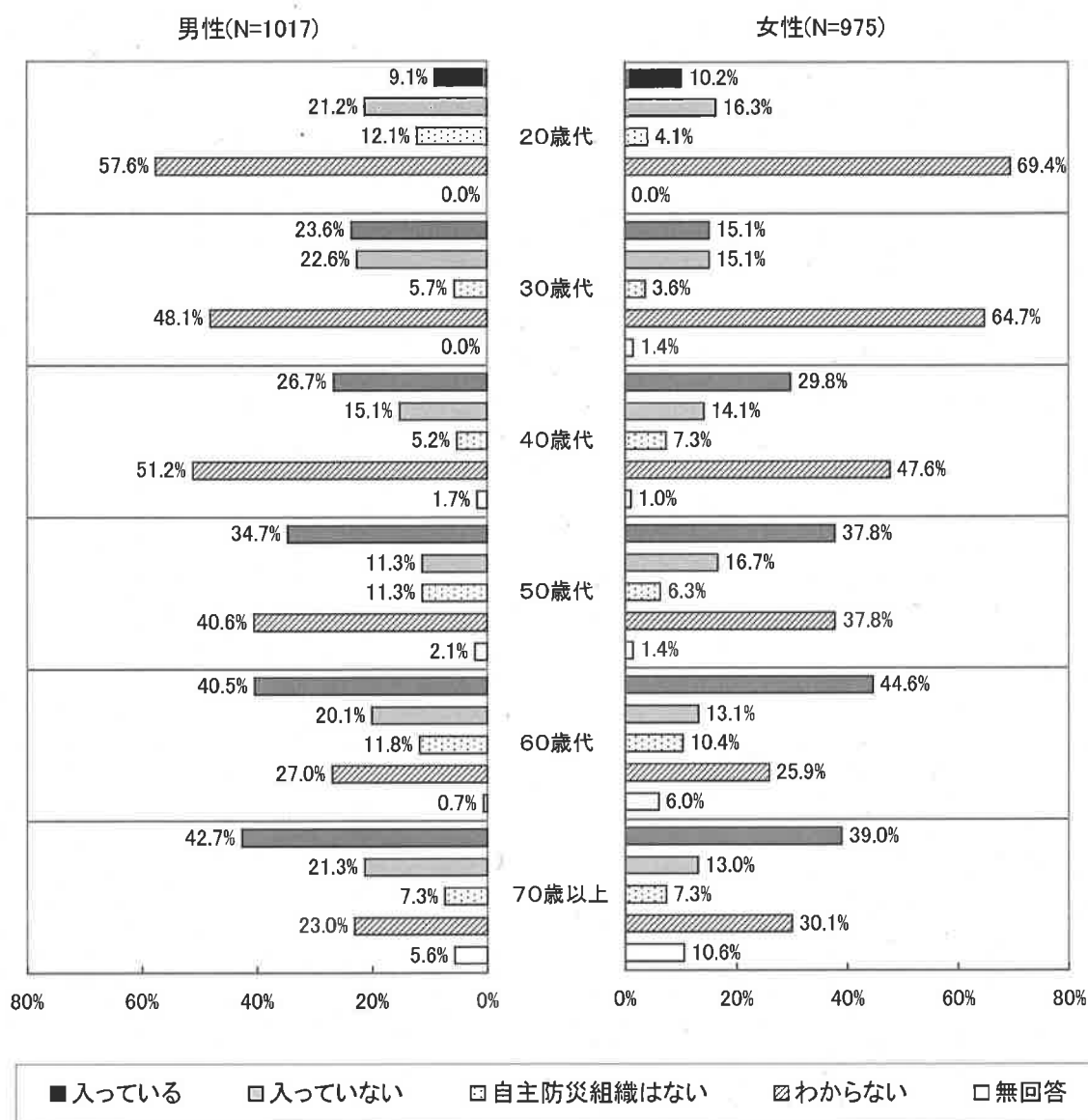
図. 自主防災組織に入っているか  
～経年比較～



経年比較について、特に大きな差はみられないが、「自主防災組織はない」が年々減少傾向にあり、平成16年からほぼ半減している。

## 6. 自主防災組織について

図. 自主防災組織に入っているか  
～性・年代比較～

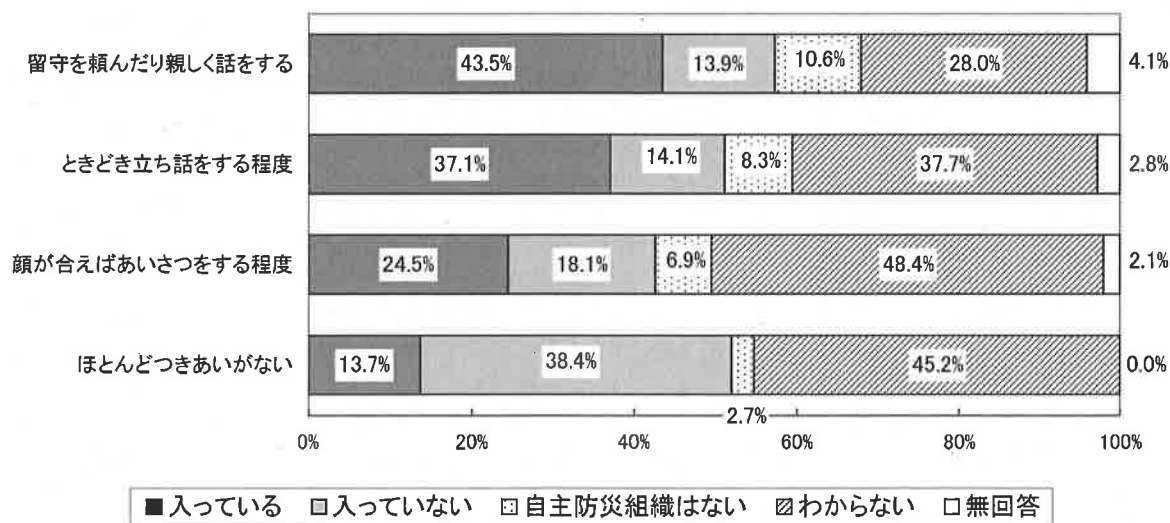


性・年代別で見ると、「加入している」は「60歳代」「70歳以上」の男女で多くなっており、特に「60歳代の女性」で最も多くなっている。「わからない」は「20歳代」～「50歳代」の男女で最も多くなっている。男女ともに若年層になるほど、自主防災組織の加入率が低くなっていることがわかる。



## 6. 自主防災組織について

図. 自主防災組織に入っているか  
～近所付き合い比較～ (N=1989)



近所付き合い別でみると、「留守を頼んだり親しく話をする」(43.5%)人ほど、自主防災組織への加入が高く、「ほとんどつきあいがない」(13.7%)と29.8ポイントの差があり近所付き合いが親密なほど自主防災組織への加入率が高くなっている。

## 6. 自主防災組織について

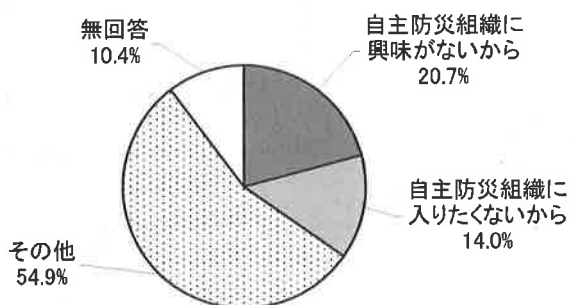
### 6-3 自主防災組織に入っていない理由は何か

問 なぜ、自主防災組織に入っていないのですか（ひとつだけ○）。

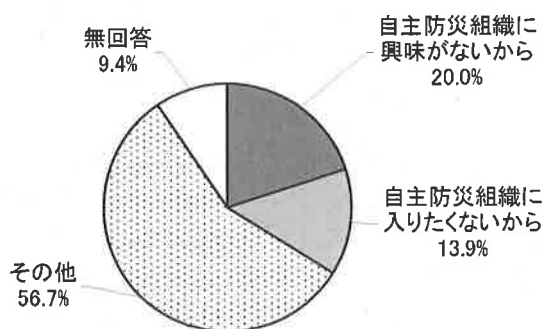
1. 自主防災組織に興味がないから
2. 自主防災組織に入りたくないから
3. その他（ ）

#### 単数回答

#### 津波危険地区(N=164)



#### 全県(N=180)



#### <その他回答>

- ・ 自主防災組織がない
- ・ 自主防災組織があるのかわからない
- ・ 忙しいから など

自主防災組織に入っていない理由は何かについて、津波危険地区(54.9%)及び全県(56.7%)ともに「その他」が最も多く、次いで「自主防災組織に興味がないから」となっている。津波危険地区と全県で差はみられない。

## 6. 自主防災組織について

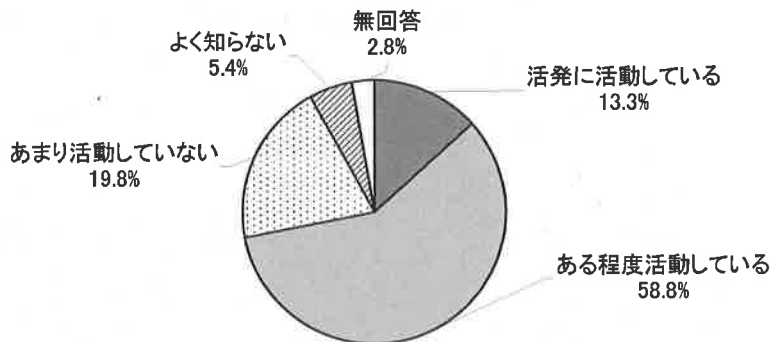
### 6-4 自主防災組織は活発か

問 あなたの地域の自主防災組織の活動は活発ですか（ひとつだけ○）。

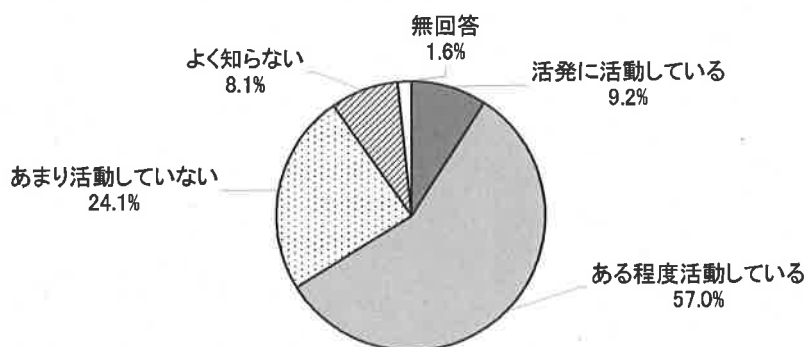
1. 活発に活動している
2. ある程度活動している
3. あまり活動していない
4. よく知らない

単数回答

#### 津波危険地区(N=354)



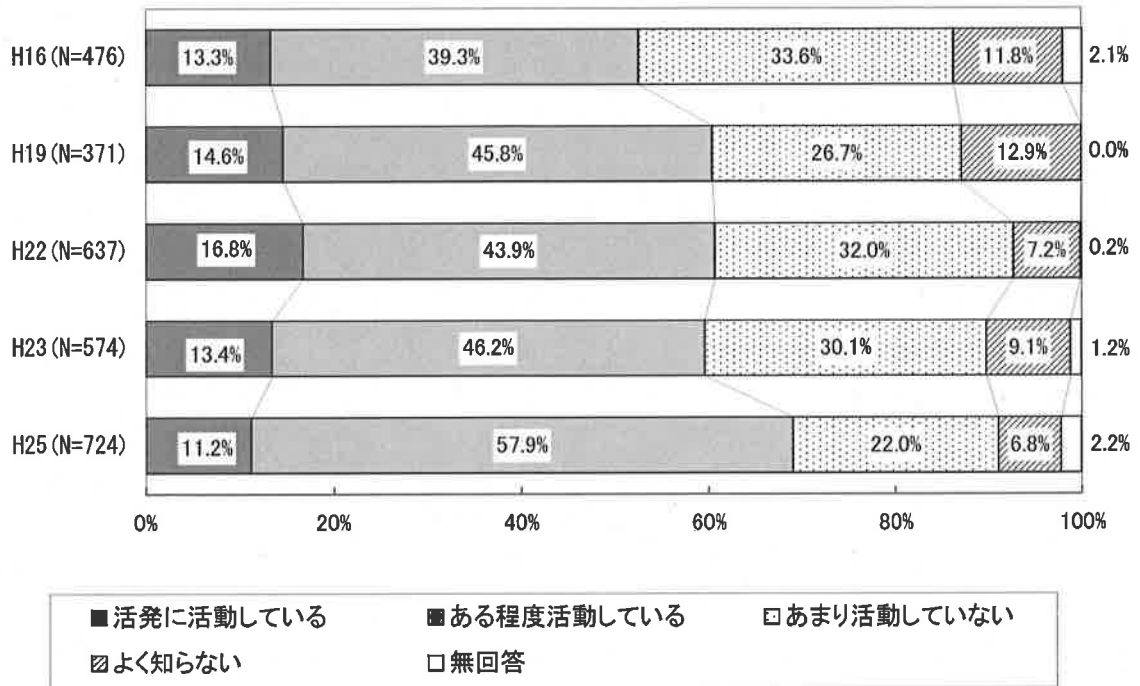
#### 全県(N=370)



自主防災組織の活動について、津波危険地区(58.8%)及び全県(57.0%)ともに「ある程度活動している」が過半数を超えており、次いで「あまり活動していない」となっている。津波危険地区と全県で特に差はみられない。

## 6. 自主防災組織について

図. 自主防災組織は活発か  
～経年比較～



経年比較について、「ある程度活動している」は今回（57.9%）と前回（46.2%）を比較すると11.7ポイント多く、「あまり活動していない」は8.1ポイント少なくなっている。また、今回の調査で「活発に活動している」と「ある程度活動している」の合計が約7割となり、自主防災組織の活動が徐々に増加傾向となっている。

## 6. 自主防災組織について

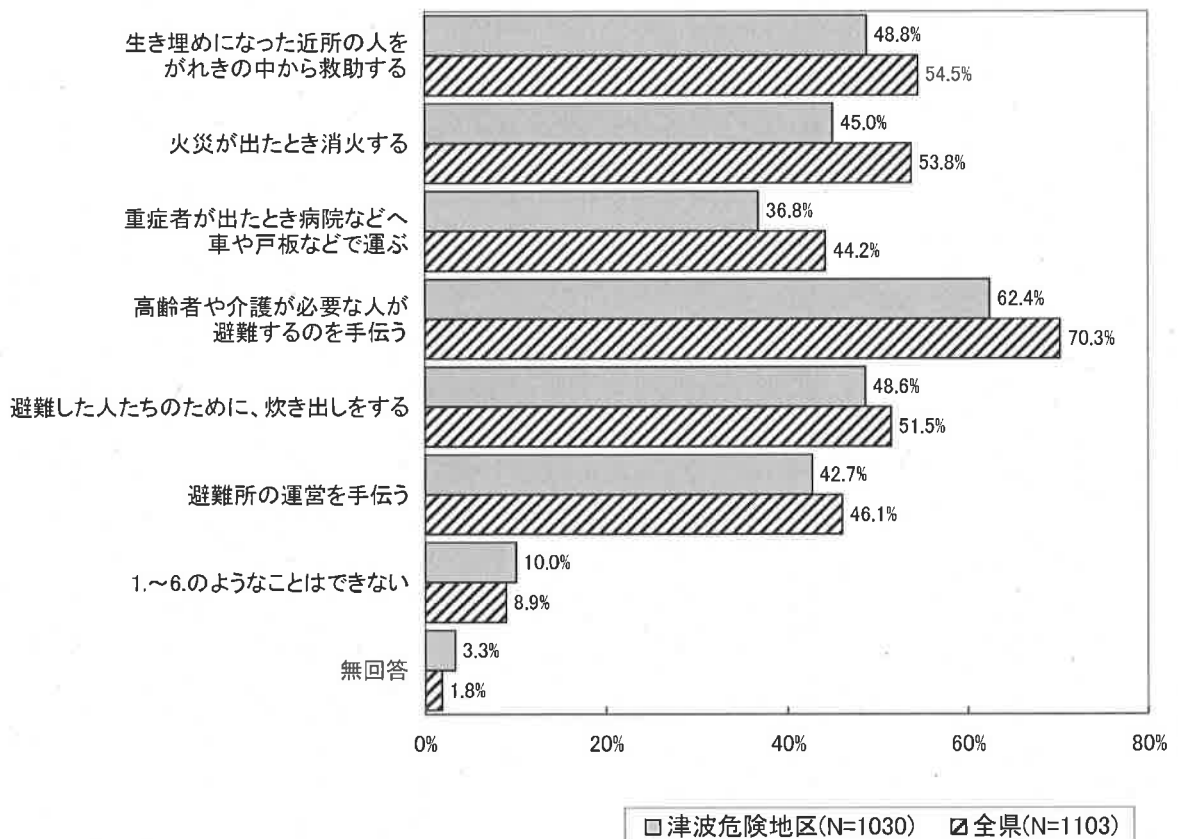
### 6-5 地震後、地域の人と協力してできることは何か

問 大地震が起きたあと、あなたご自身は、地域の人と協力して次のようなことができると思いますか。できると思うことにいくつでも○をつけてください。

1. 生き埋めになった近所の人を、がれきの中から救助する
2. 火災が出たとき消火する
3. 重症者がでたとき病院などへ車や戸板などで運ぶ
4. 高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う
5. 避難した人たちのために、炊き出しをする
6. 避難所の運営を手伝う
7. 1.～6.のようなことはできない

複数回答

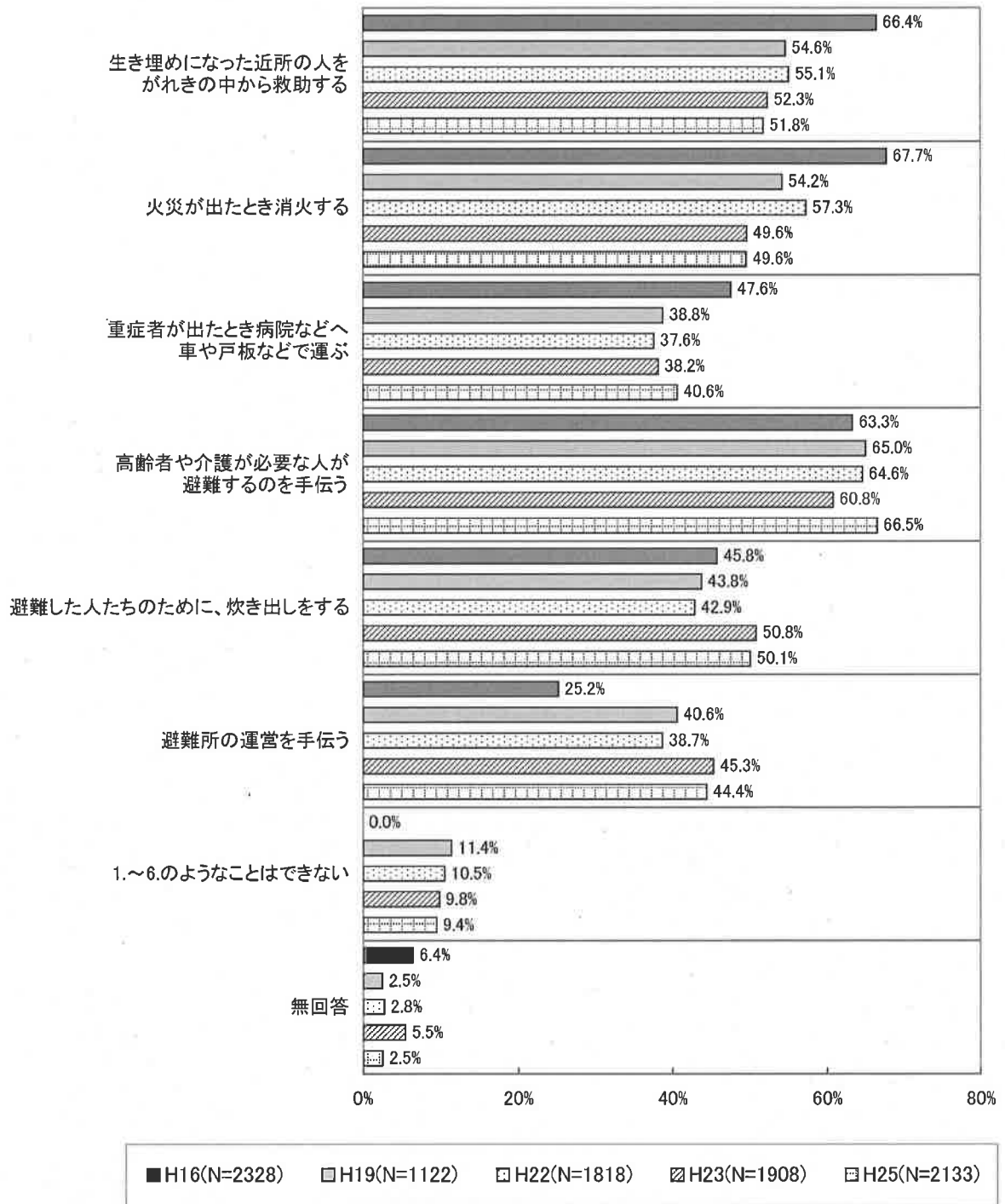
図. 地震後、地域の人と協力してできることは何か



地震後、地域の人と協力してできることは何かについて、津波危険地区と全県とも「高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う」が最も多く、次いで、「生き埋めになった近所の人をがれきの中から救助する」、「避難した人たちのために、炊き出しをする」となっている。津波危険地区と全県で特に差はみられない。

6. 自主防災組織について

図. 地震後、地域の人と協力してできることは何か  
～経年比較～



経年比較について、「高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う」が各年で最も多くなっている。  
特に大きな変化はみられない。

## 6. 自主防災組織について

### 6-6 地域防災リーダーとして活動することについてどう思うか

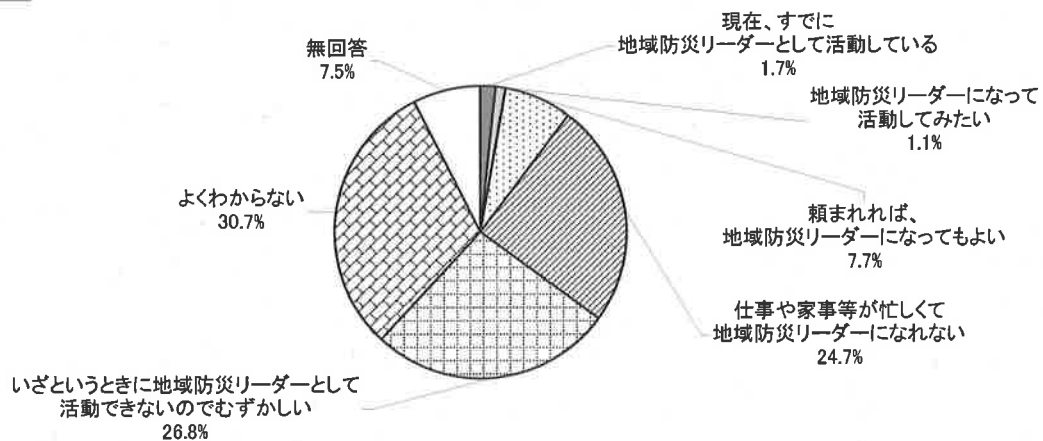
問

自主防災組織の活動の中心的担い手である地域防災リーダーとして活動することについて、どのようにお考えですか（ひとつだけ○）。

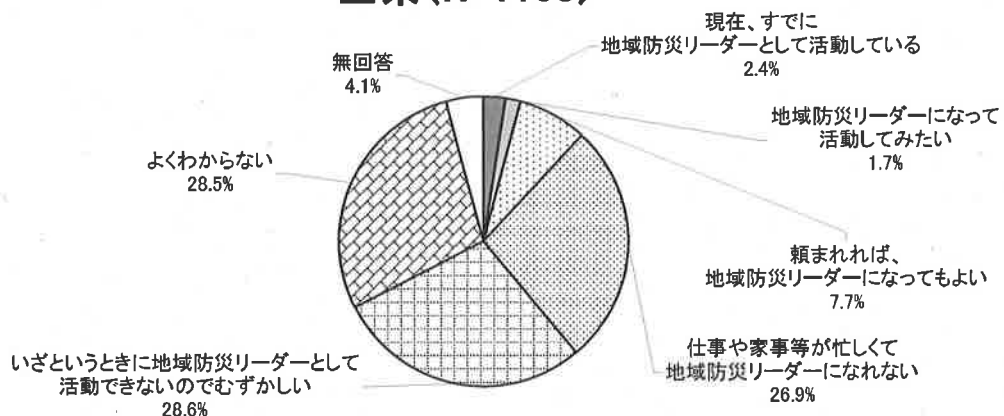
1. 現在、すでに地域防災リーダーとして活動している
2. 地域防災リーダーになって活動してみたい
3. 頼まれれば、地域防災リーダーになってもよい
4. 仕事や家事等が忙しくて地域防災リーダーにはなれない
5. いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい
6. よくわからない

単数回答

#### 津波危険地区 (N=1030)



#### 全県 (N=1103)

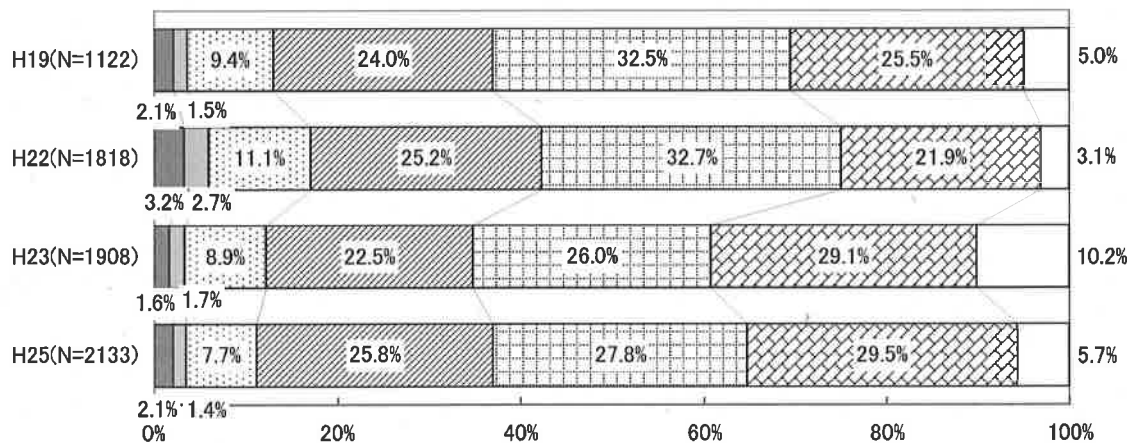


地域防災リーダーとして活動することについて、「仕事や家事等が忙しくて地域防災リーダーになれない」と「いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい」の合計が5割を超えている。

津波危険地区と全県で特に差がみられない。

## 6. 自主防災組織について

図. 地域防災リーダーとして活動することについてどう思うか  
～経年比較～



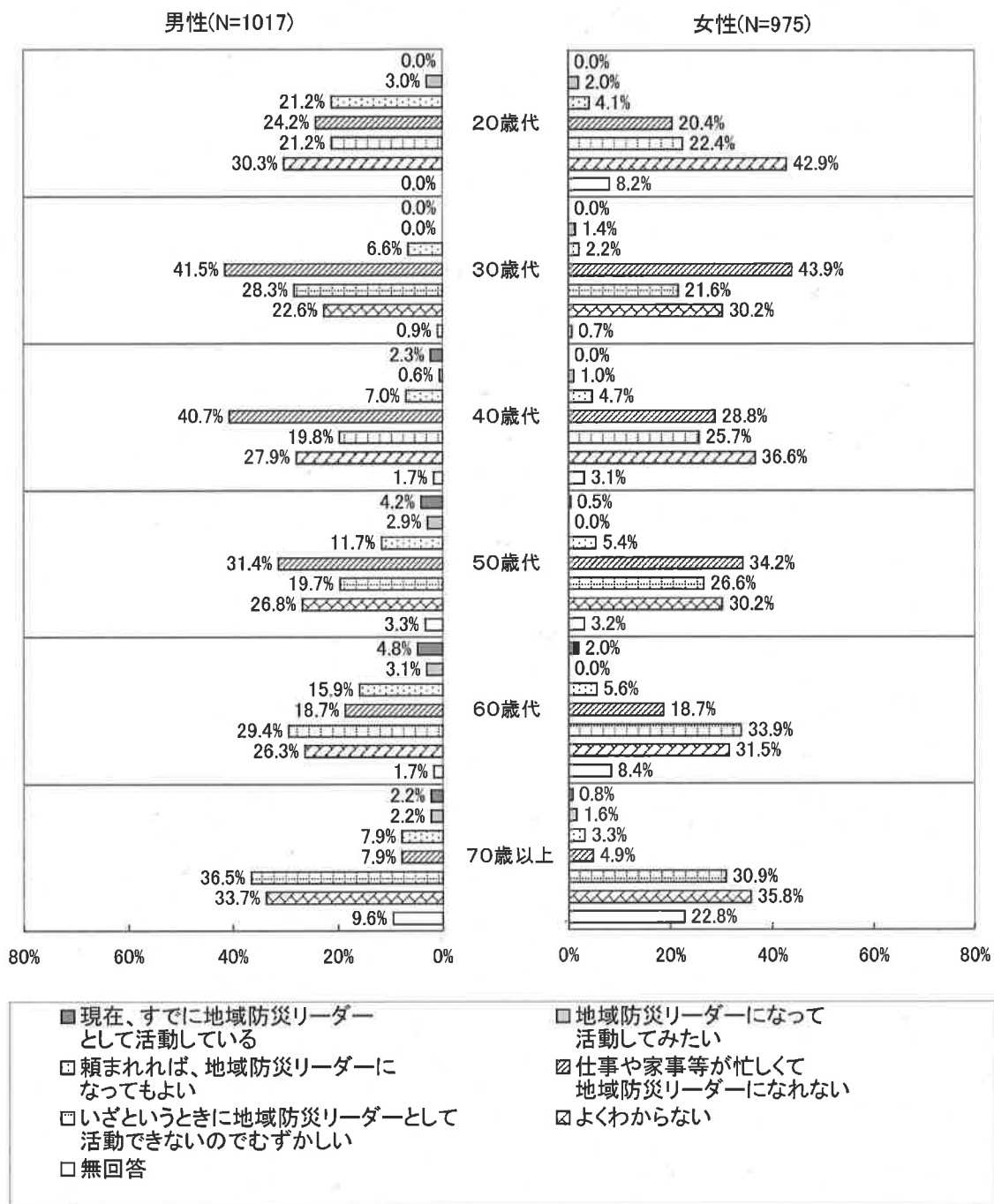
- 現在、すでに地域防災リーダーとして活動している
- 頼まれれば、地域防災リーダーになってもよい
- ▣ いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい
- 無回答
- ▣ 地域防災リーダーになって活動してみたい
- ▣ 仕事や家事等が忙しくて地域防災リーダーになれない
- ▣ よくわからない

経年比較について、「仕事や家事等が忙しくて地域防災リーダーになれない」、「いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい」が前回調査時より5.5ポイント増えている。



6. 自主防災組織について

図. 地域防災リーダーとして活動することについてどう思うか  
～性・年代比較～

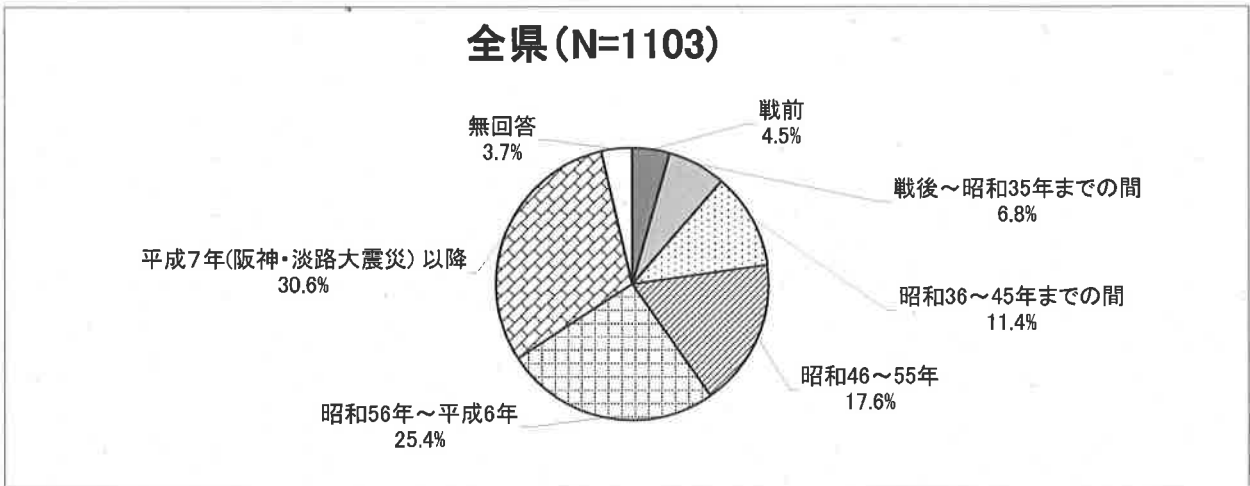
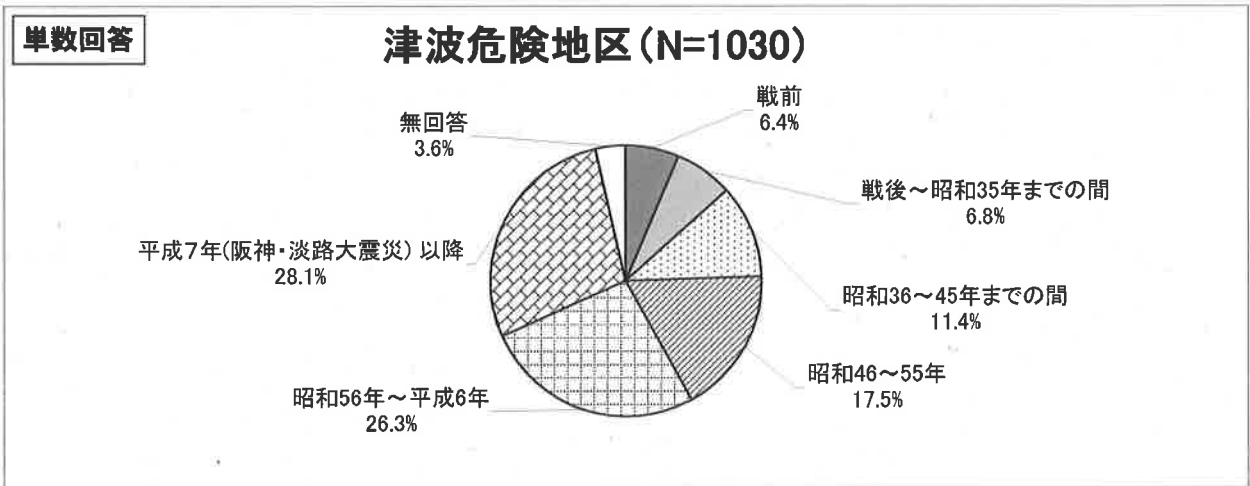


性・年代別でみると、年代別では「30歳代」～「50歳代」の男性と「30歳代」「50歳代」の女性で「仕事や家事等が忙しくて地域防災リーダーになれない」が、「60歳代」の男女と「70歳以上」の男性で「いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい」が、「20歳代」の男女と「40歳代」「70歳以上」の女性で「よくわからない」が最も多くなっている。性・年代別に大きな差がみられる。

## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 7-1 自宅の建築年はいつか

問	あなたが住まいのご自宅は、いつ頃建てられたものですか。増改築されている場合は、主な部分の建築年をお答えください（ひとつだけ○）。					
	1. 戦前	2. 戦後～昭和35年までの間	3. 昭和36～45年までの間			
	4. 昭和46～55年	5. 昭和56年～平成6年	6. 平成7年(阪神・淡路大震災)以降			



自宅の建築年について、津波危険地区(28.1%)及び全県(30.6%)ともに「平成7年(阪神・淡路大震災)以降」が最も多く、次いで「昭和56年～平成6年」となっている。

昭和56年以前の建築年は、津波危険地区で42.1%、全県地区で40.3%といずれも4割を超えている。

津波危険地区と全県で特に差がみられない。

## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

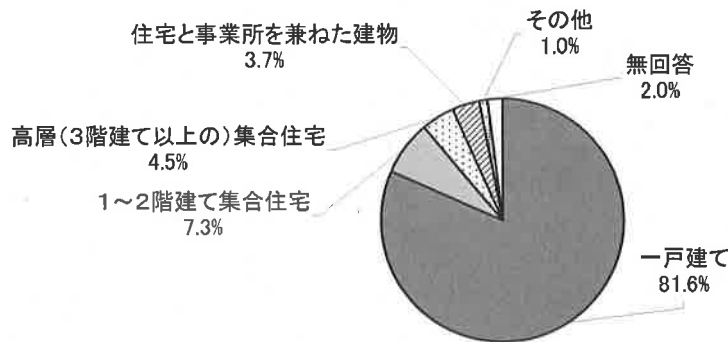
### 7-2 自宅の形態は（戸建、集合住宅等）

問 あなたがお住まいのご自宅は、次のどれにあたりますか（ひとつだけ○）。

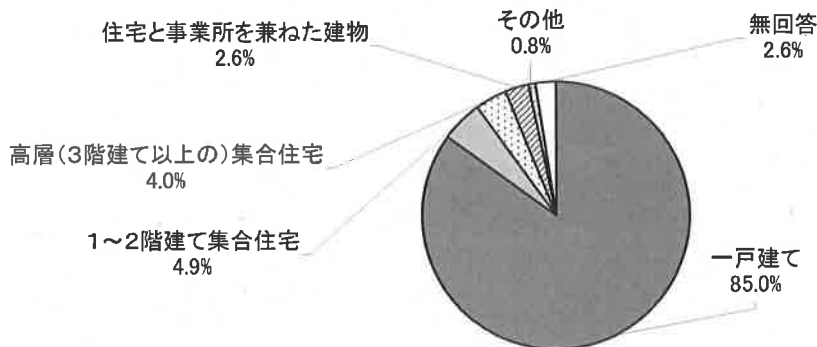
1. 一戸建て                      2. 1～2階建て集合住宅                      3. 高層（3階建て以上の）集合住宅  
4. 住宅と事業所を兼ねた建物                      5. その他（                      ）

#### 単数回答

#### 津波危険地区 (N=1030)



#### 全県 (N=1103)



#### <その他回答>

- ・ 長屋
  - ・ 2戸棟つづき
- など

自宅の形態について、津波危険地区(81.6%)及び全県(85.0%)ともに「一戸建て」が最も多くなっている。

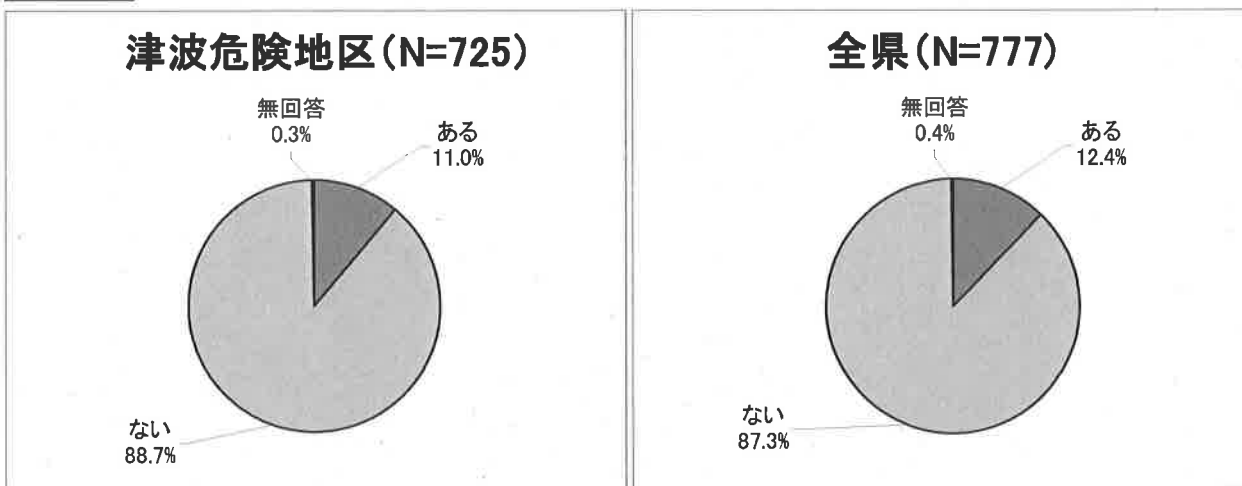


## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 7-4 専門家による耐震診断を受けたことがあるか

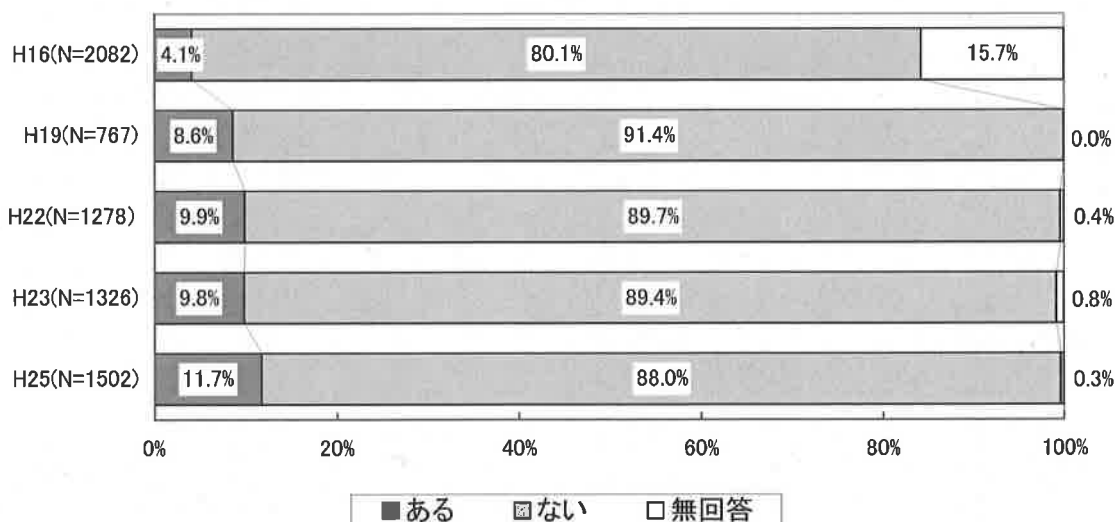
問	ご自宅は、専門家による耐震診断（地震の揺れに対する建物の強さの診断）を受けたことがありますか（ひとつだけ○）。
1. ある	2. ない

#### 単数回答



専門家による耐震診断を受けたことがあるかについて、津波危険地区(88.7%)及び全県(87.3%)ともに「ない」が8割以上を占めている。津波危険地区と全県ではほとんど差がみられない。

図. 専門家による耐震診断を受けたことがあるか  
～経年比較～



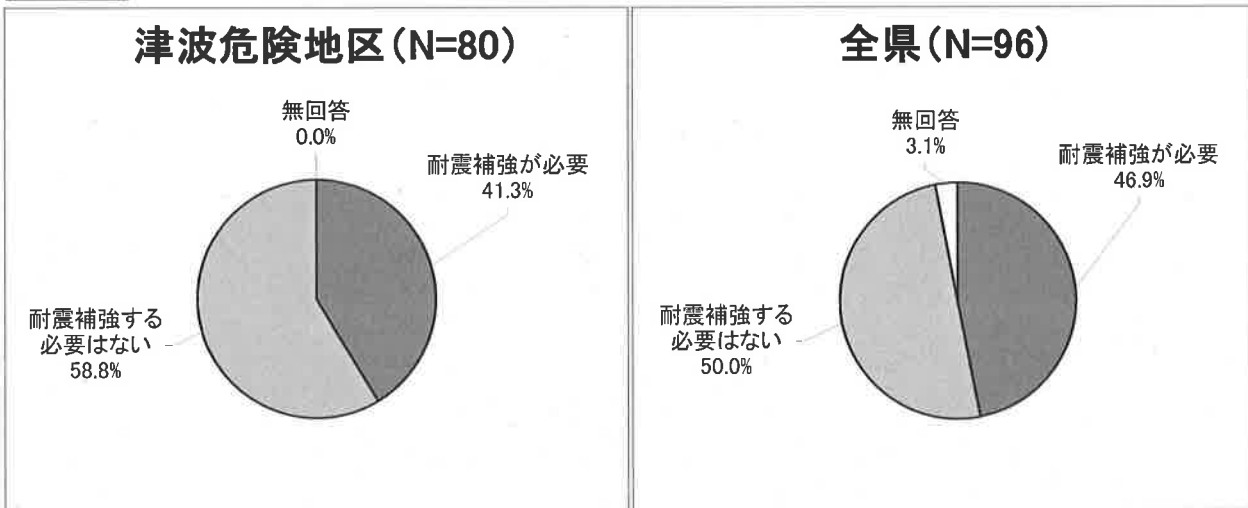
経年比較について、「ある」は前回(9.8%)と比較し1.9ポイント上回っており、耐震診断を受ける人が若干増加傾向にある。

## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 7-5 耐震診断の結果はどうか

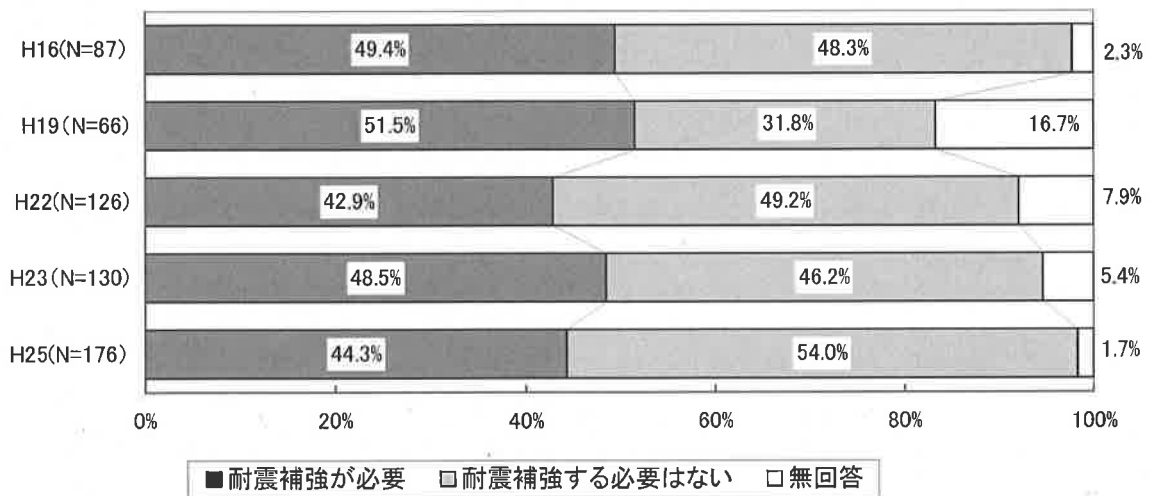
問	耐震診断をした結果はどうか（ひとつだけ○）。
1. 耐震補強が必要                      2. 耐震補強する必要はない	

#### 単数回答



耐震診断の結果について、津波危険地区(58.8%)及び全県(50.0%)ともに「耐震補強する必要はない」が5割以上占めている。津波危険地区が8.8%上回っている。

図. 耐震診断の結果はどうか  
～経年比較～



経年比較について、特に大きな変化はみられないが、「耐震補強する必要はない」が5割を超えている。

## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

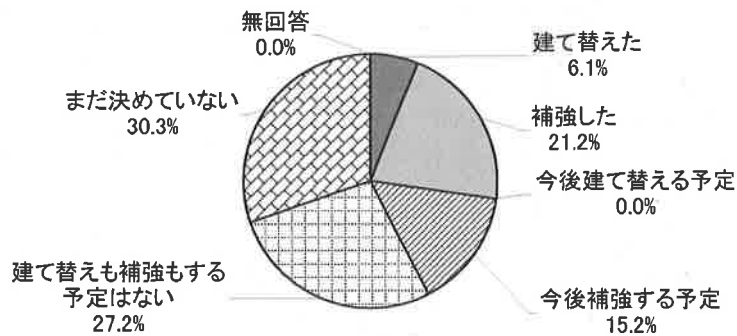
### 7-6 耐震補強が必要と診断された後、補強等を行ったか

問 耐震補強が必要と診断された後、補強等をなさいましたか（ひとつだけ○）。

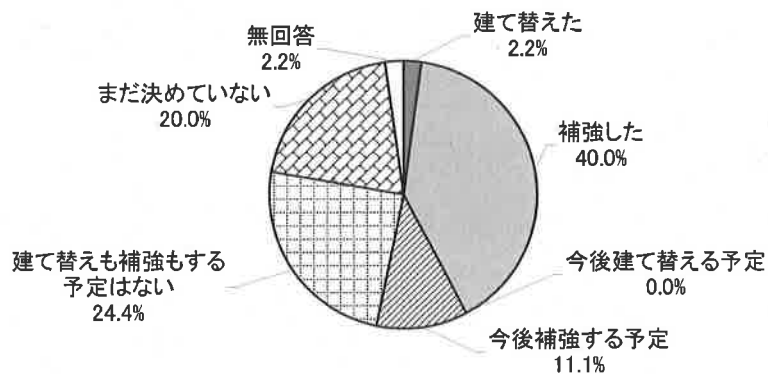
1. 建て替えた                      2. 補強した                      3. 今後建て替える予定  
4. 今後補強する予定              5. 建て替えも補強もする予定はない              6. まだ決めていない

単数回答

#### 津波危険地区 (N=33)



#### 全県 (N=45)



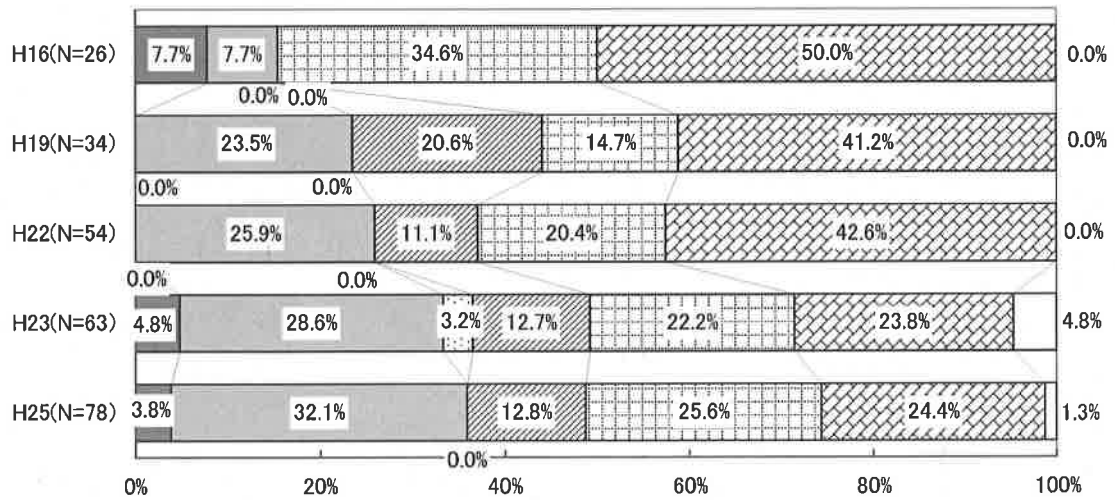
耐震補強が必要と診断された後、補強等を行ったかについて、津波危険地区では「まだ決めていない」(30.3%)が最も多く、次いで「建て替えも補強もする予定はない」(27.2%)となっている。

全県では「補強した」(40.0%)が最も多く、次いで「建て替えも補強もする予定はない」(24.4%)となっている。

「補強した」で津波危険地区(21.2%)は全県(40.0%)と比較し、18.8ポイント下回っている。

7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

図. 耐震補強が必要と診断された後、補強等を行ったか  
～経年比較～



- 建て替えた
- 今後建て替える予定
- 建て替えも補強もする予定はない
- 無回答
- 補強した
- 今後補強する予定
- まだ決めていない

経年比較でみると、今回と前回に大きな変化はみられない。  
「補強した」が各年で最も高くなっている。



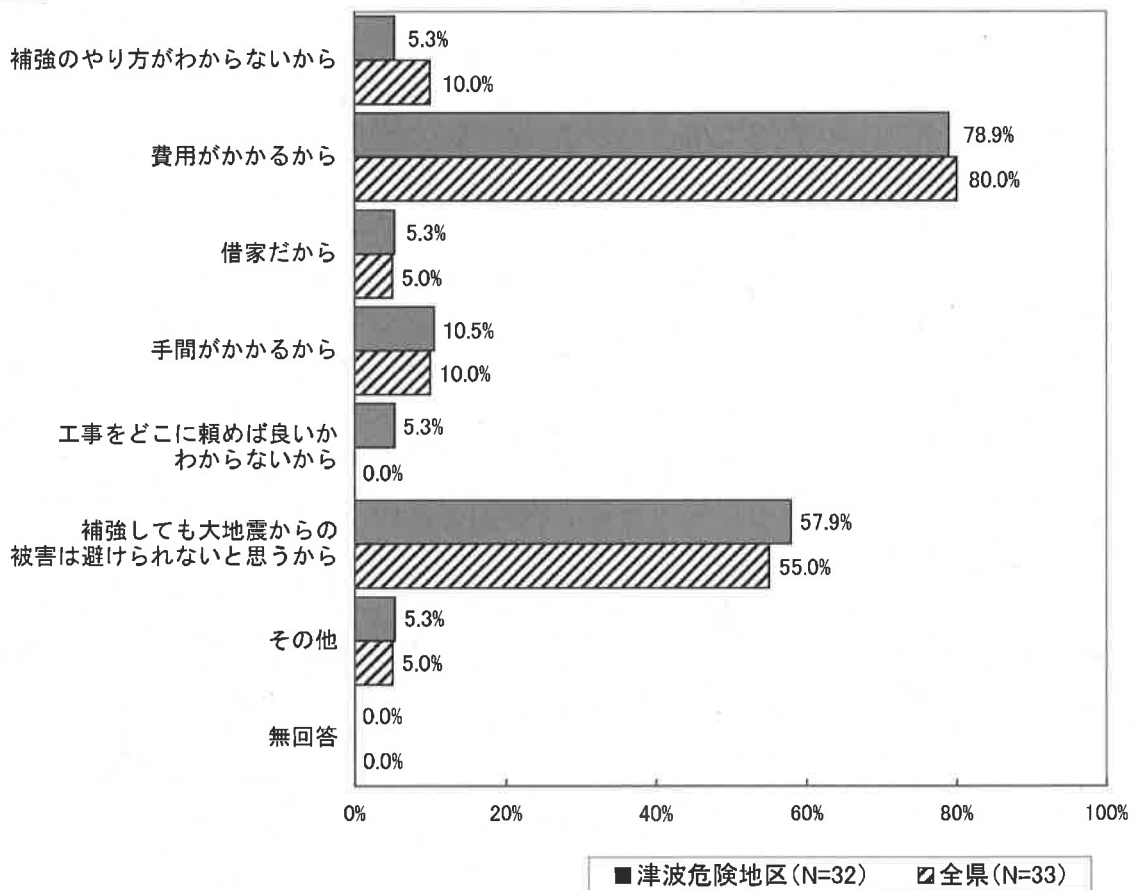
## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 7-7 耐震補強をすぐにしない理由は何か

問	すぐに補強をしないのはなぜですか（いくつでも○）。		
	1. 補強のやり方がわからないから	2. 費用がかかるから	3. 借家だから
	4. 手間がかかるから	5. 工事をどこに頼めば良いかわからないから	
	6. 補強しても、大地震からの被害は避けられないと思うから	7. その他	

#### 複数回答

図. 耐震補強をすぐにしない理由は何か



#### <その他回答>

- ・家を建ててまだ3年目だから

耐震補強をすぐにしない理由について、「費用がかかるから」が多数を占めており、次いで「補強しても大地震からの被害は避けられないと思うから」となっている。

## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

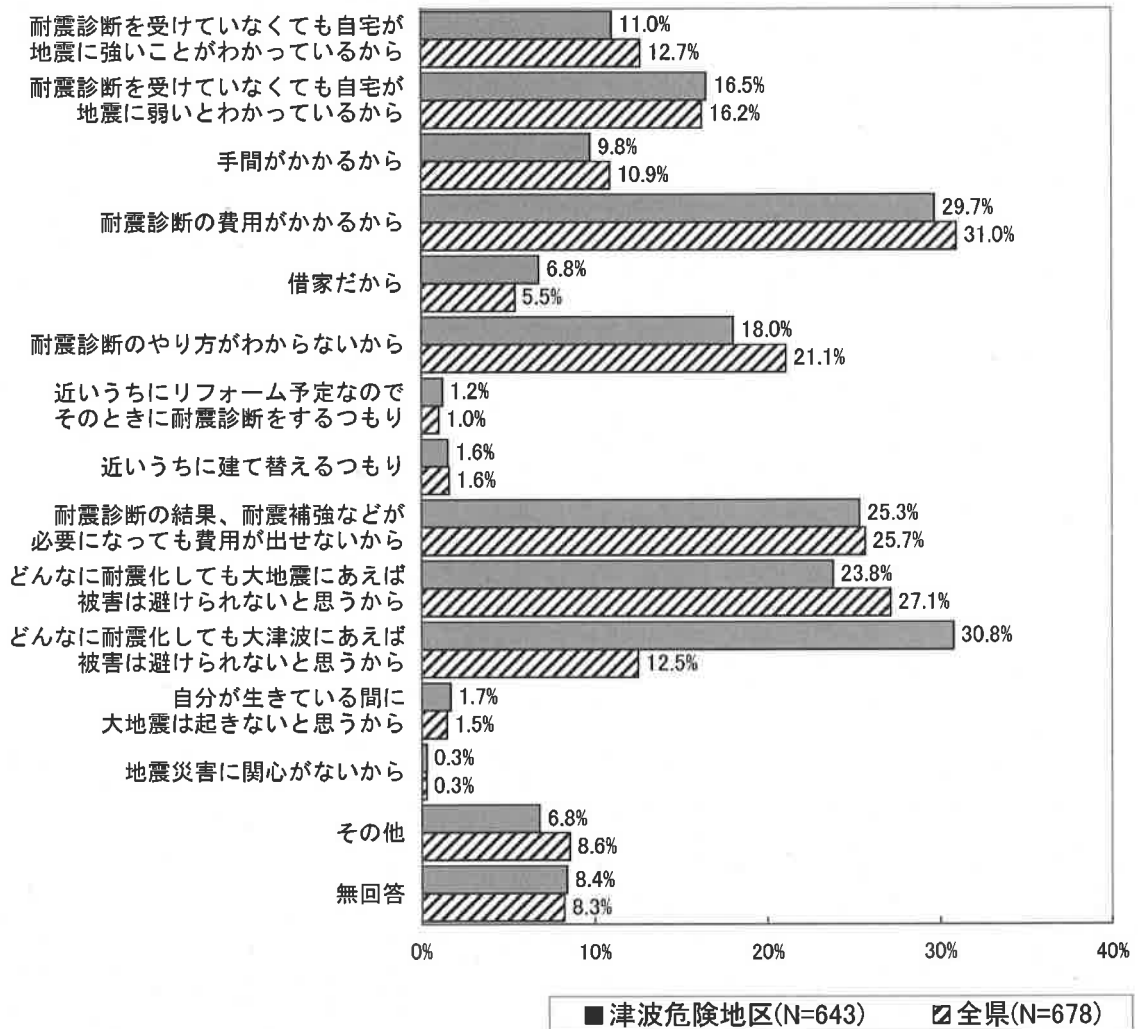
### 7-8 耐震診断を受けない理由は何か

問	耐震診断を受けていないのは、どうしてですか（いくつでも○）。
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 耐震診断を受けていなくても自宅が地震に強いことがわかっているから</li><li>2. 耐震診断を受けていなくても自宅が地震に弱いとわかっているから</li><li>3. 手間がかかるから</li><li>4. 耐震診断の費用がかかるから</li><li>5. 借家だから</li><li>6. 耐震診断のやり方がわからないから</li><li>7. 近いうちにリフォーム予定なので、そのときに耐震診断をするつもり</li><li>8. 近いうちに建て替えるつもり</li><li>9. 耐震診断の結果、耐震補強などが必要になっても費用が出せないから</li><li>10. どんなに耐震化しても大地震にあえば被害は避けられないと思うから</li><li>11. どんなに耐震化しても大津波にあえば被害は避けられないと思うから</li><li>12. 自分が生きている間に大地震は起きないと思うから</li><li>13. 地震災害に関心がないから</li><li>14. その他（                      ）</li></ol>	

## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

複数回答

図. 耐震診断を受けない理由は何か



### <その他回答>

● 津波危険地区

- ・建てた年数によって受けられないと聞いたから
- ・市が面積が大きいと無料ではやらなかった
- ・新築だから
- ・10m位の深いへドロの土地の耐震工事は難しい

● 全県

- ・裏が岩山だから補強してもそこが崩れたら意味がない
- ・市町村の耐震診断適用に合致しないから
- ・家自体が古いので
- ・住宅の耐震より地盤のほうが心配だから

耐震補強を受けない理由について、津波危険地区は「どんなに耐震化しても大津波にあえば被害は避けられないと思うから」(30.8%)が最も多く、次いで「耐震診断の費用がかかるから」(29.7%)となっている。

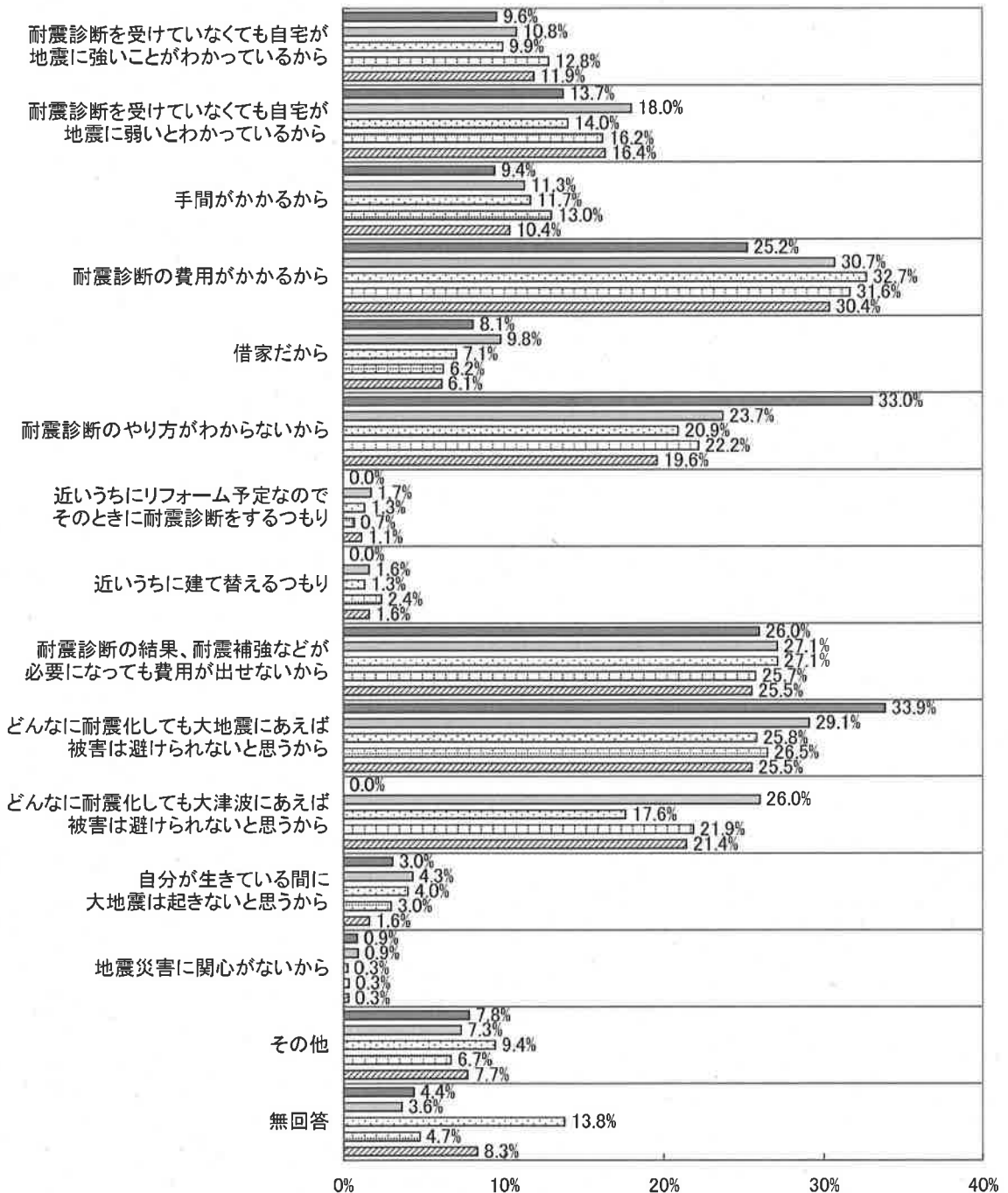
全県は、「耐震診断の費用がかかるから」(31.0%)が最も多く、次いで「どんなに耐震化しても大地震にあえば被害は避けられないと思うから」(27.1%)となっている。

津波危険地区では、「どんなに耐震化しても大津波にあえば被害は避けられないと思うから」は全県地区と比較し、18.3ポイント上回っている。

どの地区でも、これらの回答が多くを占めている。

7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

図. 耐震診断を受けない理由は何か  
～経年比較～



■ H16(N=1277) □ H19(N=701) ▨ H22(N=1147) ▩ H23(N=1185) ▤ H25(N=1321)

経年比較について、今回調査では「耐震診断の費用がかかるから」が最も高くなっており、「耐震診断の結果、耐震補強などが必要になっても費用が出せないから」などが高い。

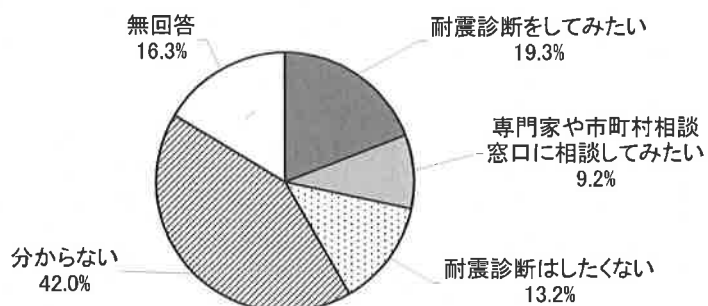
## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 7-9 今後、耐震診断を受けたいか

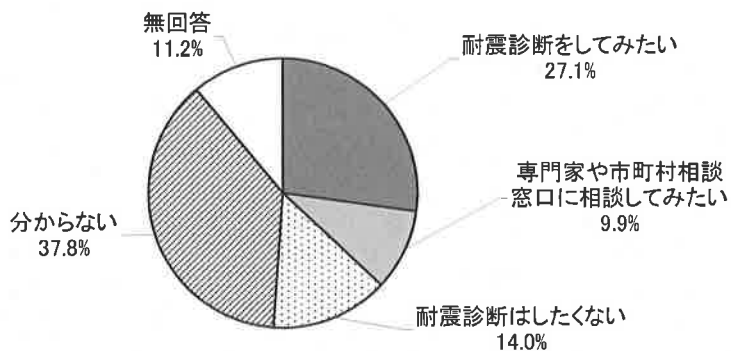
問	今後、耐震診断をしたいですか（ひとつだけ○）。
1. 耐震診断をしてみたい	2. 専門家や市町村相談窓口相談してみたい
3. 耐震診断はしたくない	4. 分からない

#### 単数回答

#### 津波危険地区 (N=643)



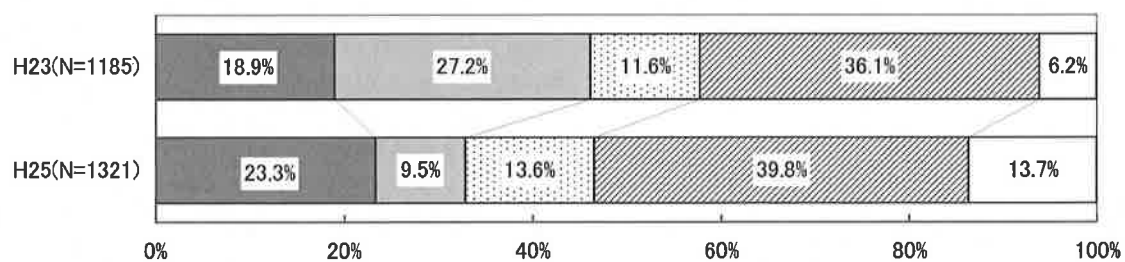
#### 全県 (N=678)



今後、耐震診断を受けたいかについて、津波危険地区(42.0%)及び全県(37.8%)ともに「分からない」が多くなっている。「耐震診断をしてみたい」について、津波危険地区(19.3%)が全県(27.1%)を7.8ポイント下回っている。

## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

図. 今後、耐震診断を受けたいか  
～経年比較～



- 耐震診断をしてみたい
- 専門家や市町村相談窓口に相談してみたい
- 耐震診断はしたくない
- ▨ 分からない
- 無回答

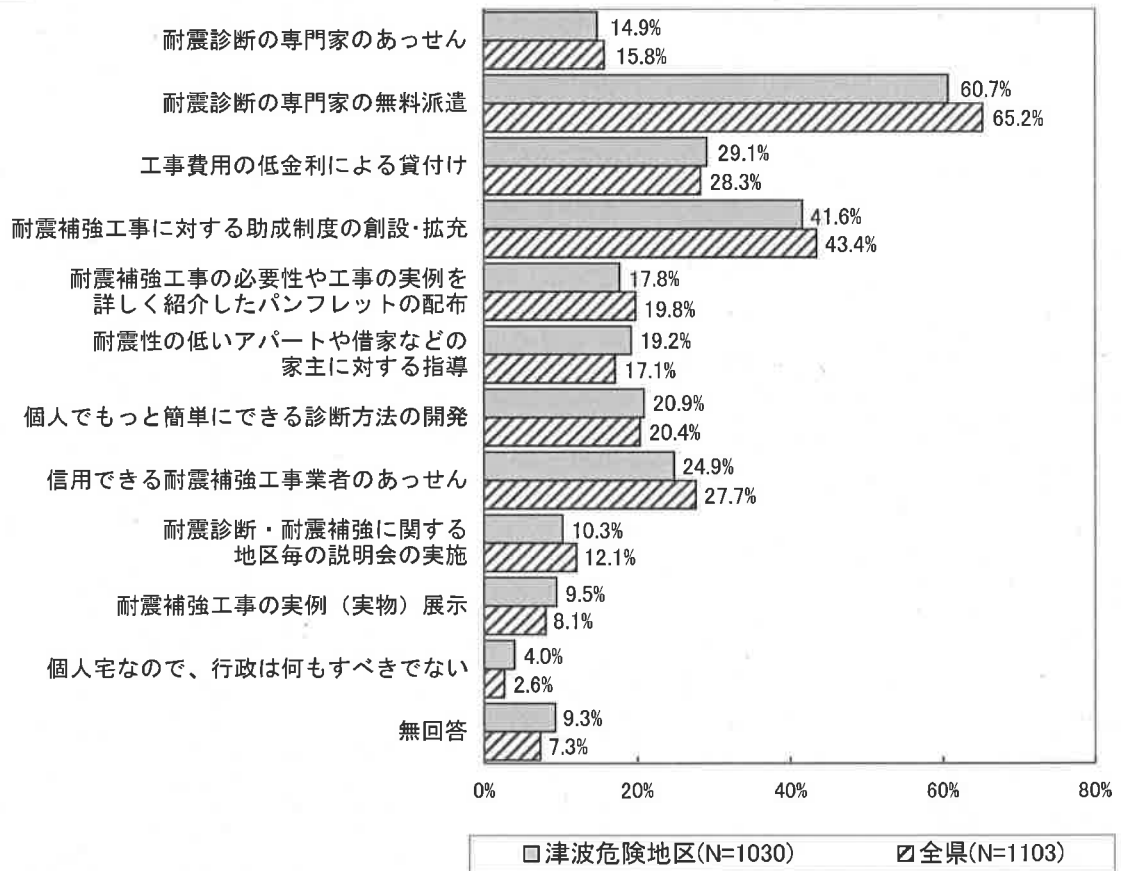
経年比較について、「耐震診断をしてみたい」と「専門家や市町村相談窓口に相談してみたい」の合計は、平成23年(46.1%)と今回(32.8%)で13.3ポイント低くなっている。「耐震診断したくない」は2.0ポイント高くなっており、耐震診断への関心度が低い。

## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 7-10 木造住宅の耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか

<b>問</b>	今後、木造住宅の耐震化を促進するために、県や市町村は何をすべきだと思いますか（いくつでも○）。
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 耐震診断の専門家のあっせん      2. 耐震診断の専門家の無料派遣</li> <li>3. 工事費用の低金利による貸付け      4. 耐震補強工事に対する助成制度の創設・拡充</li> <li>5. 耐震補強工事の必要性や工事の実例を詳しく紹介したパンフレットの配布</li> <li>6. 耐震性の低いアパートや借家などの家主に対する指導</li> <li>7. 個人でもっと簡単にできる診断方法の開発</li> <li>8. 信用できる耐震補強工事業者のあっせん</li> <li>9. 耐震診断・耐震補強に関する地区毎の説明会の実施</li> <li>10. 耐震補強工事の実例（実物）展示</li> <li>11. 個人宅なので、行政は何もすべきでない</li> </ol>

**複数回答** 図. 木造住宅の耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか

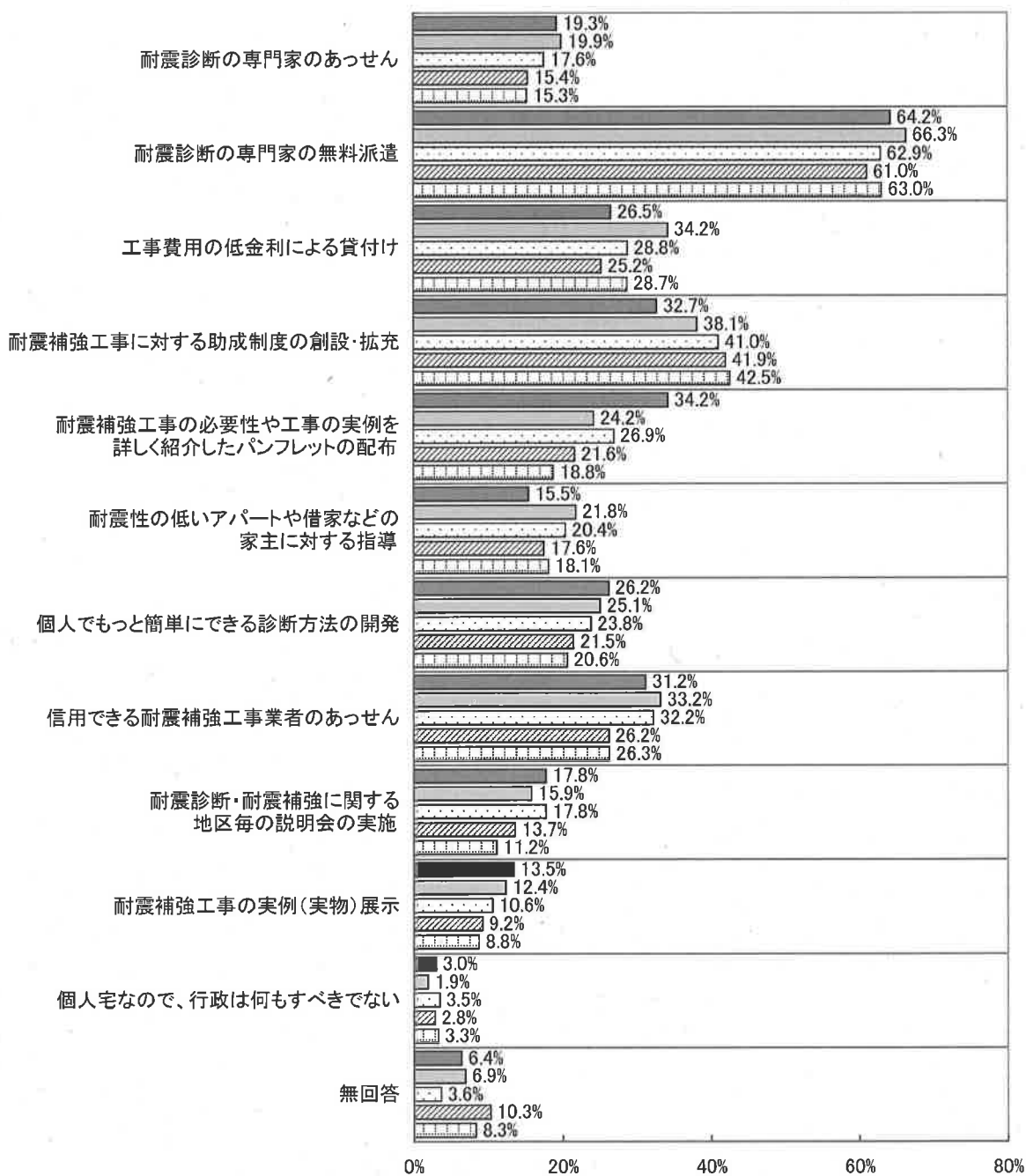


木造住宅の耐震化を促進するために、行政は何をすべきかについて、津波危険地区(60.7%)及び全県(65.2%)で「耐震診断の専門家の無料派遣」が最も多く、次いで「耐震補強工事に対する助成制度の創設・拡充」となっている。

津波危険地区と全県では、特に大きな差はみられない。

7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

図. 木造住宅の耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか  
～経年比較～



■ H16(N=2328) □ H19(N=1122) □ H22(N=1818) ▨ H23(N=1908) ▩ H25(N=2133)

経年比較について、「耐震診断の専門家の無料派遣」が最も多く、次いで「耐震補強工事に係る助成制度の創設・拡充」となっている。  
経年比較で特に大きな変化はみられない。



## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

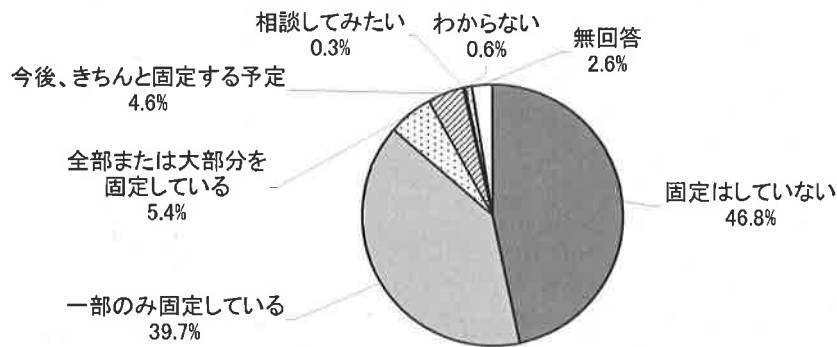
### 7-11 家具類の固定をしているか

問 お宅では家具類の固定をしていますか（ひとつだけ○）。

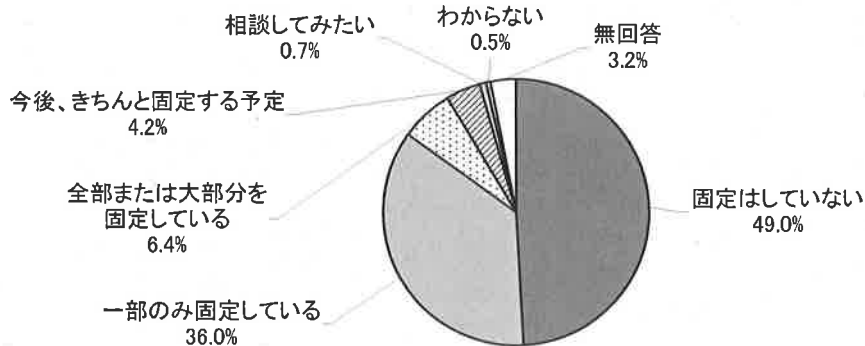
1. 固定はしていない    2. 一部のみ固定している    3. 全部または大部分を固定している  
 4. 今後、きちんと固定する予定    5. 相談してみたい    6. わからない

単数回答

#### 津波危険地区(N=1030)



#### 全県(N=1103)



家具類の固定について、津波危険地区(46.8%)及び全県(49.0%)ともに「固定はしていない」が多く、「全部または大部分を固定している」と「一部のみ固定している」の合計は、津波危険地区で45.1%、全県で42.4%となっている。津波危険地区と全県で特に差はみられない。

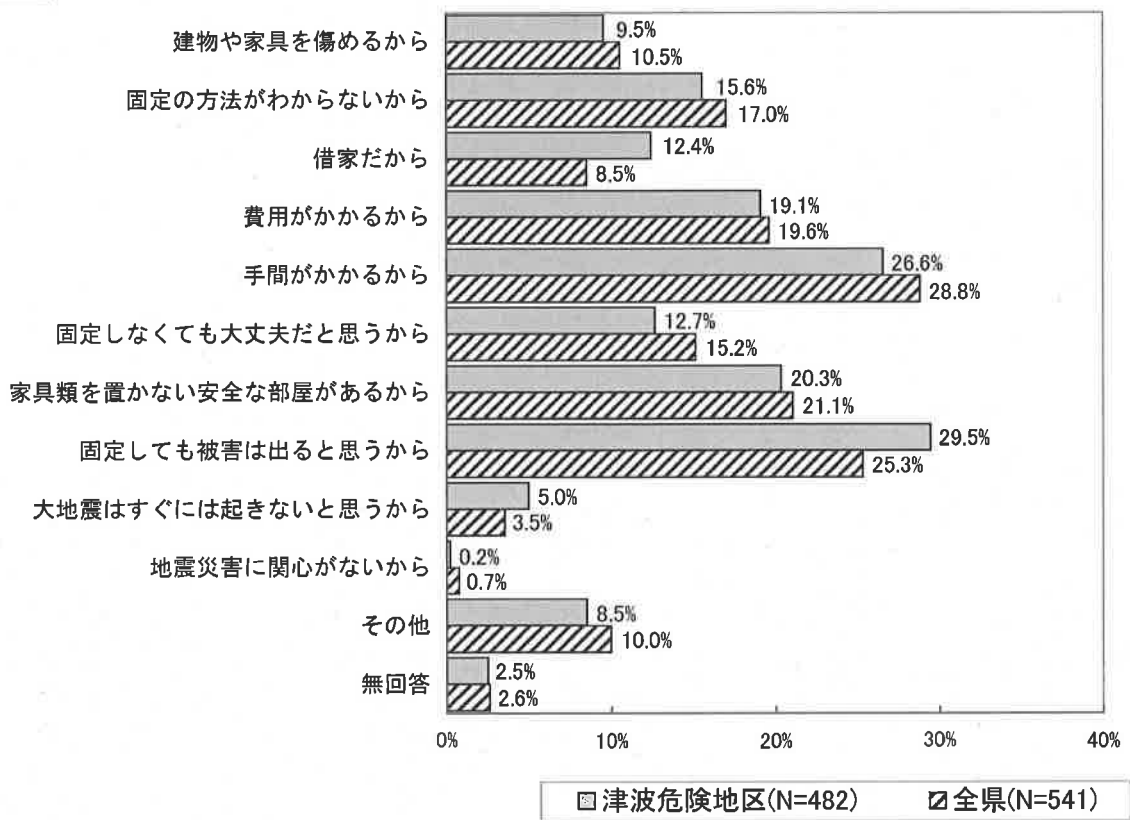
## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 7-12 家具類の固定をしていないのはなぜか

問	家具類の固定をしていないのはどのような理由からですか（いくつでも○）。	
1. 建物や家具を傷めるから	2. 固定の方法がわからないから	3. 借家だから
4. 費用がかかるから	5. 手間がかかるから	6. 固定しなくても大丈夫だと思うから
7. 家具類を置かない安全な部屋があるから	8. 固定しても被害は出ると思うから	
9. 大地震はすぐには起きないと思うから	10. 地震災害に関心がないから	
11. その他（            ）		

#### 複数回答

図. 家具類の固定をしていないのはなぜか



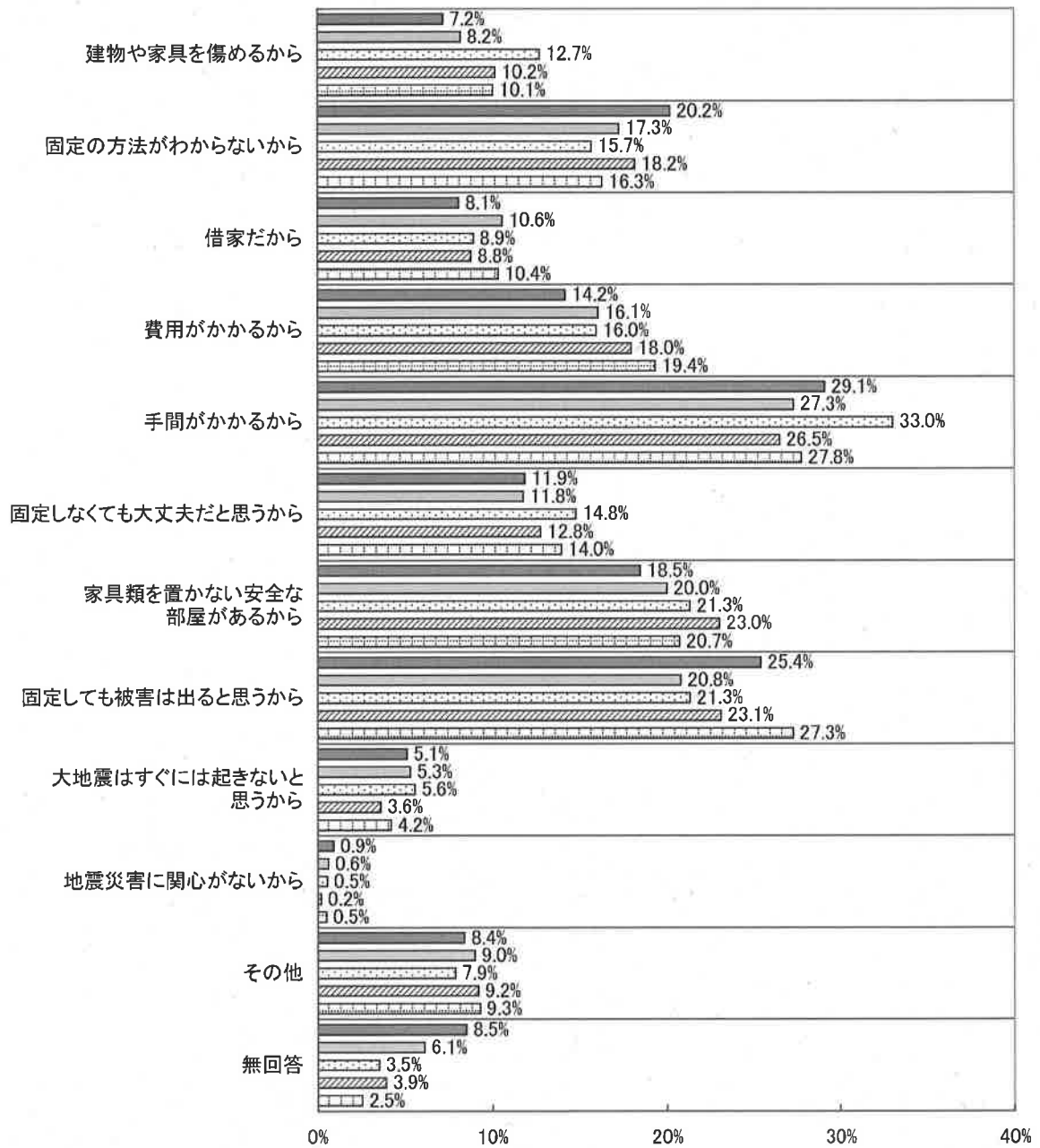
#### <その他回答>

- よく家具の配置がえをするから
- 危険な家具は置かないようにしている
- 自分では出来ないから
- ガラス戸など固定できない場所が多い
- しようと思いつながらまだできていない
- など

家具類の固定をしていない理由について、津波危険地区では「固定しても被害は出ると思うから」(29.5%)が最も多くなっている。全県では「手間がかかるから」(28.8%)が最も多く、次いで「固定しても被害は出ると思うから」(25.3%)となっている。津波危険地区と全県で特に差はみられない。

7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

図. 家具類の固定をしていないのはなぜか  
～経年比較～



■ H16(N=2034) □ H19(N=1035) ▨ H22(N=1756) ▩ H23(N=1067) ▤ H25(N=1023)

経年比較について、「手間がかかるから」(27.8%)と「固定しても被害は出ると思うから」(27.3%)が最も多く、関心のなさが伺える。  
経年比較で特に大きな変化はみられない。

## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

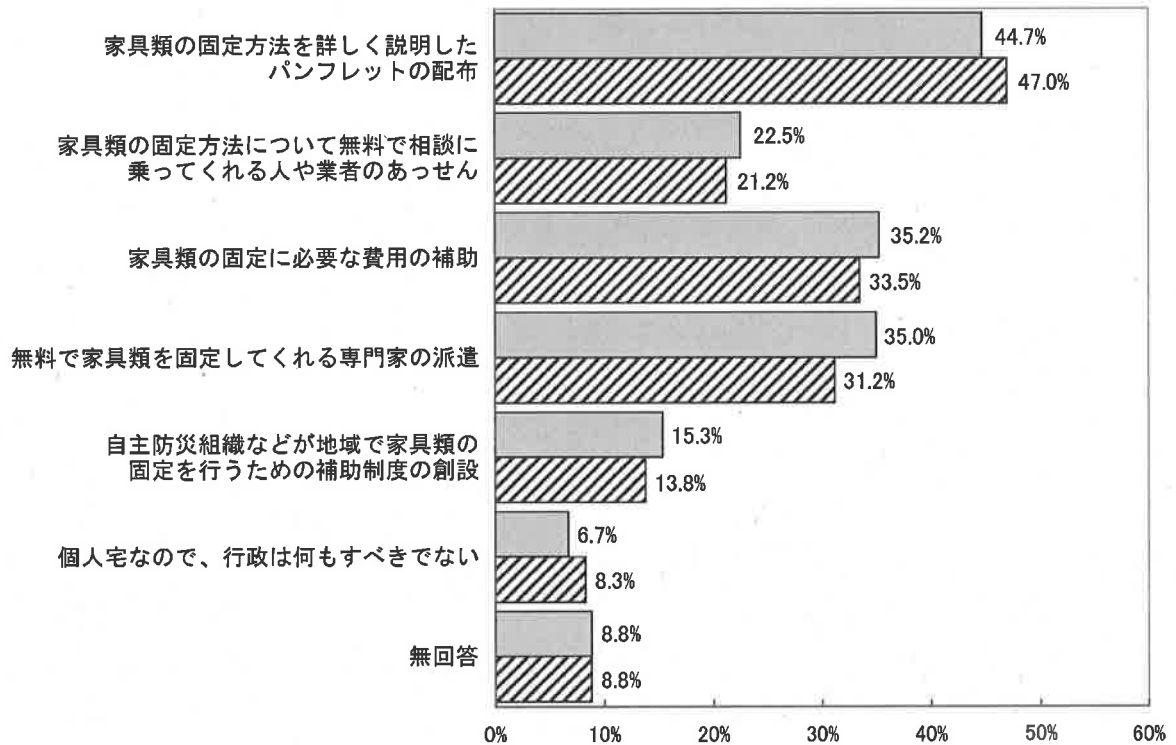
### 7-13 家具類の固定を促進するため、行政は何をすべきだと思うか

問 家具類の固定を促進するために、県や市町村では何をすべきだと思いますか（いくつでも○）。

1. 家具類の固定方法を詳しく説明したパンフレットの配布
2. 家具類の固定方法について無料で相談に乗ってくれる人や業者のあつせん
3. 家具類の固定に必要な費用の補助
4. 無料で家具類を固定してくれる専門家の派遣
5. 自主防災組織などが地域で家具類の固定を行うための補助制度の創設
6. 個人宅なので、行政は何もすべきでない

複数回答

図. 家具類の固定を促進するため、行政は何をすべきだと思うか



■ 津波危険地区 (N=1030)

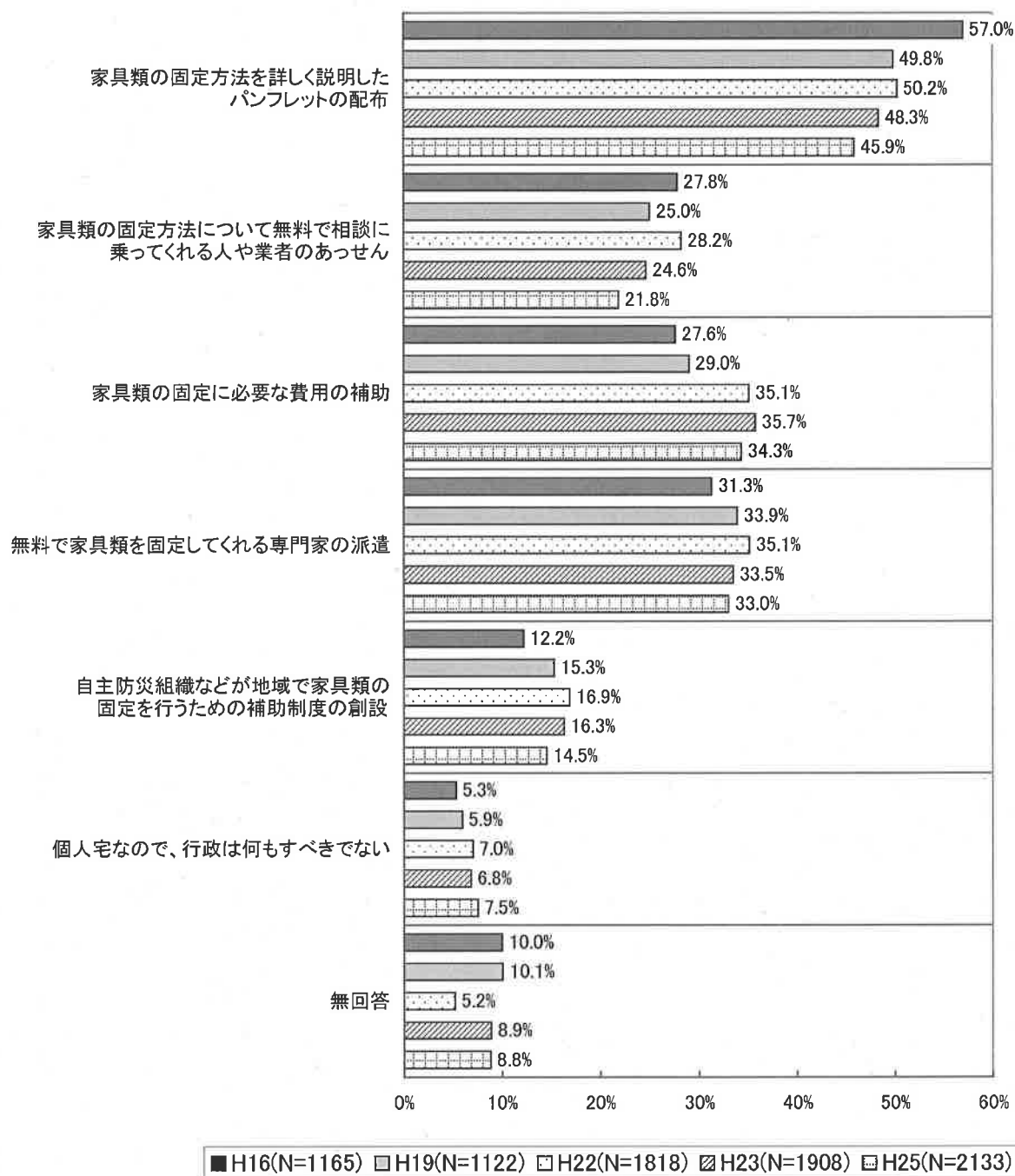
▨ 全県 (N=1103)

家具類の固定を促進するために、行政は何をすべきかについて、津波危険地区(44.7%)及び全県(47.0%)とも「家具類の固定方法を詳しく説明したパンフレットの配布」が最も多く、次いで「家具類の固定に必要な費用の補助」となっている。

津波危険地区と全県とで、特に差はみられない。

## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

図. 家具類の固定を促進するため、行政は何をすべきだと思うか  
～経年比較～



経年比較について、各年で「家具類の固定方法を詳しく説明したパンフレットの配布」が最も多い。

また、「家具類の固定に必要な費用の補助」や「無料で家具類を固定してくれる専門家の派遣」の回答も多くなっている。

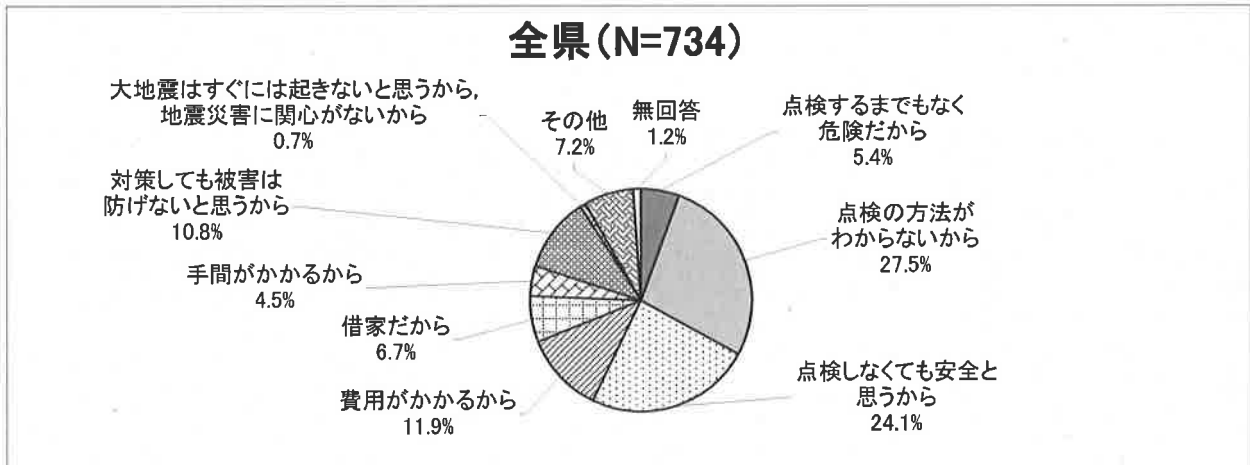
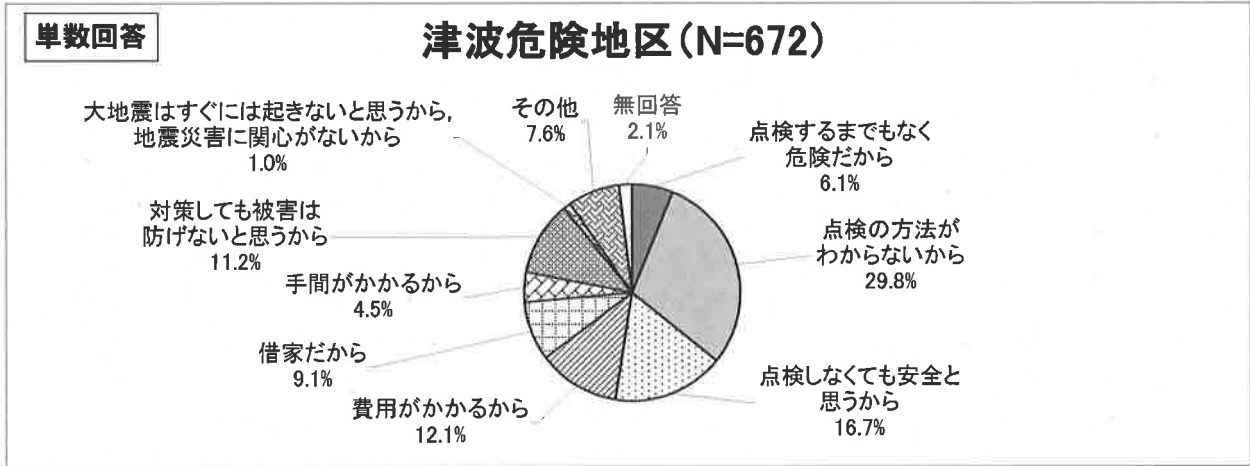
経年比較で特に大きな変化はみられない。



## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 7-15 点検していないのはなぜか

問	点検していない主な理由は何ですか（ひとつだけ○）。	
1. 点検するまでもなく危険だから	2. 点検の方法がわからないから	
3. 点検しなくても安全と思うから	4. 費用がかかるから	5. 借家だから
6. 手間がかかるから	7. 対策しても被害は防げないと思うから	
8. 大地震はすぐには起きないと思うから	10. その他( )	
9. 地震災害に関心がないから		



#### <その他回答>

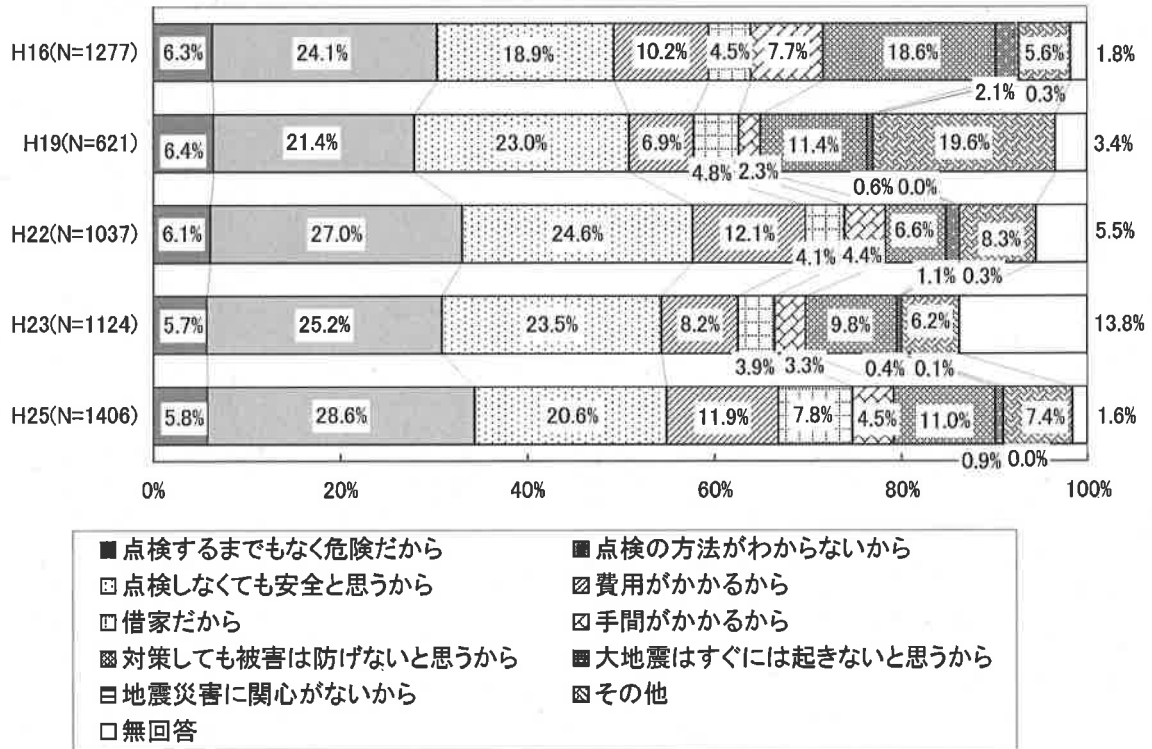
- |              |                   |
|--------------|-------------------|
| ・ 高さが低いから    | ・ 新築だから           |
| ・ 中に鉄筋を入れている | ・ そこまで考えていなかった など |

点検していない理由について、津波危険地区(29.8%)及び全県(27.5%)ともに「点検の方法がわからないから」が最も多く、次いで「点検しなくても安全と思うから」となっている。津波危険地区と全県で大きな変化はみられない。

「大地震はすぐには起きないと思うから」「地震災害に関心がないから」は0.5%以下多数の為、一つにまとめて算出した。

7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

図. 点検していないのはなぜか  
～経年比較～



経年比較について、各年で「点検の方法がわからないから」が最も多くなっており、次いで「点検しなくても安全と思うから」となっている。  
経年比較で特に大きな差はみられない。





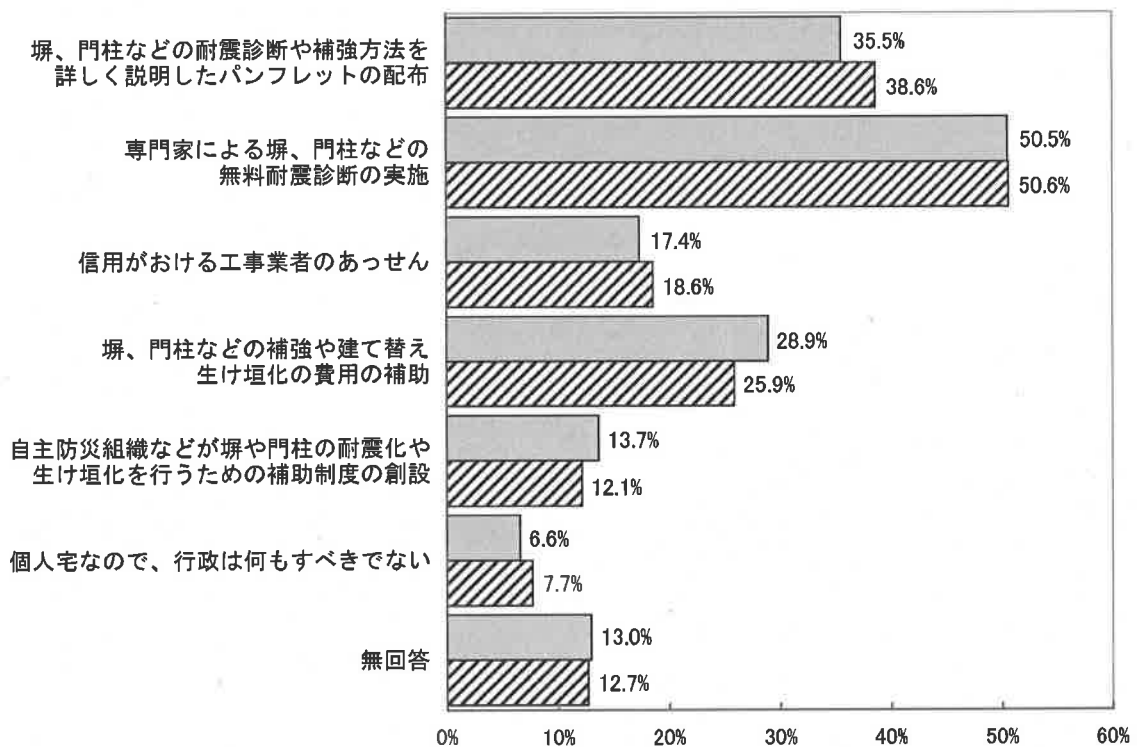
## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

### 7-17 ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか

問	今後、ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するために、県や市町村は、何をすべきだと思いますか（いくつでも○）。
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 塀、門柱などの耐震診断や補強方法を詳しく説明したパンフレットの配布</li> <li>2. 専門家による塀、門柱などの無料耐震診断の実施</li> <li>3. 信用がおける工事業者のあっせん</li> <li>4. 塀、門柱などの補強や建て替え、生け垣化の費用の補助</li> <li>5. 自主防災組織などが塀や門柱の耐震化や生け垣化を行うための補助制度の創設</li> <li>6. 個人宅なので、行政は何もすべきでない</li> </ol>

複数回答

図. ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するため、行政は何をすべきだと思うか



■ 津波危険地区(N=1030)

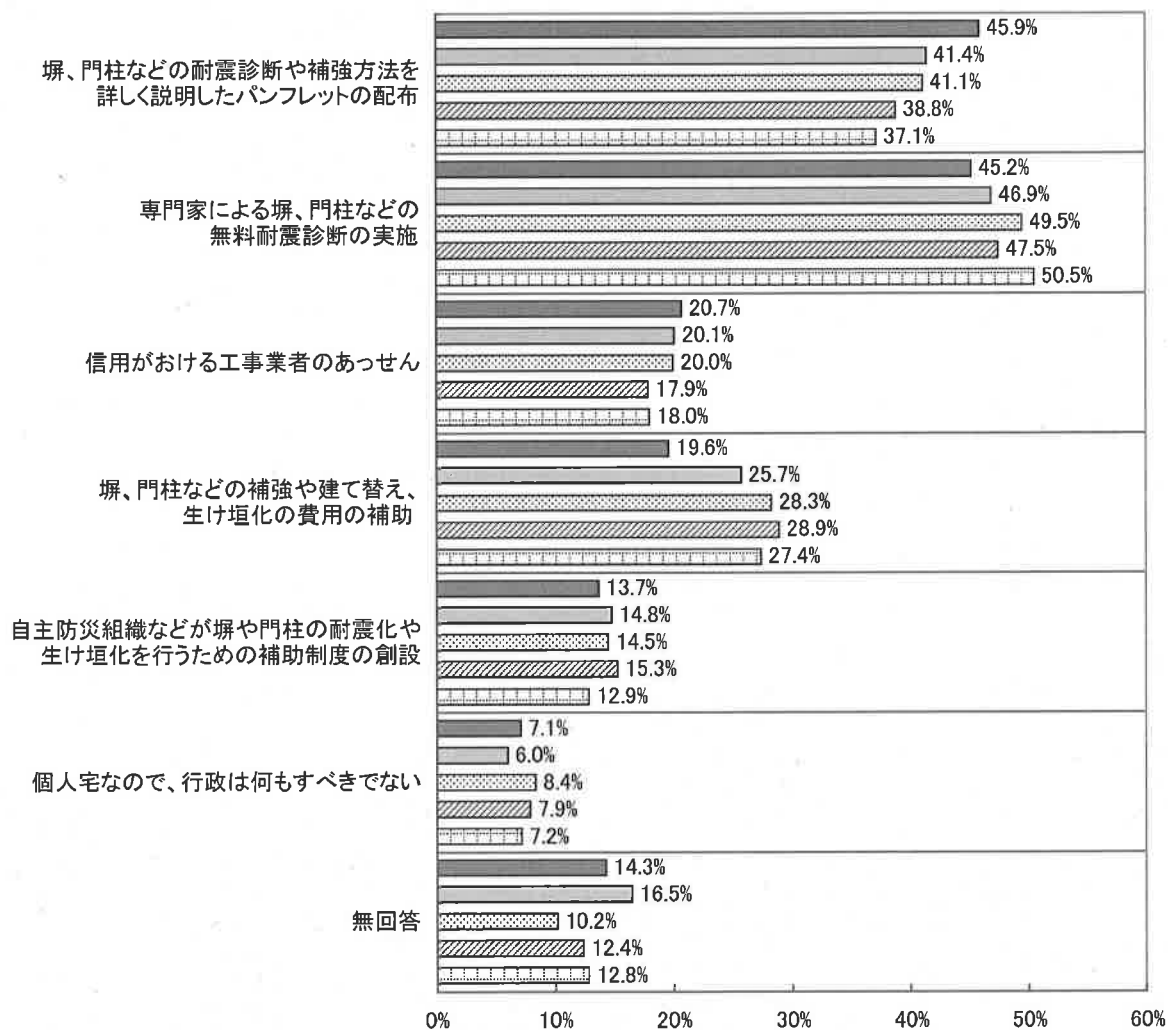
▨ 全県(N=1103)

ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するために、行政は何をすべきかについて、津波危険地区(50.5%)及び全県(50.6%)ともに「専門家による塀、門柱などの無料耐震診断の実施」が最も多く、次いで「塀、門柱などの耐震診断や補強方法を詳しく説明したパンフレットの配布」、「塀、門柱などの補強や建て替え、生け垣化の費用の補助」となっている。

津波危険地区と全県で大きな差はみられない。

## 7. 住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策について

図. ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するため、  
行政は何をすべきだと思うか  
～経年比較～



■ H16(N=1165) □ H19(N=1122) ▨ H22(N=1818) ▩ H23(N=1908) ▪ H25(N=2133)

経年比較について、「専門家による塀、門柱などの無料耐震診断の実施」が最も多く、過去最高の回答となった。次いで「塀、門柱などの耐震診断や補強方法を詳しく説明したパンフレットの配布」となっている。

経年比較で特に大きな差はみられない。

## 8. 備蓄や訓練について

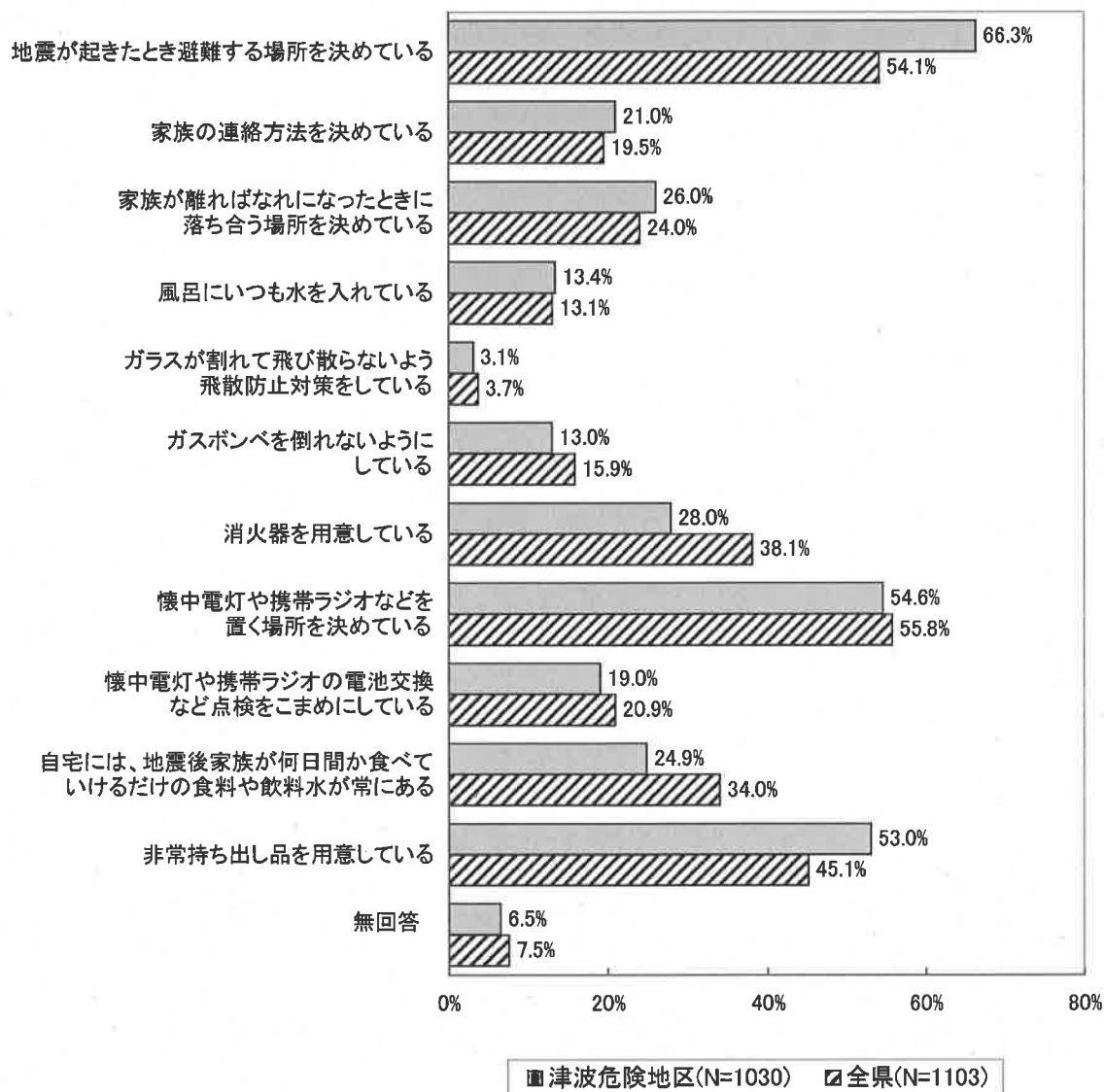
### 8-1 どのような地震防災対策を行っているか

問	東海・東南海・南海3連動地震などに備えて、下にあげたような地震防災対策を行っていますか(いくつでも○)。
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 地震が起きたとき避難する場所を決めている</li><li>2. 家族の連絡方法を決めている</li><li>3. 家族が離ればなれになったときに落ち合う場所を決めている</li><li>4. 風呂にいつも水を入れている</li><li>5. ガラスが割れて飛び散らないよう、飛散防止対策をしている</li><li>6. ガスボンベを倒れないようにしている</li><li>7. 消火器を用意している</li><li>8. 懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている</li><li>9. 懐中電灯や携帯ラジオの電池交換など、点検をこまめにしている</li><li>10. 自宅には、地震後、家族が何日間か食べていけるだけの食料や飲料水が常にある</li><li>11. 非常持ち出し品を用意している</li></ol>	

8. 備蓄や訓練について

複数回答

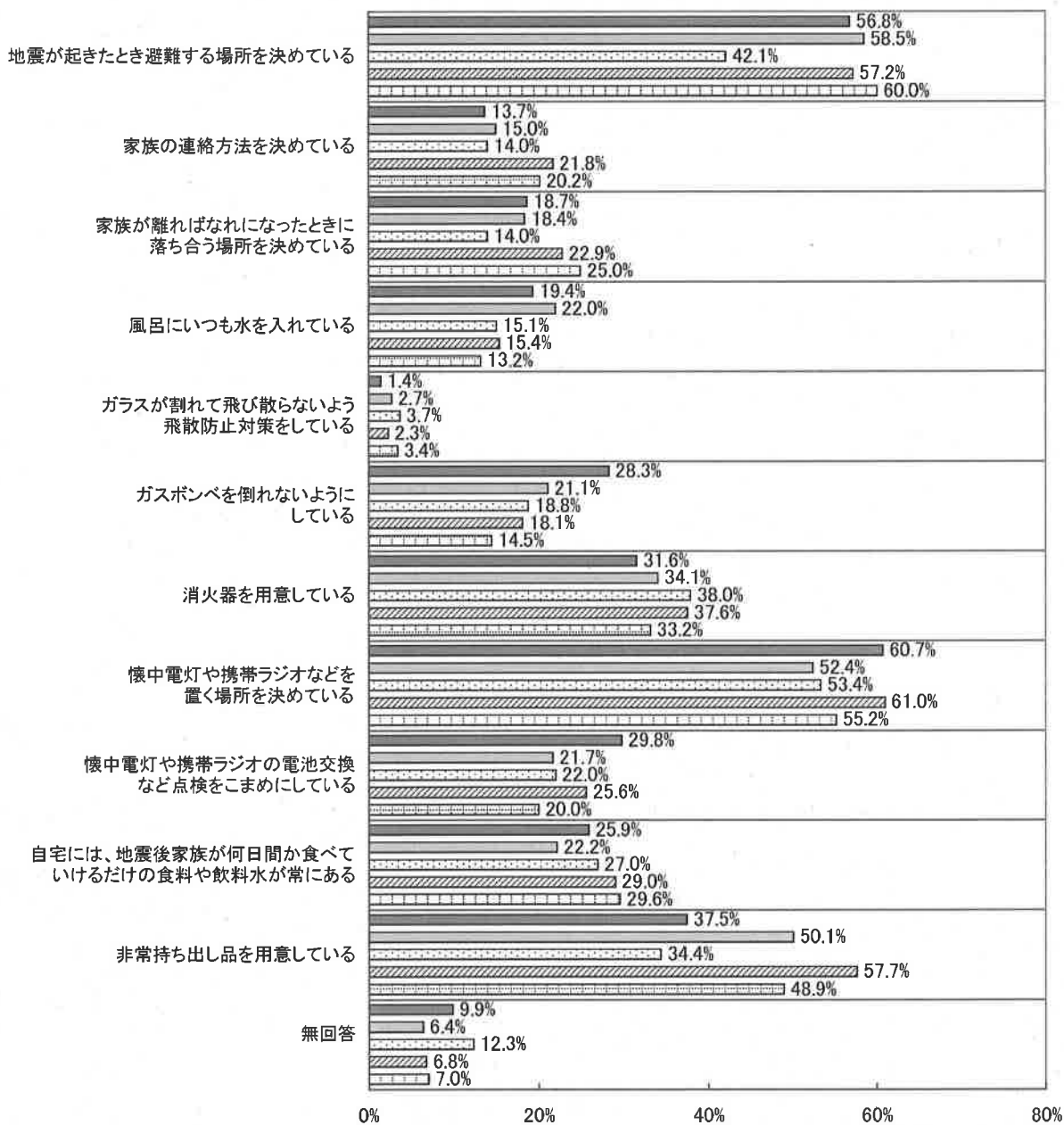
図. どのような地震防災対策を行っているか



地震防災対策について、津波危険地区では「地震が起きたとき避難する場所を決めている」(66.3%)が最も多く、全県では「懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている」(55.8%)が最も多くなっている。「地震が起きたとき避難する場所を決めている」は津波危険地区(66.3%)が全県(54.1%)を12.2ポイント上回っている。

8. 備蓄や訓練について

図. どのような地震防災対策を行っているか  
～経年比較～



■ H16(N=2328) □ H19(N=1122) ▨ H22(N=1818) ▩ H23(N=1908) ▤ H25(N=2133)

経年比較について、「地震が起きたとき避難する場所を決めている」が今回の調査で最も多くなっている。

また、前回調査から「懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている」で5.8ポイント、「非常持ち出し品を用意している」で8.8ポイント減少している。

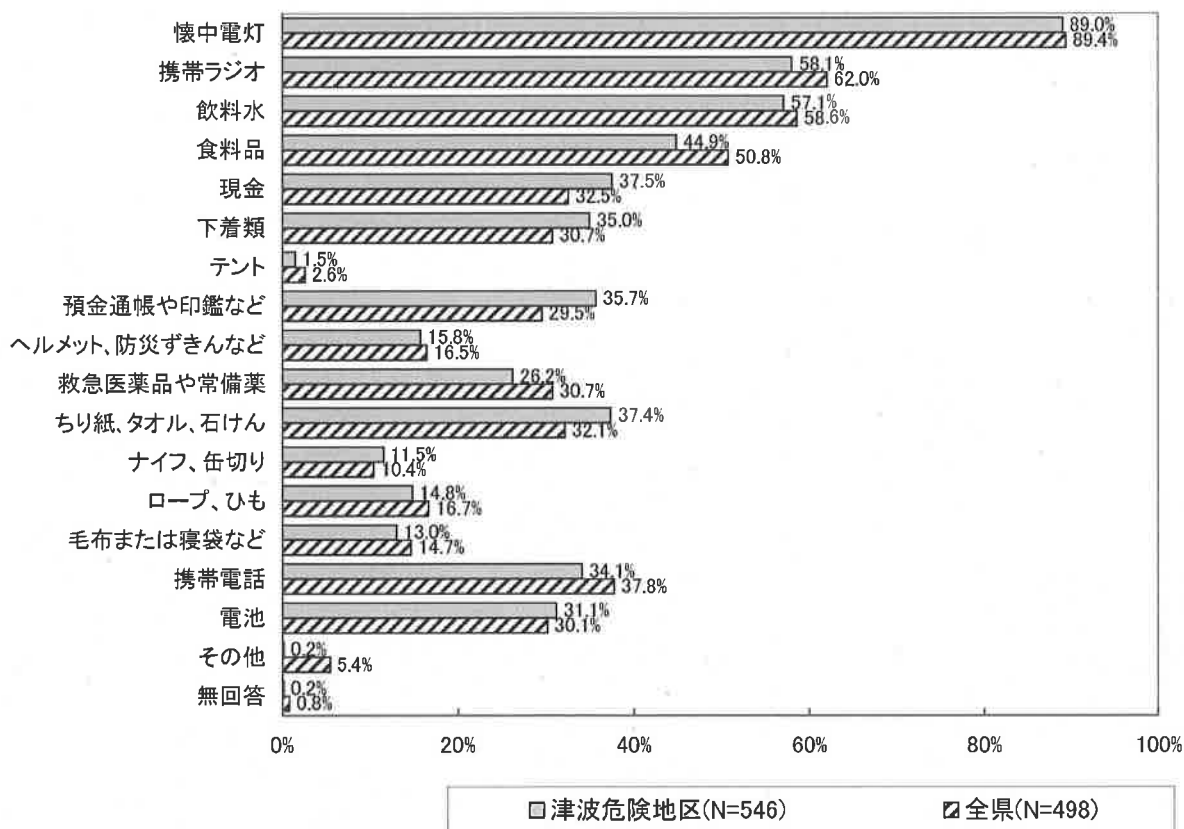
## 8. 備蓄や訓練について

### 8-2 非常持ち出し品として、まとめて置いてあるものは何か

<b>問</b>	非常持ち出し品として、すぐ持ち出せるよう、まとめて置いてあるものすべてに○をつけてください。	
1. 懐中電灯	2. 携帯ラジオ	3. 飲料水
4. 食料品	5. 現金	6. 下着類
7. テント	8. 預金通帳や印鑑など	9. ヘルメット、防災ずきんなど
10. 救急医薬品や常備薬	11. ちり紙、タオル、石けん	12. ナイフ、缶切り
13. ロープ、ひも	14. 毛布または寝袋など	15. 携帯電話
16. 電池	17. その他 (            )	

複数回答

図. 非常持ち出し品として、まとめて置いてあるものは何か



#### <その他回答>

●津波危険地区

- ・ランプ
- ・携帯トイレ、カイロ、カップ
- ・ゴミ袋、サランラップ

●全県

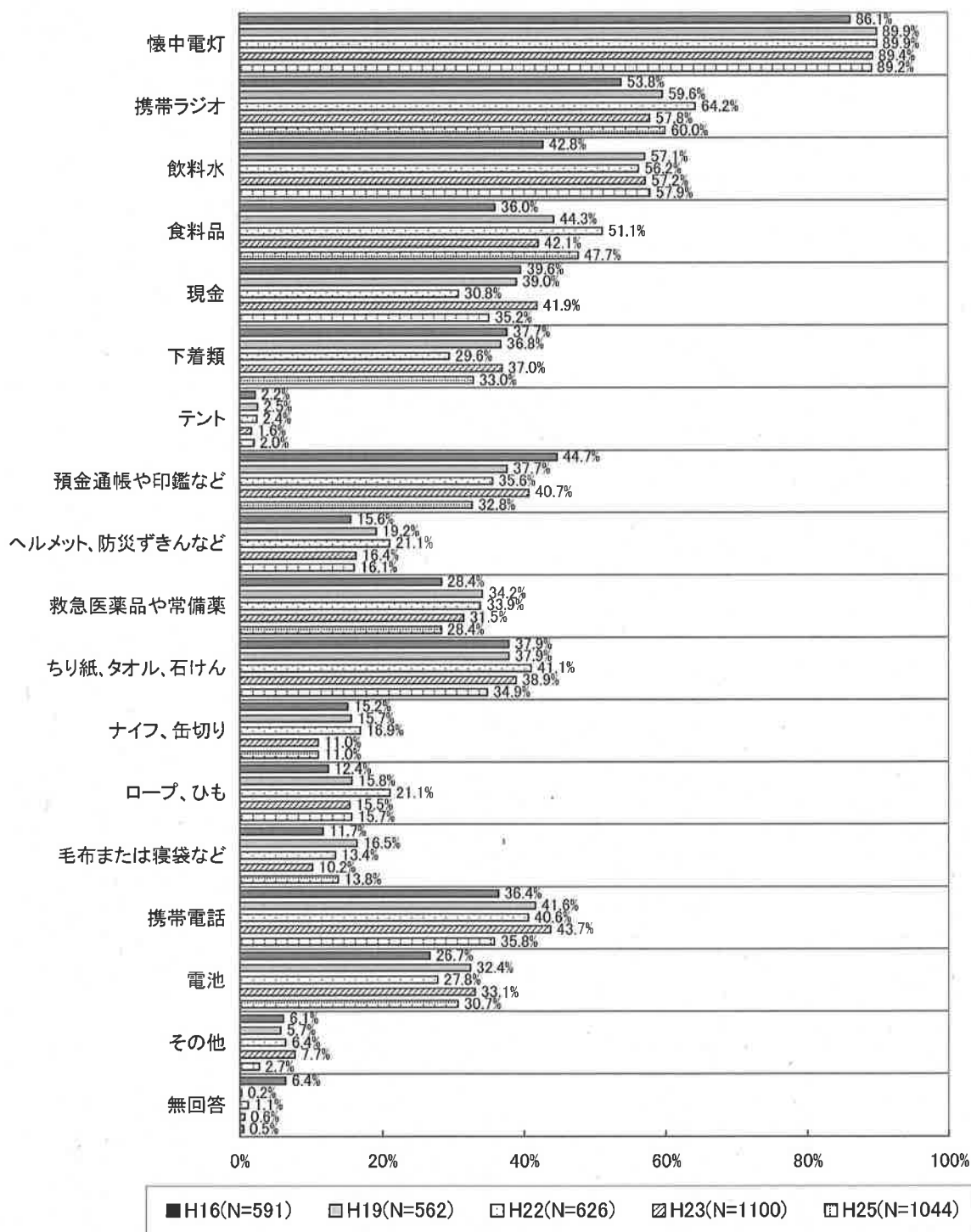
- ・発電機
- ・防水・防寒着、警笛、金槌
- ・メモ帳、ペン                    など

非常持ち出し品としてまとめてあるものについて、津波危険地区(89.0%)及び全県(89.4%)とも「懐中電灯」が最も多く、次いで「携帯ラジオ」となっている。

津波危険地区と全県とで特に差がみられない。

## 8. 備蓄や訓練について

図. 非常持ち出し品として、まとめて置いてあるものは何か  
～経年比較～



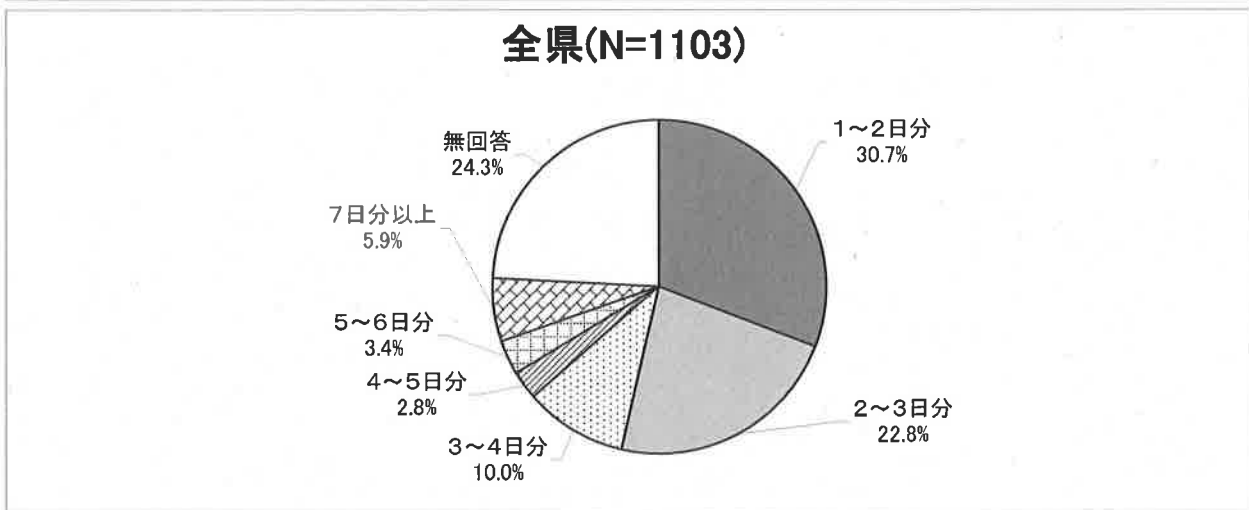
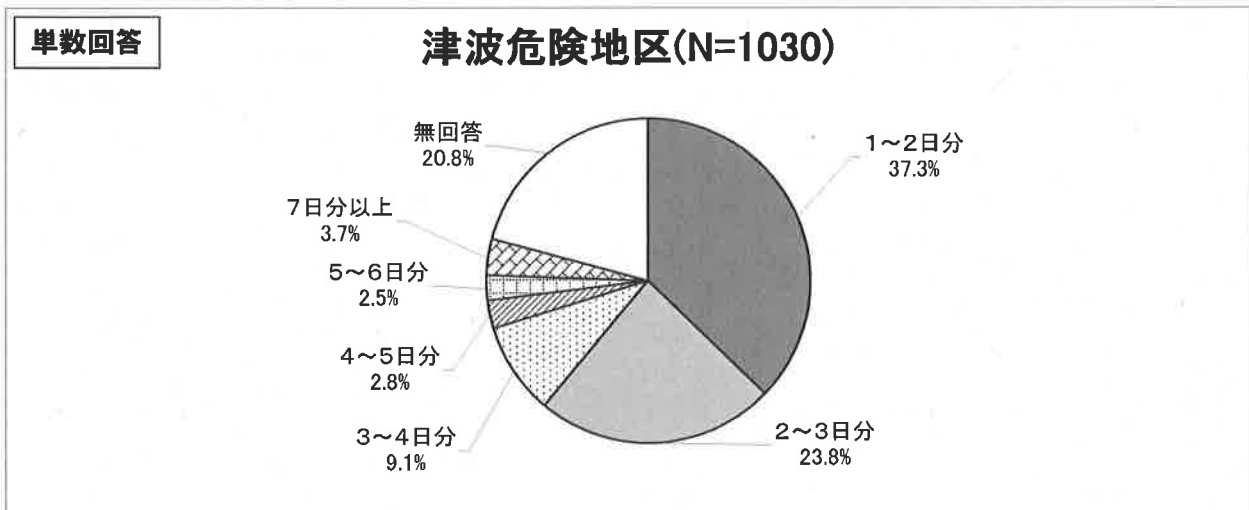
経年比較について、各年で「懐中電灯」が圧倒的に多く、次いで「携帯ラジオ」となっている。  
経年比較で特に大きな変化はみられない。



## 8. 備蓄や訓練について

### 8-3 家庭では何日分の水や食料を備蓄しているか

問	あなたのご家庭では、何日分の水や食料を備蓄をしていますか。水は1日3リットル・食料は1日3食としてお考え下さい（ひとつだけ○）。					
	1. 1～2日分	2. 2～3日分	3. 3～4日分			
	4. 4～5日分	5. 5～6日分	6. 7日分以上			



何日分の水や食料を備蓄しているかについて、津波危険地区(37.3%)及び全県(30.7%)ともに「1～2日分」が最も多く、次いで「2～3日分」となっている。

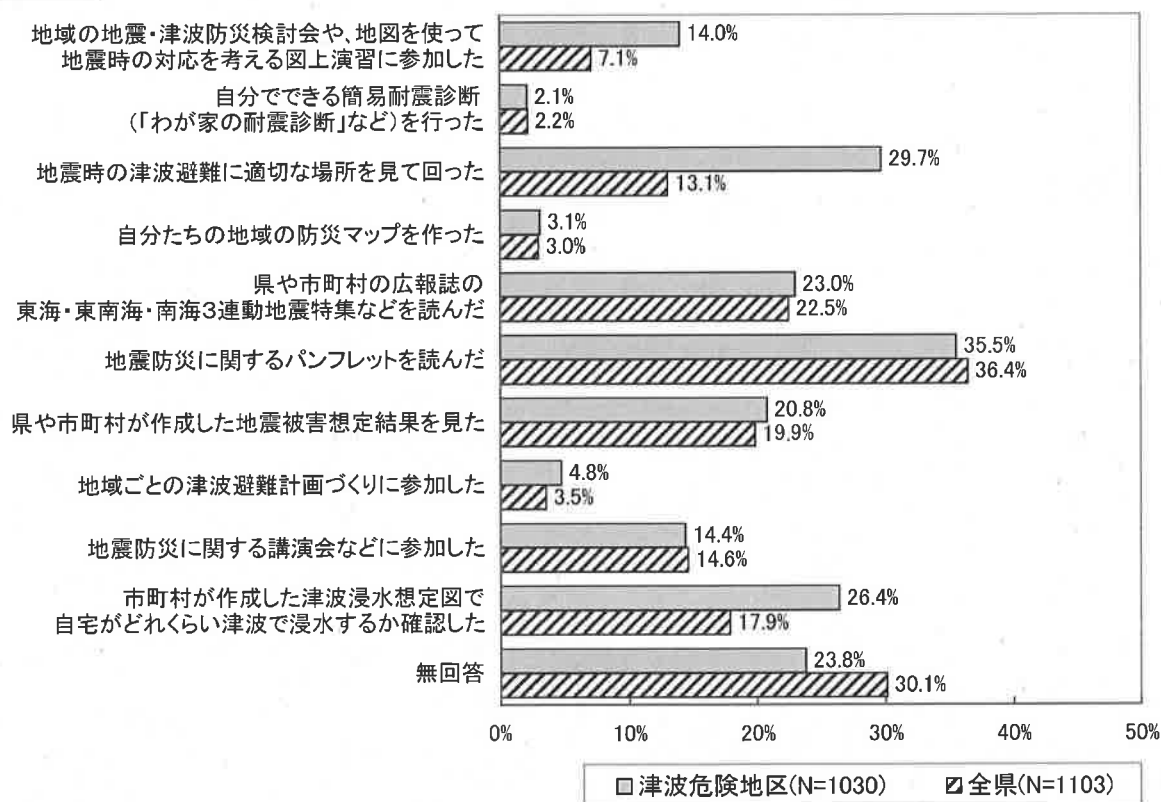
## 8. 備蓄や訓練について

### 8-4 防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか

問	あなたは、次のようなことを行ったり、参加したことがありますか（いくつでも○）。
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の地震・津波防災検討会や、地図を使って地震時の対応を考える図上演習に参加した</li> <li>2. 自分でできる簡易耐震診断（「わが家の耐震診断」など）を行った</li> <li>3. 地震時の津波避難に適切な場所を見て回った</li> <li>4. 自分たちの地域の防災マップを作った</li> <li>5. 県や市町村の広報誌の東海・東南海・南海3連動地震特集などを読んだ</li> <li>6. 地震防災に関するパンフレットを読んだ</li> <li>7. 県や市町村が作成した地震被害想定結果を見た</li> <li>8. 地域ごとの津波避難計画づくりに参加した</li> <li>9. 地震防災に関する講演会などに参加した</li> <li>10. 市町村が作成した津波浸水想定図で、自宅がどれくらい津波で浸水するか確認した</li> </ol>	

#### 複数回答

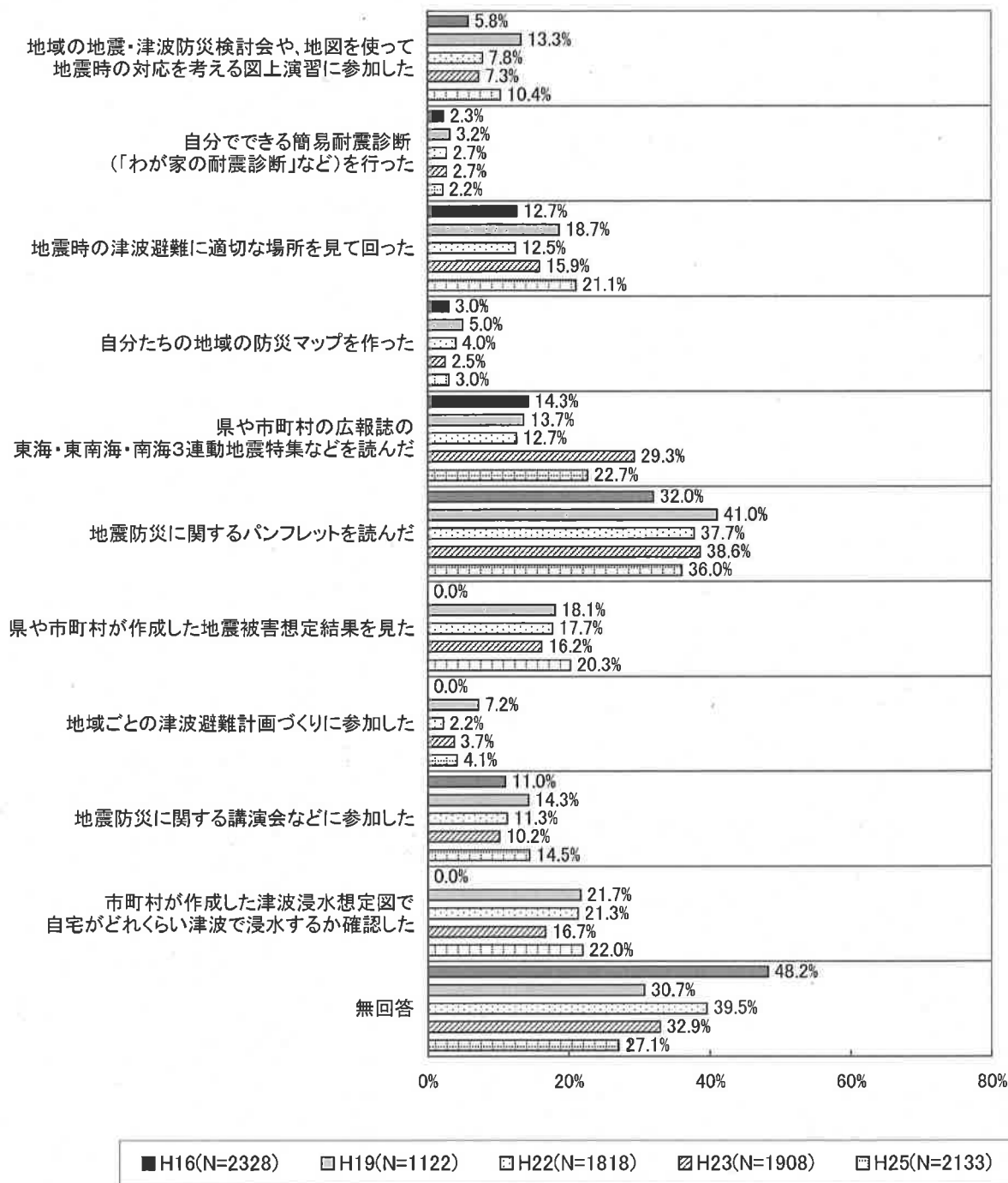
#### 図. 防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか



防災に関する活動を行ったり、参加したことがあるかについて、津波危険地区及び全県とも「地震防災に関するパンフレットを読んだ」が最も多い。「地震時の津波避難に適切な場所を見て回った」は、津波危険地区では29.7%に対し、全県では13.1%、「市町村が作成した津波浸水想定図で、自宅がどれくらい津波で浸水するか確認した」は、津波危険地区では26.4%に対し、全県では17.9%となるなど、防災意識に差がみられる。

8. 備蓄や訓練について

図. 防災に関する活動を行ったり、参加したことはあるか  
～経年比較～



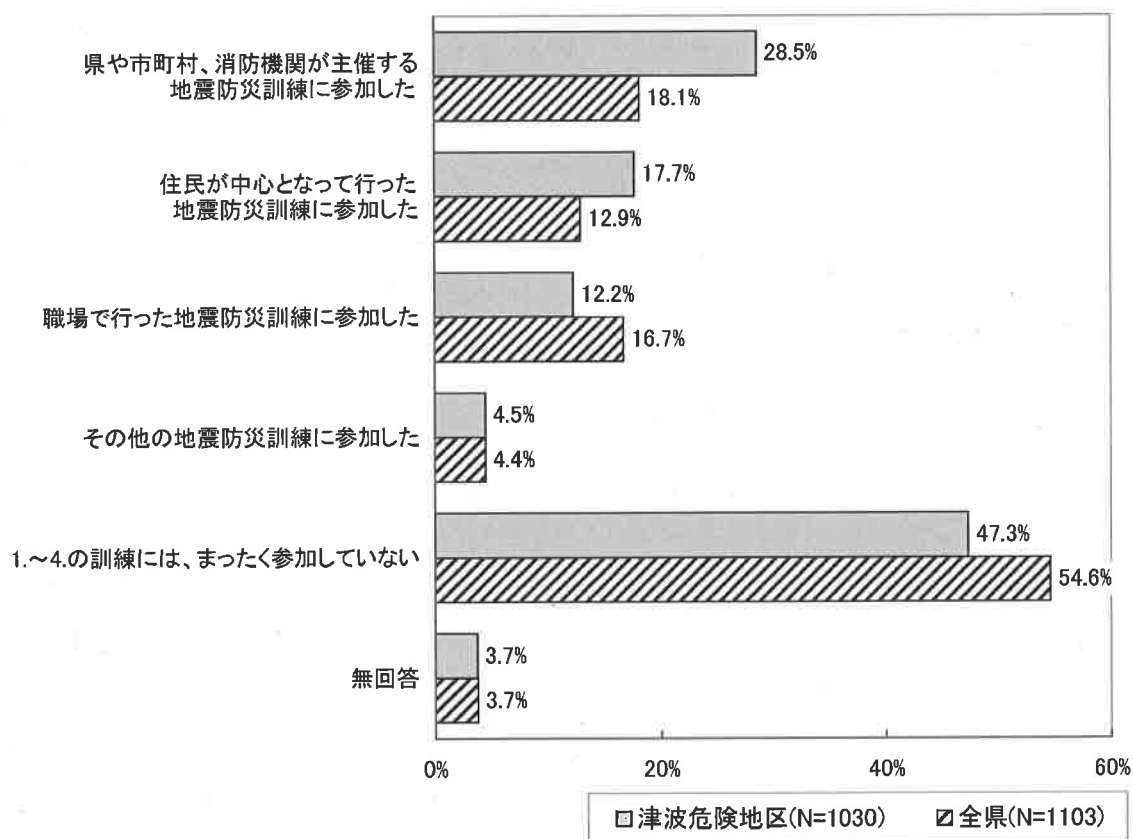
経年比較について、「地震防災に関するパンフレットを読んだ」が最も多く、次いで「県や市町村の広報誌の東海・東南海・南海3連動地震特集などを読んだ」となっている。

## 8. 備蓄や訓練について

### 8-5 過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがあるか

問	あなたは、過去一年間に地域や職場、県や市町村などが実施する地震防災訓練に参加したことがありますか（いくつでも○）。
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 県や市町村、消防機関が主催する地震防災訓練に参加した</li> <li>2. 住民が中心となって行った地震防災訓練に参加した</li> <li>3. 職場で行った地震防災訓練に参加した</li> <li>4. その他の地震防災訓練に参加した</li> <li>5. 1.～4.の訓練には、まったく参加していない</li> </ol>

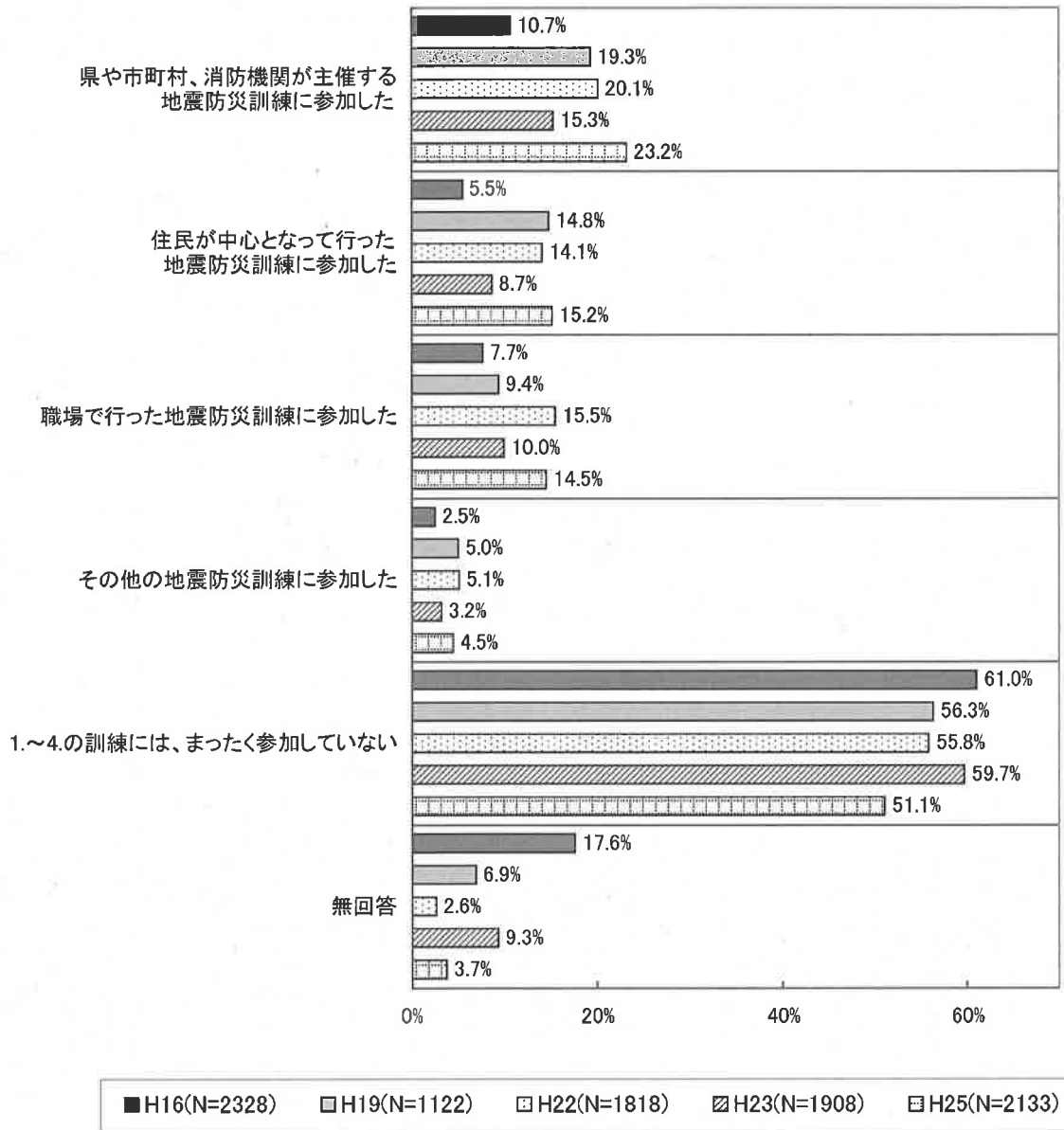
**複数回答** 図. 過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがあるか



過去一年間に地震防災訓練に参加したかについて、津波危険地区(47.3%)及び全県(54.6%)とも「1.～4.の訓練にはまったく参加していない」が約5割を占めており、各種地震防災訓練の参加に消極的となっている。

8. 備蓄や訓練について

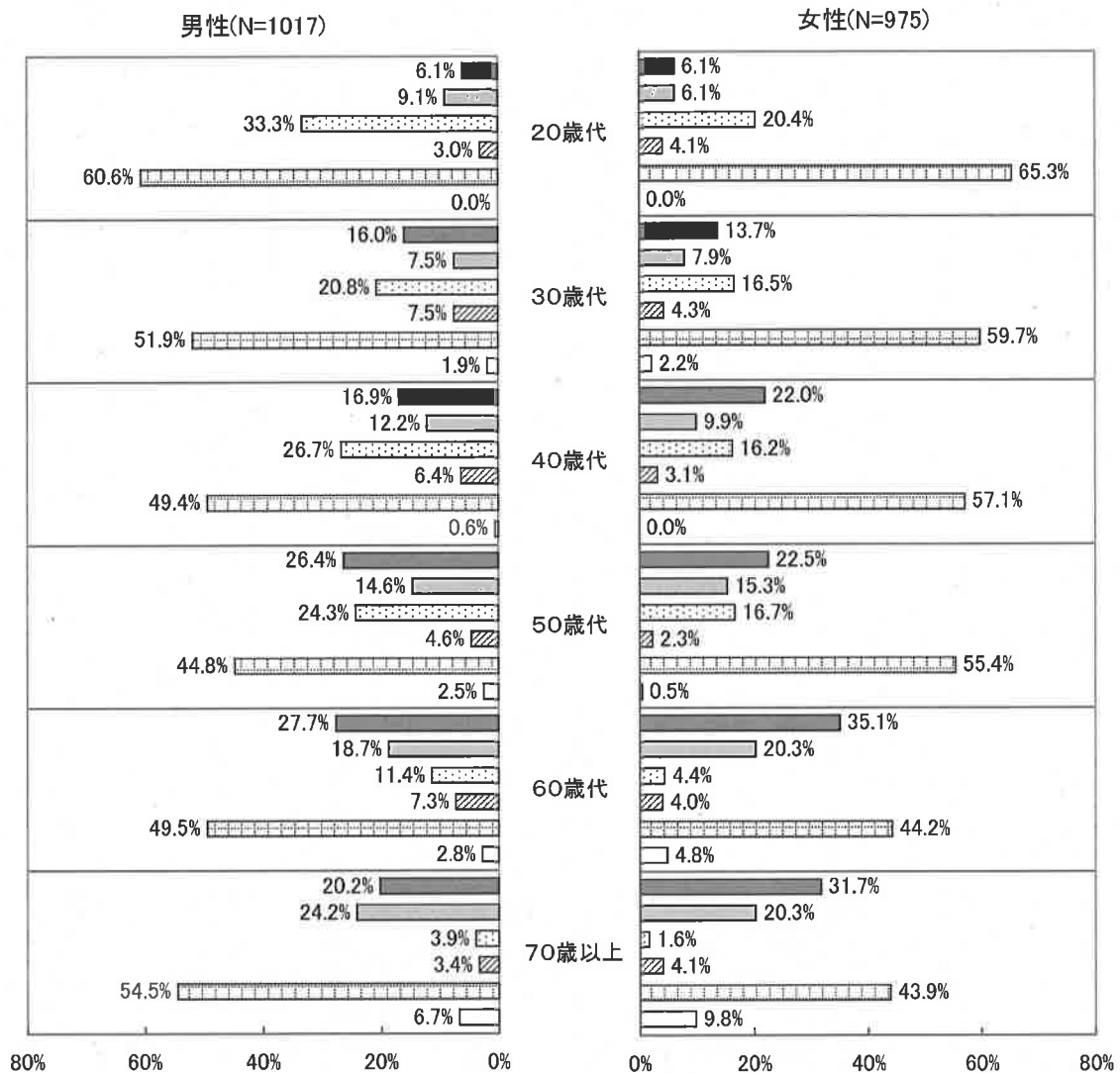
図. 過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがあるか  
～経年比較～



経年比較について、「1.～4.の訓練にはまったく参加していない」が前回調査時よりも8.6ポイント減少し、各年で最も少なくなっている。また、何らかの訓練に参加した人が前回調査より全体的に増加傾向にある。

8. 備蓄や訓練について

図. 過去一年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがあるか  
～性・年代比較～



■ 県や市町村、消防機関が主催する地震防災訓練に参加した  
 □ 住民が中心となって行った地震防災訓練に参加した  
 ▨ 職場で行った地震防災訓練に参加した  
 ▩ その他の地震防災訓練に参加した  
 □ 1.～4.の訓練には、まったく参加していない  
 □ 無回答

性・年代別について、各年代の男女とも「1.～4.の訓練には、まったく参加していない」が最も多いが、特に「20歳代の男女」で6割を超えている。  
性・年代別で防災訓練への参加に差がみられる。

## 8. 備蓄や訓練について

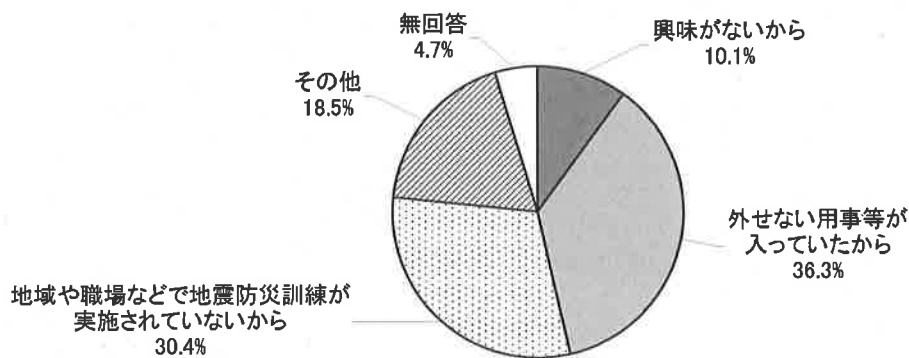
### 8-6 地域防災訓練に参加しない理由は何か

問 なぜ、訓練に参加しないのですか（ひとつだけ〇）。

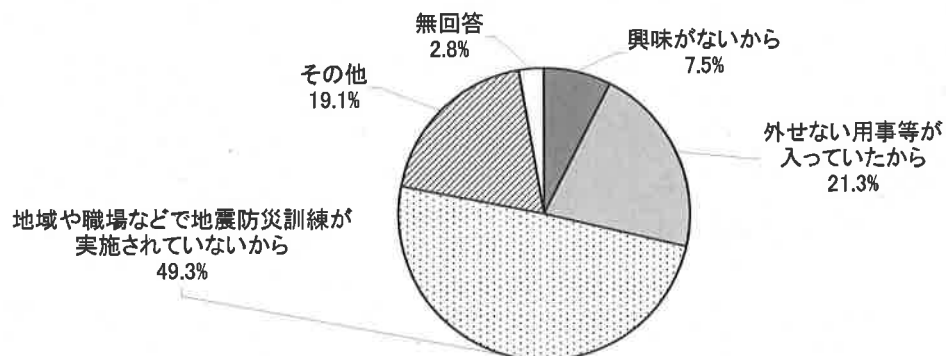
1. 興味がないから
2. 外せない用事等が入っていたから
3. 地域や職場などで地震防災訓練が実施されていないから
4. その他（ ）

#### 単数回答

#### 津波危険地区(N=487)



#### 全県(N=602)



#### <その他回答>

##### ●津波危険地区

- ・ 訓練の情報がなかった
- ・ 介護が必要な家族をかかえているから
- ・ 体調が悪かったから

##### ●全県

- ・ 仕事が忙しく訓練に参加できない
- ・ 子供が小さいので連れて行けない
- ・ 行き辛いから

地震防災訓練に参加しない理由について、「外せない用事等が入っていたから」は津波危険地区が15ポイント上回り、「地域や職場などで地震防災訓練が実施されていないから」は全県が18.9ポイント上回っており、津波危険地区と全県で大きな差がみられる。

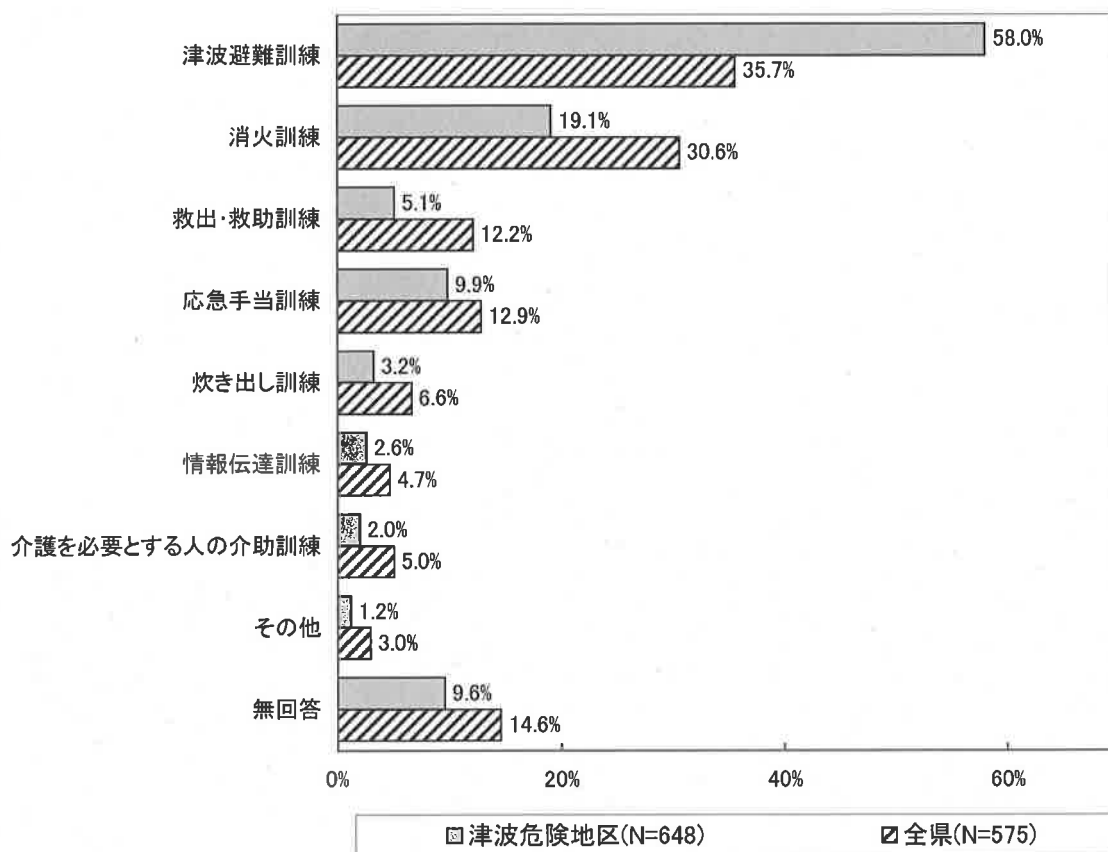
## 8. 備蓄や訓練について

### 8-7 どのような訓練に参加したか

問	具体的にはどのような訓練に参加しましたか（いくつでも○）。	
1. 津波避難訓練	2. 消火訓練	
3. 救出・救助訓練	4. 応急手当訓練	
5. 炊き出し訓練	6. 情報伝達訓練	
7. 介護を必要とする人の介助訓練	8. その他（	）

複数回答

図. どのような訓練に参加したか



#### <その他回答>

●津波危険地区

- ・トイレ作り
- ・避難指導
- ・発生時の対応訓練

●全県

- ・発電機の取り扱い
- ・グループでの安否確認

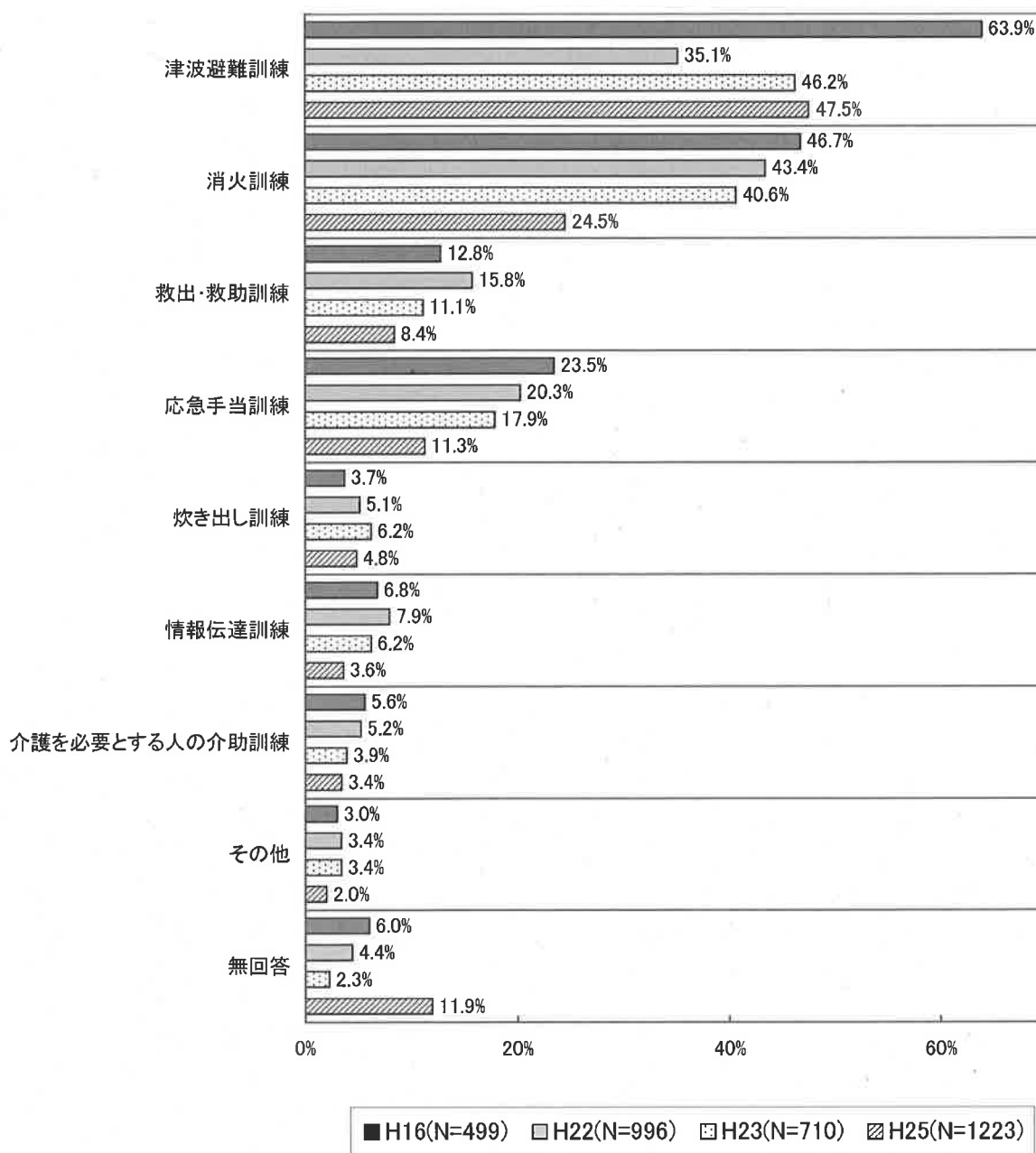
など

どのような訓練に参加したかについて、津波危険地区(58.0%)及び全県(35.7%)とも「津波避難訓練」が最も高くなっているが、22.3ポイントもの差が出ている。その他の訓練項目では、全県地区が津波危険地区よりも高くなっていることから、津波危険地区における避難訓練のウェイトの高さが示されている。



8. 備蓄や訓練について

図. どのような訓練に参加したか  
～経年比較～



経年比較について、「津波避難訓練」への参加が高くなっているが、その他の訓練項目では、軒並み減少している。

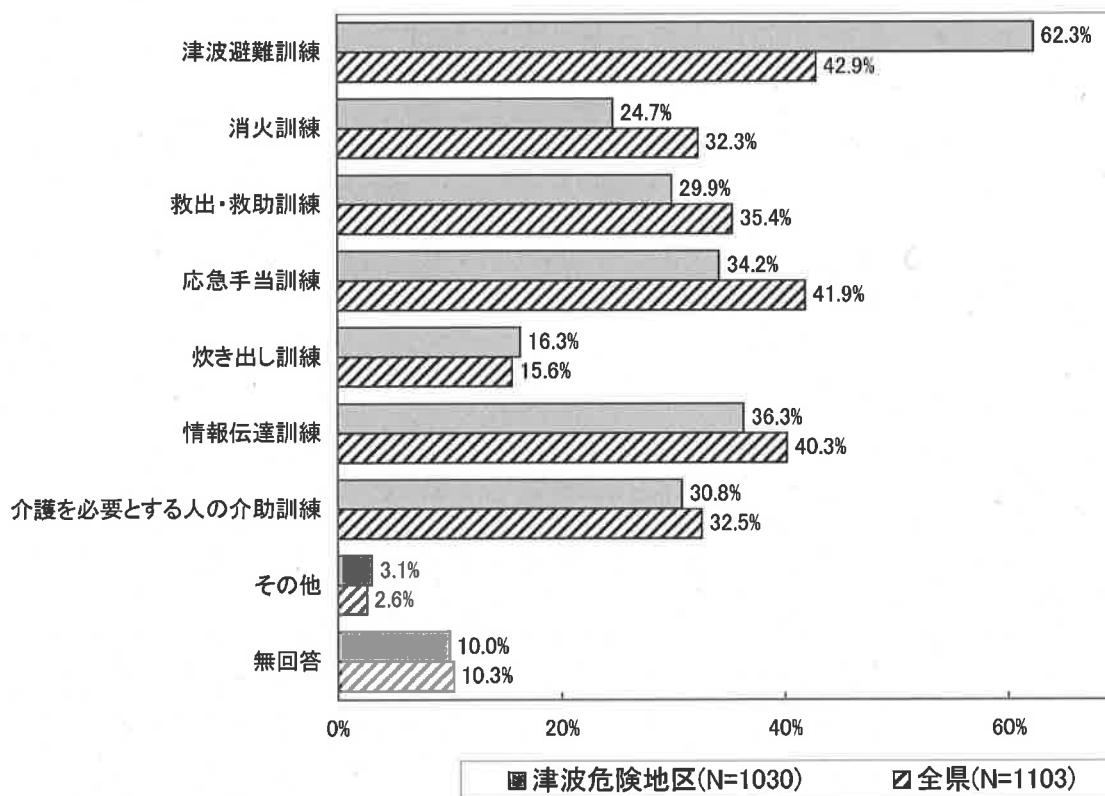
## 8. 備蓄や訓練について

### 8-8 どのような訓練が必要であると思うか

問	今後、どのような訓練が必要であると思いますか（いくつでも○）。
1. 津波避難訓練	2. 消火訓練
3. 救出・救助訓練	4. 応急手当訓練
5. 炊き出し訓練	6. 情報伝達訓練
7. 介護を必要とする人の介助訓練	8. その他

複数回答

図. どのような訓練が必要であると思うか



#### <その他回答>

##### ●津波危険地区

- ・避難分散の訓練（別の避難場所への移動の訓練）
- ・避難所の運営訓練
- ・夜間の避難訓練

##### ●全県

- ・小学校や幼稚園、地域住民等の連携した合同訓練
- ・がけ崩れに対する訓練
- ・避難所体験、生活訓練 など

どのような訓練が必要かについて、津波危険地区（62.3%）及び全県（42.9%）とも「津波避難訓練」が最も多くなっているが、19.4ポイントの差がみられる。

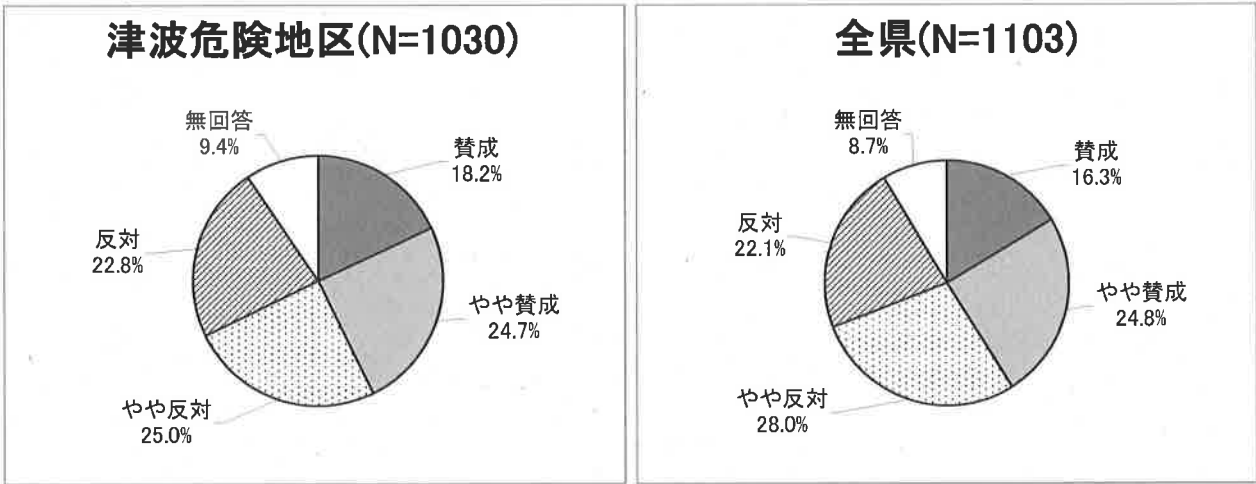
次いで津波危険地区では「情報伝達訓練」（36.3%）、全県では「応急手当訓練」（41.9%）となっている。

## 9. 災害への意識について

9-1 「防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ」についてどう思うか

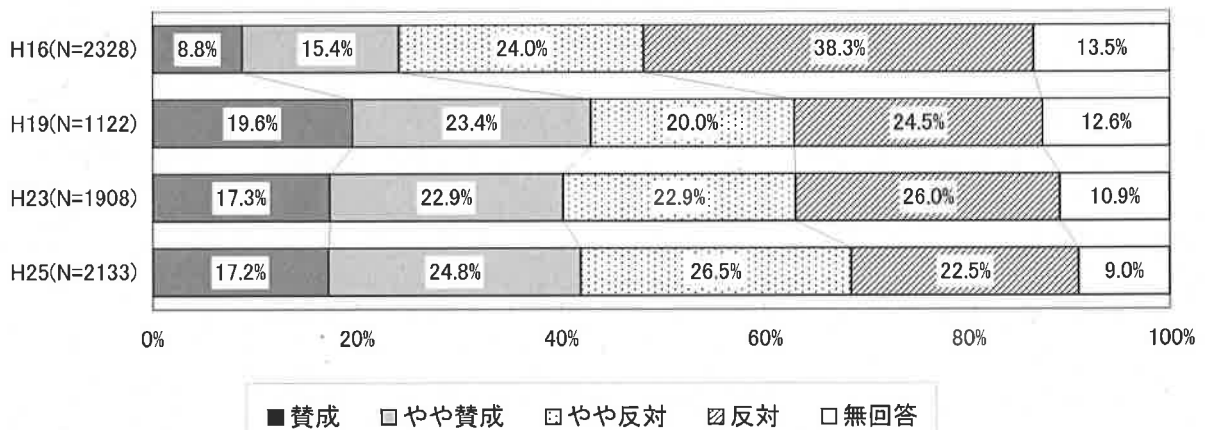
問	「防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ」についてどう思いますか。	
	1. 賛成	2. やや賛成
	3. やや反対	4. 反対

### 単数回答



津波危険地区(25.0%)及び全県(28.0%)ともに「やや反対」が最も多く、次いで「やや賛成」となっている。「賛成」と「やや賛成」の合計は津波危険地区(42.9%)、全県(41.1%)とも4割以上を占めている。津波危険地区と全県で特に差はみられない。

図. 「防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ」についてどう思うか  
～ 経年比較～



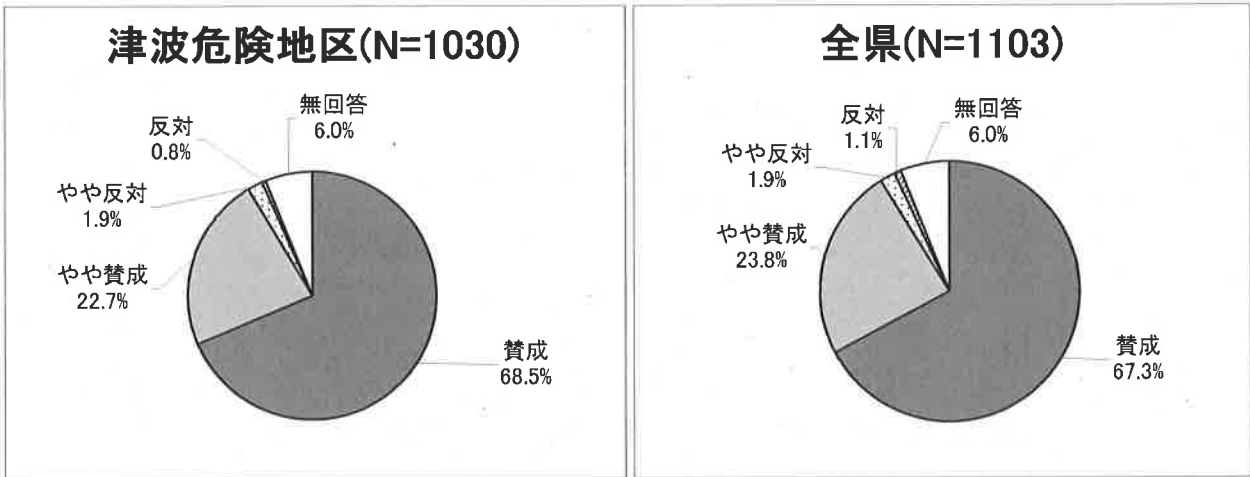
経年比較について、「やや反対」が26.5%で最も多く、次いで「やや賛成」が24.8%となっている。「賛成」と「やや賛成」の合計は、4割以上を占めている。特に大きな差はみられない。

## 9. 災害への意識について

### 9-2 「大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ」についてどう思うか

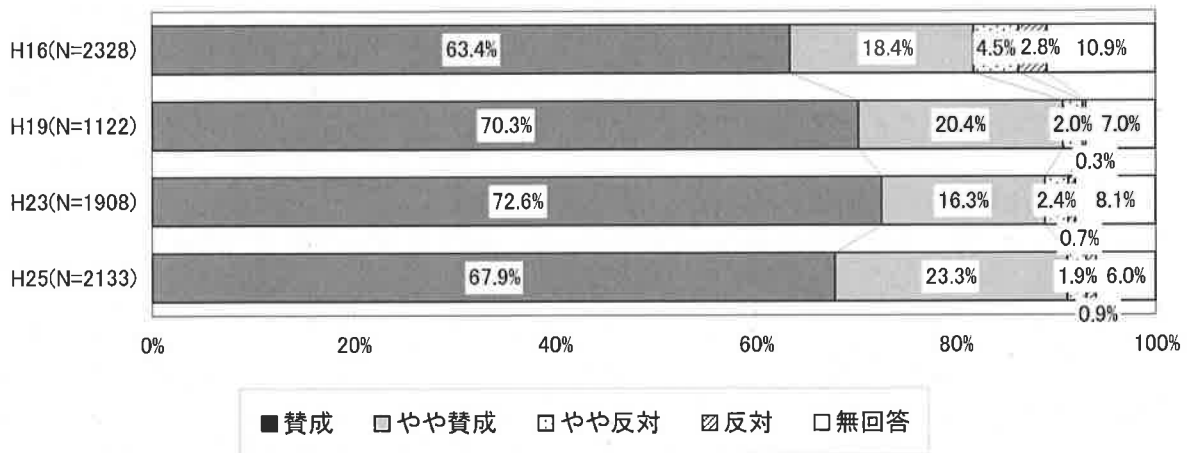
問	「大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ」についてどう思いますか。			
	1. 賛成	2. やや賛成	3. やや反対	4. 反対

#### 単数回答



津波危険地区（68.5%）及び全県（67.3%）とも「賛成」が最も多くなっている。「賛成」「やや賛成」の合計は津波危険地区（91.2%）、全県（91.1%）ともに9割以上を占めている。津波危険地区と全県では特に差はみられない。

図. 「大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ」についてどう思うか  
～ 経年比較～



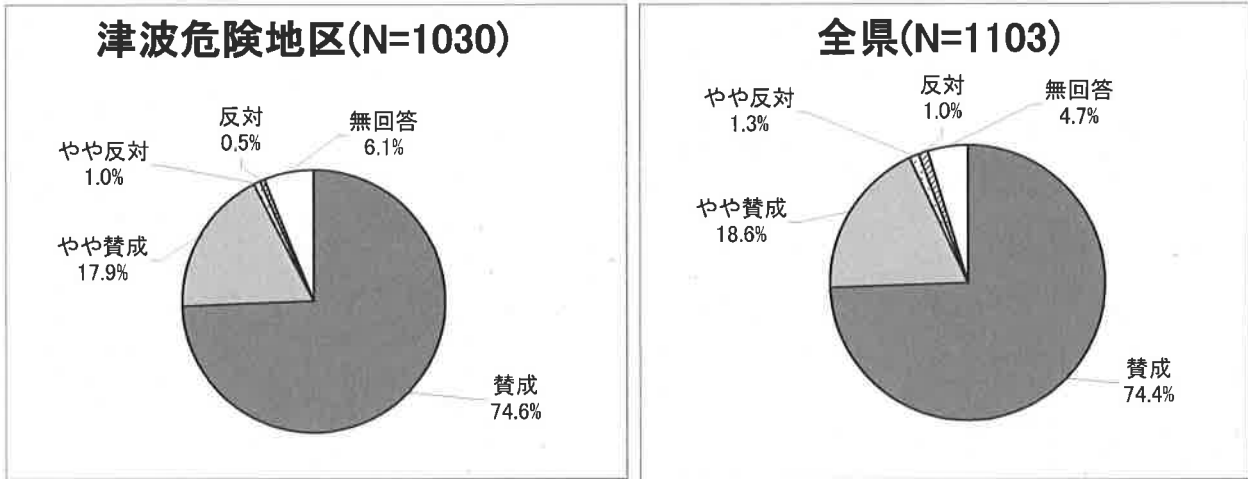
経年比較について、特に大きな差はみられないが、「賛成」が67.9%となり、前回調査より減少したが、「やや賛成」が23.3%で調査開始以降、最も多くなっている。また、「賛成」と「やや賛成」の合計は、91.2%と圧倒的に多くなっている。

## 9. 災害への意識について

### 9-3 「大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない」についてどう思うか

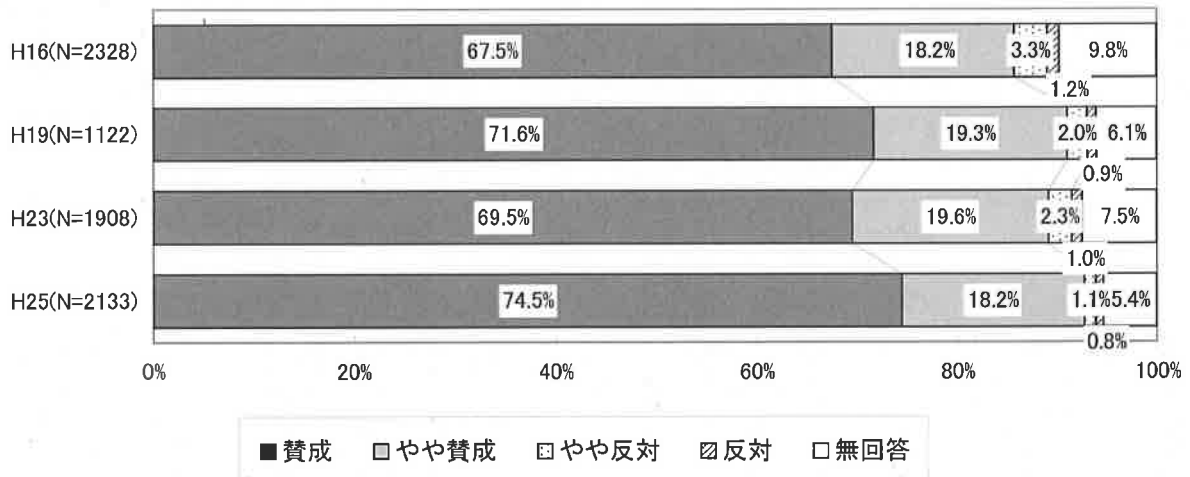
問	「大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない」についてどう思いますか。			
	1. 賛成	2. やや賛成	3. やや反対	4. 反対

#### 単数回答



津波危険地区(74.6%)及び全県(74.4%)ともに「賛成」が最も多くなっている。「賛成」と「やや賛成」の合計は津波危険地区(92.5%)、全県(93.0%)とも9割以上を占めている。津波危険地区と全県で特に大きな差はみられない。

図. 「大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない」についてどう思うか  
～ 経年比較～



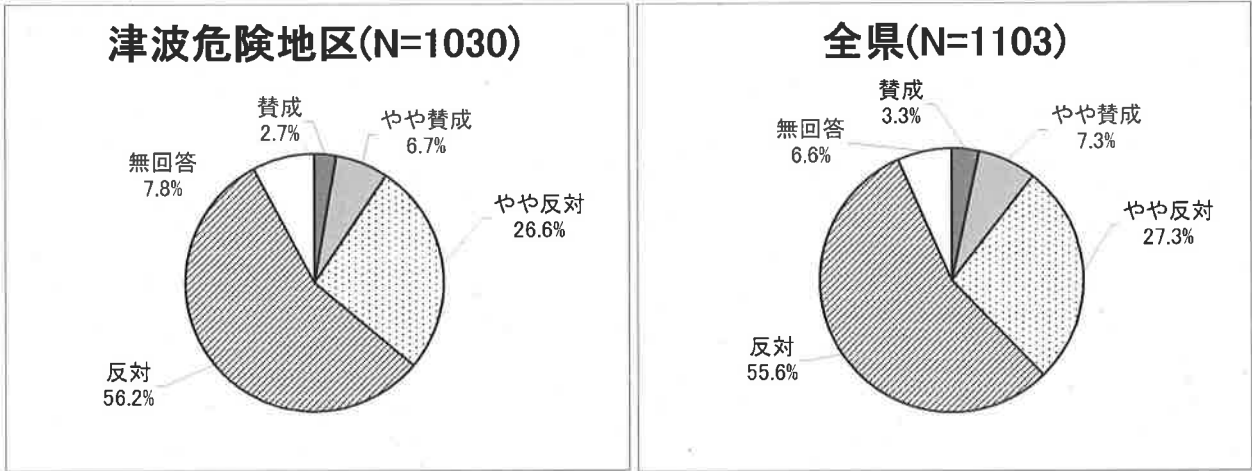
経年比較について、特に大きな差はみられないが、「賛成」が74.5%となり、調査開始以降、最も多くなっている。「賛成」と「やや賛成」の合計は92.7%と圧倒的に高くなっている。

## 9. 災害への意識について

9-4 「災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ」についてどう思うか

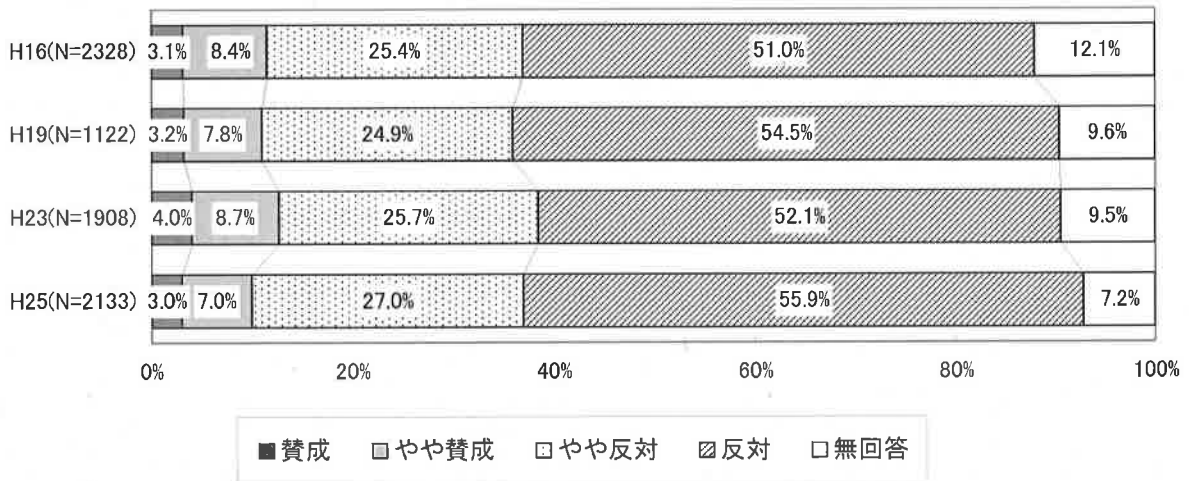
問	「災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ」についてどう思いますか。			
	1. 賛成	2. やや賛成	3. やや反対	4. 反対

### 単数回答



津波危険地区(56.2%)及び全県(55.6%)とも「反対」が最も多くなっている。「反対」と「やや反対」の合計は津波危険地区(82.8%)、全県(82.9%)とも8割以上を占めている。津波危険地区と全県で特に差はみられない。

図. 「災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ」についてどう思うか  
～ 経年比較～



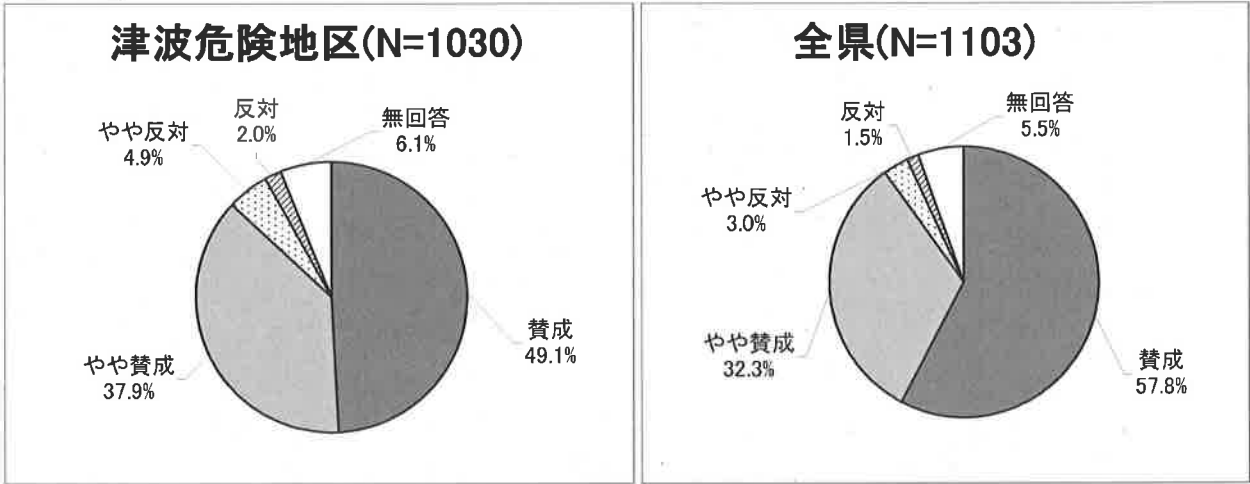
経年比較について、特に大きな差はみられないが、「反対」と「やや反対」の合計は、82.9%となり、調査開始以降、最も高くなっている。

## 9. 災害への意識について

9-5 「体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない」についてどう思うか

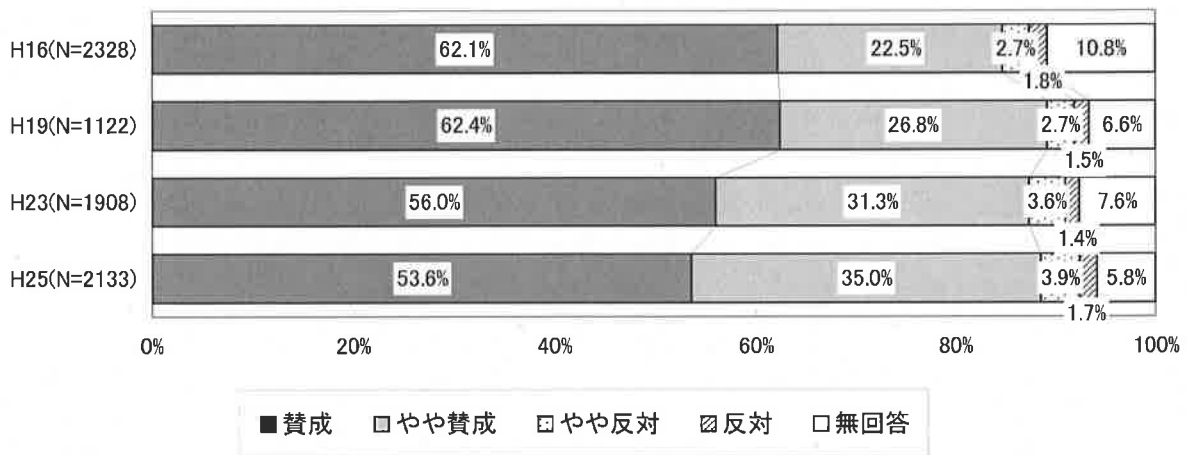
<b>問</b>	「体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない」についてどう思いますか。			
	1. 賛成	2. やや賛成	3. やや反対	4. 反対

### 単数回答



津波危険地区(49.1%)及び全県(57.8%)ともに「賛成」が最も多く、次いで「やや賛成」となっている。  
 「賛成」「やや賛成」の合計は、津波危険地区(87.0%)、全県(90.1%)とも約9割を占めている。

図. 「体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない」についてどう思うか  
 ～ 経年比較～



経年比較について、「賛成」と「やや賛成」の合計は88.6%と多くなっており、各年と比較しても大きな差はみられない。

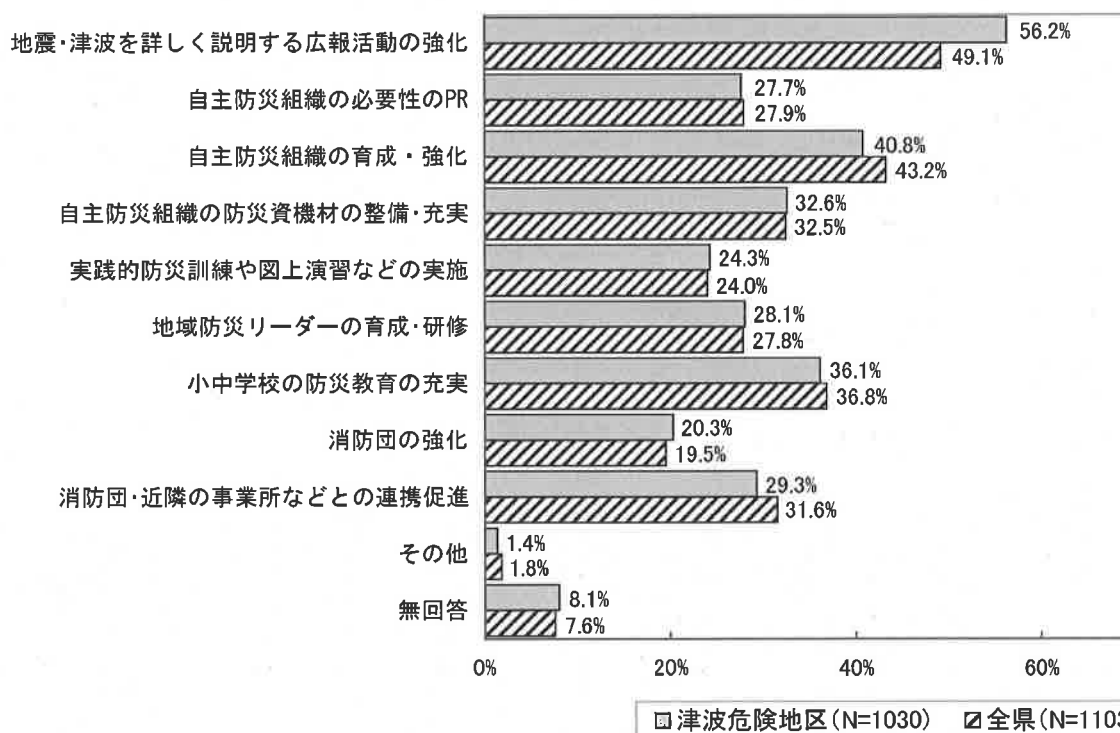
## 9. 災害への意識について

### 9-6 地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思うか

問	あなたがお住まいの地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思いますか（いくつでも○）。
	1. 地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化      2. 自主防災組織の必要性のPR 3. 自主防災組織の育成・強化                              4. 自主防災組織の防災資機材の整備・充実 5. 実施的防災訓練や図上演習などの実施              6. 地域防災リーダーの育成・研修 7. 小中学校の防災教育の充実                              8. 消防団の強化 9. 消防団・近隣の事業所などとの連携促進              10. その他（                              ）

#### 複数回答

図. 地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思うか



#### <その他回答>

##### ●津波危険地区

- ・近くへの避難タワーなどの建設
- ・地区ごとに防災役割をつくる（避難所等）

##### ●全県

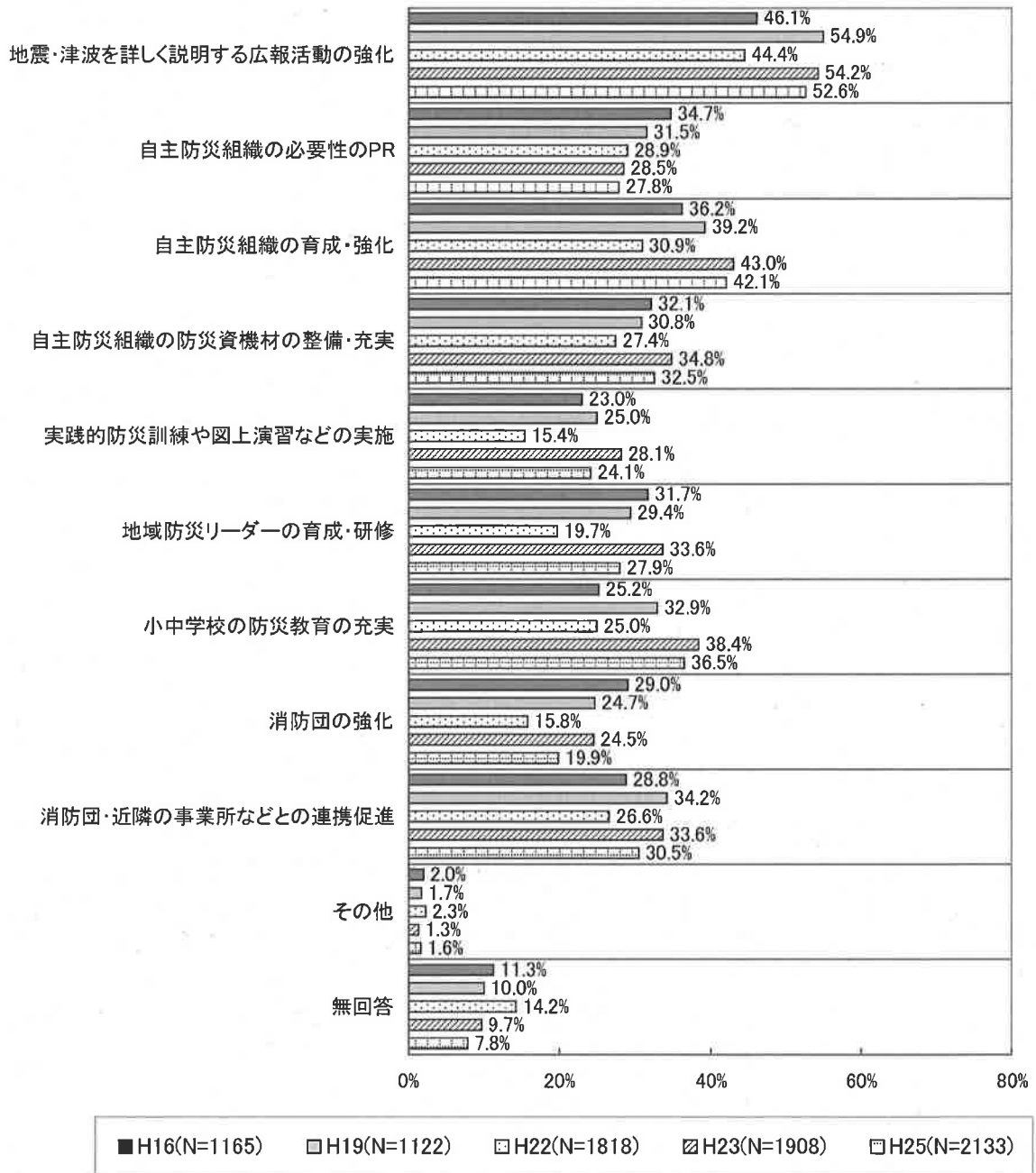
- ・道路中の拡幅
- ・水害、土砂災害対策の充実
- ・防災ラジオを個人宅に1台置く
- ・避難所体験訓練                              など

地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要かについて、津波危険地区(56.2%)及び全県(49.1%)ともに「地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化」が最も多く、次いで「自主防災組織の育成・強化」となっている。津波危険地区と全県で特に差がみられない。



9. 災害への意識について

図. 地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思うか  
～経年比較～



経年比較について、各年で「地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化」が最も多く、次いで「自主防災組織の育成・強化」となっている。また、「小中学校の防災教育の充実」を求めている人も比較的多くなっている。

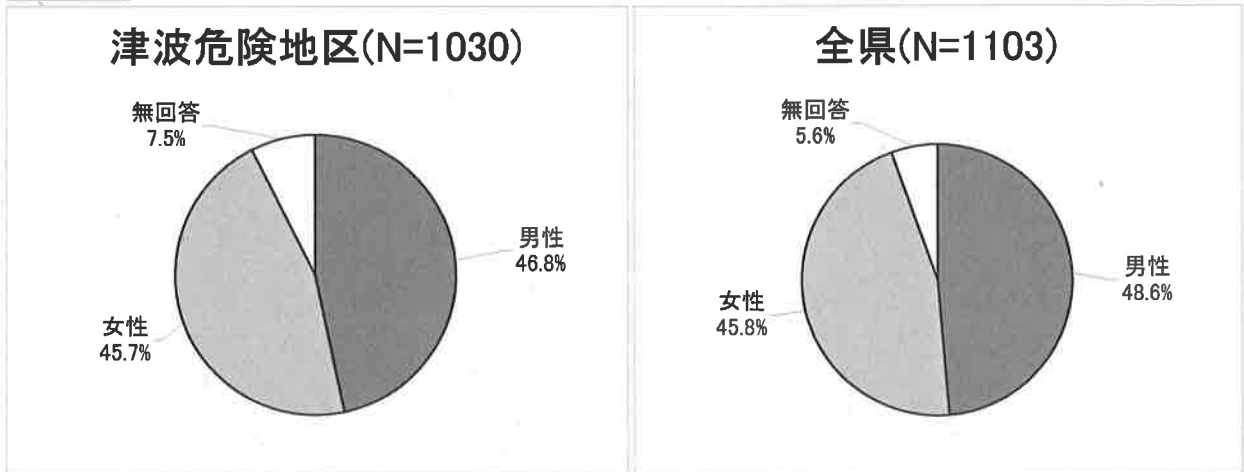
## 第4章 アンケート回答者の属性

アンケート回答者の属性

1 性別

F 1	性別
1. 男性                      2. 女性	

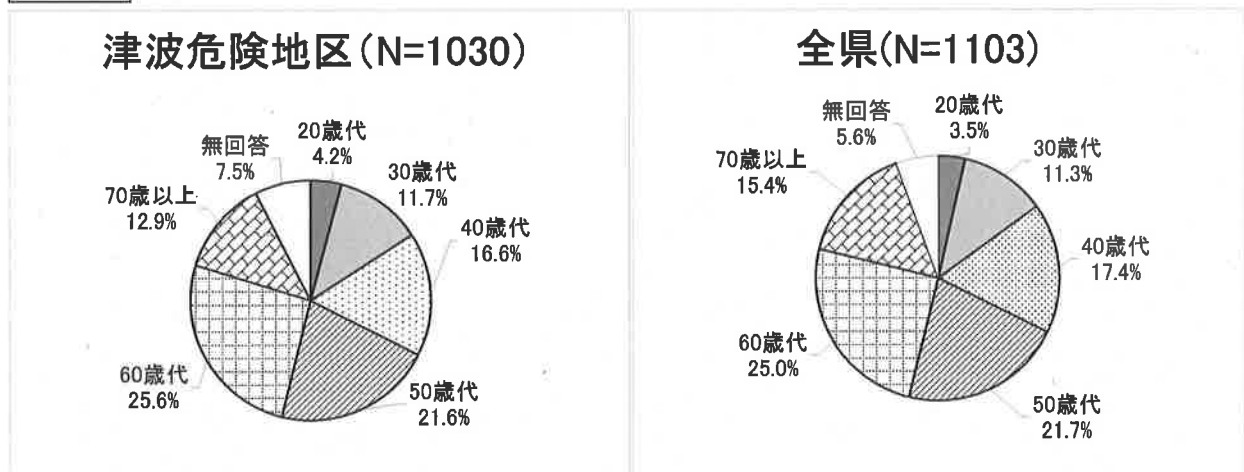
単数回答



2 年齢

F 2	年齢				
1. 20歳代    2. 30歳代    3. 40歳代    4. 50歳代    5. 60歳代    6. 70歳以上					

単数回答



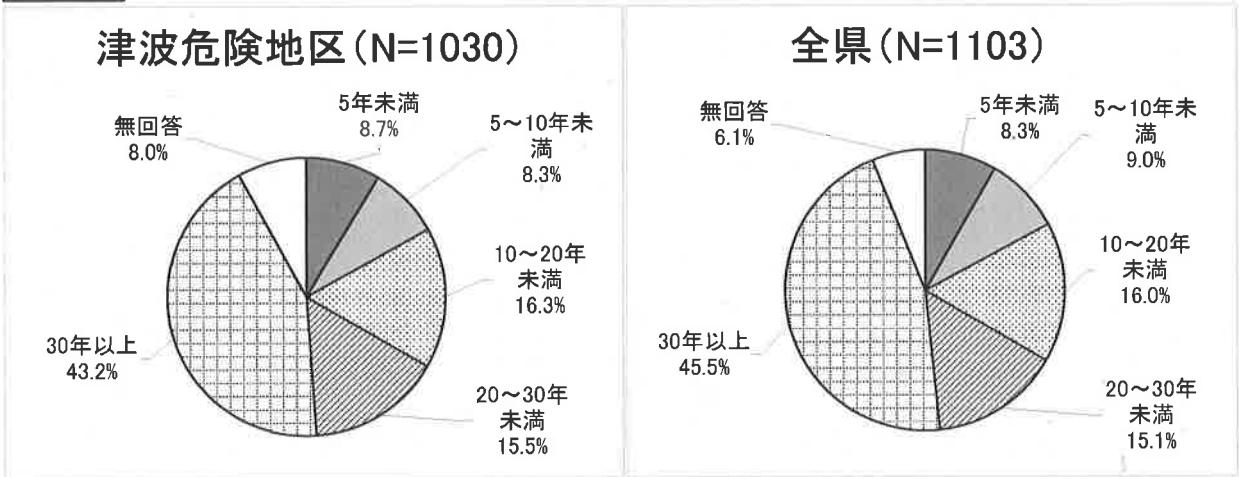
アンケート回答者の属性

3 居住年数

F 3 あなたは、ここにお住みになってから何年になりますか（ひとつだけ○）。

1. 5年未満    2. 5～10年未満    3. 10～20年未満    4. 20～30年未満    5. 30年以上

単数回答

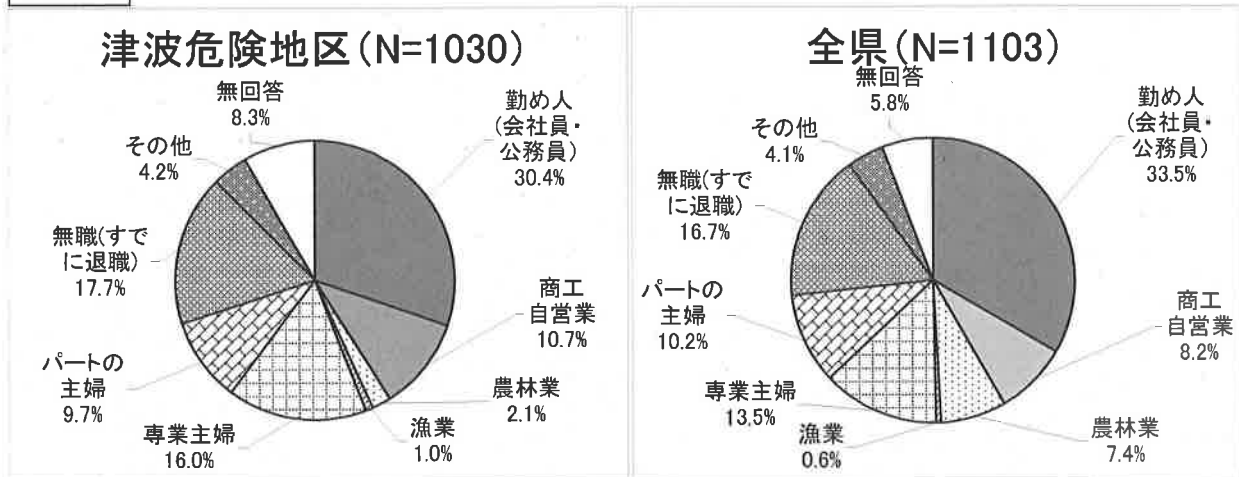


4 職業

F 4 職業

1. 勤め人（会社員・公務員）    2. 商工自営業    3. 農林業    4. 漁業  
5. 専業主婦    6. パートの主婦    7. 無職（すでに退職）    8. その他

単数回答



アンケート回答者の属性

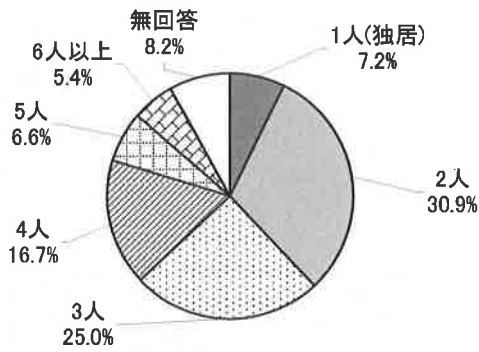
5 家族構成

F 5 同居しているご家族は何人いますか（ご本人も含め、ひとつだけ〇）。

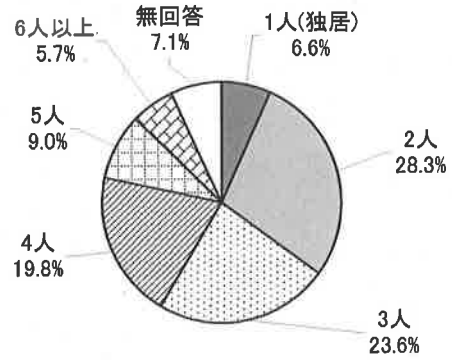
1. 1人（独居） 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人 6. 6人以上

単数回答

津波危険地区 (N=1030)



全県 (N=1103)

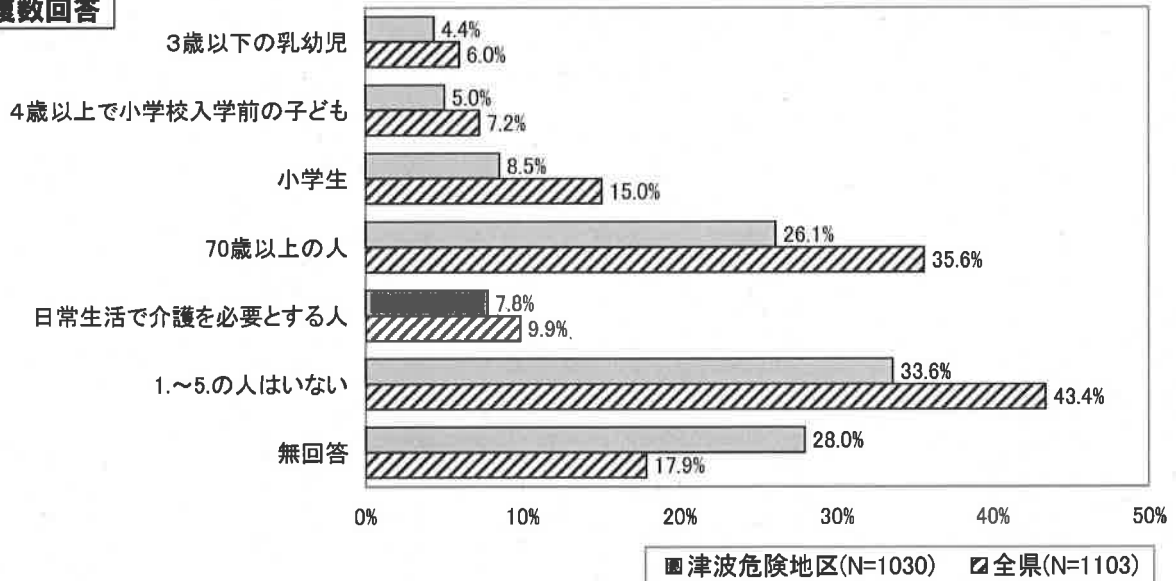


付問

同居しているご家族の中に次のような方はいらっしゃいますか（いくつでも〇）。

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1. 3歳以下の乳幼児       | 2. 4歳以上で小学校入学前の子ども |
| 3. 小学生            | 4. 70歳以上の人         |
| 5. 日常生活で介護を必要とする人 | 6. 1.～5.の人はいない     |

複数回答



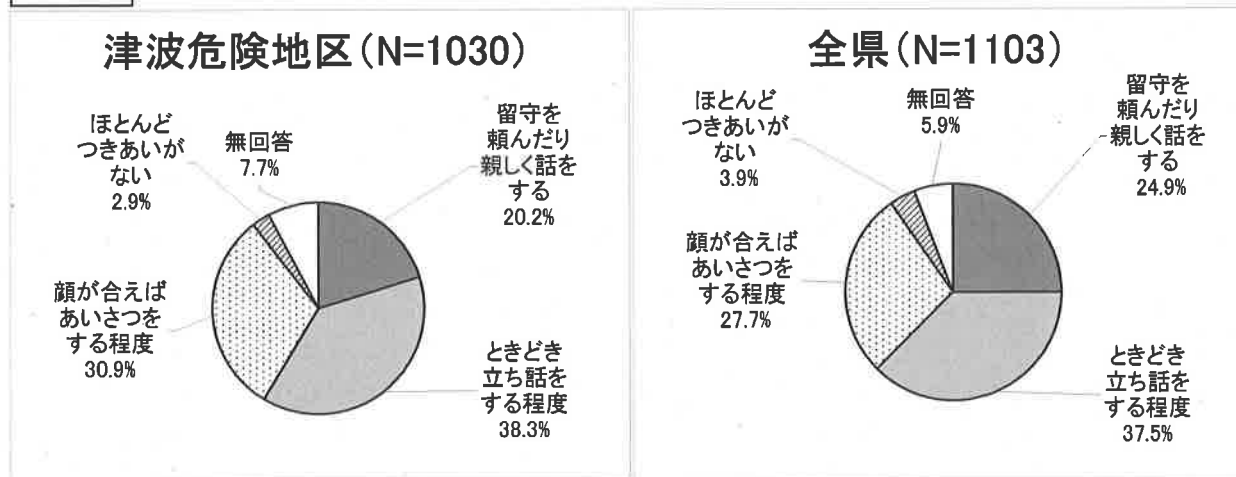
アンケート回答者の属性

6 ご近所とのつきあい

F 6 あなたはご近所とどのようなおつきあいをしていますか（ひとつだけ○）。

- 1. 留守を頼んだり親しく話をする
- 2. ときどき立ち話をする程度
- 3. 顔が合えばあいさつをする程度
- 4. ほとんどつきあいがいい

単数回答

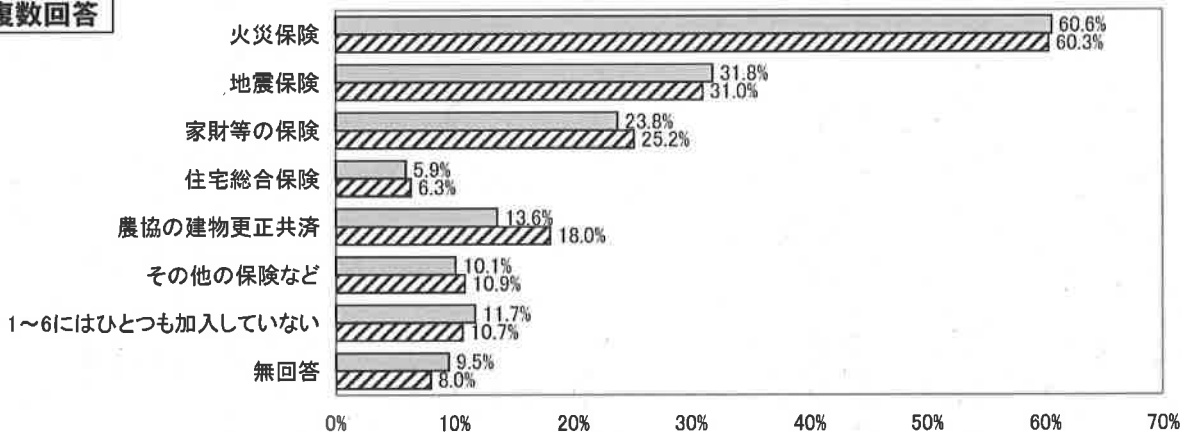


7 加入している保険

F 7 お家で加入している保険にはどのようなものがありますか（いくつでも○）。

- 1. 火災保険
- 2. 地震保険
- 3. 家財等の保険
- 4. 住宅総合保険
- 5. 農協の建物更正共済
- 6. その他の保険など
- 7. 1.～6.にはひとつも加入していない

複数回答



■津波危険地区 (N=1030)    ▨全県 (N=1103)

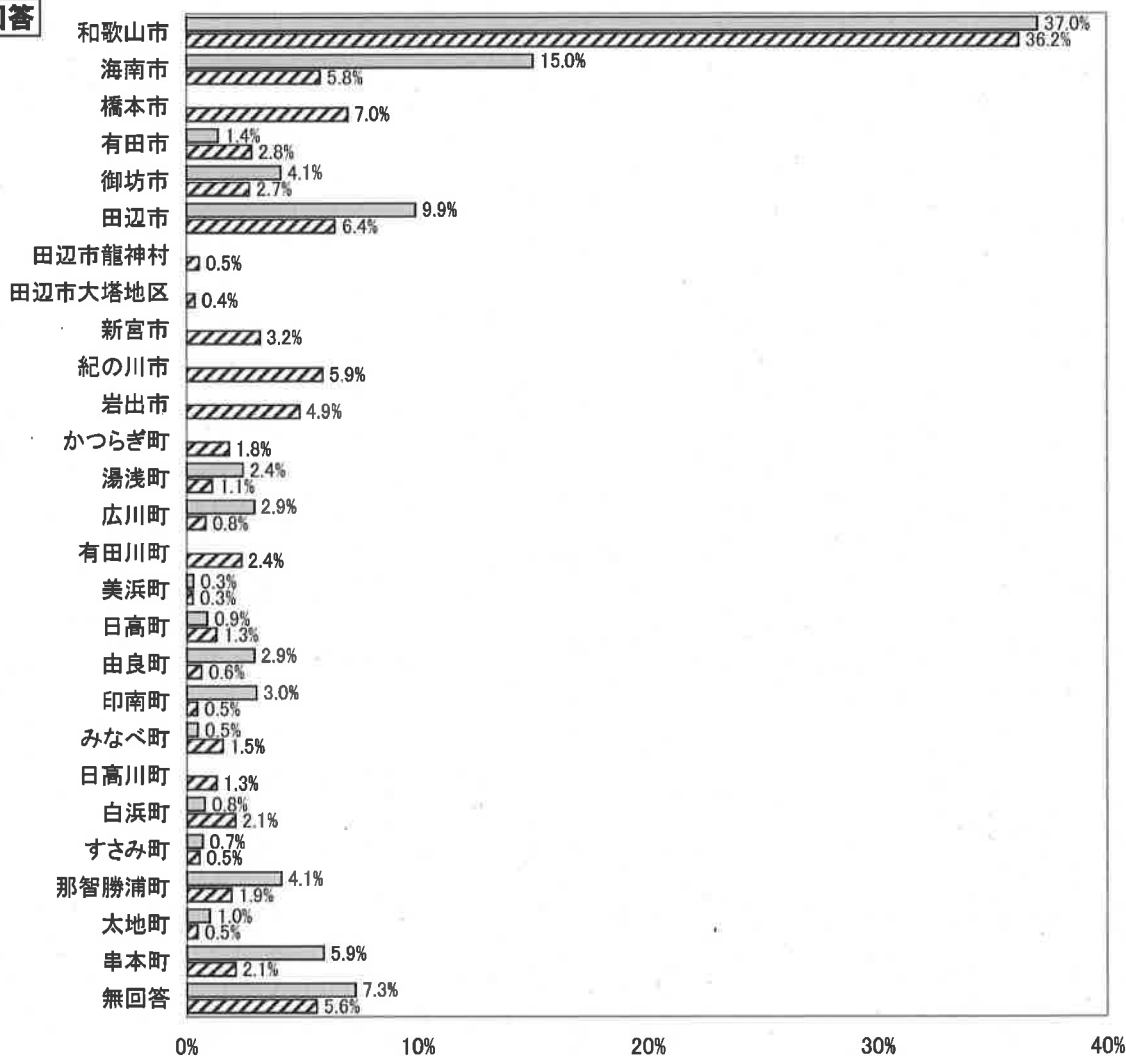
アンケート回答者の属性

8 居住地

F 8 あなたの住まいの市町村はどちらですか（ひとつだけ○）。

- |          |           |            |           |             |
|----------|-----------|------------|-----------|-------------|
| 1. 和歌山市  | 2. 海南市    | 3. 橋本市     | 4. 有田市    | 5. 御坊市      |
| 6. 田辺市   | 7. 田辺市龍神村 | 8. 田辺市中辺路町 | 9. 田辺市本宮町 | 10. 田辺市大塔地区 |
| 11. 新宮市  | 12. 紀の川市  | 13. 岩出市    | 14. 紀美野町  | 15. かつらぎ町   |
| 16. 九度山町 | 17. 高野町   | 18. 湯浅町    | 19. 広川町   | 20. 有田川町    |
| 21. 美浜町  | 22. 日高町   | 23. 由良町    | 24. 印南町   | 25. みなべ町    |
| 26. 日高川町 | 27. 白浜町   | 28. 上富田町   | 29. すさみ町  | 30. 那智勝浦町   |
| 31. 太地町  | 32. 古座川町  | 33. 北山村    | 34. 串本町   |             |

単数回答



■ 津波危険地区(N=1030)      ▨ 全県(N=1103)

## 第5章 参考資料



## 1 津波危険地区一覧

津波危険地区とは：東海・東南海・南海3連動地震による津波で全域もしくはほとんどが浸水深1m以上と想定される地区（町丁目・大字）

平成25年6月2日現在

和歌山市	久保丁4丁目、上町、網屋町、材木丁、植松丁、西河岸町、加納町、北土佐丁、舟津町1丁目、舟津町4丁目、築港1丁目、築港2丁目、築港3丁目、築港4丁目、築港5丁目、築港6丁目、湊御殿1丁目、湊御殿2丁目、湊御殿3丁目、湊（紀の川以北）、宇須4丁目、塩屋1丁目、打越町、小雑賀、中島、湊（紀の川以南）、島橋東ノ丁、島橋西ノ丁、島橋南ノ丁、島橋北ノ丁、土入、塩屋2丁目、塩屋3丁目、塩屋4丁目、塩屋5丁目、塩屋6丁目、西浜、西浜3丁目、新和歌浦、和歌浦東1丁目、和歌浦東2丁目、和歌浦東3丁目、和歌浦東4丁目、和歌浦中1丁目、和歌浦中2丁目、和歌浦中3丁目、和歌浦西1丁目、和歌浦西2丁目、和歌浦南1丁目、和歌浦南2丁目、和歌浦南3丁目、和歌川町、内原、紀三井寺、毛見、布引、三葛、田野、田尻、杭ノ瀬
海南市	船尾地区（全地区）、黒江地区（南ノ浜、西ノ浜、天王、宮ノ坂、元屋敷、黒牛、市場、北五、北四）、日方地区（全地区）、名高地区、築地地区（井引、新浜、糺、宮ノ浜、蓬莱、大須賀、中須賀、築地）、鳥居地区（舟津浜、舟津北、船津南、東出、日限）、藤白地区（藤白南、藤白北）、冷水地区（冷水1、2、3）、下津地区（東、新田、西）、方地区（方北、方南、女良）、大崎地区（全地区）、塩津地区（全地区）、丸田地区（戸坂）
有田市	港町
御坊市	菌（南釜井戸46～67）、菌（露之裏199～231）、菌（桃之木232～246）、菌（圓津247～257）、菌（佐渡316～331）、菌（名戸田332～348）、菌（松原田349～364）、菌（白見田365～382）、菌（大垣内383～396）、菌（上菌田397～447）、菌（下菌田449～480）、菌（東新菌481～512）、菌（西新菌513～563）、菌（中島564～584）、菌（州崎585～596）、菌（西下野606～641）、菌（新町642～758）、菌（東下野759～816）、菌（茶免817～853）、菌（万寿沢854～883）、菌（千代崎884～922）、菌（毛中923～981）、菌（御影982～996）、御坊（東中筋60～145）、御坊（西中筋146～221）、御坊（西筋222～267）、御坊（古寺内268～290）、名屋（船附38～63）、名屋（柳田83～131）、名屋（伏木132～155）、名屋（浜ノ瀬157～174）、名屋（川端175～191）、名屋（狐川原192～234）、名屋町一丁目（1～15）、名屋町二丁目（4～11）、名屋町三丁目（1～9）、岩内（荒ヶ438～472）、岩内（岩橋553～563）、塩屋町北塩屋（峠634～675）、塩屋町北塩屋（川原676～682）、塩屋町北塩屋（北湊683～720）、塩屋町北塩屋（湊747～764）、塩屋町北塩屋（かうろぎ836～867）、塩屋町北塩屋（岩崎868～900）、塩屋町北塩屋（溝端901～950）、塩屋町北塩屋（北濱951～983）、塩屋町北塩屋（東畑984～1015）、塩屋町北塩屋（中濱1016～1046）、塩屋町北塩屋（井戸ノ本1047～1073）、塩屋町北塩屋（辻ノ本1074～1091）、塩屋町北塩屋（南濱1092～1122）、塩屋町北塩屋（新浜1123～1143）、塩屋町北塩屋（宮山畑1144～1164）、塩屋町北塩屋（王子谷1217～1235）、塩屋町北塩屋（南蓮1236～1256）、塩屋町北塩屋（西岡1257～1285）、塩屋町北塩屋（屋瀬1412～1437）、塩屋町北塩屋（西惣毛1438～1451）、塩屋町北塩屋（平田1474～1493）、塩屋町北塩屋（洪水原1511～1523）、塩屋町北塩屋（松葉嶋1532～1582）、塩屋町北塩屋（向田1722～1766）、塩屋町南塩屋（塩浜1～12）、塩屋町南塩屋（東大人13～81）、塩屋町南塩屋（西大人82～115）、塩屋町南塩屋（松下116～150）

御坊市	塩屋町南塩屋(西上島151~194)、塩屋町南塩屋(東上島195~282)、塩屋町南塩屋(須佐ノ本419~450)、塩屋町南塩屋(濱ノ上474~514)、塩屋町南塩屋(宮の前905~916)、塩屋町南塩屋(綴宝田969~987)、名田町上野(津梅1~55)、名田町上野(反方330~386)、名田町上野(森畑1480~1508)、名田町上野(浜畑1509~1530)、名田町上野(西垣内1531~1549)、名田町上野(清水1621~1641)、名田町楠井(西垣内1~43)、名田町楠井(中尾44~82)、名田町楠井(上広野135~198)、名田町楠井(中広野199~251)、名田町楠井(芝崎591~669)、名田町楠井(内垣内670~721)、名田町楠井(向田1000~1023)、名田町楠井(花屋畑1847~1918)、名田町楠井(横湯場2368~2416)、名田町野島(神木1~132)、名田町野島(浜ノ上り133~284)、名田町野島(向ノ尾425~499)、名田町野島(古谷530~619)、名田町野島(前畑1535~1693)、名田町野島(西ノ芝1694~1902)、名田町野島(後ノ芝2333~2441)、名田町野島(壁川2964~3018)、名田町野島(笹山3019~3147)、名田町野島(山下3148~3256)、名田町野島(幸神3425~3522)、名田町野島(西畑3523~3725)
田辺市	新庄町(北島の巣3824~4067)、新庄町(北内の浦2989~3147)、新庄町(東内の浦3148~3433)、新庄町(西内の浦3623~3823)、新庄町(東跡の浦2611~2708)、新庄町(西跡の浦2401~2609)、新庄町(名喜里1839~2055)、新庄町(出井2158~2400)、新庄町(新田2056~2157)、新庄町(田中632~710)、新庄町(成川484~636)、新庄町(土手内373~483)、新庄町(西橋谷1~156、4227)、新庄町(中橋谷157~248)、新庄町(東橋谷249~372)、芳養町(井原808~955)、芳養町(東井原956~1014)、芳養町(七石166~309)、芳養松原一丁目、芳養松原二丁目(27~38)、上屋敷一丁目、上屋敷二丁目、上屋敷三丁目、中屋敷町、新屋敷町、栄町、今福町、福路町、本町、紺屋町、片町、磯間、高雄一丁目、末広町、扇ヶ浜、目良、江川、天神崎、文里一丁目、文里二丁目
新宮市	三輪崎、三輪崎字高野坂、三輪崎字大峪、三輪崎1丁目、三輪崎3丁目、佐野、佐野1丁目、佐野2丁目、佐野3丁目、王子町3丁目
湯浅町	田(3~96番地、207~272番地、300~386番地)、田(546、1006、1045~1050番地)、田(1153~1186番地、1194~1201番地)、田(1218~1294番地)、栖原(477~1012番地、1382~1406番地)、栖原(1426~1447番地)、港、なぎ区、新屋敷、北浜町、南浜町、北中町、中々町、南中町、北町、北鍛冶町、南鍛冶町、蔵町、道町北、北道、宮西、中川原、島の内、中ノ島、北栄1、北栄2、北栄3、横浜
広川町	大字広(天皇区)、字広(湊浜町)、大字広(西浜町)、大字広(湊中町)、大字広(西中町)、大字広(田町)、大字広(中之町)、大字広(本町)、大字広(昭和通北)、大字広(昭和通中)、大字広(昭和通南)、大字広(みどり区)、大字広(東之町)、大字広(西之町)、大字広(南之町)、大字広(北之町)、大字広(熊之町)、大字広(学園町)、大字広(旭町)、大字西広、大字唐尾、大字山本(池ノ上)、大字山本(山本)
美浜町	大字田井
日高町	柏、小杭、小浦、津久野、比井、産湯、阿尾

由良町	由良町里（横浜地区）、由良町里（南地区）、由良町阿戸（阿戸地区）、由良町網代（網代地区）、由良町江ノ駒（江ノ駒地区）、由良町吹井（吹井地区、柳原地区、糸谷地区）、由良町神谷（神谷地区）、由良町大引（大引地区）、由良町小引（小引地区）、由良町戸津井（戸津井地区）、由良町衣奈（衣奈地区）、由良町三尾川（三尾川地区）
印南町	印南、西ノ地、島田（2300番地より大きい物を除く）
みなべ町	山内地区
白浜町	瀬戸、白浜、湯崎1丁目、湯崎3丁目、東白浜、細野、サニービーチ、才野、堅田西、中、富田、椿、市江、笠甫、日の出
すさみ町	平松、下地二、堀地、里野
那智勝浦町	宇久井600～710番地、宇久井385番地台、浜ノ宮350～434番地、天満130～150、天満220～260、天満400番地台、天満700～800番地台、朝日4丁目全域、朝日3丁目80～90番地台、北浜全域、築地全域、勝浦（93～960、1006、1007番地を除く）、二河85、二河1594、二河1595番地、下里900番地台、下里2729～2735、下里1000～1026、下里1070～1120、下里2600番地台、下里2520～2570番地、粉白1～210番地、浦神全域
太地町	新屋敷1区、寄小路区、水ノ浦1区、水ノ浦2区、水ノ浦3区、厚海1区、厚海2区、厚海3区、常渡区、森浦区
串本町	串本、二色、高富、鬮野川、有田、田並、江田、田子、大島、姫、伊串、神野川、住吉、古座、津荷、田原

## 2 単純集計表

### <東海・東南海・南海地震等についてお聞きします>

問1 あなたは、東海・東南海・南海3連動地震や南海トラフ巨大地震について、どの程度関心を持っていますか（ひとつだけ○）。		H25	H23	H22	H19	H16
1	非常に関心がある	36.3%	44.6%	30.3%	37.3%	39.7%
2	関心がある	48.4%	40.6%	49.3%	46.3%	40.9%
3	多少関心がある	13.5%	12.8%	19.0%	15.1%	15.3%
4	関心がない	1.1%	0.7%	1.0%	0.9%	1.0%
5	無回答	0.7%	1.4%	0.4%	0.4%	3.0%

問2 あなたは、東海・東南海・南海3連動地震が起こる可能性について、どのように思っていますか（ひとつだけ○）。		H25	H23	H22	H19	H16
1	明日起きても不思議はないと思っている	35.2%	46.1%	36.7%	36.0%	37.3%
2	2～3年以内に起こりそう	4.0%	3.7%	4.0%	4.8%	6.0%
3	ここ10年くらいの間に起きそう	15.1%	13.9%	14.3%	17.7%	12.7%
4	ここ20～30年の間に起きそう	12.0%	10.4%	15.2%	11.4%	9.7%
5	もっと先のことだと思う	2.1%	1.7%	3.2%	2.0%	1.4%
6	起きる時期はわからない	30.8%	22.6%	26.5%	27.7%	30.4%
7	無回答	0.7%	1.5%	0.1%	0.4%	2.4%

問3 あなたは、南海トラフ巨大地震が起こる可能性について、どのように思っていますか（ひとつだけ○）。		H25	H23	H22	H19	H16
1	明日起きても不思議はないと思っている	36.2%	-	-	-	-
2	2～3年以内に起こりそう	4.1%	-	-	-	-
3	ここ10年くらいの間に起きそう	15.4%	-	-	-	-
4	ここ20～30年の間に起きそう	12.0%	-	-	-	-
5	もっと先のことだと思う	2.2%	-	-	-	-
6	起きる時期はわからない	29.1%	-	-	-	-
7	無回答	0.9%	-	-	-	-

問4 次のうちで、あなたがすでにご存じのことに、いくつでも○をつけてください。		H25	H23	H22	H19	H16
1	政府が「南海トラフ沿いでは、マグニチュード8～9クラスの地震が、今後30年以内に発生する確率は60～70%」と発表したこと	72.0%	-	-	-	-
2	東海・東南海・南海3連動地震は、90～150年周期で繰り返し発生していること	50.9%	-	-	-	-
3	東海・東南海・南海地震は、ほぼ同時に発生する可能性があること	49.8%	58.8%	48.0%	45.7%	38.6%
4	自分が住んでいる市町村が「東南海・南海地震防災対策推進地域」に指定されていること	45.3%	30.3%	33.9%	39.4%	35.0%
5	南海トラフ地震以外に中央構造線断層帯による地震が起きる可能性があること	23.2%	34.6%	25.3%	30.1%	-
6	次に発生する東海・東南海・南海3連動地震は、昭和の東南海・南海地震よりひと回り大きい可能性があること	39.8%	41.9%	35.9%	40.6%	39.6%
7	1～6については、ひとつも知らなかった	3.9%	5.3%	6.9%	6.7%	7.8%
8	無回答	4.3%	2.1%	1.2%	2.6%	6.2%

問5 あなたはふだん、このような地震や地震災害についての情報を、どこから入手していますか(主なものに、いくつでも)。		1125	1123	1122	1119	1116
1	テレビ	92.7%	94.6%	88.8%	95.3%	98.5%
2	ラジオ	18.2%	21.6%	23.8%	22.6%	25.4%
3	新聞	62.4%	58.2%	57.2%	67.7%	65.2%
4	雑誌	8.1%	5.8%	5.2%	6.9%	6.4%
5	地震や災害の専門書	1.5%	1.1%	1.3%	2.4%	-
6	県や市町村の広報誌	30.8%	27.9%	32.9%	39.8%	28.1%
7	インターネット	20.6%	18.9%	12.2%	8.2%	8.2%
8	携帯メール	12.8%	13.2%	4.5%	1.2%	-
9	家族から	9.4%	11.6%	7.2%	10.7%	14.2%
10	友人・知人から	8.3%	11.9%	8.7%	11.5%	15.0%
11	町内会・自治会を通じて	11.6%	10.0%	13.0%	22.6%	9.4%
12	消防署・消防団を通じて	4.2%	3.6%	6.0%	7.1%	5.2%
13	その他	2.0%	1.2%	1.6%	1.3%	1.4%
14	どこからも入手していない	0.1%	0.2%	0.7%	0.1%	0.2%
15	無回答	3.0%	1.0%	4.1%	0.1%	0.4%

＜津波への意識と避難についてお聞きします＞

問6 東海・東南海・南海3連動地震が同時に起きたとき、津波が来襲すると言われています。		1125	1123	1122	1119	1116
(1) 地震の揺れの後、あなたがお住まいの近くの海岸に、津波は何分くらいで押し寄せるといいますか(ひとつだけ○)。						
		1125	1123	1122	1119	1116
1	5分以内	12.0%	9.7%	-	20.2%	21.8%
2	6～10分後	15.1%	15.9%	-	24.9%	18.2%
3	11～15分後	11.1%	11.2%	-	11.5%	6.3%
4	16～20分後	10.7%	9.1%	-	7.2%	7.4%
5	21～30分後	14.9%	13.1%	-	8.0%	4.5%
6	31～40分後	12.0%	12.9%	-	4.7%	2.5%
7	41～60分後	10.7%	7.4%	-	3.2%	2.1%
8	61分以上	1.0%	1.1%	-	0.5%	0.3%
9	まったく予想がつかない	10.2%	16.5%	-	17.2%	17.2%
10	近くに海岸がない	0.3%	0.3%	-	1.3%	16.8%
11	無回答	2.0%	2.9%	-	1.2%	2.7%

(2) どれくらいの高さの津波が押し寄せるといいますか(ひとつだけ○)。		1125	1123	1122	1119	1116
1	1～2m	1.7%	2.0%	-	5.3%	3.7%
2	3～4m	7.1%	11.1%	-	17.2%	8.7%
3	5～6m	16.3%	19.2%	-	24.2%	19.2%
4	7～9m	16.2%	11.7%	-	12.2%	8.6%
5	10m以上	26.6%	14.0%	-	7.9%	10.5%
6	まったく予想がつかない	29.8%	38.6%	-	30.9%	30.7%
7	近くに海岸がない	0.4%	0.4%	-	1.0%	15.1%
8	無回答	1.8%	2.9%	-	1.2%	3.4%

問7 お住まいの地域にある防波堤、防潮堤、水門などで、東海・東南海・南海地震3連動地震が起きたときの津波をどの程度防げるといいますか(ひとつだけ○)。		1125	1123	1122	1119	1116
1	ほぼ完全に防げる	0.5%	0.1%	-	0.5%	0.5%
2	ほとんど防げる	2.0%	2.0%	-	4.5%	2.8%
3	そのときの潮位による	19.8%	19.1%	-	31.3%	25.4%
4	あまり防げない	60.1%	56.4%	-	37.9%	34.4%
5	わからない	15.4%	19.6%	-	25.1%	33.4%
6	無回答	2.1%	2.7%	-	0.7%	3.5%

問8 あなたの自宅は、東海・東南海・南海3連動地震が起きたときの津波で、どれくらいの高さまで浸水すると思いますか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	自宅は津波で浸水しない	6.0%	11.9%	-	16.8%	25.5%
2	50cmくらい	2.7%	4.4%	-	9.3%	4.0%
3	1mくらい	8.2%	8.8%	-	12.7%	10.4%
4	2mくらい	6.0%	8.4%	-	9.1%	7.1%
5	3～4m	14.7%	11.4%	-	9.9%	8.5%
6	5～6m	10.9%	8.7%	-	5.7%	3.6%
7	7m以上	14.7%	7.6%	-	4.6%	2.8%
8	まったく予想がつかない	35.0%	36.1%	-	29.9%	34.1%
9	無回答	1.9%	2.6%	-	2.0%	4.0%

問9 県では、東海・東南海・南海3連動地震による津波浸水想定と、南海トラフ巨大地震による津波浸水想定との2つの津波浸水想定を公表しておりますが、知っていますか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	知っている（ホームページ等で見た）	16.2%	-	-	-	-
2	知っていたが、ホームページ等は見えていない	41.3%	-	-	-	-
3	知らなかった	39.3%	-	-	-	-
4	無回答	3.2%	-	-	-	-

問10 夜深くあなたが自宅にいたとき、突然、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上も続いたとします。揺れが収まった後、あなたは避難しますか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	避難する（付問1へ）	82.9%	79.8%	-	41.9%	27.8%
2	避難しない（付問11へ）	16.4%	19.4%	-	57.0%	61.0%
3	無回答	0.7%	0.7%	-	1.1%	11.2%

付問1 あなたが避難する主な理由は何ですか（いくつでも○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	津波に襲われる危険があるから（付問2へ）	87.4%	82.7%	-	86.8%	70.6%
2	がけ崩れ・山崩れの危険があるから	7.6%	10.8%	-	12.3%	3.4%
3	余震で家が倒壊する危険があるから	37.1%	47.1%	-	51.7%	19.5%
4	火災が延焼する危険があるから	15.8%	14.8%	-	20.4%	1.9%
5	電気や水道等が止まり生活できなくなるから	16.6%	20.2%	-	20.4%	2.5%
6	その他	0.6%	1.9%	-	2.1%	2.2%
7	無回答（「1.」以外の方は 付問3-1へ）	1.2%	0.0%	-	0.0%	2.5%

付問2 あなたはいつ避難しますか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	できるだけ早く	56.7%	54.2%	-	65.7%	73.7%
2	津波注意報や警報が出たら	17.4%	21.4%	-	17.4%	14.5%
3	大津波警報（特別警報）が出たら	14.1%	-	-	-	-
4	市町村から避難の呼びかけがあったら	4.7%	14.1%	-	8.8%	5.3%
5	近所の人が避難したら	2.4%	3.5%	-	2.2%	2.6%
6	家族が避難したら	1.5%	2.9%	-	4.2%	1.8%
7	その他	0.5%	1.0%	-	0.2%	0.9%
8	無回答（続いて 付問3-1へ）	2.7%	2.9%	-	1.5%	2.2%

付問3-1 あなたは、どこに避難しますか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	市町村が決めた避難場所や避難所	37.4%	29.0%	-	45.0%	40.9%
2	地域住民が自分たちで決めた避難場所	10.8%	7.9%	-	11.7%	6.7%
3	自宅近くの高台	45.4%	53.8%	-	34.8%	35.7%
4	近くの高台に住んでいる親戚や知人の家	1.9%	4.8%	-	3.7%	4.6%
5	その他の場所	2.3%	3.2%	-	2.2%	2.9%
6	無回答（続いて 付問3-2へ）	2.2%	1.3%	-	2.5%	9.4%

付問3-2	余震（ゆれもどし）が続く中で、あなたが、避難のため家の外に出るのにどれくらいの時間がかかると思いますか。その際、絶対持っていきたいものをそろえる時間も合わせてください。地震は夜遅くに起き、停電で真っ暗になっており、しかも揺れでダンスや棚の中のもの部屋中に散乱しているとしてお考えください（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16	
	1	5分以内	13.7%	16.5%	—	24.3%	20.6%
	2	6～10分後	29.5%	31.5%	—	32.4%	26.9%
	3	11～15分後	21.3%	19.6%	—	19.0%	19.7%
	4	16～20分後	12.4%	12.2%	—	8.4%	6.7%
	5	21～30分後	14.8%	9.3%	—	5.9%	13.6%
	6	31～40分後	4.3%	3.8%	—	3.1%	3.7%
	7	41～60分後	1.4%	2.1%	—	1.0%	1.0%
	8	61分以上	0.9%	1.1%	—	1.7%	1.1%
9	無回答	(続いて 付問3-3へ)	1.6%	4.0%	—	4.1%	6.5%

付問3-3	あなたは、どのようにして避難しますか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16	
	1	歩いて避難する	80.7%	73.1%	—	77.1%	71.5%
	2	自転車・バイクで避難する	9.4%	10.3%	—	6.6%	5.5%
	3	車で避難する	8.7%	13.4%	—	9.4%	15.0%
	4	船で避難する	0.0%	0.0%	—	—	0.0%
5	無回答	(続いて 付問3-4へ)	1.3%	3.2%	—	6.9%	8.0%

付問3-4	下にあげた中で、あなたが、避難するときの妨げになると心配していることについて、いくつでも○をつけてください。						
		H25	H23	H22	H19	H16	
	1	倒壊した家やブロック塀などがじゃまになり、避難に手間取る	72.7%	66.0%	—	65.7%	68.2%
	2	道路が液状化(地震の揺れで、泥水が噴き出す現象)などでデコボコになり、避難に手間取る	27.3%	32.0%	—	31.8%	30.3%
	3	避難路が崖崩れなどで通れなくなる	28.8%	27.4%	—	22.0%	19.4%
	4	近所の家が倒壊し、避難に手間取る	48.0%	30.2%	—	37.6%	28.3%
	5	火事が発生するため、避難に手間取る	26.2%	13.9%	—	23.1%	18.7%
	6	車で避難する人がたくさんいるため、道路が渋滞する	34.0%	36.0%	—	27.2%	32.5%
	7	その他	3.7%	5.4%	—	4.7%	4.6%
8	無回答	(続いて 問12へ)	2.1%	4.9%	—	5.9%	8.9%

問11	あなたが避難しない主な理由は何ですか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16	
	1	近くの避難場所を知らないから	5.3%	6.0%	—	—	—
	2	避難経路が危険だから	20.7%	16.8%	—	—	—
	3	体力や健康上の理由から避難することが困難だから	10.1%	7.1%	—	—	—
	4	自宅が安全だから	22.5%	28.8%	—	—	—
	5	家や家財を残して避難することに抵抗があるから	9.5%	6.5%	—	—	—
	6	その他	23.7%	23.4%	—	—	—
7	無回答	8.3%	11.4%	—	—	—	

＜避難体制についてお聞きします＞

問12	あなたがお住まいの地域では、ひとりで避難することが困難な高齢者や要介護者の避難を地域として支援する体制ができていますか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16	
	1	できている	8.5%	7.2%	16.6%	7.5%	—
	2	できていないが検討している	13.8%	13.0%	12.3%	16.8%	—
	3	検討もしていない	10.5%	12.3%	5.4%	14.7%	—
	4	よく知らない	64.6%	64.7%	62.7%	58.1%	—
5	無回答	2.5%	2.8%	3.0%	2.9%	—	

問13 地震や津波の時の避難対策として、県や市町村は何をすべきだと思いますか（いくつでも○）。						
	H25	H23	H22	H19	H16	
1	避難路の整備	47.9%	48.7%	42.5%	42.6%	44.5%
2	避難所や避難場所の整備	60.1%	64.7%	61.0%	53.0%	56.5%
3	看板(避難所、避難場所、避難路)の整備	38.6%	42.7%	38.0%	30.3%	36.9%
4	津波の際に緊急避難できる高い建物(避難ビル)の整備	39.5%	40.7%	25.2%	28.6%	32.4%
5	市町村による避難勧告・指示の迅速な決定と伝達	59.1%	57.9%	56.0%	61.8%	62.9%
6	避難所となる小中学校の耐震化	30.4%	35.8%	36.4%	40.9%	40.1%
7	地域毎の詳しい津波避難計画の作成	28.0%	37.8%	29.0%	32.1%	41.1%
8	緊急時の情報伝達手段(防災無線等)の整備	46.3%	47.2%	43.7%	45.1%	43.9%
9	支援が必要な人の避難誘導體制の整備	44.1%	48.5%	44.1%	46.9%	45.2%
10	避難にあたってのルールづくりとその徹底	31.1%	31.6%	28.1%	23.3%	29.2%
11	津波危険地区の集団移転	11.4%	14.2%	9.4%	12.1%	-
12	その他	3.1%	5.6%	3.7%	2.5%	3.6%
13	無回答	2.9%	2.8%	5.8%	2.6%	4.6%

問14 あなたは、各地区での避難所に、安全に対する3段階のレベル分けがされているのを知っていますか（ひとつだけ○）。						
	H25	H23	H22	H19	H16	
1	知っている（ホームページ等で見た）	4.4%	-	-	-	-
2	知っているが、ホームページ等は見えていない	11.7%	-	-	-	-
3	知らなかった	81.5%	-	-	-	-
4	無回答	2.4%	-	-	-	-

＜避難情報についてお聞きします＞

問15 市役所や町村役場が、緊急時の連絡などに使う屋外に設置された防災無線のスピーカーはありますか。また、そのスピーカーの聞こえ具合はどうか（ひとつだけ○）。						
	H25	H23	H22	H19	H16	
1	ふだんから放送の内容がはっきり聞きとれる	24.3%	24.3%	-	20.9%	19.0%
2	よく聞こえるときもあるが、雨や風のぐあいでも聞きとれないことがある	31.2%	31.0%	-	27.8%	29.4%
3	ふだんから放送の内容があまりよく聞きとれない	27.1%	25.5%	-	21.8%	20.2%
4	放送の内容はまったく聞きとれない	5.8%	6.4%	-	5.1%	5.5%
5	近くに防災無線のスピーカーが設置されていない	8.5%	8.3%	-	20.0%	20.7%
6	無回答	3.1%	4.6%	-	4.5%	5.2%

問16 あなたは、緊急情報をどのように入手していますか（ひとつだけ○）。						
	H25	H23	H22	H19	H16	
1	テレビ	68.1%	-	-	-	-
2	ラジオ	2.6%	-	-	-	-
3	インターネット	2.2%	-	-	-	-
4	携帯メール	19.1%	-	-	-	-
5	家族から	0.7%	-	-	-	-
6	友人・知人から	0.1%	-	-	-	-
7	町内会・自治会から	2.6%	-	-	-	-
8	消防署・消防団から	0.8%	-	-	-	-
9	その他	0.5%	-	-	-	-
10	どこからも入手していない	0.8%	-	-	-	-
11	無回答	2.4%	-	-	-	-



問17 あなたは、どのような情報を得たときに避難をしますか（いくつでも○）。					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 緊急地震速報を知ったとき	32.6%	-	-	-	-
2 津波注意報・津波警報が発令されたとき	31.5%	-	-	-	-
3 大津波警報（特別警報）が発令されたとき	57.6%	-	-	-	-
4 自然災害に対する警戒情報やそれに伴う避難情報を得たとき	38.7%	-	-	-	-
5 その他	3.5%	-	-	-	-
6 無回答	3.3%	-	-	-	-

問18 県の『防災わかやまメール配信サービス（気象情報や避難勧告などの緊急情報を電子メールで配信するサービス）』に登録していますか。					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 している	19.1%	17.8%	-	-	-
2 していない	74.4%	77.7%	-	-	-
3 無回答	6.5%	4.6%	-	-	-

問19 気象庁では、地震の大きな揺れが来る数秒から数十秒前に、「大きな揺れが来る」ことを知らせる緊急地震速報を発表しています。

(1) あなたはこのことをご存じですか。					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 よく知っている	50.4%	43.2%	-	45.3%	-
2 何となく知っている	37.7%	36.9%	-	39.8%	-
3 知らない	9.8%	14.9%	-	11.8%	-
4 無回答	2.1%	5.0%	-	3.1%	-

(2) もし、あなたが「あと10数秒で震度6強の揺れが来る」という緊急地震速報を自宅で知ったとき、どうしますか（いくつでも○）。					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 その場で様子をみる	22.9%	18.3%	-	15.2%	-
2 机、テーブル、ベッドの下にもぐる	28.5%	31.1%	-	39.2%	-
3 家の中の安全なところを探して身を守る	49.6%	47.5%	-	44.1%	-
4 急いで外に出る	19.0%	23.4%	-	21.4%	-
5 家族に危険を知らせる	43.3%	49.0%	-	46.5%	-
6 テレビでもう一度確認する	25.0%	21.7%	-	20.9%	-
7 その他	2.3%	3.3%	-	3.0%	-
8 無回答	1.6%	4.4%	-	2.4%	-

問20 あなたは、避難カード（下図参照）を知っていますか（ひとつだけ○）。					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 知っている（付問1へ）	9.7%	-	-	-	-
2 何となく知っている（付問1へ）	12.4%	-	-	-	-
3 知らなかった（問21へ）	73.7%	-	-	-	-
4 無回答	4.2%	-	-	-	-

付問1 あなたは、避難カードに記入していますか（ひとつだけ○）。					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 記入している	14.0%	-	-	-	-
2 記入していない	85.2%	-	-	-	-
3 無回答	0.8%	-	-	-	-

＜津波への考え方についてお聞きします＞

問21 津波や津波対策については、いろいろな考え方や意見があります。下にあげたa～eのそれぞれについて、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号にひとつずつ○をつけてください。

a. 大きな津波が来る前には必ず海の水が大きく引く		H25	H23	H22	H19	H16
1	そう思う	61.2%	62.7%	62.0%	65.2%	65.5%
2	まあそう思う	20.3%	20.1%	24.5%	17.7%	17.5%
3	あまりそう思わない	8.1%	7.2%	6.8%	6.9%	6.3%
4	そう思わない	5.3%	4.8%	4.9%	5.3%	4.6%
5	無回答	5.2%	5.1%	1.8%	4.9%	6.1%

b. 地震の揺れが小さければ津波は小さく、しかもすぐには来ない		H25	H23	H22	H19	H16
1	そう思う	28.6%	27.9%	23.8%	29.6%	—
2	まあそう思う	29.7%	32.5%	27.6%	28.8%	—
3	あまりそう思わない	19.1%	18.1%	21.3%	18.2%	—
4	そう思わない	17.0%	15.8%	25.4%	16.4%	—
5	無回答	5.7%	5.8%	1.9%	7.0%	—

c. 海の水が大きく引いてから避難しても間に合う		H25	H23	H22	H19	H16
1	そう思う	4.7%	4.9%	6.1%	7.0%	6.0%
2	まあそう思う	10.4%	10.5%	8.7%	14.1%	9.2%
3	あまりそう思わない	29.5%	24.8%	24.8%	24.5%	20.1%
4	そう思わない	49.7%	53.9%	58.4%	48.1%	54.5%
5	無回答	5.6%	5.9%	2.0%	6.3%	10.1%

d. 津波警報が出てから避難しても間に合う		H25	H23	H22	H19	H16
1	そう思う	12.0%	14.3%	13.8%	14.6%	14.3%
2	まあそう思う	31.4%	26.5%	26.2%	29.1%	25.1%
3	あまりそう思わない	26.1%	26.0%	26.0%	24.9%	19.3%
4	そう思わない	24.6%	27.1%	32.2%	24.2%	32.7%
5	無回答	5.9%	6.0%	1.9%	7.1%	8.6%

e. 市町村が出す避難準備、避難勧告、避難指示の違いがよくわからない		H25	H23	H22	H19	H16
1	そう思う	25.0%	29.6%	—	30.0%	—
2	まあそう思う	28.4%	27.4%	—	29.7%	—
3	あまりそう思わない	18.8%	15.4%	—	14.9%	—
4	そう思わない	20.7%	19.8%	—	15.2%	—
5	無回答	7.2%	8.0%	—	10.2%	—

＜自主防災組織についてお聞きします＞

問22 あなたのお宅は、町内会（自治会）に入っていますか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	入っている	85.0%	86.6%	86.7%	88.0%	84.2%
2	入っていない	5.7%	5.1%	5.1%	4.7%	3.6%
3	町内会(自治会)はない	1.9%	1.4%	1.1%	1.6%	3.7%
4	わからない	5.2%	4.2%	4.5%	4.3%	4.9%
5	無回答	2.2%	2.7%	2.6%	1.4%	3.5%

問23 あなたのお宅は、地域の自主防災組織（町内会・自治会などを母体に、地域の住民が防災活動をするための組織）に入っていますか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	入っている（付問2へ）	33.9%	30.1%	35.1%	33.1%	20.4%
2	入っていない（付問1へ）	16.1%	20.0%	22.2%	22.8%	27.2%
3	自主防災組織はない（問24へ）	8.4%	8.8%	9.5%	10.7%	15.8%
4	わからない（問24へ）	38.5%	37.0%	31.6%	31.4%	26.6%
5	無回答	3.0%	4.1%	1.7%	2.0%	9.9%

付問1 なぜ、自主防災組織に入っていないのですか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	自主防災組織に興味がないから	20.3%	-	-	-	-
2	自主防災組織に入りたくないから	14.0%	-	-	-	-
3	その他	55.8%	-	-	-	-
4	無回答（続いて 問24へ）	9.9%	-	-	-	-

付問2 あなたの地域の自主防災組織の活動は活発ですか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	活発に活動している	11.2%	13.4%	16.8%	14.6%	13.3%
2	ある程度活動している	57.9%	46.2%	43.9%	45.8%	39.3%
3	あまり活動していない	22.0%	30.1%	32.0%	26.7%	33.6%
4	よく知らない	6.8%	9.1%	7.2%	12.9%	11.8%
5	無回答（続いて 問24へ）	2.2%	1.2%	0.2%	-	2.1%

問24 大地震が起きたあと、あなたご自身は、地域の人と協力して次のようなことができると思いますか。できると思うことにいくつでも○をつけてください。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	生き埋めになった近所の人を、がれきの中から救助する	51.8%	52.3%	55.1%	54.6%	66.4%
2	火災が出たとき消火する	49.6%	49.6%	57.3%	54.2%	67.7%
3	重症者が出たとき病院などへ車や戸板などで運ぶ	40.6%	38.2%	37.6%	38.8%	47.6%
4	高齢者や介護が必要な人が避難するのを手伝う	66.5%	60.8%	64.6%	65.0%	63.3%
5	避難した人たちのために、炊き出しをする	50.1%	50.8%	42.9%	43.8%	45.8%
6	避難所の運営を手伝う	44.4%	45.3%	38.7%	40.6%	25.2%
7	1.～6.のようなことはできない	9.4%	9.8%	10.5%	11.4%	-
8	無回答	2.5%	5.5%	2.8%	2.5%	6.4%

問25 自主防災組織の活動の中心的担い手である地域防災リーダーとして活動することについて、どのようにお考えですか（ひとつだけ○）						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	現在、すでに地域防災リーダーとして活動している	2.1%	1.6%	3.2%	2.1%	-
2	地域防災リーダーになって活動してみたい	1.4%	1.7%	2.7%	1.5%	-
3	頼まれれば、地域防災リーダーになってもよい	7.7%	8.9%	11.1%	9.4%	-
4	仕事や家事等が忙しくて地域防災リーダーにはなれない	25.8%	22.5%	25.2%	24.0%	-
5	いざというときに地域防災リーダーとして活動できないのでむずかしい	27.8%	26.0%	32.7%	32.5%	-
6	よくわからない	29.5%	29.1%	21.9%	25.5%	-
7	無回答	5.7%	10.2%	3.1%	5.0%	-

〈住宅の耐震化・家具固定・ブロック塀対策についてお聞きます〉

問26 あなたがお住まいのご自宅は、いつ頃建てられたものですか。増改築されている場合は、主な部分の建築年をお答えください（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	戦前	5.4%	6.1%	6.1%	8.9%	7.0%
2	戦後～昭和35年までの間	6.8%	6.1%	6.3%	6.1%	5.9%
3	昭和36～45年までの間	11.4%	11.6%	12.8%	11.2%	15.5%
4	昭和46～55年	17.5%	20.6%	20.1%	22.8%	22.1%
5	昭和56年～平成6年	25.8%	26.7%	28.8%	27.5%	29.2%
6	平成7年（阪神・淡路大震災）以降	29.3%	23.7%	24.9%	20.1%	17.9%
7	無回答	3.7%	5.2%	1.0%	3.3%	2.3%

問27 あなたがお住まいのご自宅は、次のどれにあたりますか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	一戸建て	83.4%	80.2%	84.2%	-	84.4%
2	1～2階建て集合住宅	6.0%	5.8%	5.6%	-	5.0%
3	高層（3階建て以上の）集合住宅	4.2%	5.2%	5.7%	-	6.2%
4	住宅と事業所を兼ねた建物	3.1%	3.1%	3.5%	-	2.3%
5	その他	0.9%	1.2%	0.8%	-	1.5%
6	無回答	2.3%	4.4%	0.3%	-	0.7%

問28 あなたがお住まいのご自宅は、次のどれにあたりますか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	木造（付問1-1へ）	70.4%	69.5%	70.3%	68.4%	75.5%
2	鉄骨造（問29へ）	13.8%	13.3%	13.0%	13.9%	11.4%
3	鉄筋コンクリート造（問29へ）	8.3%	8.1%	-	9.1%	10.6%
4	鉄筋・鉄骨コンクリート造（問29へ）	3.6%	3.7%	15.4%	4.7%	-
5	その他（問29へ）	2.1%	1.3%	1.0%	0.9%	1.4%
6	無回答	1.9%	4.1%	0.3%	3.0%	1.2%

付問1-1 ご自宅は、専門家による耐震診断（地震の揺れに対する建物の強さの診断）を受けたことがありますか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	ある（付問1-2へ）	11.7%	9.8%	9.9%	8.6%	4.1%
2	ない（付問3へ）	88.0%	89.4%	89.7%	91.4%	80.1%
3	無回答	0.3%	0.8%	0.4%	-	15.7%

付問1-2 耐震診断をした結果はどうでしたか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	耐震補強が必要（付問1-3へ）	44.3%	48.5%	42.9%	51.5%	49.4%
2	耐震補強する必要はない（問29へ）	54.0%	46.2%	49.2%	31.8%	48.3%
3	無回答	1.7%	5.4%	7.9%	16.7%	2.3%

付問1-3 耐震補強が必要と診断された後、補強等をなさいましたか（ひとつだけ○）。					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 建て替えた（問29へ）	3.8%	4.8%	0.0%	-	7.7%
2 補強した（問29へ）	32.1%	28.6%	25.9%	23.5%	7.7%
3 今後建て替える予定（問29へ）	0.0%	3.2%	0.0%	-	0.0%
4 今後補強する予定（問29へ）	12.8%	12.7%	11.1%	20.6%	0.0%
5 建て替えも補強もする予定はない（付問2へ）	25.6%	22.2%	20.4%	14.7%	34.6%
6 まだ決めていない（付問2へ）	24.4%	23.8%	42.6%	41.2%	50.0%
7 無回答	1.3%	4.8%	0.0%	-	0.0%

付問2 すぐに補強をしないのはなぜですか（いくつでも○）。					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 補強のやり方がわからないから	7.7%	-	-	-	-
2 費用がかかるから	79.5%	-	-	-	-
3 借家だから	5.1%	-	-	-	-
4 手間がかかるから	10.3%	-	-	-	-
5 工事をどこに頼めば良いかわからないから	2.6%	-	-	-	-
6 補強しても、大地震からの被害は避けられないと思うから	56.4%	-	-	-	-
7 その他	5.1%	-	-	-	-
8 無回答（続いて 問29へ）	0.0%	-	-	-	-

付問3 耐震診断を受けていないのは、どうしてですか（いくつでも○）。					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 耐震診断を受けていなくても自宅が地震に強いことがわかっているから	11.9%	12.8%	9.9%	10.8%	9.6%
2 耐震診断を受けていなくても自宅が地震に弱いとわかっているから	16.4%	16.2%	14.0%	18.0%	13.7%
3 手間がかかるから	10.4%	13.0%	11.7%	11.3%	9.4%
4 耐震診断の費用がかかるから	30.4%	31.6%	32.7%	30.7%	25.2%
5 借家だから	6.1%	6.2%	7.1%	9.8%	8.1%
6 耐震診断のやり方がわからないから	19.6%	22.2%	20.9%	23.7%	33.0%
7 近いうちにリフォーム予定なので、そのときに耐震診断をするつもり	1.1%	0.7%	1.3%	1.7%	-
8 近いうちに建て替えるつもり	1.6%	2.4%	1.3%	1.6%	-
9 耐震診断の結果、耐震補強などが必要になっても費用が出せないから	25.5%	25.7%	27.1%	27.1%	26.0%
10 どんなに耐震化しても大地震にあえば被害は避けられないと思うから	25.5%	26.5%	25.8%	29.1%	33.9%
11 どんなに耐震化しても大津波にあえば被害は避けられないと思うから	21.4%	21.9%	17.6%	26.0%	-
12 自分が生きている間に大地震は起きないと思うから	1.6%	3.0%	4.0%	4.3%	3.0%
13 地震災害に関心がないから	0.3%	0.3%	0.3%	0.9%	0.9%
14 その他	7.7%	6.7%	9.4%	7.3%	7.8%
15 無回答（続いて 付問4へ）	8.3%	4.7%	13.8%	3.6%	4.4%

付問4 今後、耐震診断をしたいですか（ひとつだけ○）。					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 耐震診断をしてみたい	23.3%	18.9%	-	-	-
2 専門家や市町村相談窓口に相談してみたい	9.5%	27.2%	-	-	-
3 耐震診断はしたくない	13.6%	11.6%	-	-	-
4 分からない	39.8%	36.1%	-	-	-
5 無回答（続いて 問29へ）	13.7%	6.2%	-	-	-

問29 今後、木造住宅の耐震化を促進するために、県や市町村は何をすべきだと思いますか（いくつでも○）					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 耐震診断の専門家のあっせん	15.3%	15.4%	17.6%	19.9%	19.3%
2 耐震診断の専門家の無料派遣	63.0%	61.0%	62.9%	66.3%	64.2%
3 工事費用の低金利による貸付け	28.7%	25.2%	28.8%	34.2%	26.5%
4 耐震補強工事に対する助成制度の創設・拡充	42.5%	41.9%	41.0%	38.1%	32.7%
5 耐震補強工事の必要性や工事の実例を詳しく紹介したパンフレットの配布	18.8%	21.6%	26.9%	24.2%	34.2%
6 耐震性の低いアパートや借家などの家主に対する指導	18.1%	17.6%	20.4%	21.8%	15.5%
7 個人でもっと簡単にできる診断方法の開発	20.6%	21.5%	23.8%	25.1%	26.2%
8 信用できる耐震補強工事業者のあっせん	26.3%	26.2%	32.2%	33.2%	31.2%
9 耐震診断・耐震補強に関する地区毎の説明会の実施	11.2%	13.7%	17.8%	15.9%	17.8%
10 耐震補強工事の実例（実物）展示	8.8%	9.2%	10.6%	12.4%	13.5%
11 個人宅なので、行政は何もすべきでない	3.3%	2.8%	3.5%	1.9%	3.0%
12 無回答	8.3%	10.3%	3.6%	6.9%	6.4%

問30 お宅では家具類の固定をしていますか（ひとつだけ○）。					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 固定はしていない（付問1へ）	48.0%	55.8%	57.7%	62.6%	67.7%
2 一部のみ固定している	37.8%	34.6%	35.1%	29.7%	19.7%
3 全部または大部分を固定している	6.0%	5.2%	6.3%	6.1%	3.1%
4 今後、きちんと固定する予定	4.4%	-	-	-	-
5 相談してみたい	0.5%	-	-	-	-
6 わからない	0.5%	-	-	-	-
7 無回答（「1.」以外の方は問31へ）	2.9%	4.5%	0.8%	1.7%	9.6%

付問1 家具類の固定をしていないのはどのような理由からですか（いくつでも○）。					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 建物や家具を傷めるから	10.1%	10.2%	12.7%	8.2%	7.2%
2 固定の方法がわからないから	16.3%	18.2%	15.7%	17.3%	20.2%
3 借家だから	10.4%	8.8%	8.9%	10.6%	8.1%
4 費用がかかるから	19.4%	18.0%	16.0%	16.1%	14.2%
5 手間がかかるから	27.8%	26.5%	33.0%	27.3%	29.1%
6 固定しなくても大丈夫だと思うから	14.0%	12.8%	14.8%	11.8%	11.9%
7 家具類を置かない安全な部屋があるから	20.7%	23.0%	21.3%	20.0%	18.5%
8 固定しても被害は出ると思うから	27.3%	23.1%	21.3%	20.8%	25.4%
9 大地震はすぐには起きないと思うから	4.2%	3.6%	5.6%	5.3%	5.1%
10 地震災害に関心がないから	0.5%	0.2%	0.5%	0.6%	0.9%
11 その他	9.3%	9.2%	7.9%	9.0%	8.4%
12 無回答（続いて 問31へ）	2.5%	3.9%	3.5%	6.1%	8.5%

問31 家具類の固定を促進するために、県や市町村では何をすべきだと思いますか（いくつでも○）。					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 家具類の固定方法を詳しく説明したパンフレットの配布	45.9%	48.3%	50.2%	49.8%	57.0%
2 家具類の固定方法について無料で相談に乗ってくれる人や業者のあっせん	21.8%	24.6%	28.2%	25.0%	27.8%
3 家具類の固定に必要な費用の補助	34.3%	35.7%	35.1%	29.0%	27.6%
4 無料で家具類を固定してくれる専門家の派遣	33.0%	33.5%	35.1%	33.9%	31.3%
5 自主防災組織などが地域で家具類の固定を行うための補助制度の創設	14.5%	16.3%	16.9%	15.3%	12.2%
6 個人宅なので、行政は何もすべきでない	7.5%	6.8%	7.0%	5.9%	5.3%
7 無回答	8.8%	8.9%	5.2%	10.1%	10.0%

問32 ご自宅のブロック塀や石塀、門柱など、地震時の安全性を点検しましたか。また、点検した結果、どのような対応をしましたか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	点検していない（付問1へ）	65.9%	94.4%	91.9%	93.7%	94.3%
2	点検して安全と言われた（問33へ）	3.8%	4.1%	5.5%	4.5%	3.8%
3	点検した結果、危険と言われたので、取り壊した（問33へ）	0.4%	-	-	-	-
4	点検した結果、危険と言われたので、生け垣に変えた（問33へ）	0.2%	-	-	-	-
5	点検した結果、危険と言われたので、対応を検討中である（付問2へ）	0.4%	-	-	-	-
6	今後、変える予定はない（付問2へ）	2.1%	-	-	-	-
7	もともとない（問33へ）	20.9%	-	-	-	-
8	その他	2.1%	-	-	-	-
9	無回答	4.2%	0.4%	1.3%	0.8%	1.7%

付問1 点検していない主な理由は何ですか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	点検するまでもなく危険だから	5.8%	5.7%	6.1%	6.4%	6.3%
2	点検の方法がわからないから	28.6%	25.2%	27.0%	21.4%	24.1%
3	点検しなくても安全と思うから	20.6%	23.5%	24.6%	23.0%	18.9%
4	費用がかかるから	11.9%	8.2%	12.1%	6.9%	10.2%
5	借家だから	7.8%	3.9%	4.1%	4.8%	4.5%
6	手間がかかるから	4.5%	3.3%	4.4%	2.3%	7.7%
7	対策しても被害は防げないと思うから	11.0%	9.8%	6.6%	11.4%	18.6%
8	大地震はすぐには起きないと思うから	0.9%	0.4%	1.1%	0.6%	2.1%
9	地震災害に関心がないから	0.0%	0.1%	0.3%	-	0.3%
10	その他	7.4%	6.2%	8.3%	19.6%	5.6%
11	無回答（続いて 問33へ）	1.6%	13.8%	5.5%	3.4%	1.8%

付問2 すぐに対応しないのはなぜですか（いくつでも○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	補強のやり方がわからないから	7.5%	-	-	-	-
2	費用がかかるから	50.9%	-	-	-	-
3	借家だから	3.8%	-	-	-	-
4	手間がかかるから	22.6%	-	-	-	-
5	工事をどこに頼めば良いかわからないから	3.8%	-	-	-	-
6	補強しても、大地震からの被害は避けられないと思うから	26.4%	-	-	-	-
7	その他	20.8%	-	-	-	-
8	無回答（続いて 問33へ）	7.5%	-	-	-	-

問33 今後、ブロック塀や石塀、門柱などの耐震化を促進するために、県や市町村は、何をすべきだと思いますか（いくつでも○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	塀、門柱などの耐震診断や補強方法を詳しく説明したパンフレットの配布	37.1%	38.8%	41.1%	41.4%	45.9%
2	専門家による塀、門柱などの無料耐震診断の実施	50.5%	47.5%	49.5%	46.9%	45.2%
3	信用がおける工事業者のあっせん	18.0%	17.9%	20.0%	20.1%	20.7%
4	塀、門柱などの補強や建て替え、生け垣化の費用の補助	27.4%	28.9%	28.3%	25.7%	19.6%
5	自主防災組織などが塀や門柱の耐震化や生け垣化を行うための補助制度の創設	12.9%	15.3%	14.5%	14.8%	13.7%
6	個人宅なので、行政は何もすべきでない	7.2%	7.9%	8.4%	6.0%	7.1%
7	無回答	12.8%	12.4%	10.2%	16.5%	14.3%

＜備蓄や訓練についてお聞きします＞

問34 東海・東南海・南海3連動地震などに備えて、下にあげたような地震防災対策を行っていますか（いくつでも○）。		H25	H23	H22	H19	H16
1	地震が起きたとき避難する場所を決めている	60.0%	57.2%	42.1%	58.5%	56.8%
2	家族の連絡方法を決めている	20.2%	21.8%	14.0%	15.0%	13.7%
3	家族が離ればなれになったときに落ち合う場所を決めている	25.0%	22.9%	14.0%	18.4%	18.7%
4	風呂にいつも水を入れている	13.2%	15.4%	15.1%	22.0%	19.4%
5	ガラスが割れて飛び散らないよう、飛散防止対策をしている	3.4%	2.3%	3.7%	2.7%	1.4%
6	ガスボンベを倒れないようにしている	14.5%	18.1%	18.8%	21.1%	28.3%
7	消火器を用意している	33.2%	37.6%	38.0%	34.1%	31.6%
8	懐中電灯や携帯ラジオなどを置く場所を決めている	55.2%	61.0%	53.4%	52.4%	60.7%
9	懐中電灯や携帯ラジオの電池交換など、点検をこまめにしている	20.0%	25.6%	22.0%	21.7%	29.8%
10	自宅には、地震後、家族が何日間か食べていけるだけの食料や飲料水が常にある	29.6%	29.0%	27.0%	22.2%	25.9%
11	非常持ち出し品を用意している（付問1へ）	48.9%	57.7%	34.4%	50.1%	37.5%
12	無回答（「11.」以外の方は付問2へ）	7.0%	6.8%	12.3%	6.4%	9.9%

付問1 非常持ち出し品として、すぐ持ち出せるよう、まとめて置いてあるものすべてに○をつけてください。		H25	H23	H22	H19	H16
1	懐中電灯	89.2%	89.4%	89.9%	89.9%	86.1%
2	携帯ラジオ	60.0%	57.8%	64.2%	59.6%	53.8%
3	飲料水	57.9%	57.2%	56.2%	57.1%	42.8%
4	食料品	47.7%	42.1%	51.1%	44.3%	36.0%
5	現金	35.2%	41.9%	30.8%	39.0%	39.6%
6	下着類	33.0%	37.0%	29.6%	36.8%	37.7%
7	テント	2.0%	1.6%	2.4%	2.5%	2.2%
8	預金通帳や印鑑など	32.8%	40.7%	35.6%	37.7%	44.7%
9	ヘルメット、防災ずきんなど	16.1%	16.4%	21.1%	19.2%	15.6%
10	救急医薬品や常備薬	28.4%	31.5%	33.9%	34.2%	28.4%
11	ちり紙、タオル、石けん	34.9%	38.9%	41.1%	37.9%	37.9%
12	ナイフ、缶切り	11.0%	11.0%	16.9%	15.7%	15.2%
13	ロープ、ひも	15.7%	15.5%	21.1%	15.8%	12.4%
14	毛布または寝袋など	13.8%	10.2%	13.4%	16.5%	11.7%
15	携帯電話	35.8%	43.7%	40.6%	41.6%	36.4%
16	電池	30.7%	33.1%	27.8%	32.4%	26.7%
17	その他	2.7%	7.7%	6.4%	5.7%	6.1%
18	無回答（続いて付問2へ）	0.5%	0.6%	1.1%	0.2%	6.4%

付問2 あなたのご家庭では、何日分の水や食料を備蓄をしていますか。水は1日3リットル・食料は1日3食としてお考え下さい（ひとつだけ○）。		H25	H23	H22	H19	H16
1	1～2日分	33.9%	-	-	-	-
2	2～3日分	23.3%	-	-	-	-
3	3～4日分	9.6%	-	-	-	-
4	4～5日分	2.8%	-	-	-	-
5	5～6日分	3.0%	-	-	-	-
6	7日以上	4.8%	-	-	-	-
7	無回答（続いて問35へ）	22.6%	-	-	-	-



問35 あなたは、次のようなことを行ったり、参加したことがありますか（いくつでも○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	地震時の地震・津波防災検討会や、地図を使って地震時の対応を考える図上演習に参加した	10.4%	7.3%	7.8%	13.3%	5.8%
2	自分でできる簡易耐震診断（「わが家の耐震診断」など）を行った	2.2%	2.7%	2.7%	3.2%	2.3%
3	地震時の津波避難に適切な場所を見て回った	21.1%	15.9%	12.5%	18.7%	12.7%
4	自分たちの地域の防災マップを作った	3.0%	2.5%	4.0%	5.0%	3.0%
5	県や市町村の広報誌の東海・東南海・南海3連動地震特集などを読んだ	22.7%	29.3%	12.7%	13.7%	14.3%
6	地震防災に関するパンフレットを読んだ	36.0%	38.6%	37.7%	41.0%	32.0%
7	県や市町村が作成した地震被害想定結果を見た	20.3%	16.2%	17.7%	18.1%	-
8	地域ごとの津波避難計画づくりに参加した	4.1%	3.7%	2.2%	7.2%	-
9	地震防災に関する講演会などに参加した	14.5%	10.2%	11.3%	14.3%	11.0%
10	市町村が作成した津波浸水想定図で、自宅がどれくらい津波で浸水するか確認した	22.0%	16.7%	21.3%	21.7%	-
11	無回答	27.1%	32.9%	39.5%	30.7%	48.2%

問36 あなたは、過去一年間に地域や職場、県や市町村などが実施する地震防災訓練に参加したことがありますか（いくつでも○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	県や市町村、消防機関が主催する地震防災訓練に参加した	23.2%	15.3%	20.1%	19.3%	10.7%
2	住民が中心となって行った地震防災訓練に参加した	15.2%	8.7%	14.1%	14.8%	5.5%
3	職場で行った地震防災訓練に参加した	14.5%	10.0%	15.5%	9.4%	7.7%
4	その他の地震防災訓練に参加した	4.5%	3.2%	5.1%	5.0%	2.5%
5	1.～4.の訓練には、まったく参加していない（付問1へ）	51.1%	59.7%	55.8%	56.3%	61.0%
6	無回答（「5.」以外の方は付問2へ）	3.7%	9.3%	2.6%	6.9%	17.6%

付問1 なぜ、訓練に参加しないのですか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	興味が無いから	8.6%	-	-	-	-
2	外せない用事等が入っていたから	28.0%	-	-	-	-
3	地域や職場などで地震防災訓練が実施されていないから	40.9%	-	-	-	-
4	その他	18.8%	-	-	-	-
5	無回答（続いて 問37へ）	3.7%	-	-	-	-

付問2 具体的にはどのような訓練に参加しましたか（いくつでも○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	津波避難訓練	47.5%	46.2%	35.1%	-	63.9%
2	消火訓練	24.5%	40.6%	43.4%	-	46.7%
3	救出・救助訓練	8.4%	11.1%	15.8%	-	12.8%
4	応急手当訓練	11.3%	17.9%	20.3%	-	23.5%
5	炊き出し訓練	4.8%	6.2%	5.1%	-	3.7%
6	情報伝達訓練	3.6%	6.2%	7.9%	-	6.8%
7	介護を必要とする人の介助訓練	3.4%	3.9%	5.2%	-	5.6%
8	その他	2.0%	3.4%	3.4%	-	3.0%
9	無回答（続いて 問37へ）	11.9%	2.3%	4.4%	-	6.0%

問37 どのような訓練が必要であると思いますか（いくつでも○）。					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 津波避難訓練	52.3%	60.5%	-	-	-
2 消火訓練	28.6%	36.5%	-	-	-
3 救出・救助訓練	32.7%	38.3%	-	-	-
4 応急手当訓練	38.2%	42.6%	-	-	-
5 炊き出し訓練	15.9%	15.7%	-	-	-
6 情報伝達訓練	38.3%	38.7%	-	-	-
7 介護を必要とする人の介助訓練	31.7%	32.4%	-	-	-
8 その他	2.9%	1.8%	-	-	-
9 無回答	10.2%	10.9%	-	-	-

＜災害への意識と行政への要望についてお聞きします＞

問38 災害についてはいろいろな考え方があります。あなたは、以下のような考え方に賛成しますか、それとも反対しますか(a～eのそれぞれにひとつずつ○)。

a. 防災対策は住民中心で行い、行政は住民の活動を支援する役割に留めるべきだ					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 賛成	17.2%	17.3%	-	19.6%	8.8%
2 やや賛成	24.8%	22.9%	-	23.4%	15.4%
3 やや反対	26.5%	22.9%	-	20.0%	24.0%
4 反対	22.5%	26.0%	-	24.5%	38.3%
5 無回答	9.0%	10.9%	-	12.6%	13.5%

b. 大地震対策は個人では難しいので、県や市町村が中心になって進めるべきだ					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 賛成	67.9%	72.6%	-	70.3%	63.4%
2 やや賛成	23.3%	16.3%	-	20.4%	18.4%
3 やや反対	1.9%	2.4%	-	2.0%	4.5%
4 反対	0.9%	0.7%	-	0.3%	2.8%
5 無回答	6.0%	8.1%	-	7.0%	10.9%

c. 大災害のときは自分の命は自分で守らなければならない					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 賛成	74.5%	69.5%	-	71.6%	67.5%
2 やや賛成	18.2%	19.6%	-	19.3%	18.2%
3 やや反対	1.1%	2.3%	-	2.0%	3.3%
4 反対	0.8%	1.0%	-	0.9%	1.2%
5 無回答	5.4%	7.5%	-	6.1%	9.8%

d. 災害で壊れた個人の住宅の再建は行政の補助を受けず、個々の被災者がすべきだ					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 賛成	3.0%	4.0%	-	3.2%	3.1%
2 やや賛成	7.0%	8.7%	-	7.8%	8.4%
3 やや反対	27.0%	25.7%	-	24.9%	25.4%
4 反対	56.0%	52.1%	-	54.5%	51.0%
5 無回答	7.2%	9.5%	-	9.6%	12.1%

e. 体の弱い人や介護を必要とする人は市町村が助けに来る前に、地域の人たちで助けなければならない					
	H25	H23	H22	H19	H16
1 賛成	53.6%	56.0%	-	62.4%	62.1%
2 やや賛成	35.0%	31.3%	-	26.8%	22.5%
3 やや反対	3.9%	3.6%	-	2.7%	2.7%
4 反対	1.7%	1.4%	-	1.5%	1.8%
5 無回答	5.8%	7.6%	-	6.6%	10.8%

問39 あなたがお住まいの地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思いますか（いくつでも○）。		H25	H23	H22	H19	H16
1	地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化	52.6%	54.2%	44.4%	54.9%	46.1%
2	自主防災組織の必要性のPR	27.8%	28.5%	28.9%	31.5%	34.7%
3	自主防災組織の育成・強化	42.1%	43.0%	30.9%	39.2%	36.2%
4	自主防災組織の防災資機材の整備・充実	32.5%	34.8%	27.4%	30.8%	32.1%
5	実践的防災訓練や図上演習などの実施	24.1%	28.1%	15.4%	25.0%	23.0%
6	地域防災リーダーの育成・研修	27.9%	33.6%	19.7%	29.4%	31.7%
7	小中学校の防災教育の充実	36.5%	38.4%	25.0%	32.9%	25.2%
8	消防団の強化	19.9%	24.5%	15.8%	24.7%	29.0%
9	消防団・近隣の事業所などとの連携促進	30.5%	33.6%	26.6%	34.2%	28.8%
10	その他	1.6%	1.3%	2.3%	1.7%	2.0%
11	無回答	7.8%	9.7%	14.2%	10.0%	11.3%

＜最後にあなたご自身のことをお伺いします。 あてはまる番号に○をつけてください。＞

F 1 性別		H25	H23	H22	H19	H16
1	男性	47.7%	47.2%	59.5%	48.1%	45.2%
2	女性	45.8%	46.8%	33.1%	50.2%	53.0%
3	無回答	6.5%	6.1%	7.4%	1.7%	1.9%

F 2 年齢		H25	H23	H22	H19	H16
1	20歳代	3.8%	6.0%	5.2%	7.0%	8.1%
2	30歳代	11.5%	9.3%	11.0%	11.1%	14.1%
3	40歳代	17.0%	14.1%	13.4%	15.9%	15.3%
4	50歳代	21.6%	19.1%	19.3%	21.7%	19.4%
5	60歳代	25.3%	27.3%	24.6%	20.6%	19.6%
6	70歳以上	14.2%	18.2%	18.9%	21.9%	21.8%
7	無回答	6.5%	6.1%	7.6%	1.9%	1.8%

F 3 あなたは、ここにお住みになってから何年になりますか（ひとつだけ○）。		H25	H23	H22	H19	H16
1	5年未満	8.5%	7.9%	9.4%	8.5%	11.7%
2	5～10年未満	8.6%	8.0%	9.1%	11.4%	9.9%
3	10～20年未満	16.2%	13.7%	14.6%	16.2%	16.5%
4	20～30年未満	15.3%	17.4%	15.6%	19.3%	19.4%
5	30年以上	44.4%	46.6%	43.7%	42.6%	40.7%
6	無回答	7.0%	6.4%	7.6%	2.0%	1.9%

F 4 職業		H25	H23	H22	H19	H16
1	勤め人（会社員・公務員）	32.0%	27.5%	31.2%	28.3%	32.5%
2	商工自営業	9.4%	9.4%	9.6%	12.4%	8.3%
3	農林業	4.9%	4.9%	4.6%	2.8%	5.6%
4	漁業	0.8%	0.5%	1.5%	1.8%	0.4%
5	専業主婦	14.7%	15.4%	9.7%	16.4%	25.0%
6	パートの主婦	10.0%	6.7%	5.5%	7.1%	-
7	無職（すでに退職）	17.2%	21.8%	25.1%	23.0%	20.9%
8	その他	4.1%	6.5%	4.6%	5.6%	4.8%
9	無回答	7.0%	7.4%	8.1%	2.6%	2.4%

F 5 同居しているご家族は何人いますか（ご本人も含め、ひとつだけ○）。		H25	H23	H22	H19	H16
1	1人（独居）	6.9%	7.2%	8.0%	8.6%	7.4%
2	2人	29.5%	29.5%	31.9%	31.9%	32.0%
3	3人	24.3%	23.5%	21.4%	24.3%	21.8%
4	4人	18.3%	16.6%	18.0%	17.6%	16.9%
5	5人	7.8%	9.8%	7.8%	9.0%	11.6%
6	6人以上	5.6%	7.1%	5.4%	6.9%	8.8%
7	無回答	7.6%	6.4%	7.6%	1.7%	1.5%

付問1 同居しているご家族の中に次のような方はいらっしゃいますか（いくつでも○）。		H25	H23	H22	H19	H16
1	3歳以下の乳幼児	4.8%	7.0%	5.4%	5.7%	6.3%
2	4歳以上で小学校入学前の子ども	5.7%	4.8%	5.0%	5.2%	6.7%
3	小学生	10.8%	10.6%	10.1%	10.9%	13.0%
4	70歳以上の人	28.5%	37.5%	28.4%	37.3%	40.7%
5	日常生活で介護を必要とする人	8.2%	10.0%	7.0%	9.1%	6.8%
6	1～5.の人はいない	35.6%	40.0%	39.2%	32.7%	28.7%
7	無回答	21.5%	10.5%	10.1%	14.6%	13.5%

F 6 あなたはご近所とどのようなおつきあいをしていますか（ひとつだけ○）。		H25	H23	H22	H19	H16
1	留守を頼んだり親しく話をする	22.6%	26.3%	22.1%	30.7%	35.5%
2	ときどき立ち話をする程度	37.9%	33.7%	38.9%	36.7%	29.8%
3	顔が合えばあいさつをする程度	29.3%	28.7%	27.1%	27.7%	29.5%
4	ほとんどつきあいが無い	3.4%	3.9%	4.1%	2.9%	3.4%
5	無回答	6.8%	7.4%	7.8%	2.0%	1.8%

F 7 お家で加入している保険にはどのようなものがありますか（いくつでも○）。		H25	H23	H22	H19	H16
1	火災保険	60.4%	60.1%	28.3%	62.5%	54.8%
2	地震保険	31.4%	31.7%	14.6%	29.5%	14.8%
3	家財等の保険	24.5%	26.8%	12.5%	27.1%	24.6%
4	住宅総合保険	6.1%	7.7%	3.4%	7.8%	8.6%
5	農協の建物更正共済	15.9%	18.4%	9.4%	13.8%	24.1%
6	その他の保険など	10.5%	11.5%	4.7%	12.1%	3.3%
7	1～6にはひとつも加入していない	11.2%	12.1%	4.7%	13.7%	12.4%
8	無回答	8.7%	7.9%	5.9%	4.4%	11.6%

F 8 あなたのお住まいの市町村はどちらですか（ひとつだけ○）。						
		H25	H23	H22	H19	H16
1	和歌山市	36.6%	-	-	-	-
2	海南市	10.3%	-	-	-	-
3	橋本市	3.6%	-	-	-	-
4	有田市	2.1%	-	-	-	-
5	御坊市	3.4%	-	-	-	-
6	田辺市	8.1%	-	-	-	-
7	田辺市龍神村	0.3%	-	-	-	-
8	田辺市中辺路町	0.0%	-	-	-	-
9	田辺市本宮町	0.0%	-	-	-	-
10	田辺市大塔地区	0.2%	-	-	-	-
11	新宮市	1.6%	-	-	-	-
12	紀の川市	3.0%	-	-	-	-
13	岩出市	2.5%	-	-	-	-
14	紀美野町	0.0%	-	-	-	-
15	かつらぎ町	0.9%	-	-	-	-
16	九度山町	0.0%	-	-	-	-
17	高野町	0.0%	-	-	-	-
18	湯浅町	1.7%	-	-	-	-
19	広川町	1.8%	-	-	-	-
20	有田川町	1.2%	-	-	-	-
21	美浜町	0.3%	-	-	-	-
22	日高町	1.1%	-	-	-	-
23	由良町	1.7%	-	-	-	-
24	印南町	1.7%	-	-	-	-
25	みなべ町	1.0%	-	-	-	-
26	日高川町	0.7%	-	-	-	-
27	白浜町	1.5%	-	-	-	-
28	上富田町	0.0%	-	-	-	-
29	すさみ町	0.6%	-	-	-	-
30	那智勝浦町	3.0%	-	-	-	-
31	太地町	0.7%	-	-	-	-
32	古座川町	0.0%	-	-	-	-
33	北山村	0.0%	-	-	-	-
34	串本町	3.9%	-	-	-	-
35	無回答	6.4%	-	-	-	-